

|                  |
|------------------|
| 海外果樹農業情報 No. 152 |
|------------------|

|        |
|--------|
| 2021-4 |
|--------|

# 海外の果樹産業ニュース

## 2021 年度下期版

2022 年 3 月

公益財団法人 中央果実協会  
[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、  
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

**公益財団法人 中央果実協会 情報部**

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル

【電 話】 03-3586-1381 (代)

【F A X】 03-5570-1852

## は し が き

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応して、当協会では関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズを踏まえ、農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の活性化・振興、果実の需給・価格の安定及び輸出の振興に資することとしております。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書および果樹全般についてのFAO（国連食糧農業機関）の生産貿易統計データを元とした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

この度は2021年度下期に翻訳・提供したニュースを取りまとめ刊行することといたしました。また、本書は当協会ウェブサイトにもカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情を理解する上で少しでもお役に立てば幸いです。

なお、本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2022年3月

公益財団法人 中央果実協会

理事長 村上 秀徳

## 目 次

|  |    |
|--|----|
| 84. オーストラリアの柑橘輸出 状況は変化するも日本等からは順調に受注.....    | 1  |
| 85. アジアのアボカド需要が増加.....                       | 1  |
| 86. 米国 カリフォルニア州産ブドウを国内外で販売促進.....            | 2  |
| 87. 世界のマンゴー市場.....                           | 3  |
| 88. EUの核果類事情(生産貿易動向と政策).....                 | 6  |
| 89. ニュージーランド キウイ苗の密輸出者に9億円の支払い命令.....        | 13 |
| 90. オーストラリア 中国向けに日本品種のブドウ輸出の取組.....          | 13 |
| 91. 世界のキウイフルーツ市場.....                        | 14 |
| 92. チリ 業界代表が日本大使と果実輸出について意見交換.....           | 17 |
| 93. 台湾 中秋節前に日本のスーパーにブタンを出荷.....              | 17 |
| 94. ヨーロッパ 脱プラスチック包装の動き(イタリア、英国).....         | 18 |
| 95. 世界のブルーベリー市場.....                         | 19 |
| 96. 世界の核果類事情と市場動向.....                       | 21 |
| 97. ヨーロッパ 脱プラスチック包装の動き(スペイン).....            | 25 |
| 98. ロシア EU、米国等からの果実禁輸措置を延長.....              | 25 |
| 99. ペルー産ブルーベリー 日本等アジア5カ国への市場参入を目指す.....      | 26 |
| 100. 米国農務省 遺伝子組換えリンゴ1品種の規制を解除.....           | 26 |
| 101. 国際貨物輸送は港湾の混雑が継続.....                    | 27 |
| 102. オーストラリアの落葉果実事情(生食用ブドウ).....             | 28 |
| 103. 世界のパイナップル市場.....                        | 34 |
| 104. 米国 農務省生産見通し(リンゴ・ナシ・柑橘類).....            | 37 |
| 105. メキシコのアボカド事情.....                        | 40 |
| 106. 世界のナシ市場.....                            | 43 |
| 107. ベトナム ビントゥアン省産ドラゴンフルーツが日本でGIを取得.....     | 46 |
| 108. 世界のバナナ貿易の動向 2020年は頭打ち.....              | 46 |
| 109. 米国農務省 2021-22年度産柑橘類最初の生産予測は減少.....      | 47 |
| 110. 世界のバナナ市場.....                           | 49 |
| 111. ニュージーランド産アボカド 日本等アジア地域への販売を増やす.....     | 53 |
| 112. ニュージーランド ゼスプリ赤肉キウイは新名称で商業販売(抜粋・要約)..... | 53 |
| 113. 世界の果物・野菜の消費はまだ不十分.....                  | 54 |
| 114. 北半球のゼスプリキウイフルーツ収穫量は史上最高に.....           | 55 |
| 115. 世界のブルーベリー ― 過去、現在、未来.....               | 56 |
| 116. ヨーロッパ コロナ禍が誘発した4つの消費行動と青果物業界の対応.....    | 60 |
| 117. ペルー 新しい市場(中南米、日本)に向かう生食用ブドウ.....        | 64 |
| 118. イタリア税関 違法栽培果実への認識を深める.....              | 65 |
| 119. 中国とドイツの間の新しい鉄道コンテナ輸送.....               | 65 |
| 120. チリの落葉果実事情(生食用ブドウ).....                  | 66 |
| 121. ニュージーランドの落葉果実事情(要約とリンゴの輸出入).....        | 70 |
| 122. 世界のオレンジ市場.....                          | 74 |
| 123. 米国の有機農産物 パンデミック後の成長要因.....              | 77 |
| 124. 台湾の落葉果実事情(リンゴ).....                     | 79 |
| 125. 世界のグレープフルーツ市場.....                      | 84 |
| 126. タイ ジェトロが日本果実フェスを開催.....                 | 86 |
| 127. EUの落葉果実事情(リンゴ、ナシ、生食用ブドウ).....           | 87 |
| 128. エジプト 対日輸出で柑橘類のランクを上げる.....              | 96 |
| 129. フィリピン 日本との貿易協定見直しは市場アクセスで失速.....        | 96 |
| 130. 米国 冷蔵貨物輸送は2022年まで増加が続く見込み.....          | 97 |
| 131. 米国ワシントン州産リンゴ 業界の生産量予測は5%減少.....         | 98 |
| 132. 世界のブドウ市場.....                           | 99 |

|  |     |
|--|-----|
| 133. 世界柑橘類機構 北半球の生産予測を発表.....              | 102 |
| 134. フィリピン 日本にバナナ価格の改善を求める.....            | 102 |
| 135. 世界アボカド機構 アボカドの持続可能性を擁護 .....          | 103 |
| 136. 世界のパイナップル市場.....                      | 104 |
| 137. フィリピンの生鮮果実市場 .....                    | 107 |
| 138. 英国 消費者の支出を増やさない環境にやさしい取り組み.....       | 110 |
| 139. オーストラリア 業界は「有機」の語の使用基準策定を歓迎 .....     | 111 |
| 140. ニュージーランド 今シーズン最後のゼスプリ・キウイを日本等に出荷..... | 112 |
| 141. 世界のベリー類市場.....                        | 113 |
| 142. リーファーコンテナの料金は2022年にドライコンテナを超える .....  | 116 |
| 143. 米国 停泊船舶数の減少は数字のトリック .....             | 117 |
| 145. 世界リンゴ・ナシ協会が世界の生産予測を更新 .....           | 118 |
| 146. 世界のアボカド市場 .....                       | 122 |
| 147. 世界の落葉果実事情と市場動向 .....                  | 126 |
| 148. EU 果実・野菜の見通し2021-2031 .....           | 134 |
| 149. オーストラリアの柑橘類事情(オレンジ、マンダリン) .....       | 136 |
| 150. ブラジルの柑橘類事情(生鮮オレンジ、オレンジ果汁) .....       | 142 |
| 151. 米国 カリフォルニア州産マンダリンは前年比半減の見込み.....      | 148 |
| 152. 台湾 丸ごと冷凍のアテモヤを日本に初出荷.....             | 148 |
| 153. EUの柑橘類事情 .....                        | 149 |
| 154. ヨーロッパ EC統計局が果実・野菜の消費状況を公表 .....       | 160 |
| 155. 世界のブルーベリー市場 .....                     | 162 |
| 156. 米国 リンゴ園の問題をカットする剪定ロボット.....           | 164 |
| 158. 米国 南カリフォルニアで過去最高の港湾渋滞 .....           | 169 |
| 159. 太平洋横断の海上輸送は最大2倍の所要時間 .....            | 169 |
| 160. 西オーストラリア州政府が日本でアボカドの販売促進 .....        | 170 |
| 161. 香港 航空貨物の規制強化によるコスト増で生鮮果実の輸入量が半減.....  | 170 |
| 162. 米国産柑橘類 出荷量の減少で引きが強く高値.....            | 171 |
| 163. ニュージーランド リンゴとナシの見通しは前向きで楽観的.....      | 174 |
| 164. 世界の柑橘類事情と市場動向 .....                   | 175 |
| 165. 米国 有機青果物の販売額が90億ドル(1兆円)を突破 .....      | 185 |
| 166. エジプトの柑橘類 今年は大強いシーズンを予想.....           | 187 |
| 167. イタリア 出荷量倍増で明るいYelloの未来.....           | 187 |
| 168. オーストラリア産アボカド 日本市場での成長に一步踏み出す .....    | 188 |
| 169. ニュージーランド 国境再開はキウイの収穫に間に合わない.....      | 189 |
| 170. ニュージーランド リンゴとナシは増収だが課題も多い .....       | 190 |
| 171. フィリピン 課題に取り組むバナナ生産輸出団体 .....          | 191 |
| 172. 世界のライム市場 .....                        | 192 |
| 173. 世界のブルーベリー産業は需要に応じて引き続き拡大.....         | 195 |
| 174. ベトナム産果実の海外展開 .....                    | 197 |
| 175. ニュージーランド ルビーレッド品種からキウイの収穫始まる .....    | 199 |
| 176. オランダ 将来の果実と野菜の包装はプラスチックか紙か?.....      | 200 |
| 177. 世界のブドウ市場 .....                        | 202 |
| 178. 米国 人工知能で果実の味を改良.....                  | 205 |
| 179. 世界の主要生産国のリンゴ作柄見通し .....               | 206 |
| 180. 南半球からロシアとウクライナへの生鮮果実輸出 .....          | 208 |

## 84. オーストラリアの柑橘輸出 状況は変化するも日本等からは順調に受注

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月1日)

出荷の遅れやロックダウンは、引き続き世界中の果実の輸出を妨げており、その影響で市場の需要はこれまでと大きく異なっている。

オーストラリアの果実輸出業者サイ・ワールド(Sai World)社のサム・ヴァサラ氏は「今年の柑橘類の輸出は、多くの要因のために非常に困難であった」とし、「米国とエジプトからの船舶の運航と港湾作業の遅れのため、通常今頃は売り切れているはずの両国産の柑橘類がまだ市場に出回っており、すべてが後送りになっている。さらにロックダウンにより、一部の市場では滞留している果実が通常よりも多い」と説明する。

同氏はまた「ベトナムは今シーズン、オーストラリア産果実をあまり買わなかった。また、軟化しているように見えるものの、以前はオーストラリアから5万トンの柑橘類を買っていた中国とは政治的な問題があり、これは代替市場を見つけるのには膨大な量だ」と語った。

インドでは、9月が近づいてもまだエジプト産柑橘類が到着しており、同氏は「エジプト産はもはや品質の良いものではないが、彼らはそれを再包装しており、オーストラリア産や南アフリカ産よりも安い。また、エジプト産の出荷量は、今シーズン30%増加した」と言う。

一方、日本、韓国、カナダ、マレーシアからは順調に注文を受け、これらの市場ではかなり好調であった。

同社は今年、国際競争力を高めるため、顧客の要望に応じた個々の市場や顧客向けの梱包の試行を開始し、今のところ順調なようである。(中略)また、長い航海に備えて、梱包の際のワックスと殺菌剤のダブルディップ(二重浸漬)を導入した。到着時の品質の問題が少ないと言う。(以下省略)

## 85. アジアのアボカド需要が増加

ASIAFRUIT電子版(2021年9月2日)

アボカドに対するアジアの食欲の高まりは、衰えの兆しを見せない。これは、9月2日にライブ配信された世界アボカド会議(GAC: Global Avocado Congress)の重要なメッセージだ。

GACアジア時間のオープニングセッション「アジアのアボカドの可能性を解き放つ」は、フレッシュ・インテリジェンス・コンサルティング社のウェイン・プラウズ氏による統計を用いた概説から始まりまった。同氏は、米国農務省、ITC社のトレードマップ、世界銀行の数字を引用し、2020年に世界で約280万トンのアボカドが取引され、これは2019年より9%多かったと述べた。この合計のうち、14万8千トンがアジア市場に出荷され、2019年よりは1%少なかったが、過去5年間の年平均より13%多かった。

プラウズ氏は、中米がアジア向けアボカドの主要な輸出国であるとして「メキシコはアジア、主に日本への最大の輸出国であり、ペルーも主要な輸出国に成長した。米国は横ばいであり、チリは生産量の減少に伴い輸出も大幅に減少した。ニュージーランドとオーストラリアの輸出量はどちらも少ない」と述べた。

アジア向けのアボカド輸出が拡大している一方で、アボカドに対するアジアの消費者の意識は依然として発展段階にある。同氏は、アジアの36億人の人口で割ると年間1人当たりの消費量は0.21kgだと述べた。比較として、ヨーロッパの消費量は1人当たり年間1.69kg、米国では同3.70kgであり、オーストラリアの1人当たり年間消費量4.67kgは中米以外の国の中で最大である。

同氏は「乳飲料、寿司、サラダからガカモーレ(アボカドペースト)、つぶしてトーストに塗るなど、消費の形態を問わず世界的にアボカドの強い需要があり、アジアのアボカド好きは始まったばかりだ」と言う。(以下省略)

## 86. 米国 カリフォルニア州産ブドウを国内外で販売促進

The Packer電子版(2021年9月3日)

### 世界19か国で販売促進を実施

この秋カリフォルニア州産ブドウが大量に輸出に向かうと見られ、これを支援する販促活動が行われる。

カリフォルニア州産ブドウの60%以上が9月1日以降に出荷され、今年は重要な輸出市場で重点的な販売促進が行われる。米国農務省によると、昨年は、カリフォルニア州産ブドウ輸出の金額ベースで71%が9月から12月の間に行なわれた。

同州フレズノ市に拠点を置くカリフォルニア州生食用ブドウ委員会広報担当副会長のジェフ・カルディナル氏は、昨シーズンの全輸出の94%をカバーする19か国で同州産ブドウを宣伝する多面的なキャンペーンが進行中であると述べた。

同氏は、消費者は、自宅や店舗内や店舗に行く途中で、またプロモーションに参加している小売業者のオンライン広告で、カリフォルニア州産ブドウの宣伝を目にすると述べた。

テレビコマーシャルは、台湾では9月中旬から10月中旬まで、日本では10月中旬から11月中旬まで放送される。韓国では9月中旬から10月中旬まで放送される予定だと言う。また、利用者の多い地下鉄の駅、食料品店の周辺、バス停、屋外スクリーン、カリフォルニア州産ブドウを扱う小売業者が出店しているショッピングモールに広告が掲示されるという。

同氏によると、消費者には店内での試食を通じてカリフォルニア州産ブドウを味わう機会を提供する。さらに、小売業者は現地の言語で書かれた販促POPを用いて同州産ブドウを紹介する。一部の国では、顧客は同州産ブドウを購入するごとにポイントカードのポイントを獲得できる。フィリピンのマニラでは移動販売車が巡回し、同州産ブドウのサンプルと、それを食べることの利点に関する教育的リーフレットを配布する。

### 国内では健康メッセージを発信

ブドウは健康の維持増進に最適だが、8月には印刷物、ソーシャルメディア、オンライン、放送を使って、カリフォルニア州産ブドウに関する健康メッセージの大規模宣伝が始まった。

同州フレズノ市に拠点を置くカリフォルニア州生食用ブドウ委員会広報担当副会長のジェフ・カルディナル氏は、科学に裏打ちされた健康に関する研究に焦点を当てた広告は、SHAPE、Men's Health、People、Good Housekeeping、Health、Food Network Magazineなどの印刷物やデジタル雑誌に掲載され、それらの広告は腸、心臓、免疫、脳の健康に焦点を当てていると述べている。

同氏はまた、健康に関するメッセージは、新聞雑誌連盟を通じて米国全土の新聞に掲載され、記事は新聞のオンライン版でも入手できると言う。さらに、10人の登録栄養士が、ブログやソーシャルメディアへの投稿、テレビ出演、雑誌記事を通じ、印刷物とオンラインの両方で、カリフォルニア州産ブドウの健康上の利点を広めていると述べた。

まだ多くの人々がCOVID-19を気にかけており、健康な免疫システムに関係するカリフォルニア州産ブドウの役割を論じる健康メッセージも、様々な媒体に掲載されるという。

訳注：2021年9月3日付けでThe Packer電子版に掲載された二つの記事を統合しました。

## 87. 世界のマンゴー市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月3日)

イタリア、スペイン、エジプトなどの一部の生産国で悪天候による大混乱が続き、多くのマンゴー生産者の収穫量が減少して価格が上昇する一方、中国の一部の地域では主要品種が生産過剰になるという反対の問題を抱えている。しかし、一般的には高品質と一層の需要増加への期待が引き続き高く、多くの生産者や輸出業者は、それぞれの目標とする市場で良い値段が付くと予想している。



### オランダ: マンゴー市場は困難な8月の後に復活

オランダのある輸入業者は、8月はマンゴー市場にとってあまり良い月ではなかったとして「マンゴーの状況は毎年違う。昨年の8月にはセネガルの出荷が遅れたため品不足が見られたが、今年は多方面から十分な供給があった。このため、セネガルの出荷シーズンは生産者や輸入業者にとっては壊滅的なものとなった。今はまだ余波が見られるが、状況は改善したようだ。ブラジル産の出荷の遅れもあって、市場の滞貨は一掃された。イスラエルはまだ出荷量が少なく、スペイン産オスティーン種の最初のマンゴーは市場に入荷しているが、それらは海外産のマンゴーとは全く異なるレベルにあり、競合しない。このため、価格はゆっくりと底値から抜け出してきている。何週間も5ユーロを付けることが無かったが、現在は大玉の言い値としては妥当だ。小玉の価格はそこまで届かない」と語った。

### ドイツ: スペイン産の有機マンゴーに注目

セネガル産とペルー産のマンゴーのシーズンが終了した。ある業者は、タイのキペペオ社の(有機)マンゴーと少量のメキシコ産マンゴーを短期間提供するとオファーしている。ドイツのいくつかの業者は現在、オスティーンやケントなど様々な品種のスペイン産有機マンゴーに注目している。良質の有機マンゴーに喜んで高い金を出す顧客は多い。市場価格は12~15ユーロ/kgである。バイエルン州のある業者は、去年は家庭内消費が大きな増加要因であった(が今年はそのでもない)ため、今年マンゴーの需要が悪化したと主張した。しかし、ニーダーザクセン州の別の業者は、去年に比べて顧客数がほぼ倍増したと言う。

### イタリア: イタリア産は収量が低く、輸入品は価格が低い

シチリア島で4.5ヘクタールのマンゴーを栽培しているある生産者は、今年2020年12月と2021年2月の悪天候のため収量が低下するが、品質は大変良いとして「契約先の収穫を始めたばかりである。初期の価格は昨シーズンに比べて20%の上昇を示している。我々より早く2021年産の出荷が始まったスペイン産と直接競合している」と報告している。

ミラノのある卸売業者は、空路で輸入されたメキシコ産のシーズンは、その前のペルー産同様平年どおりに終わったとして「極端な変動はなかったが、販売期間の最後の数週間でより多くの荷動きがあった。現在、イタリア市場にはイスラエル産マンゴーも入っており、これは数週間早い。品種はマヤ、アヤ、カストゥリ、ケントであるが、他国産のような量も質もない。9月から10月にかけて、ブラジル産のケント種マンゴーも産地によっては出荷が始まるはずだ」と言う。この卸売業者は、スペイン産のオスティーンマンゴーが多く入荷し、購入価格が下降傾向にある(先週の2.30ユーロから1.80ユーロまで低下)と指摘し「これらは品質が良く、陸路でイタリア市場に到着するため、他の輸入先から空輸されたものに比べて安価だ」と言う。シチリア産マンゴーの出荷シーズンもまもなく始まる。

スペイン産については混乱が見込まれるが、大量の入荷が予想されるため価格は下落すると見られ、上記の業者は「スペイン産マンゴーについては様子を見ての動きになるだろう。数量が多ければ、小売業者などと既に契約済みの場合を除き、業者は空路で輸入される他国産ではなくスペイン産を購入する傾向が強くな

ると見られる。スペイン産のオスティーンマンゴーはまた、サイズでは800～200グラムの範囲で、販売形態では完熟前、完熟、グリーン(未熟)、10kgの木箱入りなどさまざまなものがあることが有利だ」と言う。

エジプト産マンゴーの出荷シーズンも始まる。「果実の品質は良いが、残念ながら調製がうまくない。しかし、価格は手頃で、イタリア在住の一部の民族グループ向けだ」と言う。

最後に、海上輸送されるブラジル産マンゴーについてこの業者は「価格は非常に安い。業者の間では、キーツ、パーマー、トミーなどの品種では4.00ユーロ未満だと話している。価格はスペイン産マンゴーの入荷でさらに低下すると見られる」と述べた。

### **スペイン：高品質とサイズが期待され積極的なスタート**

アンダルシア州マラガ県で約3千ヘクタールを栽培するアクサルキア地域で、スペイン産マンゴーの出荷が始まった。一番早い農場のトミーアトキンス種の収穫は先週始まり、今週はすでに最適な糖度に達したオスティーン種の収穫が始まった。本格的な出荷シーズンは、量を蓄えて勢いをつけるため、第36週の後半(9月8日～10日)に始まる。初物の販売は、市場がスペイン産マンゴーに高い関心があることを示している。生産者らは、色が大変良く、例年よりもサイズが大きく、昨年よりも品質が高いと主張している。

今シーズンは、直近2年間と同様、6万トン近い最大限の生産量には達しないと見られる。これらの収量を決定する要因としては、生産に間違いなく影響を与えている栽培管理や天候条件の変化などのほか、アクサルキア地域の水不足の問題もある。

マラガ県産のマンゴーは、セネガル産のシーズンが終わってすぐの時期に市場に入荷するが、売り場ではブラジル産マンゴーと競合する。ブラジル産マンゴーは3～4ユーロ/箱で販売される。それはスペイン産が競争できない価格であるが、ブラジル産に対するスペイン産の有利な点は、産地からの近さ(ヨーロッパ域内)と樹上で熟成させた品質である。ある輸出業者によると、今年のスペイン産マンゴー出荷シーズンの当初の価格は控えめで、過去2年間の参照価格を下回っている。

### **エジプト：マンゴー出荷量は30%減**

エジプト産マンゴーの出荷シーズンはまだ数カ月あるが、今年は大きな課題がある。マンゴーの出荷量を毎年増やすというエジプトの目標にもかかわらず、今年は暑い天候のため30%減少した。エジプト産マンゴーの需要は堅調だが、収穫量の減少は価格の上昇をもたらした。堅調な需要のおかげで、多くのマンゴーがヨーロッパ、ロシア及び湾岸諸国に輸出された。

### **南アフリカ：COVID-19と不利な為替レートがマンゴー輸入に影響**

為替レートが良くないほか、南アフリカの一部の小売業者がCOVID-19のために2019年以来海外産マンゴーを輸入しておらず、世界的なパンデミックは南アフリカの市場に引き続き影響を与えている。季節外れのマンゴーは時として品質が悪いことがあり、高い輸入コストに見合わない。

アフリカ産マンゴーの入荷シーズンは、11月のモザンビーク産から始まる。マンゴーの最盛期は、この地域ではクリスマス休暇(南半球の夏)と一致する。冬の間にはそれほど需要がない。

南アフリカの生育期間に関しては、冬の気温が低く、マンゴーの開花は約1カ月遅れた。これは大幅な遅れのように見えるかも知れないが、開花の期間が長いいため開花の遅れは必ずしも問題ではなく、自動的に収穫が遅れるということではない。10月末には収穫量の推計の準備が整う。

### **北米：現在は強気の価格設定**

現在北米に入ってくるマンゴーの供給は安定している。北米への出荷は、メキシコ産から移行するブラジル産の収穫開始により強化されている。ある出荷業者は「メキシコ産のサイズ分布は従来から極大玉に偏っているが、ブラジル産は通常、中玉が多い。引き続き品質は高く、供給は安定している」と言う。

現在、ブラジル産のキーツ、トミーアトキンス、パーマーの各品種が入荷しており、南米産のハニー、ケント、キーツの各品種の入荷が準備中である。ブラジル産は引き続き十分な量と高い品質が予想される。

1月の第1週に始まり、10月の第1週まで続くメキシコの出荷シーズンは、7,800万箱を予定している。メキシコ産は現在も主にシナロア州南部とシナロア州北部から出荷されている。今シーズンのメキシコ産はこれまでに6,940万箱が出荷されており、最終的に前年と同程度になると予測されている。

メキシコ産の主な品種は、トミーアトキンス(40%)、ハニー/アタウルフォ(27%)、ケント(19%)、キーツ(11%)、その他(3%)である。「ハニー」は、アタウルフォ品種の米国での呼称

マンゴーの需要は特に南部と西海岸で強い。消費量は従来から毎年増加している。生産者や出荷業者が高品質の果実と良い食体験を提供するため熟成の改善に取り組む中で、消費者はマンゴーの風味と健康上の利点について理解を深めてきている。

価格設定に関しては、今年は昨年よりも高くなっており、過去3週間、週を追って上昇している。

一方、マンゴーや他の多くの商品に関して、依然として課題なのは世界的なサプライチェーンの問題である。業界全体の世界的な物流上の課題は、南米でコンテナが手配できないことであり、すべての商品で遅延が避け難くなっている。出荷業者らはまた、パンデミックによって引き起こされる状況の変化や制限の変更に対し、引き続き対処と適応に努めている。

今後については、およそ3ヶ月後にペルー産マンゴーの出荷シーズンが始まる見込みである。

### **中国：人気の桂七マンゴーが供給過剰で低価格**

中国では近年、7月と8月に出荷の最盛期を迎えるクイチー(桂七)マンゴーが、大人気の売れ筋品種となっている。しかし今シーズンは、この人気品種が低価格に苦しんでいる。産地価格は、近年の価格と比べて大幅に低い4元/kg(1元≒17円)に下落した。主な理由は、出荷量が急速に増加しており、今年は収量が非常に多く、市場への供給量が需要量よりも多いことである。これに加えて、一部の生産者は1カ月ほど早く果実を摘み取っており、このため市場の果実の品質が均等でなくなり、消費者の信頼感に影響を与えた。

現在、四川省産のケイト種のマンゴーがまだ市場に出回っている。今シーズンのケイトマンゴーの出荷は良好である。小売価格は25元/kg程度である。

中国はタイ、台湾、ベトナム、オーストラリア、ペルーなどからマンゴーを輸入しており、これら主要5カ国からの輸入が全体の90%以上を占めている。2016年から2020年まで、ベトナム、台湾、タイからの輸入はいずれも増加傾向を示した。その中でもベトナムからの輸入は大幅に増加した。一方、ペルーとオーストラリアからの輸入はわずかに減少した。

### **オーストラリア：オーストラリアの生産者のための新しいハイブリッドマンゴー**

オーストラリア産マンゴーの出荷シーズンは9週目に入り、8月23日～27日の週にダーウィン地域から44,000箱が出荷されたと推計される。10月中旬にピークを迎えるまで、出荷量は増加すると予測され、出荷シーズンは12月中旬まで続く。ダーウィン地域のケンジントンプライド種(「KP」として知られる)の作柄は、地域内でまだら模様になっていると報告されている - 即ち、豊作が期待される園地もあれば、例年に比べて低い収量を見込んでいる園地もある。カリブソ種の収穫は9月中旬に始まると予想され、一部の園地では着果数が多く、収穫量は昨年よりも多いものの果実のサイズは小さいと予想される。キャサリン地域とクヌヌラ地域の産地では、来週から収穫の予測を開始する予定である。

一方、国のマンゴー育種事業で創出された3つのハイブリッドマンゴーは、今後数カ月の内に次の商業的開発の段階に移行することが発表された。現在NMBP-1201、NMBP-4069及びNMBP-1243として知られている品種は、IPオーストラリア(知的財産庁)を通じて付与された植物新品種育成者権によって保護されており、西オーストラリア州、ノーザンテリトリー、クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州の20以上の生産者の果樹園で栽培されている。

## 88. EUの核果類事情(生産貿易動向と政策)

米国農務省GAINレポート(2020年9月3日)

これは米国農務省海外農業局のEU域内関係事務所が共同で作成した「核果類年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解・データとは異なる場合があります。「EU」は、現在のEU関税同盟の加盟国27カ国を指し、英国を含みません。

長文のため、個別品目の解説及び政策等の一部を省略し、構成を一部変更しました。

### 要約

欧州連合(EU)のモモとネクタリンの2021/22販売年度(以下「年度」)(2021年1月～12月)の生産量は、前年比16.6%減の267万トンまで減少する可能性がある。この落ち込みは、春の悪天候と栽培面積の引き続きの減少により、EUの主要生産国の大部分で見込まれる。この推定生産量は、EU産モモ・ネクタリンとして過去30年間で最低の水準にあり、大きく減少した2020/21年度に続くものである。海外農業局EU域内関係事務所の予測によると、2021/22年度の栽培面積は20万ヘクタールに減少する。

EUのサクランボの2021/22年度(2021年4月～2022年3月)の生産量は、主要生産国での減収により、5.3%減の66万4,800トンと予測される。関係事務所の予測によると、2021/22年度のEUのサクランボ栽培面積は約16万4,000ヘクタールで横ばいである。

今販売年度の間、EUの核果類市場が需給バランスを取り戻し、価格が改善することが予想される。

EUの核果類セクターはコロナ禍の悪影響を受けなかった。収穫期は、COVID-19関連の衛生基準に従い、雇用可能な季節労働者を使用して通常どおり進化した。また、EUは、果実・野菜関係の実施計画の継続を確実にするため特別措置を実施した(政策の項参照)。しかし、COVID-19関連の衛生基準、物流への影響、作業の流れの見直し及び作業上の新しい要件の適用により、生産コストが上昇した。

EUは、モモとネクタリンの域内需要を満たし、自給自足している。EUは(地域総体として)純輸出国であり、EU域外への輸出を行う主な加盟国はスペインである。

ただし、2020年にはEU域内の生産量の減少により、少量の輸入が見られる。貿易データモニター(TDM)によると、2020/21年度のEUのモモとネクタリンの輸入額は6千万米ドル、輸入量は38,872トンで、前年比で60%増加した。EUのモモとネクタリンの主な輸入先は、トルコ、チリ、南アフリカであった。また、域内の需要に対応するため、主にスペインから域内の他の加盟国への輸入が増加する可能性がある。2021/22年度には、EUのモモとネクタリンの生産量の減少が予想されるため、引き続き輸入が増える可能性がある。

2020/21年度のEUのモモとネクタリンの輸出量は、生産量の減少により30%減少して18万199トンとなり、輸出額は2億4,400万米ドルとなった。EUのモモとネクタリンの主要輸出先は、英国、ウクライナ、スイス、ベラルーシであった。2021/22年度には、生産量の大幅な減少が予想されるため、EUのモモとネクタリンの輸出は引き続き減少する可能性がある。

一方、EUはサクランボについては自給自足できないため純輸入国であり、加盟国は主に他の加盟国やトルコから輸入している。英国が離脱する以前は、EUは主に英国を通じて米国のサクランボを輸入していた。過去3年間、生産量不足のためEUのサクランボの輸入は大幅に増加し、2021/22年度にも増加を続ける可能性がある。TDMによると、2020/21年度のEUの生鮮サクランボの輸入額は1億8,500万米ドル、輸入量は52,413トンで、域内生産量の減少により前年度に比べて5%増加した。EUの生産者の主な輸出先は、他の加盟国である。EU域内以外の輸出先としては、英国、スイス、ベラルーシがある。

TDMによると、これまでのところ、英国の離脱はEU内の核果類の貿易に影響を与えていない。一方、2014年のロシアの禁輸措置(政策の項参照)によるロシア市場の消失は、EU域内及び第三国へのEU産核果類輸出の増加によって埋め合わせできていない。

## 政策

この1年間、ブリュッセル(EU本部)の農業政策立案者は、コロナ危機、欧州グリーンディール政策、共通農業政策(CAP)改革、英国のEU離脱に忙殺されてきた。特にコロナ禍は、危機に対するサプライチェーンの回復力と持続可能性への懸念を念頭に置く政策決定と政治を形作った。これらの不安は、農場から食卓まで(F2F)戦略と生物多様性戦略の下にあるグリーンディール政策の農業食料ビジョンに影響を与え、CAP改革に関する議論を引き起こした。そのほか、農薬規制の変更や農産物の輸入禁止が、世界的な核果類貿易に影響を与えた。

### 農場から食卓まで戦略 (the Farm to Fork Strategy)

農場から食卓まで(F2F)戦略は、EU域内の食品の生産、加工、輸送、展示、販売の方法を変革することを目的とした27項目の行動を重視している。この戦略は、EUの食料システムをより持続可能性の高い方向に導くことを目指している。生産段階では、欧州委員会は2030年までに化学農薬の全体的な使用とリスクを50%削減し、肥料の使用を少なくとも20%削減するための行動などを提案している。さらに、有機農業に使用する農地を現在の8%から25%に増やすことを目指している。農薬使用の削減は、EUの核果類生産者が使用できる有効成分の入手可能性に影響を与える可能性があり、さらにEUへの核果類の輸入に関して貿易上の影響を引き起す可能性がある。

### 生物多様性戦略

生物多様性戦略は、自然保護に幅広く焦点を当て、EU及び世界における生物多様性の損失への対応に取り組んでいる。F2F戦略で示された2つの主要な農薬削減策は、生物多様性戦略において重視され、EUの2018年花粉媒介生物保護計画を見直し、おそらく改訂するという生物多様性戦略の公約によって補完される。この戦略はまた、既存の農地の最低10%を緩衝帯やローテーションまたは非ローテーションの休耕地など、より生物多様性の高い景観状態に置くことによって、土壌と自然の一層の保護を目指している。欧州委員会が提案している保全策は、EUの土地の30%を保全するという生物多様性戦略の上位目標に含まれる。

### 共通農業政策改革

核果類はEUの果実・野菜政策の対象であり、同政策は共通農業政策(CAP)の一部である。

1958年のローマ条約で規定されたCAPは、依然としてEUの農業部門における主要な法的枠組みである。現在、EU全域で約1,050万の農場と数千の農村コミュニティを支援している。2020年7月の欧州理事会でEUの首脳らは、複数年財政枠組みの下で、2021~2027年度予算全体の32%を占める3,440億ユーロをCAPに割り当てた。

欧州委員会は5年から7年ごとに、次期のCAPについて複数年にわたる関係者の協議を開始し、社会的及び政治的優先事項に即して枠組みを調整し、EUにおける農業の実践方法に徐々に変更を加える。欧州委員会は、CAPの案を起草して、欧州議会(EP)及び欧州理事会に送付する。欧州議会と欧州理事会は、欧州委員会から示された案を承認するか修正するかを審議し、投票により決定する。現在のCAP案に関する農業部門の関係者協議は2018年に始まった。欧州議会、欧州理事会、欧州委員会は2021年6月25日、2022年に施行される新しい共通農業政策に関する暫定的な政治的合意に達した。今後3機関の間で技術的な議論が行われる。本稿執筆時点で新しいCAPのテキストは公表されていない。

### 販売基準

EUへの生鮮果実・野菜の輸入に当たっても、EUの販売基準を遵守する必要がある。これらは、品質、サイズ、表示、包装、展示等の基準で、すべての販売段階で適用される。欧州委員会実施規則(EU)No543/2011は、すべての生鮮果実・野菜の一般的な販売基準を定めている。モモやネクタリンを含む10品目については、さらに品目ごとの販売基準が定められ、附属書IのパートBの第5章に記載されている。

### 欧州学校用果実・野菜・牛乳事業

EUの「学校果実事業」は、子どもの肥満と闘うための措置として2009年に始まった。学校での果実や野菜の無料配布、健康的な食習慣に関する情報キャンペーン、監視と評価の3つの要素から成っている。この事

業のEU予算総額(2017～23年)は、1学校年度当たり2億5千万ユーロに設定され、そのうち最大1億5千万ユーロが果実と野菜に、最大1億ユーロが牛乳に向けられる。この予算は、子どもの数と地域の発展段階に基づいて国別に分配される。

2021/22学校年度には、欧州委員会実施決定(EU)2021/462により、2021年8月1日現在すべての加盟国に対し、合計で2億7,100万米ドル(2億2,300万ユーロ)のEU資金を割り当てている。また、パンデミックによる加盟国の教育施設の一時的な閉鎖のため、欧州委員会実施規制(EU)2020/600により、教育措置に付随する補助に関する申請の提出期限が延長された。

果実部門は学校果実計画に加えて、果実や野菜の消費の増加を奨励する別の方策として、欧州委員会予算による農産物の生産や品質向上のための事業を利用することができる。欧州委員会は、この振興策を改正し、対象品目の範囲を拡大し、輸出市場に重点を置くこととした。

2021年については、欧州委員会は、欧州域内と世界市場の両方におけるEU産の農産物と食品のプロモーションのために合計1億8,290万ユーロを割り当てた。焦点は、有機農産物(果実、野菜等)及び持続可能な農業を優先し、より直接的に欧州グリーンディール政策の目標に資する産品や農法を振興することに置かれている。

欧州委員会は2021年4月、農場から食卓まで戦略の一環として、EU内外における農産物のプロモーションに関する方針を見直すを発表した。この見直しは、より持続可能な食料の生産と消費を促進する欧州委員会のグリーンディール政策に合致するものである。

### 果実の植物衛生証明

EUに輸出される果実・野菜には植物衛生証明書が必要である。(米国では)農務省動植物検疫局(APHIS)の検査官がこれらの証明書を発行する。この基準設定機関は、植物や植物製品の病害虫を制御し、その広がりを防ぐために、各国との協力を調整している。

植物病害虫に対する保護対策に関するEU規則2016/2031には2019年12月14日以降、義務的な植物検疫検査が規定されている。これには、欧州委員会実施規則2019/2072で規定されるEUの輸入要件及び統一的な実施条件に合致していることを確認するための書類審査、同一性の確認及び現物検査が含まれる。

欧州委員会は毎年、果実・野菜の輸入状況を監視し、貨物の検査頻度の調整方法を決定する。適当と認められるときは検査頻度が下げられ、その最新のリストが公表される。

### 果実の農薬最大残留レベル

インポートトレランスを含む農薬の最大残留基準値(MRL)はEU全域で調和されており、EU MRLデータベースに掲載されている。以下の表(省略)に、有効成分のEUにおける使用承認を更新するための見直しを事前通報した加盟国と当該有効成分を示す。

### ホスメット

欧州委員会は最近、有効成分ホスメットの承認を更新しないという案を提出し、WTOにこの成分を更新しない旨を通報した。この成分については、植物・動物・食品及び飼料に関する常任委員会植物用薬品小委員会(規制部会)の次回会合で投票される可能性が高い。ホスメットの承認が更新されない場合、将来的に米国からEUへのサクランボ輸出に関係する農薬残留基準に影響を与える可能性が高い。

### グリホサート

有効成分グリホサートはEUレベルで使用が承認されており、2022年12月15日に承認期限が切れる。その更新手順は現在進行中であるが、前回の再承認期間は通常10～15年間ではなく5年間に制限された。この成分はEUレベルでは依然として承認されているが、ルクセンブルク、オーストリア、ドイツ、フランス、オランダ、ベルギーなど一部の加盟国は国レベルで販売を禁止し、または農薬としての使用を制限している。

国レベルの制限にもかかわらず、グリホサートのEUレベルのMRLは、これらの加盟国でも有効である。本

稿執筆時点では、グリホサートを含む薬品で処理された輸入品について制限がないため、貿易への影響は限定的である。しかし、一部の加盟国では、国内の生産者がこの物質を使用することが許可されていないため、グリホサートを含有する輸入品を制限する政治的圧力を受けている可能性がある。

## 関税

### エントリー価格制度

生鮮果実・野菜のEUへの輸入は、ウルグアイラウンド以来現在の形で実施されているエントリー価格制度の対象となる。これは、EUの生産者に高いレベルの保護を与える複雑な関税制度である。この制度では、設定されたエントリー価格以上の価格で輸入された果実や野菜は、従価税のみが課される。2021年の関税率は、欧州委員会実施規則2020/1577に掲載されている(核果類の関税は110ページに掲載)。

### 先着順原則

輸入関税割当の管理に関し、特定の種類の核果類は「先着順原則」の対象となる。(品目表省略)

### EUへの核果類輸出に影響を与える自由貿易協定

EUは2019年6月28日、メルコスール(MERCOSUR)加盟国であるアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイとの貿易協定を締結する最初の主要パートナーとなった。欧州議会と欧州委員会による協定の批准を待たなければならないが、メルコスールからEUへの輸出に対する関税の93%を撤廃し、残りの7%に対しては優遇措置が提供される。最終的な関税引き下げスケジュールは公表されていないが、予備的な分析によれば、メルコスール諸国産品及びEU産品と競合する米国産品は、圧倒的に不利な状況に置かれると見られる。

EUは、EUの主要な核果類貿易相手であるチリ、南アフリカ、トルコ、モロッコ、英国、カナダなど他の国や地域と交渉を行い、食品に関する譲許を含む自由貿易協定(FTA)をいくつか実施している。詳細な情報は、欧州委員会のウェブサイトで見ることができる。

### 核果類の貿易に影響を与える禁止事項

#### ロシアの農産物輸入禁止

ロシア政府は2014年8月7日、ロシアのウクライナにおける行動に対する米国とEUの制裁に対抗して、米国、EU、カナダ、オーストラリア及びノルウェーからの核果類を含む様々な農産物及び食品の1年間の輸入禁止を実施した。ロシアはこの禁止を毎年延長し続けている。欧州委員会は、2014年の輸入禁止開始から2017年まで、欧州の果実・野菜セクターに対する市場支援措置を導入した。果実と野菜のための最後の20項目の緊急措置は、2018年6月までに段階的に廃止された。EUは全体で170万トンの果実と野菜の市場隔離に相当する5億8,800万米ドル(5億ユーロ)の援助を域内の生産者に与えた。

#### フランスによるサクランボ用ジメトエートの禁止

フランスは2020年4月8日、サクランボ生産において化学物質ジメトエートの使用が許可されている国からの生鮮サクランボの輸入を禁止する5回目の緊急命令を発出した。フランスは、EUがジメトエートの使用を禁止しているにもかかわらず、ジメトエートのMRLをまだ設定していないため、この決定を下した。生産者は、サクランボの果樹園でかなりの損害を引き起こすアウトウショウジョウバエを防除するためにジメトエートを使用する。

欧州委員会は2020年5月26日、ジメトエートのMRL(欧州委員会規則(EU)2020/703)を公表し、この規則は2020年12月16日に発効した。サクランボのジメトエートのMRLは、検出限界(0.01ppm)まで低下する。欧州委員会がジメトエートのMRLを設定することを決定したため、フランスは緊急命令を更新しないことを決定した。

## 品目別図表

### <生鮮モモ・ネクタリン>

表1 EUのモモ・ネクタリン生産需給統計

| モモ・ネクタリン(生鮮)<br>販売年度<br>EU27カ国 | 2019/2020   |           | 2020/2021   |           | 2021/2022   |           |
|--------------------------------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|
|                                | 2019年1月～12月 |           | 2020年1月～12月 |           | 2021年1月～12月 |           |
|                                | 農務省公式       | 今回推計      | 農務省公式       | 今回推計      | 農務省公式       | 今回推計      |
| 栽培面積                           | 220,026     | 211,156   | 216,550     | 202,369   |             | 200,623   |
| 収穫面積                           | 200,226     | 200,416   | 196,894     | 193,918   |             | 190,926   |
| 結果樹本数                          | 0           | 0         | 0           | 0         |             | 0         |
| 非結果樹本数                         | 0           | 0         | 0           | 0         |             | 0         |
| 果樹本数合計                         | 0           | 0         | 0           | 0         |             | 0         |
| 商業的生産量                         | 4,076,740   | 4,025,233 | 3,439,966   | 3,204,536 |             | 2,670,645 |
| 非商業的生産量                        | 41,179      | 40,659    | 34,747      | 32,369    |             | 26,976    |
| 生産量合計                          | 4,117,919   | 4,065,892 | 3,474,713   | 3,236,905 |             | 2,697,621 |
| 輸入量                            | 33,700      | 24,117    | 35,000      | 38,782    |             | 40,000    |
| 総供給量                           | 4,151,619   | 4,090,009 | 3,509,713   | 3,275,687 |             | 2,737,621 |
| 国内消費量                          | 3,942,719   | 3,800,596 | 3,324,713   | 3,071,288 |             | 2,557,621 |
| 輸出货量                           | 178,900     | 259,413   | 155,000     | 180,199   |             | 175,000   |
| 市場からの隔離                        | 30,000      | 30,000    | 30,000      | 24,200    |             | 5,000     |
| 総仕向量                           | 4,151,619   | 4,090,009 | 3,509,713   | 3,275,687 |             | 2,737,621 |
| ヘクタール、千本、トン                    |             |           |             |           |             |           |

注: 「国内消費量」には加工仕向量を含む。

出典: 海外農業局EU域内関係事務所

EU加盟国は、永年性作物の「生産面積」に関するデータを毎年欧州委員会に提供することを義務付けられている。これは、「当該収穫年に収穫される可能性のある面積」を意味し、まだ生産を開始していない新植園地など、収穫がおこなわれない園地面積は除外される(2009年6月18日付け欧州議会及び欧州理事会規則(EC)No543/2009第2条(f))。この報告書では、これは「栽培面積」の行に対応している。すべての加盟国が収穫面積を公表するわけではないため、この報告書では「収穫面積」の行は海外農業局各国事務所による推計値である。

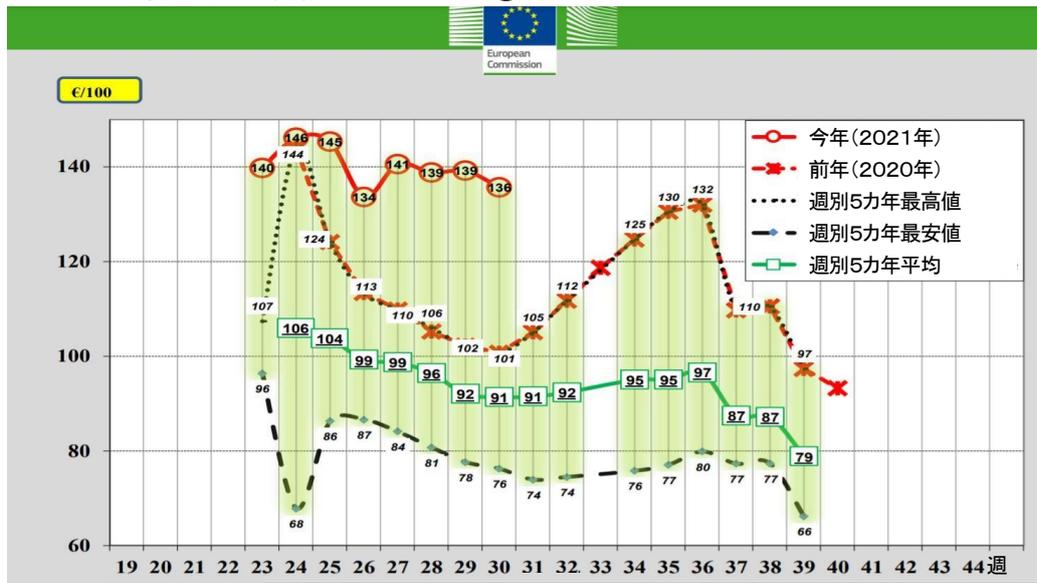
表2 EUの生鮮モモ・ネクタリンの主要生産国と生産量(トン)

| 国    | 2019/20   | 2020/21   | 2021/22   |
|------|-----------|-----------|-----------|
| スペイン | 1,545,610 | 1,306,020 | 1,218,694 |
| イタリア | 1,235,254 | 799,318   | 722,727   |
| ギリシャ | 968,060   | 875,477   | 550,000   |
| フランス | 202,800   | 175,800   | 125,600   |

米国農務省の公式データではない。

出典: 海外農業局EU域内関係事務所

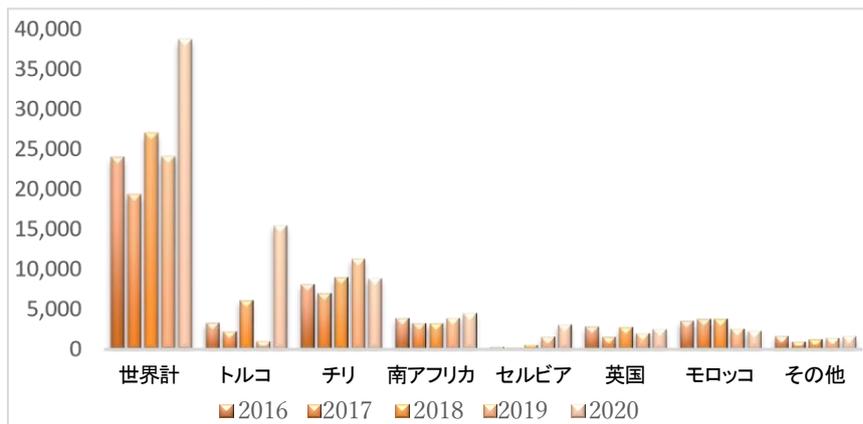
図1 EUの最近のモモ価格(ユーロ/100kg)



出典: 欧州委員会 農業・農村開発総局

訳注: 2021年の欧州の週番号は日本と異なり、例えば第23週、30週、39週はそれぞれ6月7日、7月26日、10月27日から始まる週となります。

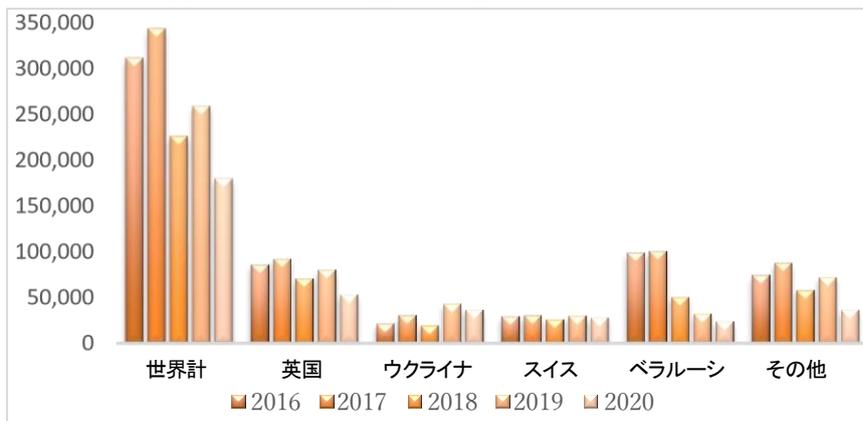
図2 EUの生鮮モモ・ネクタリン輸入量 輸入先別(トン)



出典: Trade Data Monitor

モモ・ネクタリンのHSコード 080930

図3 EUの生鮮モモ・ネクタリン輸出量 輸出先別(トン)



出典: Trade Data Monitor

モモ・ネクタリンのHSコード 080930

## <生鮮サクランボ>

表3 EUのサクランボ生産需給統計

| サクランボ(甘果、酸果)生鮮<br>販売年度<br>欧州連合 | 2019/2020    |         | 2020/2021    |         | 2021/2022    |         |
|--------------------------------|--------------|---------|--------------|---------|--------------|---------|
|                                | 2019年4月～翌年3月 |         | 2020年4月～翌年3月 |         | 2021年4月～翌年3月 |         |
|                                | 農務省公式        | 今回推計    | 農務省公式        | 今回推計    | 農務省公式        | 今回推計    |
| 栽培面積                           | 162,793      | 162,793 | 162,634      | 164,029 |              | 164,069 |
| 収穫面積                           | 155,744      | 155,918 | 155,668      | 157,258 |              | 156,884 |
| 結果樹本数                          | 0            | 0       | 0            | 0       |              | 0       |
| 非結果樹本数                         | 0            | 0       | 0            | 0       |              | 0       |
| 果樹本数合計                         | 0            | 0       | 0            | 0       |              | 0       |
| 商業的生産量                         | 701,255      | 701,416 | 667,565      | 667,116 |              | 631,560 |
| 非商業的生産量                        | 36,908       | 36,917  | 35,135       | 35,111  |              | 33,240  |
| 生産量合計                          | 738,163      | 738,333 | 702,700      | 702,227 |              | 664,800 |
| 輸入量                            | 52,500       | 49,892  | 60,000       | 52,413  |              | 55,000  |
| 総供給量                           | 790,663      | 788,225 | 762,700      | 754,640 |              | 719,800 |
| 国内消費量                          | 781,463      | 770,201 | 752,200      | 747,200 |              | 704,300 |
| 輸出量                            | 8,700        | 17,524  | 8,000        | 14,912  |              | 15,000  |
| 市場からの隔離                        | 500          | 500     | 2,500        | 2,500   |              | 500     |
| 総仕向量                           | 790,663      | 788,225 | 762,700      | 764,612 |              | 719,800 |
| ヘクタール、千本、トン                    |              |         |              |         |              |         |

注: 「国内消費量」には加工仕向量を含む。

出典: 海外農業局EU域内関係事務所

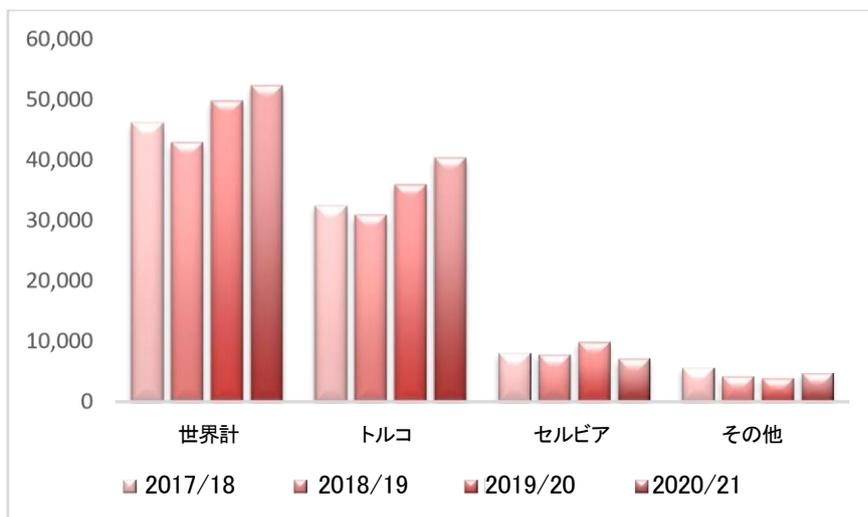
表4 EUの生鮮サクランボ(甘果及び酸果)の主要生産国と生産量(トン)

| 国     | 2019/20 | 2020/21 | 2021/22 |
|-------|---------|---------|---------|
| ポーランド | 196,300 | 201,000 | 213,000 |
| スペイン  | 115,400 | 102,700 | 100,100 |
| イタリア  | 98,602  | 104,380 | 90,000  |
| ギリシャ  | 81,600  | 84,822  | 78,000  |

米国農務省の公式データではない。

出典: 海外農業局EU域内関係事務所

図4 EUの生鮮サクランボ(甘果・酸果)輸入量 輸入先別(千トン)



出典: Trade Data Monitor

サクランボのHSコード 080921、080929

## 89. ニュージーランド キウイ苗の密輸出者に9億円の支払い命令

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月7日)

ゼスプリの貴重なゴールドキウイの苗を中国に密輸出した元キウイフルーツ栽培者は、控訴を退けられ、1,200万ニュージーランドドル(NZドル)(約9億円)以上をゼスプリに支払うよう命じられた。

高(カオ)被告は昨年、中国の生産者とライセンス契約を結び、中国に苗を持ち込んだとして、約1,500万NZドル(約12億円)をゼスプリに支払うよう高等裁判所から命じられていた。ゼスプリは、苗を提供するという高被告の契約は、植物品種権利法に基づく権利の侵害であると主張していた。

高被告は高等裁判所の判決を控訴し、控訴裁判所は火曜日(7日)の判決で、高被告が支払う損害賠償額を1,490万NZドルから1,210万NZドルに減額した。損害額の減額は、本件に関わる中国の果樹園の不正確な計測に関連している。

高被告は、サラ・カツ裁判長が伝聞の証言を信頼に足るとし、また高被告の行為がなければゴールド品種が中国の生産者の手に渡ることはなかったと判断したことは誤りであると主張したが、棄却された。

出典: stuff.co.nz

## 90. オーストラリア 中国向けに日本品種のブドウ輸出の取組

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月10日)

中国はオーストラリア産食用ブドウの主要な買い手である。オーストラリアのブドウ品種のほとんどは、従来米国やヨーロッパから導入されており、どれも似通っている。同時に、中国が市場を開放する中で、中国市場にブドウを輸出する許可を得る国が増えているため、オーストラリアの中国向けブドウ輸出はここ数年減少している。中国の消費者は徐々にオーストラリア産ブドウに対する関心を失っている。

ロイヤルグレイプス社の関係者によると、同社はオーストラリアで最初にAATIホールディングス\*(以下「AATI」)から栽培許可を得たブドウ栽培・販売事業者であり、特許登録された7種類のブドウ品種をビクトリア州のブドウ園で栽培している。AATIはこれらの品種を日本から導入し、オーストラリアでこの7品種を生産する独占的権利を有している。(\*:オーストラリア農業技術投資ホールディングス。中国系豪州企業)

特許の対象は、5種類の赤ブドウ品種(バイオレットキング、我が道、コトピー、マイハート、クイーンマスカット)と2つの緑色品種(雄宝、天晴)である。これらの品種は少なくとも50%は遺伝的に日本のブドウ品種由来である。日本のブドウ品種との組み合わせにより、一層風味豊かでサイズの大きいハイブリッド新品種が生み出された。これらはすべて、苗畑への導入前にオーストラリアの厳格な検査と検疫を経たものである。

特許保有者のAATIが提供する情報によると、これら7種類の中で最も早い赤ブドウ品種は1月下旬に市場に入荷し、2つの緑色品種は2月下旬に市場に入荷する。AATIはまず、ブドウ品種がオーストラリアの気象条件に適していることを確認し、2022年に他のオーストラリアの生産者に栽培許可の提供を始める。それによって、これらの7品種の栽培面積が商業レベルに拡大する。しかし、最初に承認を受けたロイヤルグレイプス社はすでに、アジア市場向けにこれら7品種の小規模な輸出を開始することを計画している。輸出の期間は来年1月下旬から4月までと見込まれる。

ロイヤルグレイプス社は、これら7品種を植栽するため30ヘクタールの園地を確保した。対象とする小売市場について上記の関係者は「現在、中国、ベトナム、タイ、韓国、シンガポール、マレーシアを目指している。すべての顧客のそれぞれ異なる要件を確実に満たすため、各市場特有の要件に基づいて、果実の品質と包装方法を選択する。中国ではオンラインとオフラインの販売を統合して、可能な限り幅広い顧客に働きかけるが、当面は消費者の購買力が強い1級都市(北京、上海等)を主なターゲットとする」と述べた。

## 91. 世界のキウイフルーツ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月10日)

今年の生育期間の悪天候はヨーロッパの産地に影響を与えており、キウイもその例外ではない。スペインの出荷業者らは、出荷量が過去最高に比べて最大45%減るかもしれないと危惧しており、イタリアでは60%の減少を予測している。ヨーロッパ以外では前向きで、ニュージーランドは再び記録破りの出荷シーズンを期待しており、中国は良好な国内生産を見込んでいる。ヨーロッパに話を戻すとキウイの販売は順調に進んでいる。北米では需要は良好だが、一部の出荷業者は出荷シーズン後半に物流上の問題が生じる可能性があるかと懸念している。中国市場でも物流上の問題が影響を与えている。



### オランダ：今年の夏はキウイが大ヒット

今年の夏、他の夏果実の入荷量が限られたことから、キウイは好調であった。通常、夏の期間はキウイの購入は平均を下回っているが、データによると今年の夏は過去4年間の平均を47%上回った。果肉が黄色いキウイは60%も増加した。これは、低価格に対する反応ではなく、実際に価格は比較的高かった。オランダでは、今月はまだチリ産とニュージーランド産のキウイが入荷し、その後フランス産とイタリア産が入荷する。

### ベルギー：良いシーズンの期待

主にゼスプリのキウイを扱うベルギーのある業者によると、今年のニュージーランド産キウイは順調であった。価格と品質は良く釣り合っていた。ニュージーランド産はさらに5週間ほど入荷する予定で、その後徐々にヨーロッパ産に切り替わる。出荷シーズンの終わり頃には時として在庫の品切れが生じるが、今年はヨーロッパ産の出荷開始まで持ち応えそうだ。シーズン中の価格上昇は、5月から現在までの期間に約20セントとごくわずかであった。有機栽培キウイのシェアは何年も横ばいである。

### ドイツ：ドイツ市場では品質も価格も良好

ミュンヘンのある業者によると、ニュージーランド産のグリーンキウイは現在、ドイツ市場で28~30ユーロ/5kgの価格を付けている。これらのキウイはオランダから転送されて来ている。その業者は、定番商品として、毎週平均約40箱のキウイを販売している。出荷シーズンの終わりに向かって果実がやや軟化しているが、品質は総じて大変良いと報告されている。販売は引き続き好調だが、昨年よりやや弱含みだ。その業者は有機キウイも扱っており、週に約5~10箱を販売できる。冬にはスペイン産キウイの入荷が期待されている。

### イタリア：国内産キウイ出荷量は減少

ヨーロッパ全体ではグリーンキウイの出荷量は安定しているようだが、イタリアの2021年産の出荷量はさらに減少する。秋が近づき、まだ公式なデータはないものの、傾向はすでに現れつつある。イタリア北部の大手業者は、イタリアのグリーンキウイの出荷量は、豊作ではなかった2020年に比べて10%減少する可能性

があると言う。今年、ピエモンテ州、ヴェネト州及びフリウリ地域(フリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州)の産地は、主に春の霜のために非常に深刻な損害を被った。ロマーニャ地域(エミリア・ロマーニャ州)の減収は限られているように見える一方、ラツィオ州では病害が懸念されている。

5年前、イタリアのキウイフルーツ出荷量は過去最高の60万トンに達したが、2021年はおそらく60%少ない25万トンと見込まれる。しかし、北半球の他の地域では、収量は様々である。ギリシャは引き続き全力疾走で生産が増加しているようだ。主に生産に関する情報があまりないために見落とされがちな国はイランである。イランに滞在した人は、かなりの果樹園があり出荷量が増えていると言う。

ゴールドデンキウイフルーツは、イタリアでは新規園の開設により出荷量が増加しているようである。すべての果樹園が保護・防霜ネットを備えているため、収量は安定している。関係者は8トン程度と話している。

### **スペイン：悪天候の影響で最大45%の減収予想**

スペインのキウイ出荷量の85%以上を占めるガリシア州とアストゥリアス州では、降霜のためキウイの収穫量が45%減少すると懸念されている。バレンシア州とカタルーニャ州の開花期の低温も成長に影響を与え、出荷量がわずかに減少しそうだ。このため、スペインの出荷業者らは、2021/22年度出荷シーズンの収穫量を約23,000トンと予想している。現在、スペインのキウイ出荷量は国内需要を満たしておらず、主にイタリア、フランス、ギリシャからの輸入によって補完している。しかし、これらの国の一部も、降雪を伴う嵐、降霜、病虫害の影響を受けており、出荷量を大幅に減少させている。このため、ヨーロッパでは今年キウイの不足が予想され、業者らは、昨年のようなスペイン産キウイの順調な販売と価格の上昇を期待している。

### **ギリシャ：国内産が順調**

ギリシャのキウイは通常のサイズに肥大しているようで、需要はすでに良好である。輸出業者は取引先と販売計画について話し合っている最中である。出荷先については、ギリシャ産キウイは出荷量が増大しており、広範囲に輸出されている。ヨーロッパのスーパーマーケットへの販路があるほか、今年はアジアと南北アメリカがギリシャ産キウイの重要な市場となると見られる。

### **南アフリカ：国内生産の増加に大きな期待**

国内産のキウイの収穫は来年2月に始まる。ある輸入業者は、キウイの輸入は通常より少し遅れているが、販売は順調だと言う。現在輸入されているニュージーランド産キウイは10月ないし11月まで続き、その後はヨーロッパ産に切り替わって4月まで続く。キウイは一年中輸入されている。

国内ではキウイ業界は活気があり、よく成長している。今後数年間で国内の出荷量が増加すると、輸入はある程度減少する可能性がある。苗木の入手が制約となっているが、苗園は拡大している。南アフリカでは、キウイフルーツが栽培できる地域は限られている。

ある生産者は、南アフリカ産キウイの市場入荷時の品質は毎年向上していると言い、国内の出荷量は良好な成長曲線を描いている。

南アフリカのキウイ市場は消費量の増加のために成長しているが、国内の業界は、カットフルーツを除いては、乾燥や冷凍などキウイ加工の多くの機会を逸している。

### **中国：コンテナ不足が物流に影響**

今年は各地のキウイ産地の天候が良好であり、良い年になりそうだ。キウイフルーツの出荷シーズンは9月上旬に正式に始まっており、今シーズンは良い結果が期待される。

陝西省の早生のクイシアン(翠香)キウイフルーツは9月上旬に収穫が始まり、現在大量に出回っている。春先は寒かったが、全体的な収量と品質に影響はなく、面積当たりの収量は通常どおりであった。価格の面では、緑色で安価なクイシアン品種は約30~40元/箱(16~20玉/箱)であり、近年の相場と変わらない。

海外の消費者は、キウイフルーツの糖度に非常に興味をもっている。中国産ヘイワード品種の糖度は約13~14%だが、クイシアン品種とシュシアン(徐香)品種の糖度は16~17%に達することがある。

今シーズン輸出業者らが直面している最大の問題は、コンテナの不足による輸送コストの上昇である。青島港からサンティアゴ港(チリ)までの運賃は1コンテナ当たり通常は1万元だが、昨年末までに16万元程度に高騰した。(1元≒17円)

### **北米：輸入キウイはやや不安定**

米国のある出荷業者によると、現在ニュージーランドとチリの両方から相当な量のキウイが到着しており、その業者は「チリ産はあと4～5週間、ニュージーランド産は11月中旬ないし11月末まで取り扱う」と言う。

ニュージーランド産の入荷量は比較的コントロールされており、現時点では昨年と同様だが、チリ産はやや異なり、上記の業者は「チリからは、物流の関係で一部の入荷が遅れたため若干まとまった入荷が見られる。今後2～3週間は入荷量の増減が入り交じり、シーズンの終わりには予想以上の入荷量があるようだ」と言う。

サイズに関しては、ニュージーランド産のサイズ分布は予想どおりであり、チリ産の果実はやや小さいが、サイズは適度に組み合わせられている。

需要は全体的に良い。ニュージーランド産のキウイは非常に荷動きが良く、昨年に比べて需要が高くなっている。チリ産に関しては、予想よりもはるかに多くの量があるため、荷動きは鈍い。サンゴールドなどの新品種の投入もあり、一般的にキウイの消費量は年々増加している。

これらの価格への影響はどうか。現在の価格は昨年よりやや高いが、チリ産は調整が入るだろう。現に、まとまった入荷があったため、すでに下方に調整されている。チリ産の低価格は予想されていないが、それはシーズン後半にどれだけ入荷するか依存する。

今後は、カリフォルニア州産キウイの出荷シーズンが10月中旬頃に始まり、作柄は昨シーズンよりも良いようだ。カリフォルニア州産の物流コストは海外産とほぼ同等であり、同州産にも物流の課題がある。

11月には、イタリア産とギリシャ産のキウイの供給が始まる。上記の業者は「イタリアは供給上の問題があるだろう。5月に少し霜が降り、果実の少なくとも30～40%程度を失った。イタリア産は難しい年になるだろう。ギリシャも気象条件のため少し減収したが、出荷量は昨年と同じか、少し多いかもしれない。両国の課題は、船舶による物流と輸送だ。海上輸送は最近、非常に難しい要素になっている」と言う。

### **オセアニア：ニュージーランドはまたも記録更新か**

ゼスプリは、COVID-19、労働力の制約、輸送の混乱、コストの増大などの大きな課題に直面しているにもかかわらず、約1億7,700万箱の出荷を見込み、ニュージーランド産キウイフルーツの再度の記録更新に向けて順調に進んでいる。同社は、「ゼスプリキウイフルーツのビタミンCの多さは、引き続き弊社の果実の差別化のポイントであり、販売量と販売額の両方の観点から需要は引き続き世界的に強い。現在ゼスプリサンゴールドキウイについては今シーズンの出荷量の70%以上、ゼスプリグリーンキウイについては50%以上をすでに出荷しており、市場では今、夏の後の強力な販売キャンペーンを始めるところだ」としている。

オーストラリアのキウイフルーツの生産量ははるかに小規模で、国内生産量のほぼ3倍が輸入されている。最新の統計によると2020年に終わる会計年度に、国内では8,202トンが出荷され、同時期に22,883トン(うちニュージーランド産が16,765トン)が輸入された。しかし、オーストラリアの出荷量はわずかに反発している。2018年に9,582トンが出荷され、2019年には7,133トンに減少し、その後2020年には15%増加した。一方、キウイフルーツの出荷額は2020年産が過去3年間で最も高く、2,670万豪ドルであった。オーストラリア産の出荷最盛期は3月から7月までで、ほとんどがビクトリア州産である。(1豪ドル≒80円)

## 92. チリ 業界代表が日本大使と果実輸出について意見交換

Simfruit.clウェブサイト(2021年9月13日)

チリ果実輸出者協会(ASOEX)と日本大使がチリ産リンゴの日本市場開放について分析を行った。

ASOEXのロナルド・バウン・フェルナンデス会長とミゲル・カナラ=エチェベリア・ヴェルガラ事務局長は、渋谷和久駐チリ日本国大使と会談を行い、チリの対日輸出状況とチリ産リンゴの市場参入交渉の開始について意見交換を行った。会談は、大使夫人も同席して大使公邸で催された夕食会の中で行われた。

ロナルド・バウン会長は「日本の大使にお招きいただき、その中で我々の関心のある果実の輸出について話し合い、生鮮リンゴの日本市場参入の交渉開始について分析できたことに非常に満足している。TPP11に組み込まれたこともあって、我が国はアジアにおいて引き続き輸出の拡大と多様化を進めることが可能であり、日本はそれに相応しい市場の一つである」と述べた。

同会長は、2020/21年度にチリは日本市場に31,366トンの生鮮果実を輸出し、主な品目はレモン、生食用ブドウ、キウイフルーツ、ブルーベリー、サクランボ、マンダリン、ザクロ、その他のベリー類、ベビーキウイ、カスタードアップル、クレメンタイン、アボカドであったと付け加えた。

## 93. 台湾 中秋節前に日本のスーパーにブンタンを出荷

FOCUS TAIWANウェブサイト(2021年9月13日)

農業食糧庁(AFA)(台湾農業委員会農糧署)は、台湾産のブンタン50トン以上が、今年は9月21日となる中秋節の前に日本の店頭に並ぶと発表した。

AFAはプレスリリースで、台湾産ブンタンは日本の消費者に人気があり、日本市場で販売されるのは2年目になる、今年日本に輸出されるブンタンの最初の荷は月曜日(13日)に船積みされ、日本に到着した後は、日本のスーパーマーケットチェーンであるヨークベニマルで販売されるとした。

日本は2020年に、20年ぶりに台湾産のブンタンに門戸を開き、13トンを入力した。台湾ではブンタンは通常秋に収穫され、台湾の人々が伝統的な中秋節を祝う際に、月餅やその他の珍味とともに賞味される。



AFAのデータによると、台湾は今年、9月7日時点で世界に向けて合計4,757トンのブンタンを輸出しており、前年同期比で88%増加した。同庁によると、台湾は年末までに5,500トン以上の目標を掲げている。

同庁はまた、ブンタンの主要な輸出市場は、中国本土、香港、カナダ、シンガポール等としている。

写真提供: AFA

## 94. ヨーロッパ 脱プラスチック包装の動き(イタリア、英国)

### イタリア 100%プラスチックフリーの新しい紙包装(一部要約)

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月14日)

訳注: この記事は、世界の動きや技術の紹介を目的としており、特定の製品を推奨するものではありません。

ポリカルタ/AFCパッケージング社の最高経営責任者(CEO)であるアルトゥーロ・ジュスティ氏は、「新鮮で高品質な品物をお客様に保証することは大きな課題だが、それだけではない。我々が未来の世代を守るために直面している環境問題には、持続可能な包装を作り出すことも含まれている。弊社は長年にわたり、リサイクルが困難で環境中に分散すると不可逆的な影響を及ぼす材料で作られている従来の包装に替えて、持続可能な代替品として紙を使う新しい技術を開発してきた」と述べている。(以下「」は同CEOの発言)

同社が特許を有する「NoW」つまりNoWaste(無廃棄物)技術を用いて作られた包装は、2021年3月7日に発効した使い捨てプラスチック(SUO)に関する指令に基づいて、『プラスチックフリー』に分類されている。この包装は、再生可能な資源から得られた原材料で作られており、ヨーロッパや米国の認証基準に適合し、セルロース水和物でできた透明な窓を付けることができる。また、一般的な包装機に装てんして、青果物や他の品物を包装することができる。

「弊社の紙を使った解決策を採用することで、農産物や食品の棚持ちを改善し、食品廃棄物の削減に効果的に貢献することになる。弊社の製品で使用する紙は通気性のある天然素材で、ジャガイモの発芽や緑化を遅らせ、ニンジンの腐敗やカビの形成を招く結露の発生を避けることができる。」



「NoW」を選択することで、包装資材の実際のライフサイクルとリサイクル可能性を考慮しつつ、品物の品質を維持し、環境を保護することになる。また、環境的な持続可能性や技術革新といった基本的な価値を消費者と共有することを意味する。意識の高い消費者がますます多くなり、その結果商品の価格と品質だけでなく、生産工程の社会的影響や環境への影響、さらに製品のライフサイクル全体を考慮して購入することができるようになっていく。」

### 英国 大手スーパーがバナナのプラスチック包装を禁止

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年9月20日)

モリソンズは、英国のスーパーマーケットとして初めて、店舗で販売するバナナについてプラスチック包装を禁止する。(日本でいう「ビニール袋」は、世界的には「プラスチック」に含まれます。)

英国の4大スーパーマーケットのひとつであるモリソンズは、店舗で2番目によく購入される商品であるバナナの一部で、ビニール袋を紙の帯に置き換えるという約束を発表した。これは年間4,500万個の使い捨てビニール袋、即ち180トンのプラスチックが店舗から排除されることを意味し、6ヶ月後に本格実施される。

この禁止は、プラスチックを削減し、旧来の食品包装方法に戻す同社の取組の一環であり、現在までに12週間の試行で200万個以上のビニール包装の排除に成功したことを受けたものである。(牛乳瓶について省略)

モリソンズのバナナ買付け担当者エリオ・ピオンド氏は、「バナナには皮という自前の被覆物があり、房に育つので袋に入れてまとめる必要が無い。このため、シンプルで丈夫な紙の帯が理想的な代替手段となる。試行ではバナナの品質に違いがないので、プラスチックからの移行は考えるまでもない当然のことだ」と言う。

## 95. 世界のブルーベリー市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月17日)

米国の一部の地域と英国ではまだ出荷があるものの、北米とヨーロッパではブルーベリーの出荷シーズンは終わりに近づいている。悪天候で棚持ちが悪くなった可能性があり、英国は今シーズンを通して労働問題に苦しんだが、出荷量はシーズン全体を通して十分であった。ペルー、チリ、南アフリカ等の南半球諸国からの出荷は始まったところで、最盛期はこれからだ。

### オランダ：浮き沈みの多いヨーロッパ産の後、海外産は良いスタート

オランダのある輸入業者は「ヨーロッパの出荷シーズンは終わった。今シーズンは品質と価格の両方で上下が見られた」と言う。ポーランド産とセルビア産の短期間だが強力な出荷ピークは、オランダの生産者にかかなりの圧力となった。これが、国内の豪雨と相まって、オランダの生産者には良いことが無かった。ポーランド産とセルビア産は非常に品質が良くて問題がなく、ヨーロッパ全体の小売セクターによる大規模販促活動が量をこなすのに功を奏した。



上記の業者は「ペルー産の出荷シーズンは3週間前に始まったが、ペルー産は現在品質が良く、市場で高値が付いている。南アフリカ産は第39～40週(10月上旬)から入荷し始め、第43～46週(10月下旬～11月中旬)が最盛期で、第47週(11月下旬)には終了に向かうと見込まれる。予想としては、第41週(10月中旬)まではよい値が付くが、その後は多くの販促活動が計画されているため価格は下がると見られる。第47週以降、再び価格が上昇するだろう。要するに、次の12週間は、一人当たりの消費量がどれだけの量をこなすかが示されるエキサイティングな期間になる」と述べた。

### イタリア

イタリアの北から南までの出荷業者を擁する大手の協同組合は、ブルーベリーの出荷は2月に南部のカラブリア州とシチリア島で始まり、9月末に北部のトレンティーノ県で終了すると報告している。春の霜が主に北部の出荷量に悪影響を与え、5月下旬から6月の熱波がシチリア島とカラブリア州の出荷後期に悪影響を与えたが、今シーズンの果実の品質は良かった。トレンティーノ県では7月に雨が多く、果実の棚持ちに大きな影響を与えた。

価格は、パンデミックの発生が購入に悪影響を与えた2020年と比較して大幅に上昇した。また、新しい包装と残留ゼロのブルーベリーのおかげで、外国産との競争を克服することができた。最も人気のある品種としては、Ventura、Duke、Last Call、Cargo、Atlas Blue等がある。

ヴァル・ディ・ノン郡(トレンティーノ県)のある生産者は、収穫量が多かったと言う。650株で1.6トン収穫し、価格は2020年より高く満足のいくものであった。その生産者はポット(商品名soiless)で栽培し、防電ネットで株を保護している。

### 英国

英国では5月の悪天候のため、出荷シーズンは少し遅れて始まったが、収量は良好である。北東ヨーロッパでも全体的に作柄が良いため、問題なしとはしない。また、南半球産がすでに市場に入荷し始めている。

北部ヨーロッパ産の出荷は今から減少し始めるが、英国の出荷量は10月まで同じ水準で維持されると見られる。英国産ブルーベリーは、イチゴやアスパラガスのような象徴的なステータスはないが、英国の消費者は

輸入品よりも英国産ブルーベリーを選択する。国内産の出回り量が増えるにつれて、消費者の認知度が高まっている。今シーズンは労働力が課題となっている。生産者らは今年、季節労働者パイロット事業なしには出荷シーズンを乗り切れなかったと見られ、同事業の恒久化が望まれている。来年どうなるかについては未定である。

## オーストラリア

オーストラリア産ブルーベリーの出荷が最盛期になるにつれて、小売価格は1かご当たり2豪ドルまで下落している。オーストラリアベリージャーナル誌の春版によると、業界はそのマーケティング戦略について「既存の販売先を維持し、購入を増加させる」ことに焦点を当てると発表している。さらに、統合戦略を使用し、広告費の支出は過去3シーズンで成功した「Bl'oo'berries」キャンペーンを元に、ソーシャルメディアとデジタルチャンネルに焦点を当てるとしている。オーストラリアの出荷シーズンは7月から翌年3月までで、最盛期は、12月～1月に南部の州が出荷を開始する前のニューサウスウェールズ州産の出荷時期である。ホートイノベーション社の最新のデータによると、2020年6月までの年度に前年度比9%増の20,783トンのブルーベリーが出荷された。同時期に、出荷額は15%増加し、3億8,960万豪ドルとなった。(1豪ドル≒80円)

## 南アフリカ

第35週(8月下旬)の終わりまでに、南アフリカは1,416.17トンを出荷し、その81%が海上輸送であった。航空便での輸出は第25週(6月中旬)に始まった。輸出量のかなりの部分(677.29トン)は欧州連合(主にオランダとスペイン)向けで、次いで英国向け(430.76トン)であった。東南アジア(シンガポール、香港、マレーシア)向けは171.87トン、中東(主にアラブ首長国連邦)向けは約110トン、タイ向けは10トン弱であった。

ケープ地域(国の南部)の生産者らは、雨が多く冬が寒く、一部の地域では珍しく降雪に見舞われ、このシーズンは困難であったと言う。港湾の混雑や船舶の遅延も出荷を難しくした。中東への輸出は依然として航空輸送中心である。国内市場では、入荷量が著しく増加し、価格は先週41.72ランド(2.48ユーロ)/kgに下落した。

## 米国: 今月はブルーベリーの供給が少ない。

米国とカナダの産地からもまだベリー類が出荷されているが、それらは長距離輸送の手段がないため、産地の近傍に出荷されている。

メキシコ産に関しては、9月の最初の週に正式にブルーベリーの輸出が始まった。ある生産/出荷業者は「実は8月上旬から品物はあった。メキシコの国内市場の価格が米国やカナダの価格と比べて十分良かったため、これらの品物は国内市場に出荷されている。しかし、オレゴン州産とブリティッシュコロンビア州(カナダ)産の品質面の問題が生じると、輸入業者や小売業者はすぐにメキシコ産に目を向ける」と言う。

この業者は、メキシコのブルーベリーの出荷量は現在少ないが、来週から11月中旬まで入荷量が増えると指摘している。メキシコは総じて、国内産ブルーベリーに依存している。ペルーも現在ブルーベリーを出荷しており、フロリダ州やフィラデルフィア州で出回っている。出荷シーズン初期の主要産地はペルーであり、ペルーの今年の出荷量は多い。アルゼンチン産も若干あるが、量が少ない。

需要に関しては、ブルーベリーは(ほとんどのベリー類と同じく)消費者の摂取量が増加を続けている。前出の業者は、「フードサービス業のブルーベリー需要も回復するので、需要の面で良い年になると考えている。しかし、小売業者や出荷業者は、販売に適したタイミングで荷を動かすために十分な計画を立てなければならない」と言う。

これらのことから9月と10月は引き続き市況が良い。11月から2月は、ペルー産とチリ産のブルーベリーが入荷するため、通常は価格が最も低い。しかし、出荷業者や小売業者が量を調整し、必要なときに果実の販売促進を行う等の適切な仕事をするならば、価格の問題は起こらない。現在の価格は、今年の今頃と同じかわずかに高い。この先を見ると、数週間はメキシコとペルーの両方からブルーベリーの入荷量が増え、引き続き健康志向による需要がそれらの入荷量に見合うと見込まれる。

## 96. 世界の核果類事情と市場動向

米国農務省海外農業局(2021年9月18日)

### <生鮮モモ/ネクタリン>

**世界**の2021/22年度のモモとネクタリンの生産量は、欧州連合(EU)\*とトルコで悪天候により減収する以上に、中国が昨年の悪天候による減収から回復するため、全体ではわずかに増加して2,180万トンに達すると予測される。輸出量は、米国からの輸出が増加する以上に中国とウズベキスタンからの輸出が減少するため、全体では減少すると予測される。(※訳注: 2021/22年度のデータからEUには英国を含みません。)

**中国**の生産量は昨年の雪害から回復し、100万トン増の1,600万トンと予想される。生産量の増加にもかかわらず、輸出量は2万3千トン減の5万5千トンと予測される。最大の市場であるベトナムの需要が弱いほか、カザフスタンへの出荷は検疫病害虫の検出による中国産核果類の輸入禁止が解除されたにもかかわらずまだ回復していない。ここ数年増加を見せた輸入も、コールドチェーンで輸入される品目のコスト増と検疫要件への適合義務が輸入業者の意欲を削いでいるため、3万6千トンに減少するものと見込まれる。

**EU**の生産量は、主要生産国であるスペイン、イタリア、ギリシャ及びフランスにおける2年続きの降霜と豪雨による壊滅的な被害のため、53万9千トン減少して270万トンと見込まれる。スペインとイタリアでは、供給過剰と価格低下圧力を緩和するため、引き続き栽培面積が減少する。供給量の減少により、輸出の減少と輸入の増加の傾向が長引き、輸出量は17万5千トンに減少し、輸入量は4万トンに増加するものと見込まれる。

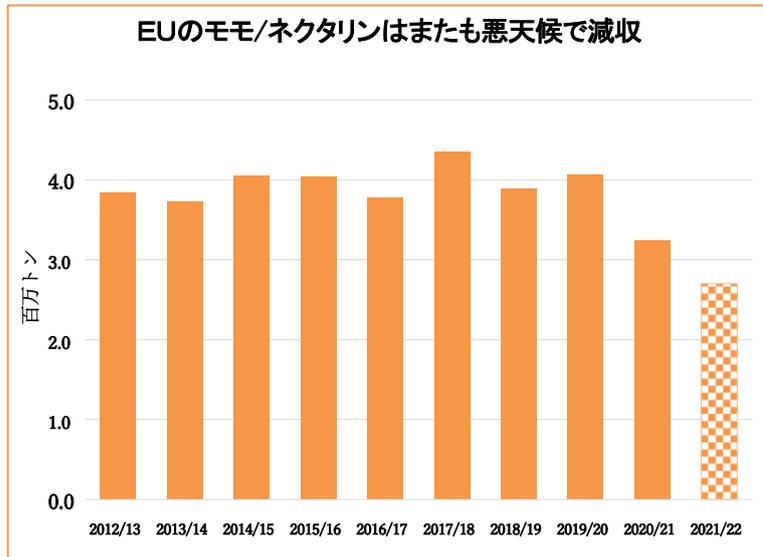
**米国**の生産量は、6万トン増の71万6千トンと見込まれ、2010/11年度から

2018/19年度にかけて減少した後、4年連続でかなり安定している。東海岸の州が昨年の低温被害から回復し、すべての主要生産州で生産量が増加する見込みである。農務省農業統計局(NASS)は業界の調査を行い、2021年8月の作物生産レポートで米国のモモ生産の予測を公表した。供給量の改善により主要輸出先であるカナダ、メキシコ、台湾への出荷量が増加することから、輸出量は7万2千トンと予測される。輸入量は、販売年度の初めにチリからの輸入が多かったことから、わずかに増加し3万3千トンと予測される。

**トルコ**の生産量は、主要産地のブルサ県とイズミル県での低温と霜害のため、6万トン減の83万トンと2014/15年度以来初めて減少するものと予想される。供給量の減少は消費量を減らすと予想される一方、輸出市場の価格上昇により輸出量は16万5千トンに維持されるものと見込まれる。今年は悪天候が作柄に影響を与えているが、生産者が新しい品種、台木、誘引方式を用いた密植栽培園地や高収量品種に投資しているため、モモとネクタリンの品質と量は近年改善している。

**チリ**の生産量は、水供給の不足により15万9千トンに減少すると予想される一方、輸出量は主要市場である米国と中国への出荷量の維持により10万トンの横ばいと予想される。

**日本**の生産量は、昨年10万トンを下回ったモモが回復し、モモとネクタリンを合わせて10万2千トンに達するものと予測される。生産量の大半は国内で生鮮果実として消費され、供給量の改善により消費量は10万トンの横ばいと予想される。しかし、両果実の消費量は、若い消費者の需要が低いことから減少傾向にある。国内消費の減少に直面するモモ生産者が輸出市場に注目する中、モモの生産量の増加が輸出を刺激し、輸



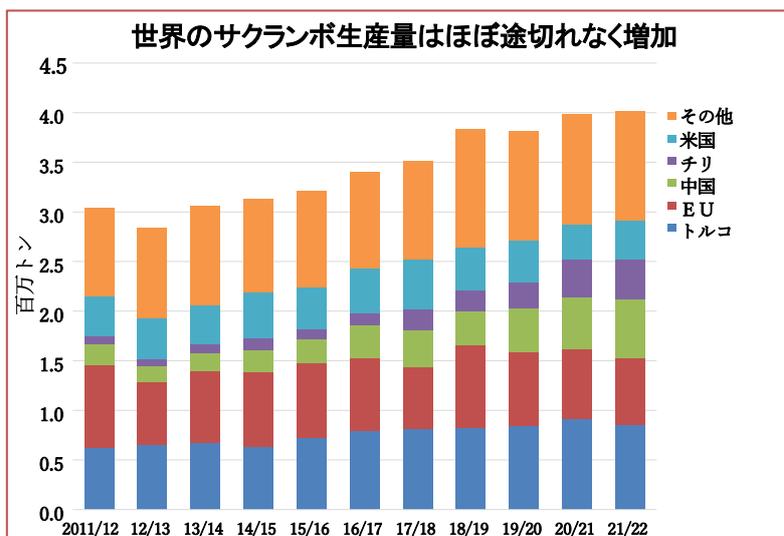
出量は2千トンに増加することが予想される。

**オーストラリア**の生産量は5千トン増の11万トンと予測される。昨年からの収穫労働力の制約が続くと予想されるが、良好な成育条件と、予想される十分な水供給により、生産量はある程度の増加が見込まれる。輸出量は、供給量が増加するもののCOVID-19関連の航空貨物輸送の問題があるため、微増の1万5千トンにとどまるものと予想される。

**ロシア**の輸入量は、トルコからの出荷量の増加が東欧と中国からの出荷量の減少を相殺して上回り、24万5千トンとわずかに増加するものと見込まれる。

### 世界のサクランボ生産の成長：10年間の動き

生鮮サクランボの生産量は、2011/12年度以降に100万トン近く増加し、2020/21年度には約400万トンとなった。この期間に前年比で減少したのは2回だけであった。またこの期間に米国農務省の生産需給(PSD)データベースで追跡された17カ国のうち、11カ国で生産量が増加した。生産量上位の中国、チリ及びトルコでは、年間平均3万トン以上増加している。一方、この期間に6カ国(EU、日本、キルギス、セルビア、ウクライナ、米国)の生産量が減少した。最も顕著なのはEUで、2011/12年度には首位の生産国であったが、翌年トルコに追い越され、その後生産量が16%減少した。トルコはその後首位を維持しており、次いでEUと中国が続いている。中国は引き続き自国の果樹産業を拡大・改善しており、EUの生産量にこれまでに近く近づいている。米国は5番目の生産国である。米国のこの期間の生産量は、栽培面積が拡大していない中、天候や成育条件の変動により約35万～50万トンの範囲であった。2021/22年度の世界の生産量は、400万トンとわずかに上回るものと予測される



2011/12年度以降生鮮サクランボの輸出量は2倍以上に増加し、2020/21年度には2011/12年度に比べて35万トン以上多い62万2千トンに達した。この期間に前年から減少したのは、2018年の1回だけであった。貿易量の増加のほとんどはチリから中国への輸出であるが(中国は2020/21年度の世界の輸入量全体の57%を占めている)、他の国々も輸出の強化に成功した。生産量と同様、PSDデータベースで追跡された16カ国のうち、11カ国で輸出が増加し、5カ国(カナダ、EU、キルギス、ウクライナ、米国)で輸出が減少した。米国は2011/12年度から2013/14年度にかけて首位の輸出国であったが、チリはその期間に生産量を増加させ、2014/15年度について輸出量で米国を上回り、それ以来首位に立っている。トルコもまたサクランボの生産国として首位に立ったことから、輸出も改善した。トルコのサクランボ輸出量は、2011/12年度から2020/21年度の間にはほぼ倍増し、輸出量は米国に近いが、時には米国を上回ることがある。しかし、米国が過去2回(2012/13年度と2017/18年度)達成した10万トンの大台にはまだ届いていない。また、2020/21年度には米国を上回ったが、2021/22年度には米国を下回ると予想される。米国のこの期間(2011/12年度

以降)の輸出量は6万7千トンから11万2千トンの間で変動した。2021/22年度の世界の輸出量は再度増加し63万8千トンと予測される。

### <生鮮サクランボ>

世界の2021/22年度のサクランボの生産量は、中国と米国での増加がトルコとEUでの減少を相殺し、わずかに増加して400万トンを上回るものと予測される。輸出量は、ウズベキスタン、チリ及び米国からの出荷増により増加するものと予測される。

トルコの生産量は、主要産地のイズミル県とマニサ県での霜害と低温のため、2014/15年度以来初めて減少し、5万4千トン減の86万トンと予測される。供給量の減少により輸出量は1万6千トン減の7万2千トンと見込まれ、主要市場であるロシアへの出荷が減少するものと予想される。トルコは2019年に中国への市場アクセスを獲得し、COVID-19関連の制限は依然として負担ではあるが、中国への輸出は2019/20年度の900トンから2020/21年度には1400トンに増加した。

EUの生産量は、EU全域での降霜、降雹、豪雨の複合的な被害により、3万7千トン減の66万5千トンと予測される。減少幅は僅かであるが、これが実現すれば3年連続での生産量の減少となる。フランスの作柄は、長期の降霜と病虫害が組み合わさり、過去50年間で最低の水準に悪化するものと予想される。生産量の減少により、消費量は70万5千トンに減少すると見込まれる一方、輸出は主要市場である英国とスイスへの出荷量を維持し、1万5千トンで横ばいと予想される。

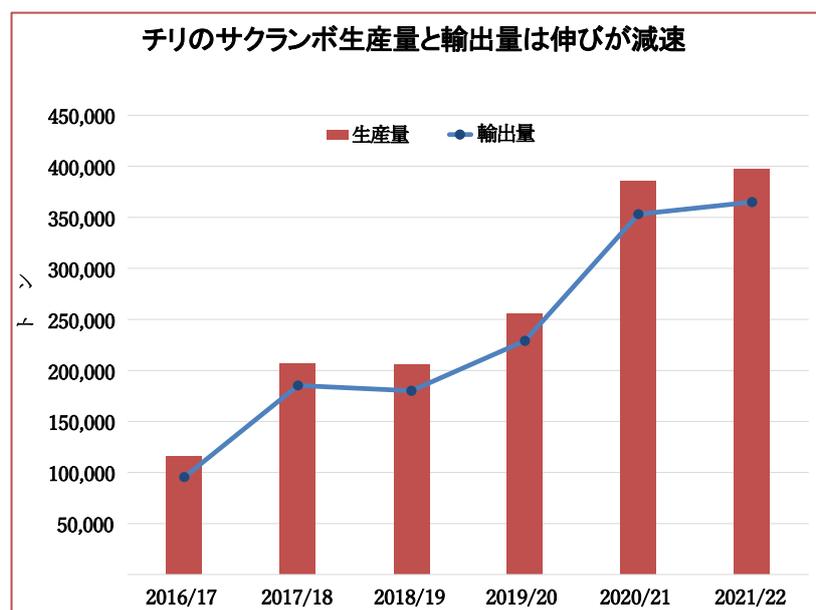
中国の生産量は、引き続き新植園の成園化と栽培面積の増加により、8万トン増の60万トンと予想される。ここ数年は、栽培期間を拡大するため、生産者による新しい早生品種の新植や接ぎ木が見られる。輸入は引き続きチリからで、33万5千トンと基本的に変わらないものと予測される。

チリの生産量は、生産者が品質とサイズの向上のために積極的な剪定と摘花・摘果を行っていることからペースは鈍るものの、1万1千トン増の39万7千トンと引き続き増加するものと見込まれる。多くのサクランボ産地で平均気温が高く降水量が不足していることから、早魃も一つの要因である。輸出量は中国向けの出荷が堅調なことから、3%増の36万5千トンと見込まれる。

米国の生産量は、甘果オウトウと酸果オウトウの両方が、悪天候に起因する昨年の減収から回復するため、4万トン増の39万2千トン

と予測される。甘果オウトウはワシントン州とカリフォルニア州で増収が予想され、一方酸果オウトウはユタ州とワシントン州での生産量の改善がミシガン州の降霜と低温の被害を相殺するものと予想される。農務省農業統計局(NASS)は業界の調査を行い、2021年6月の作物生産レポートで米国のサクランボ生産の予測を公表した。供給量の増加に伴いカナダ、日本及びメキシコへの出荷量の増加が見込まれ、輸出量は7万7千トンに反発するものと予測される。輸入量はチリからの出荷増によりやや増加して1万4千トンと予測される。

ロシアの輸入量は、ウズベキスタンとカザフスタンからの入荷の増加がトルコからの入荷の減少より多く、史上最高の10万トンに達するものと予測される。



モモ及びネクタリン（生鮮） 主要国の生産需給統計（千トン）

|              | 2016/17       | 2017/18       | 2018/19       | 2019/20       | 2020/21       | 2021/22<br>9月推計値 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------|
| <b>生産量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| 中国           | 14,200        | 14,300        | 13,500        | 15,800        | 15,000        | 16,000           |
| E U          | 3,778         | 4,346         | 3,881         | 4,066         | 3,237         | 2,698            |
| トルコ          | 674           | 772           | 789           | 830           | 890           | 830              |
| 米国           | 840           | 758           | 687           | 709           | 656           | 716              |
| アルゼンチン       | 251           | 90            | 226           | 210           | 210           | 210              |
| ウズベキスタン      | 203           | 193           | 162           | 189           | 189           | 189              |
| ブラジル         | 194           | 250           | 220           | 183           | 183           | 183              |
| チリ           | 149           | 159           | 158           | 165           | 160           | 159              |
| メキシコ         | 177           | 164           | 161           | 159           | 159           | 159              |
| 南アフリカ        | 182           | 183           | 152           | 144           | 144           | 144              |
| その他          | 514           | 513           | 506           | 470           | 464           | 471              |
| <b>合計</b>    | <b>21,161</b> | <b>21,727</b> | <b>20,442</b> | <b>22,925</b> | <b>21,291</b> | <b>21,759</b>    |
| <b>国内消費量</b> |               |               |               |               |               |                  |
| 中国           | 14,127        | 14,213        | 13,458        | 15,706        | 14,959        | 15,981           |
| E U          | 3,465         | 3,991         | 3,652         | 3,801         | 3,071         | 2,558            |
| 米国           | 807           | 742           | 656           | 675           | 626           | 677              |
| トルコ          | 624           | 683           | 663           | 725           | 727           | 665              |
| ロシア          | 230           | 278           | 264           | 231           | 277           | 281              |
| アルゼンチン       | 251           | 86            | 222           | 208           | 205           | 206              |
| ブラジル         | 212           | 269           | 241           | 196           | 196           | 198              |
| メキシコ         | 205           | 184           | 192           | 190           | 181           | 184              |
| ウズベキスタン      | 161           | 155           | 108           | 143           | 113           | 139              |
| 南アフリカ        | 165           | 166           | 137           | 125           | 115           | 114              |
| その他          | 825           | 834           | 793           | 902           | 858           | 744              |
| <b>合計</b>    | <b>21,072</b> | <b>21,602</b> | <b>20,384</b> | <b>22,901</b> | <b>21,328</b> | <b>21,747</b>    |
| <b>輸入量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| ロシア          | 197           | 250           | 228           | 194           | 240           | 245              |
| 英国           | 98            | 90            | 79            | 97            | 67            | 70               |
| サウジアラビア      | 35            | 33            | 34            | 38            | 50            | 50               |
| カナダ          | 44            | 34            | 37            | 39            | 41            | 40               |
| E U          | 24            | 19            | 27            | 24            | 39            | 40               |
| イラク          | 27            | 35            | 40            | 62            | 76            | 40               |
| 中国           | 0             | 9             | 22            | 27            | 37            | 36               |
| ウクライナ        | 26            | 34            | 23            | 48            | 48            | 35               |
| 米国           | 47            | 40            | 38            | 36            | 31            | 33               |
| スイス          | 31            | 34            | 29            | 31            | 29            | 30               |
| その他          | 270           | 273           | 212           | 271           | 206           | 133              |
| <b>合計</b>    | <b>800</b>    | <b>850</b>    | <b>769</b>    | <b>867</b>    | <b>864</b>    | <b>752</b>       |
| <b>輸出量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| E U          | 312           | 344           | 227           | 259           | 180           | 175              |
| トルコ          | 51            | 89            | 127           | 105           | 163           | 165              |
| チリ           | 88            | 97            | 97            | 102           | 99            | 100              |
| 米国           | 81            | 55            | 69            | 71            | 61            | 72               |
| 中国           | 74            | 96            | 63            | 121           | 78            | 55               |
| ヨルダン         | 62            | 59            | 50            | 70            | 54            | 55               |
| ウズベキスタン      | 42            | 38            | 54            | 46            | 76            | 50               |
| 南アフリカ        | 19            | 19            | 18            | 21            | 32            | 30               |
| セルビア         | 33            | 44            | 24            | 22            | 24            | 25               |
| オーストラリア      | 9             | 12            | 16            | 15            | 13            | 15               |
| その他          | 93            | 92            | 52            | 27            | 24            | 17               |
| <b>合計</b>    | <b>863</b>    | <b>945</b>    | <b>796</b>    | <b>861</b>    | <b>803</b>    | <b>759</b>       |

注：販売年度は、北半球の国は第1年の1月に、南半球の国は同11月に始まる。

サクランボ（甘果及び酸果 生鮮） 主要国の生産需給統計（千トン）

|              | 2016/17      | 2017/18      | 2018/19      | 2019/20      | 2020/21      | 2021/22<br>9月推計値 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------------|
| <b>生産量</b>   |              |              |              |              |              |                  |
| トルコ          | 795          | 809          | 824          | 846          | 914          | 860              |
| E U          | 734          | 620          | 835          | 738          | 702          | 665              |
| 中国           | 330          | 380          | 340          | 450          | 520          | 600              |
| チリ           | 116          | 207          | 206          | 256          | 386          | 397              |
| 米国           | 456          | 508          | 441          | 422          | 352          | 392              |
| ロシア          | 264          | 224          | 279          | 292          | 292          | 292              |
| ウズベキスタン      | 163          | 194          | 229          | 241          | 241          | 241              |
| ウクライナ        | 220          | 243          | 303          | 236          | 236          | 236              |
| セルビア         | 118          | 119          | 147          | 114          | 114          | 114              |
| シリア          | 54           | 68           | 61           | 66           | 66           | 66               |
| その他          | 155          | 138          | 173          | 153          | 157          | 155              |
| <b>合計</b>    | <b>3,405</b> | <b>3,509</b> | <b>3,838</b> | <b>3,814</b> | <b>3,980</b> | <b>4,018</b>     |
| <b>国内消費量</b> |              |              |              |              |              |                  |
| 中国           | 425          | 571          | 520          | 680          | 856          | 935              |
| トルコ          | 715          | 749          | 749          | 766          | 827          | 788              |
| E U          | 756          | 643          | 851          | 770          | 737          | 705              |
| ロシア          | 335          | 292          | 372          | 378          | 385          | 392              |
| 米国           | 393          | 410          | 366          | 347          | 298          | 329              |
| ウクライナ        | 219          | 239          | 300          | 233          | 237          | 237              |
| ウズベキスタン      | 134          | 166          | 201          | 230          | 214          | 196              |
| セルビア         | 104          | 102          | 133          | 98           | 97           | 100              |
| シリア          | 48           | 64           | 59           | 62           | 60           | 62               |
| カナダ          | 38           | 54           | 45           | 46           | 45           | 55               |
| その他          | 215          | 190          | 220          | 175          | 194          | 200              |
| <b>合計</b>    | <b>3,382</b> | <b>3,480</b> | <b>3,814</b> | <b>3,784</b> | <b>3,950</b> | <b>3,998</b>     |
| <b>輸入量</b>   |              |              |              |              |              |                  |
| 中国           | 95           | 192          | 180          | 230          | 336          | 335              |
| ロシア          | 71           | 68           | 93           | 85           | 93           | 100              |
| E U          | 56           | 46           | 43           | 50           | 52           | 55               |
| カナダ          | 23           | 33           | 28           | 28           | 26           | 35               |
| カザフスタン       | 24           | 22           | 25           | 8            | 18           | 25               |
| 韓国           | 14           | 19           | 19           | 15           | 17           | 15               |
| 英国           | 18           | 17           | 16           | 14           | 14           | 15               |
| 米国           | 13           | 14           | 12           | 10           | 13           | 14               |
| 台湾           | 11           | 15           | 12           | 12           | 13           | 10               |
| 日本           | 5            | 5            | 3            | 4            | 4            | 6                |
| その他          | 27           | 15           | 19           | 9            | 9            | 8                |
| <b>合計</b>    | <b>356</b>   | <b>446</b>   | <b>450</b>   | <b>466</b>   | <b>594</b>   | <b>618</b>       |
| <b>輸出量</b>   |              |              |              |              |              |                  |
| チリ           | 95           | 185          | 180          | 229          | 353          | 365              |
| 米国           | 76           | 112          | 87           | 84           | 67           | 77               |
| トルコ          | 80           | 60           | 75           | 81           | 88           | 72               |
| ウズベキスタン      | 29           | 28           | 28           | 11           | 27           | 45               |
| アゼルバイジャン     | 15           | 15           | 24           | 27           | 30           | 25               |
| E U          | 34           | 23           | 27           | 18           | 15           | 15               |
| セルビア         | 19           | 21           | 16           | 17           | 17           | 15               |
| カナダ          | 10           | 11           | 13           | 9            | 7            | 7                |
| オーストラリア      | 3            | 4            | 5            | 5            | 5            | 6                |
| アルゼンチン       | 4            | 4            | 4            | 6            | 6            | 5                |
| その他          | 15           | 11           | 14           | 9            | 8            | 6                |
| <b>合計</b>    | <b>379</b>   | <b>474</b>   | <b>473</b>   | <b>495</b>   | <b>622</b>   | <b>638</b>       |

注：販売年度は、北半球の国は第1年の4月に、南半球の国は同11月に始まる。

## 97. ヨーロッパ 脱プラスチック包装の動き(スペイン)

EUROFRUIT電子版(2021年9月21日)

### 王室令により1.5kg未満の単位で販売される果実と野菜にプラスチック容器の使用を禁止

スペイン政府が策定中の新しい法律では、プラスチックで包装された果実と野菜のスーパーマーケットや小売店における販売が2023年から禁止される。

スペインの日刊紙エル・paisによると、これは政府が現在詳細を詰めている包装と廃棄物に関する王室令に含まれる一連の措置の一つである。

果実と野菜のプラスチック包装の禁止は、1.5kg未満のすべての品目に適用される。この禁止はフランスで2022年に発効する廃棄物防止法に含まれる規程と類似している。スペイン政府の報道官は目的について、「最も効果的な方法で過剰包装を抑制するため」としている。

グリーンピース等環境団体からの青果物の包装をやめろという圧力は、スペインの国内外で高まっている。

テレサ・リベラ副大統領は、王室令の草案作成を終えつつあり、すでに経済界や主要な環境団体と会合を開き、草案に含まれる主な規制内容の一部について知らせたと伝えられている。それには、複数のEUレベルの基準が含まれていると考えられている。

エル・pais紙は、「バラで販売された場合に品質劣化の恐れがある」食品についてはプラスチック容器の禁止から除外されるとしている。該当する食品のリストは、食品安全栄養庁が策定する。

グリーンピースのフリオ・バレア氏は、果実と野菜の包装の禁止を歓迎しつつ、それがどのように適用されるかを正確に分析することが重要だと警告している。

政府は、顧客が自身の再利用可能な容器を携帯することを認めるなど、青果物の無包装販売を促進するための措置を検討していると言われている。

この王室令のもう一つの目的は、2030年までに飲料用ペットボトルの販売を50%削減し、同時に市場で販売されるすべての容器の100%リサイクル可能化を確実にすることにある。ホテル、レストラン、カフェの場合、販売される容器の50%を2025年までに再利用可能とすることが提案されており、この割合は2030年には60%に引き上げられる。ビールについては2025年までに80%、2030年までに90%が目標となる。

(この記事の「プラスチック」には、いわゆるビニール袋や発泡スチロール容器を含みます。)

## 98. ロシア EU、米国等からの果実禁輸措置を延長

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月21日)

ウラジーミル・プーチン大統領が月曜日(9月20日)に発表した大統領令によると、ロシアは同国に対する一部の国の制裁に対抗して、米国と欧州連合(EU)からの食品禁輸措置を2022年12月まで延長した。

2014年8月に導入された乳製品、肉、果実、野菜の輸入禁止は、ウクライナ紛争をきっかけに西側が課した懲罰的措置に対抗して導入された。大統領令は、ロシアは国益を守らなければならないとしている。

プーチン大統領は従来から、禁輸措置はまた、自給率を改善し輸入品への依存を減らすのに役立つだろうと繰り返し述べている。

この禁輸措置は、EUと米国に加えて、オーストラリア、カナダ、ウクライナにも適用される。

## 99. ペルー産ブルーベリー 日本等アジア5カ国への市場参入を目指す

FreshPlazaウェブサイト(2021年9月22日)

世界最大のブルーベリー輸出国であるペルーは昨シーズン、貿易協定を結んでいる31の市場に16万2,459トンを出荷した。ペルー・ブルーベリー出荷者協会(Proarandananos)のルイス・ミゲル・ベガス事務局長は「ペルー産ブルーベリーの主な輸出先は米国であり、出荷量の50%近くが米国向けだ。オランダは2番目に重要な市場であり、出荷量の25%以上がヨーロッパに送られる。3番目の輸出先は中国で、10%近くを占めているが、この出荷シーズン中に15%に増やすことを計画している」と語る。ペルーはまた、英国、カナダ、スペイン、ベルギー、ドイツ、シンガポール、香港などにもブルーベリーを輸出している。

### 新たな市場

ペルー産ブルーベリーは、次々と新しい市場に到達している。農業開発・灌漑省(Midagri)は9月14日、同国が今年マレーシアへのブルーベリーの輸出を開始すると発表した。ベガス事務局長は「これは紛れもなく前向きな話だ。我々は東南アジアと中国の市場について最大の可能性と成長を見出し、意欲的な予測をしている」と述べ、次に対象となる国はインド、日本、韓国、ベトナム、インドネシアであり、大きな成長の可能性があると付言した。

### 季節性

ペルー産の出荷時期は、年の後半に当たる。ブルーベリーの輸出の90%は8月から12月の間に行われる。ベガス事務局長は「我が国は、北半球の出荷シーズンでない時期に供給している。ペルー産の出荷時期は、北半球の秋が始まる頃である」と言う。気候はペルー産ブルーベリーの販売に非常に関係しており、様々なブルーベリーの品種を生産することで各市場に適した強力なオファーを行うことができる。実際、ペルーには46種類ほどのブルーベリーがある。同事務局長は「例えば、中国にブルーベリーを販売したければ、長旅の末に消費者の口に入るまでの間、品質を維持できる品種が必要だ」と言う。

### 有機ブルーベリー

昨年は、輸出量の4%(6,500トン)が有機栽培のブルーベリーであった。今年は19,000トン、すなわち全体の9%の有機ブルーベリーを輸出することとしている。

出典: [agraria.pe](http://agraria.pe)

## 100. 米国農務省 遺伝子組換えリンゴ1品種の規制を解除

The Packer電子版(2021年9月22日)

米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、オカナガン・スペシャルティフルーツ(OSF)社が褐変を防ぐ目的で遺伝子工学を使用して開発したリンゴ品種PG451アークティックガラArctic Galaの規制を解除する。

同局は以前、遺伝子工学を用いて開発されたOSF社の他の2つのリンゴ品種について、この形質を評価して規制を解除しており、それぞれGD743アークティックゴールデン及びGS784アークティックグラニーと呼ばれている。

OSF社の規制解除拡大要求に応じて、同局は植物ペスト(植物病害生物等)リスク類似性評価(PPRSA)を作成し、PG451アークティックガラは、以前に規制解除されたGD743アークティックゴールデン及びGS784アークティックグラニーと比べて植物ペストリスクをもたらす可能性が高いとは言えないと結論付けた。

同局は、PPRSAとそれに基づく予備的な決定及びOSF社の規制解除拡大要求を30日間のパブリックコメントに付した。同局はこれらの文書に関するすべてのパブリックコメントを検討し、PG451アークティックガラが植物ペストリスクをもたらす可能性は低いと判断し、規制解除の対象を拡大することとした。この規制解除の拡大は2021年9月22日に発効する。

## 101. 国際貨物輸送は港湾の混雑が継続

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年9月28日)

海運大手のマースク(Maersk)社は市場情報を更新し、世界的に困難な物流の状況について、港湾の混雑とサプライチェーンのボトルネックは年末まで継続するとした。

同社によると、中国の10月の連休、クリスマス、旧正月は、2021年第4四半期のコンテナ輸送の強い需要を喚起するが、一方、米国とヨーロッパをはじめとする港湾の混雑と業務の遅れは、輸送の遅れを引き起こすと予想される。

同社は、スケジュールの信頼性を改善するため、船舶の追加投入と一部の港の通過(寄港取りやめ)を行うとしている。一方、欧米の在庫は引き続き過去最低の水準にあり、一部の品目の在庫切れが生じている。このため、同社は、いずれ小売需要が一息ついたとしても、在庫レベルを再度積み上げる必要があることから、貨物の量は引き続き堅調に推移するとしている。

2021年の世界のコンテナ需要は、上半期の好調さと下半期の米国及び欧州の需要の強さを反映して6~8%増えると見込まれる。2020年の後半からコンテナの需要の伸びが供給の伸びに先行しているが、同社は、高い貨物料金の真の原因は港湾の混雑とサプライチェーンのボトルネックであるとしている。

港での待ち時間が増えて数珠つなぎになる船舶が増加し、同じ量の貨物を積み下ろすためにより多くの時間を要するようになった。ロサンゼルス港と(それに隣接する)ロングビーチ港の待ち時間が増大したため、9月中旬には70隻以上の船が沖合に停泊していた。

コロナ禍も港湾(中国・寧波舟山港)の閉鎖を招き、アジアからの船舶を遅延させた。港湾や陸側の混雑により倉庫の収容能力も低下し、また、使用済みの空コンテナをアジアに戻すことが依然として難しくなっている。

マースク社は「我々はコンテナの供給を確保するため、アジアに戻る流れを再構築するよう多くの手を打ったが、陸上と海上の遅延によってコンテナの往復に要する時間は引き続き増えている」と言う。

コンテナの不足を緩和するため、マースク社は運航スケジュールを合理化し、空コンテナを再配置するなどの措置を講じたという。同社はまた、顧客の輸出需要を満たすために、過去数ヶ月間に(冷蔵ではない)ドライコンテナの数を3倍に増やした。

同社は「しかし、全体の需要を満たすには新しいコンテナの投入だけではもはや十分でないため、輸入されたコンテナができるだけ早く回送されることが依然として決定的に重要だ」としている。

(個別の港湾の状況等を省略)

### 航空貨物

マースク社は航空貨物について、2021年第4四半期は「2019年の水準を上回る需要で、業界がこれまでに経験した最も強い需要ピークの1つ」になると予想している。

海上貨物輸送の混乱が続く中、航空輸送能力がまだコロナ禍以前のレベルに戻っていないにもかかわらず、新しいハイテク製品の発売と冬物の衣料が航空輸送需要を押し上げると予想される。

同社は「貨物運賃はすでに史上最高水準だが、第4四半期にはさらに上昇すると見られる。太平洋横断、アジア・ヨーロッパ間、大西洋横断などの主要な貿易路線のほとんどが影響を受けるだろう。弊社は、輸送可能量の問題に対処するため商用便と臨時チャーター便を確保しており、またコロナ禍関連の空港の制限に対処するため主要空港を補完する地方空港も抑えている。さらに、アジア・ヨーロッパ路線の顧客の需要に応えるため、海上輸送と航空輸送を組み合わせた複合輸送サービスを提供している」としている。

## 102. オーストラリアの落葉果実事情(生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート(2021年9月28日)

これは米国農務省海外農業局キャンベラ事務所(オーストラリア)が作成した「生鮮落葉果実年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。長文のため、文章と図の一部を省略しています。

### <要約>

オーストラリアの生食用ブドウ生産量は、2020/21販売年度(以下「年度」)の推定20万トンから、2021/22年度には21万トンに増加すると見込まれる。近年新植された園地でも収穫が始まっているにもかかわらず、生産量は2019/20年度以来おおむね横ばいである。コロナ禍により労働者の確保が困難なため、生産量が影響を受けただけでなく、輸出品質の生食用ブドウの量が減少し、国内市場向けの供給が増加した。輸送コンテナの不足と輸送コストの増大(これらもコロナ禍が主な要因)により、2020/21年度の輸出量(12万500トン)が減少し、2021/22年度の輸出量(13万トンと推計)も抑制される見込みである。これらの輸出量はいずれも、過去最高であった2019/20年度の15万2,500トンを大幅に下回っている。

### <生食用ぶどう>

#### 生産

2021/22年度のオーストラリアの生食用ブドウ生産量は、下方修正された2020/21年度の推計値よりも1万トン多い21万トンに増加すると予測される。この小さな反発は、労働力不足の影響を大きく受けた2020/21年度の実績からの潜在的な回復に向けたものである。

ビクトリア州北部の生食用ブドウ主産地からの報告によると、一部の生産者は2021/22年度の収穫労働力の不足に対応するため、園地の一部で価格の低い国内市場向けの生産を行うことを計画している。そうすることで、肥料の投入を減らし、摘花・摘果作業を一部省略し、病害虫防除を簡略化することにより、投入コストを削減する狙いである。計画されているこれらの措置は、2020/21年度のコロナ禍関連の労働力不足がもたらした生産と収穫の経験に裏付けられており、収益を最適化するために行われるものである。

業界では、収穫期間中に約15,000人の臨時労働者を必要とする推定している。この労働力は従来、短期ビザ保有者、即ち主にバックパッカーと太平洋地域季節労働者計画の対象者で構成されていた。コロナ禍により、多数のバックパッカーがオーストラリアを離れ、太平洋諸国からの労働者は、14日間の必須の検疫とこれに伴う約3,000豪ドル(約2,175米ドル)の費用のために減少した。連邦政府は、農業界の懸念を認識しており、短期ビザ保有者の滞在期間を延長し、大学生や失業者が収穫労働に加わることを奨励した。残念ながら、この取り組みの効果は非常に限られており、2020/21年度の収穫労働力は相当程度不足した。

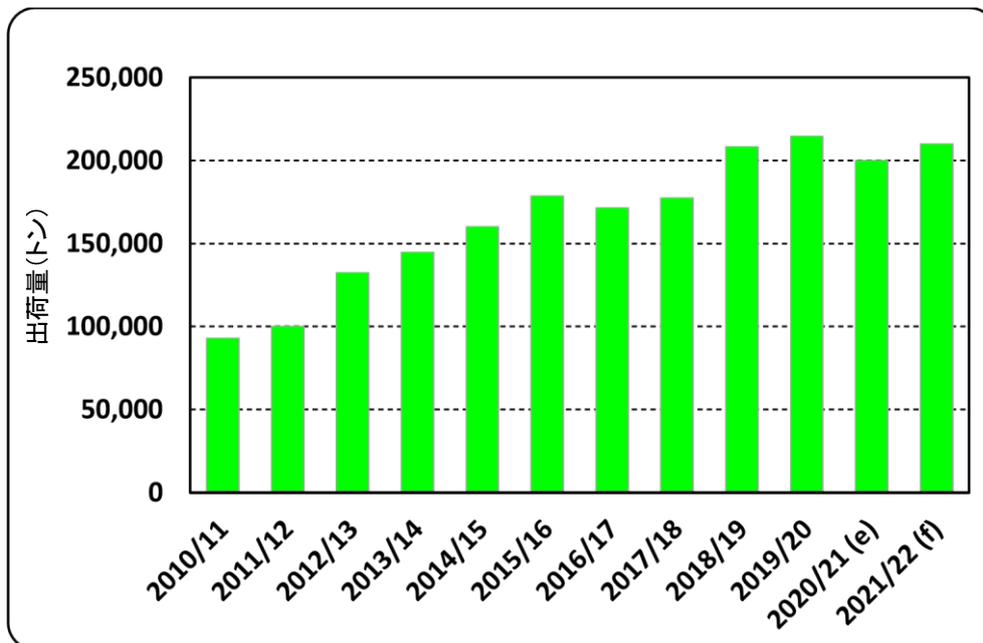
コロナ禍のため、オーストラリアの国境は依然として基本的に閉鎖されており、シドニー市とメルボルン市及びそれぞれの州(ニューサウスウェールズ州とビクトリア州)の一部の地域では、ロックダウンが延長されている。しかし、オーストラリアの予防接種プログラムは力強く進んでおり、2021年11月下旬から12月上旬までにワクチンの2回接種率が80%に達するものと予測されている。その後すぐに2回接種者に対して州境が開かれると見込まれ、2回接種済み証明書保有者は国境を越えた旅行ができるようになる可能性が高い。また、おそらく何らかの検査と自宅で検疫を行う手順が示されると期待されるが、これはまだ確立されていない。

国境再開のタイミングによって、ビクトリア州北部で2月～4月に迎える生食用ブドウの収穫最盛期の前にオーストラリアに入国できるバックパッカーと太平洋労働者計画の労働者の増加の度合いが決まる。

オーストラリアと英国の自由貿易協定交渉の一環として、2021年6月に原則合意が発表された。その中で、政府は新しい季節農業ビザを創設し、その予備段階として英国とASEAN10カ国の国民が利用できるようになることを発表した。これは2021年後半に実施されると見込まれ、制限を減らし、オーストラリアの季節労働者の増加を促進することが期待されている。2021年11月下旬または12月頃から国境が開放されれば、2021/22年度収穫シーズンの労働者の増加に寄与するものと思われる。

コロナ禍による収穫労働力の不足が生じる前は、オーストラリアの生食用ブドウ生産量は前年を超えて記録を更新すると見られていた。2019/20年度までの10年間で、生食用ブドウの生産量は実に131%増加した(図1参照)。

図1 オーストラリアの生食用ブドウ出荷量の推移



出典: 園芸イノベーションオーストラリア及びキャンベラ事務所推計

(e)は推計値 (f)は予測値

近年の強い輸出需要によって収益性が高いことが、新たな土地への新植と醸造用ブドウ産地の生食用への改植を後押ししている。生食用ブドウ業界は、近年の栽培面積の増加を年率約20%と推計しているが、今後は増加の割合が低下すると予想している。近年新植されたブドウは、2020/21年度からフル生産に入り始めており、引き続き生食用ブドウの生産量を押し上げるものと予想されていた。しかし、コロナ禍による収穫労働力の不足のため、2020/21年度の生産量は減少し、2021/22年度の予測値は抑制された。新植が続き、収穫労働力不足の緩和が見込まれる中で、2022/23年度の実績は力強く反発する可能性が高い。

当事務所は、2020/21年度の推計生産量を24万トンから20万トンに修正した。この大幅な下方修正は、前述のとおり、主に収穫労働力の不足によるものである。

生産者らは、2020/21年度の収穫期間中は雨が少なく生産量と品質に何らかの影響を与えたが、最も大きな問題は収穫期間中の労働不足とその後の影響であったと報告している。収穫に至るまでの期間には、生産者らは高品質で大量の生食用ブドウを生産するために作物管理を最適化していたが、労働力不足により適時にブドウを収穫することができなくなった。このため、生産者らは、収益が最大となることを優先して収穫を行うよう経営上の判断を強いられた。

報告によれば、生産者らは日々雇用できる労働力に対して収穫するブドウが多すぎるため、最大の利益を得られるよう最も品質が高く最も収穫が容易な園地の収穫を優先した。そうする中で、すでに最初の収穫を終えた園地では、通常は3回目、4回目の収穫で摘み取られる品質の低い少量のブドウが過熟になり、樹上に放置された。また、房の品質が最適ではなく、したがって調製に余分な労力とコストを要する園地は優先度が下げられたか、または品質にこだわらず、価格の安い国内市場に出荷されたケースもあると考えられる。

オーストラリアの生食用ブドウの大半は、ビクトリア州北部のサンレイシア地域とマレーバレー地域で栽培されており、生産量の約78%を占めている(図2参照)。これに加えて、ニューサウスウェールズ州の2つのリベリーナ地域が生産量の約10%を占めている。これらの地域の主な特徴は、温帯気候であり、排水の良い砂壌土で、年間降雨量が約300ミリと少なく、そのほとんどが収穫期の11月～5月ではなく、5月から10月に降

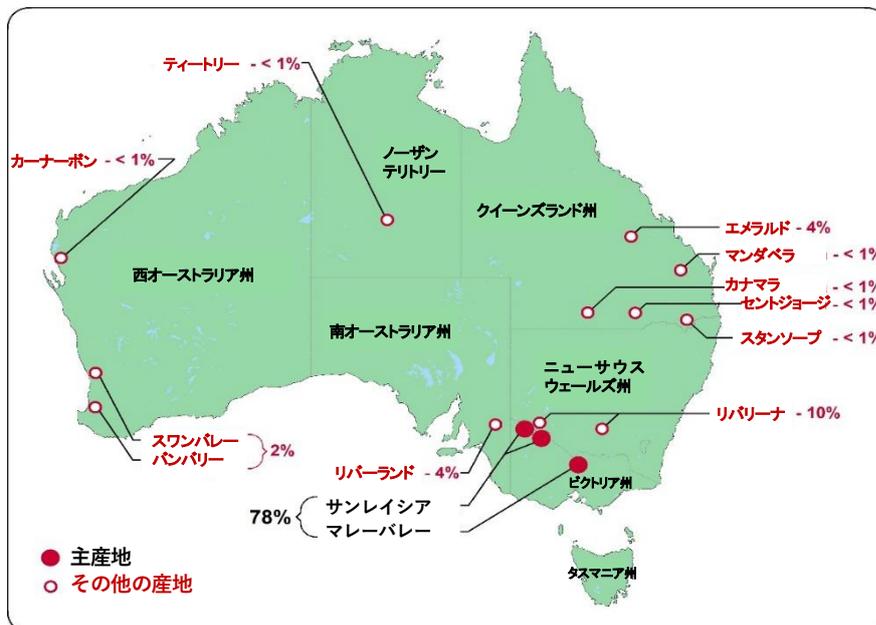
ることである。冬は穏やかであるが、ブドウが必要とする十分な寒冷期間がある。これらの地域は、ブドウの水需要を満たすため、灌漑に大きく依存している。これらの条件は発芽を促して潜在的収穫量を高め、春から秋までの低降雨量と暖かい気温は降霜、過湿及び降雹のリスクを最小限に抑え、よく管理された点滴灌漑及び施肥計画と相まって作物の生育を最適化する。

他の重要な産地はこれらよりも北方のクィーンズランド州、ノーザンテリトリー、西オーストラリア州で、早く暖かくなり作期が前倒しになるが、冬が暖かいため低温期間が短く、最適な産地とは言えない。しかし、これらの地域の生食用ブドウは、ビクトリア州の主産地よりも早く熟するため、主に国内市場の入荷期間の延長に貢献している。これらの地域では生産量が比較的小さいため、主に国内市場向けに、米国産ブドウの輸入が減少し始め、かつ国内の南部の主産地の収穫が始まる前の時期に出荷している。

オーストラリアの生食用ブドウの出荷は、10月にノーザンテリトリーのティートリー地域で、その後11月上旬にクィーンズランド州のエメラルド地域と西オーストラリア州のカーナーボン地域で始まる。さらに南の地域が徐々に収穫を開始するにつれて出荷量が増加し、最も南部のリバリーナ、マレーバレー、サンレイシア各地域で大規模な収穫が始まる2月～3月に最盛期となる。これらの地域は、国内では最も遅く、毎年5月頃に出荷を終了する。

オーストラリアの生食用ブドウ産業にとって重要で前向きなことは、新改植された地域が、輸出志向で独占権のある新品種に特化しているということである。品種の選択は、中国などのアジア市場からの強い需要を背景にしている。中国の消費者は、次第にレッドグローブのような種あり品種から種なし品種に目を向けており、新しい品種や食味を試すことにも関心を持っている。

図2-オーストラリアの生食用ブドウ産地



出典: オーストラリア生食用ブドウ協会

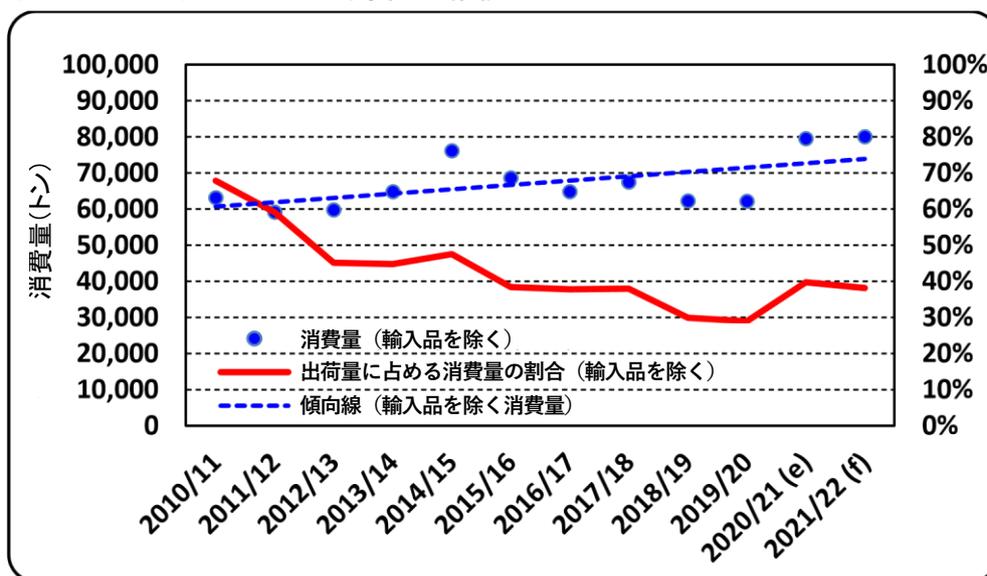
## 消費

当事務所は、2021/22年度の生食用ブドウの消費量を、大幅に上方修正した2020/21年度の推計値である92,500トンに比べて微増の95,000トンと予測している。2020/21年度の消費量は、前年度比23% (17,100トン) 増と大幅に増加すると推定される。2020/21年度のこの大幅な増加は、主に収穫労働力の不足によって収穫のタイミングを逃し品質が全般的に低下したことに起因する。これによって輸出市場に適したブドウの量が減少し、その結果、2020/21年度は国内市場に出回るブドウの量が増加した。これらの理由から、この傾向は2021/22年度も続く予測されており、消費についても同様の結果が予想される。

近年、アジアの強い需要により輸出価格は国内小売業向けよりも大幅に高いことが多く、国内への出荷量の増加を妨げていた。国内市場では、国内産のブドウは12月から5月まで出回り、ほぼ全量が米国産の輸入ブドウは8月から11月まで出回る。

時系列でみると、出荷量が増えるにつれて、国内消費量は年々変動しながら上昇傾向を示してきた。変動の要因は、主に国内市場と輸出市場の価格差の程度と、全般的な果実の品質の変動である。10年前、国内消費量（輸入を除く）は出荷量の70%近くを占めていたが、2019/2020年度には30%を下回った（図3参照）。その後、コロナ禍が収穫労働の確保に与えた影響により、国内消費量は40%程度に上昇した。前述のとおり、ほとんどの生産者は新しい品種を選択する際に、国内市場ではなく輸出需要と輸出機会を重視しているため、収穫労働力の不足の問題が解消すれば、国内消費は以前の傾向に戻る可能性が高い。

図3 オーストラリアのブドウ消費量の推移



出典：キャンベラ事務所

## 貿易

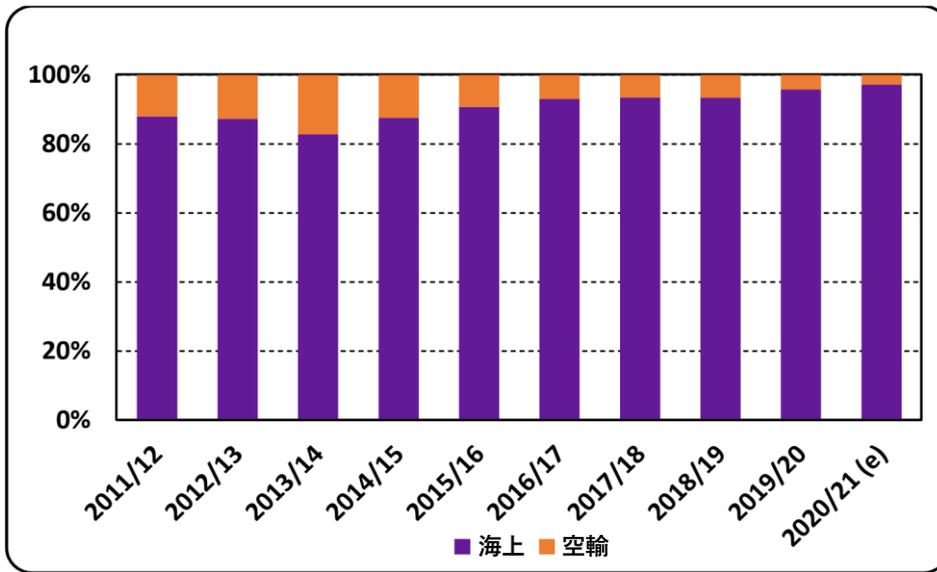
2021/22年度の輸出货量は、12万500トンと大幅に下方修正された2020/21年度の推計値よりも8%多い13万トンと予測される。これら両年の輸出货量は、過去最高であった2019/20年度の15万2,600トンから大幅に減少している。2020/21年度から2021/22年度にかけての9,500トンの輸出货量の増加は、生産量の同程度の増加予測を踏まえたものである。

2019/20年度からの輸出の大幅な減少は、部分的には生産量の減少による面もあるが、主に収穫労働力の不足の影響により、全体的に果実の品質が低下し、輸出に適した品質のブドウの量が減少したためである。この傾向は、2021/22年度も続く予想されるが、労働力不足の幾分か緩和が予想されることから、8%の輸出货量の増加が見込まれる。

輸出減少のさらなる要因は、海上貨物輸送に関連する課題とコストの増加である。これは、コロナ禍に起因する世界的な問題である。業界の報告によると、コンテナの輸送コストはコロナ禍前の水準から約3倍に上昇しており、コンテナ確保の難しさが引き続き貿易業者に大きな課題をもたらしている。

生食用ブドウは、冷蔵貯蔵庫での保管が利く青果物であり、コストの高い航空貨物ではなく、冷蔵輸送コンテナを用いた輸送が可能である。過去10年間の冷蔵貯蔵輸送における物流と温度監視の改善により、輸出に占める海上輸送の割合は83%から97%に増加した（図4参照）。航空貨物輸送による少量の輸出は、主に早い時期のプレミアム市場向けのブドウである。

図4 輸送形態別の生食用ブドウ輸出の推移

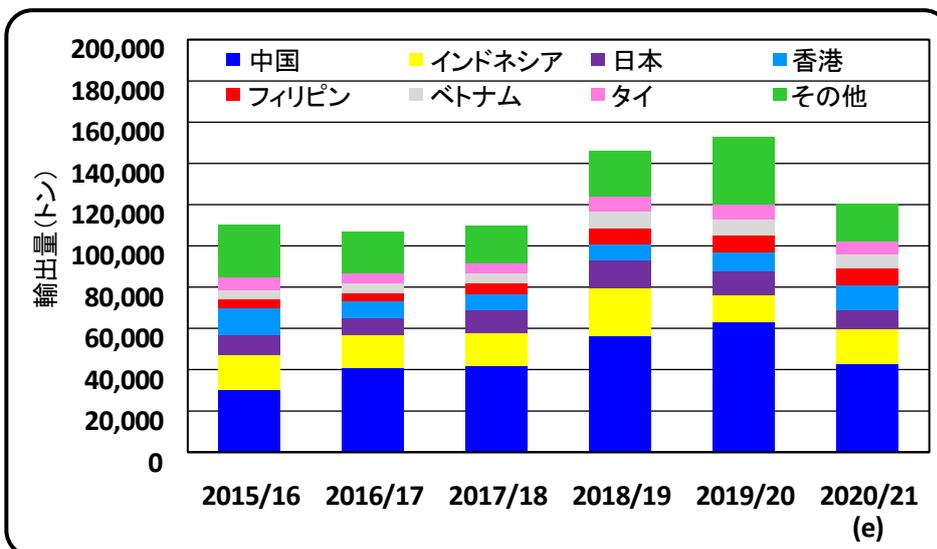


出典: オーストラリア統計局 (e)は推計値

業界筋によると、2020/21年度には生食用ブドウ輸出業者のコンテナの確保が困難であることが判明した。これは、コロナ禍によって世界中の港湾でコンテナの取り扱いに要する時間が長引いているため、コロナ禍前に比べてコンテナの供給不足が生じていることを示している。また、コンテナのコストの急激な上昇は混乱を引き起こし、輸出コストの全体的な増加をもたらした。こうした状況は今後も継続し、2021/22年度の輸出シーズンに影響を与えると予想される。

オーストラリアは主にアジア諸国に生食用ブドウを輸出しており、過去10年間の輸出货量は、2010/11年度の29,900トンから2019/20年には15万2,500トンに成長して410%の増加となった後、2020/21年度には12万500トンに減少した。この成長期間中に中国と香港への輸出は9,900トンから72,100トンに増加し、輸出货量の伸びの50%以上を占めている(図5参照)。2020/21年度の輸出の大幅な減少は、主に中国向けの輸出货量が約2万トン減少したためであり、これは生食用ブドウの輸出減少全体の62%を占めている。他の主要な輸出先は、2020/21年度には大部分(日本以外)が維持または増加したが、その他の小規模な輸出先は差し引きで減少した。(以下、中国向けの輸出について省略しました。)

図5 オーストラリアの生鮮生食用ブドウの主要輸出先

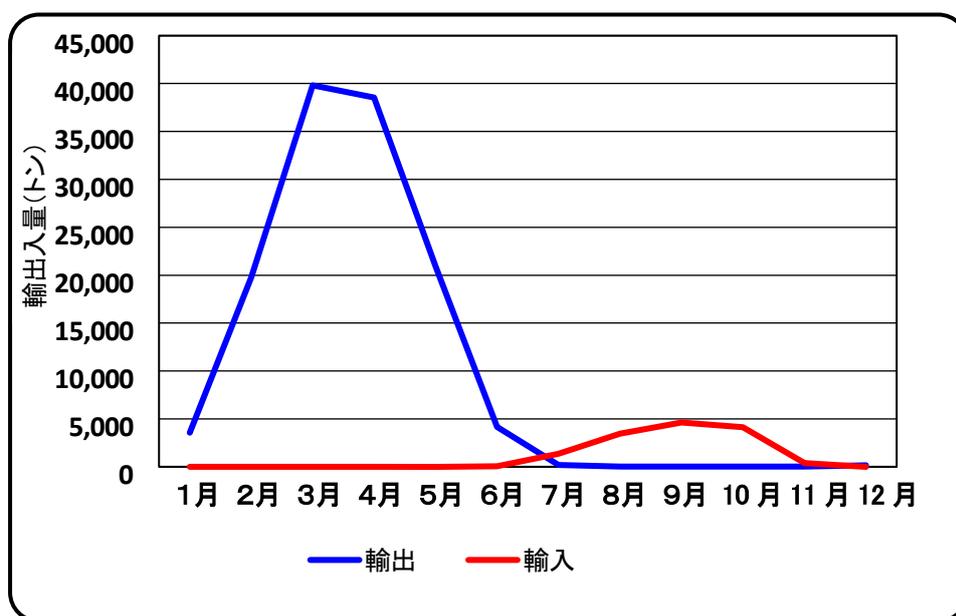


出典: オーストラリア統計局 (e)は推計値

2021/2022年度のオーストラリアの輸入量は、2020/2021年度の推定13,000トンから15,000トンに増加すると予想される。これが実現すれば、輸入量は2020/2021年度にコロナ禍による混乱の影響を受ける以前の水準に回復する。輸入はほぼ完全に米国からの季節補完的な出荷であり、7月から11月の間に行なわれる(図7参照)。一部の業界筋は、2022年の後半に輸送コンテナの不足がいくらか解消され、輸入がコロナ禍以前に経験した通常の水準に近づく可能性があると考えている。

オーストラリアの生食用ブドウ業界は、オーストラリアでは冬から春にかけて生食用ブドウの国内需要が低いにもかかわらず、米国からの生食用ブドウの輸入は国内産生食用ブドウの販売に有益であると考えている。オーストラリア産のオフシーズン中に小売店の棚に米国産生食用ブドウが並ぶことは、より低価格のオーストラリア産が小売店に入荷した際に消費者の購買行動を早めるものと見られる。このことは、国内産生食用ブドウの出荷シーズンの初期に国内販売の量を増やすと考えられている。

図7 オーストラリアのブドウ輸出入の季節性(5年平均)



出典: オーストラリア統計局

### オーストラリアの生食用ブドウ生産需給統計

| 生食用ブドウ(生鮮)<br>販売年度<br>オーストラリア | 2019/2020        |         | 2020/2021        |         | 2021/2022        |         |
|-------------------------------|------------------|---------|------------------|---------|------------------|---------|
|                               | 2019年10月~2020年9月 |         | 2020年10月~2021年9月 |         | 2021年10月~2022年9月 |         |
|                               | 農務省公式            | 今回推計値   | 農務省公式            | 今回推計値   | 農務省公式            | 今回推計値   |
| 栽培面積                          | 0                | 13,000  | 0                | 14,000  | 0                | 14,000  |
| 収穫面積                          | 0                | 13,000  | 0                | 14,000  | 0                | 14,000  |
| 商業的生産量                        | 240,000          | 214,700 | 240,000          | 200,000 | 0                | 210,000 |
| 非商業的生産量                       | 0                | 0       | 0                | 0       | 0                | 0       |
| 生産量合計                         | 240,000          | 214,700 | 240,000          | 200,000 | 0                | 210,000 |
| 輸入量                           | 16,000           | 13,300  | 10,000           | 13,000  | 0                | 15,000  |
| 総供給量                          | 256,000          | 228,000 | 250,000          | 213,000 | 0                | 225,000 |
| 生鮮国内消費量                       | 96,000           | 75,400  | 80,000           | 92,500  | 0                | 95,000  |
| 輸出量                           | 160,000          | 152,600 | 170,000          | 120,500 | 0                | 130,000 |
| 市場からの隔離                       | 0                | 0       | 0                | 0       | 0                | 0       |
| 総仕向量                          | 256,000          | 228,000 | 250,000          | 213,000 | 0                | 225,000 |

単位: ヘクタール、トン

この記事の中の一部の図表内の表記を修正しました。(2022年10月7日)

## 103. 世界のパパイヤ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月1日)

エキゾチックなパパイヤは、多くの国で引き続き人気が高まっているが、消費者の間ではまだニッチな果物と捉えられている。それにもかかわらず、需要の増加は、価格及び販売額の上昇と南アフリカやオーストラリアなどの国々での生産の増加につながっている。世界中の貨物輸送コストの上昇など物流上の問題が、他の多くの果実と同様にパパイヤの輸出を妨げているが、総じていえばパパイヤは前向きな出荷シーズンを享受しているようだ。



### オランダ: パパイヤ価格が上昇

オランダ市場のフォルモサ(Formosa)品種のパパイヤの価格は、生産、包装、労働力のコスト増加により、現在幾分上昇している。ブラジルからの供給量はまだ限られており、輸入業者らは(供給量の増加は)今後も引き続き困難だと言う。輸入業者らによると、コストが増加したため(輸入量が増えるためには)14~15ユーロの価格が必要である。ゴールデンパパイヤ品種の市場は着実に伸びている。

### ドイツ: パパイヤは小売りより高級総菜業者向け商品

シュトゥットガルト地域のある業者は、ブラジル産のカリマン(Caliman)ブランドのパパイヤを提供している。この業者は、小売り向け、ひいては消費者向けには小玉のパパイヤだけを提供しているが、特にうまく行っているわけではないと言う。一方、毎週立つ市場や例えばトルコ産品の専門市場で販売されている大型パパイヤは、非常に好調である。一般的に、パパイヤは小売商品というよりは高級総菜業者向けの商品だと言う。

この業者はまた、パパイヤはホテルやケータリング業界にも供給されているが、この業種には高価すぎるため需要はあまりない、とりわけ食通はネクタリン、ミラベルプラム、リンゴなどの安価で片手で持てるような果物に興味を示し、対照的に、週一の市場や高級総菜業者がパパイヤの主な買い手であると言う。

この業者は一年中、5ユーロ/kgでパパイヤを提供している。品質は良く大きな変動は見られない。ブラジル産に加えて、同社はペルー、メキシコ、ガーナ、南アフリカからパパイヤを買い付けている。

## イタリア：小売業者がパパイヤ販売の主要なチャネル

GfK消費者パネル(市場調査サイト)の調査によると、イタリアの世帯のうち今年7月までの1年間にパパイヤを購入したのは63万7千世帯で、全世帯の2.4%であった。したがってパパイヤはまだニッチな商品であるが、昨年に比べて5.7%増、2年前と比較して21%増と力強い成長を遂げている。ほとんどのパパイヤ(56万7千世帯)が量り売りされ、9万3千世帯が事前にパックされた商品を購入した。

パパイヤは、現代の流通チャネルに浸透してきている。パパイヤを購入した世帯の79%がスーパーマーケットで、9.9%がハイパーマーケットで購入したことがある。ディスカウントショップの一般的な台頭によりこの業態から購入したことがある消費者が21%と、昨年と比較して53%の増加を示した。

消費者世帯によるパパイヤの購入は、現在のところ「時たま」であり、平均して年に2回弱である。ただし、一回の購入で平均2.88ユーロと結構な金額を支出している。パパイヤを購入する世帯に関しては、興味深いことに34歳以下の若い世帯(購入世帯の7.6%)はあまり購入せず(インデックス96)、子供のいない熟年世帯がより多く購入している。

イタリア北部の卸売市場の運営者は、国内で消費されるほぼすべてのパパイヤが大規模な流通を通じて販売されており、伝統的な小規模商店ではパパイヤをあまり販売していないと言う。一般的に、パパイヤの消費は安定しているが、主な販売チャネルが変化している。卸売市場では、高品質のパパイヤは2021年9月末現在で3~3.5ユーロ/kgで販売されている。しかし、数年前と比較すると、消費者が他のエキゾチックな果物にも目を向けるようになったため、パパイヤはいくらか魅力を失った。

ブラジルからフォルモサ品種のパパイヤを輸入しているミラノのある卸売業者は「市場の需要が急激に上昇しているにもかかわらず、この時期に入荷する果実は量が少なく、品質が良くない。近年と比較した今年の新しいトレンドは、果肉が白い緑のパパイヤの需要の増加である。まだあまり知られていないが、弊社はこれの販売量を増やしている。現在、シチリア産、モロッコ産、スペイン産が入荷しており、主にサラダの材料として使用されている。まだ主に民族的な市場で販売されている商品である」と言う。

夏の間安定した売れ行きを見せた後、モモなど季節の果物が出ていることもあり、今はパパイヤの販売が少し難しい時期である。数量が限られている一方、品質はやや劣っている。この状況は価格に影響を与え、夏のシーズン中よりも手頃な価格が求められている。

## 南アフリカ：南アフリカ産は量が多いが低価格

この時期、9月から11月までが南アフリカ産パパイヤの出荷最盛期であり、12月から3月にかけて出荷量が先細りする。パパイヤは、一年中市場に供給されており、2つの出荷ピークがある。

パパイヤを栽培するのに適した気候を有する数少ない地域の一つであるロウベルド地域のあるパパイヤ生産者は、今年は良い出荷シーズンであり、価格は昨年よりも高く安定していたと言う。市場価格は1トン当たり7千ランド(397ユーロ)~8千ランド(454ユーロ)である。「この時期の価格としては通常よりも少し良いが、素晴らしい価格ではない。量を考えると、悪くもないが」と言う。

ムブマランガ・ロウベルド地域の別の生産者も「今シーズンは順調で、たくさん出荷している。今のところ収穫が遅れを取らないようにするのが大変なくらい果実が多い」と言う。

ホスピタリティ部門と観光部門の閉鎖は、パパイヤ、特に大玉の品種に大きな影響を与えた。パパイヤは、その傷みややすさと日持ちの悪さのために、非公式セクター(伝統的な商業形態)ではあまり取引されない。

パパイヤ産業は栽培面積と生産者数の面で非常に安定している。気候が生産を制限する要因である。

## 中国：売り上げは増加しているがニッチな果実

中国では、パパイヤは主に江蘇省、河南省、山東省、安徽省、浙江省、河北省、江西省で栽培されているが、全体の栽培面積は他の果実と比較してはるかに小さい。パパイヤの収穫期は9月から10月である。

中国ではパパイヤは、あまり人気のある果物ではなく、どこの店でも頻繁に手に入るものではない。パパイ

ヤの購入者は、フィットネスと健康的な食事に関心が高い人々を中心に、比較的少数だが安定している。

長江デルタの人々は、パパイヤの消費量が多い。パパイヤの販売量は年々増加している。

国内市場の輸入パパイヤのほとんどはフィリピン産である。しかし、今年は世界的に輸送能力が限られ出荷が難しいため、市場に入荷する輸入パパイヤの量は例年に比べて少ない。

ドールブランドのフィリピン産非GMOパパイヤは、中国では比較的一般的で、よく知られたパパイヤ品種である。現在、市場におけるドールパパイヤの小売価格は1個(380g)当たり約15元(約260円)で、この価格は昨年より安い。

### 北米：パパイヤの供給は半年近く不足気味

北米のある出荷業者は、メキシコの生産者が悪天候で打撃を受け、多くの果実を失っているとして、「メキシコではハリケーンが来たため、強風に対処していた。実際、果樹がなぎ倒された。しかし、悪天候の後、品質やサイズは悪い影響を受けていない」と言う。(以下「」はこの業者の発言)

現在、パパイヤはミチョアカン州やハリスコ州などメキシコ南部から供給されており、一部はベラクルス州からも出荷されている。テキサス州から米国に入ることが多い。「他の誰かが出荷しているという話は聞いたことがない。もし出荷する人がいれば、それは現在市況が非常に良いからだ。通常は、この時期にはグアテマラ産や中米諸国産が出回るが、何も聞いていない。」

パパイヤの需要は強い。「この時期、特に市場が今のように少しタイトになると需要が強い。唯一の悪い点は、販促活動ができないことだ。宣伝はできるが、あまり積極的に宣伝するだけの量が無いのがジレンマだ。」

価格面では、現時点では昨年よりも大幅に高く、現在20ドルである。「通常は14～15ドルなので、現時点では昨年より4～6ドル高くなっている。」

今後、近い将来もタイトな供給が続く可能性がある。「10月も状況は同じで、11月に入っても入荷量はこのままかも知れないという話もある。しかし、価格は変わらないと思う。」

### グアテマラ：高い物流コストがパパイヤ輸出の妨げ

パパイヤの出荷量は、特に国の北部で多い。中米諸国では全般的に雨が多く降っているが、まだ十分な量のパパイヤが出回っているはずだ。しかし、航空貨物の物流コストが高いため、ヨーロッパに輸出することはほぼ不可能である。

### オーストラリア：パパイヤ出荷量は32%増

オーストラリアのパパイヤの出荷量は春(北半球の秋の時期)の初めから急増しており、ある生産者は「暖冬のおかげで十分な量と素晴らしい品質の果実が店頭に並んだ。パパイヤの供給は9月から増加し、消費者は11月まで安定した量を期待できる」と報告している。生産者らはパパイヤの健康上の利点が、コロナ禍を通じてだけでなく、もっと一般的な「強力な抗酸化作用と免疫上の利点」を通じて販売促進に役立つことを願っている。最新の統計によると、パパイヤの出荷量は2020年6月までの1年間に大幅に反発した。前年に8%減少した出荷量は、32%増の19,648トンとなり、出荷額は3,180万豪ドル(15%増)となった。輸出はブルネイ向けとシンガポール向けを中心に、約10トンとごく少量にとどまった。同時に、主にフィジーから86トンが輸入された。

## 104. 米国 農務省生産見通し(リンゴ・ナシ・柑橘類)

The Packer電子版(2021年10月5日)

(これはThe Packer電子版の記事を翻訳したのですが、図は米国農務省報告書から引用しました。)

北西部の夏の暑さによって米国産リンゴの長い目で見た品質にいくらかの不確実性が加わり、また、2021/22年度の米国産柑橘類の生産量は、豊作とは言えない昨シーズンよりもさらに減るものと予想される。この2点が、9月下旬に発表された米国農務省の37ページに及ぶ「果実とナッツ類の生産見通し報告書」の要点である。農務省農業統計局は同報告書で、2021年産のリンゴ、ブドウ、モモ、クランベリー、サクランボ(甘果、酸果)の生産量は増加するが、ナシの生産量は減少すると予測している。また「多くの作物について、一部の地域での記録的な高温とカリフォルニア州で継続中の干ばつの影響は明らかでない」としている。

### リンゴとナシの最新情報

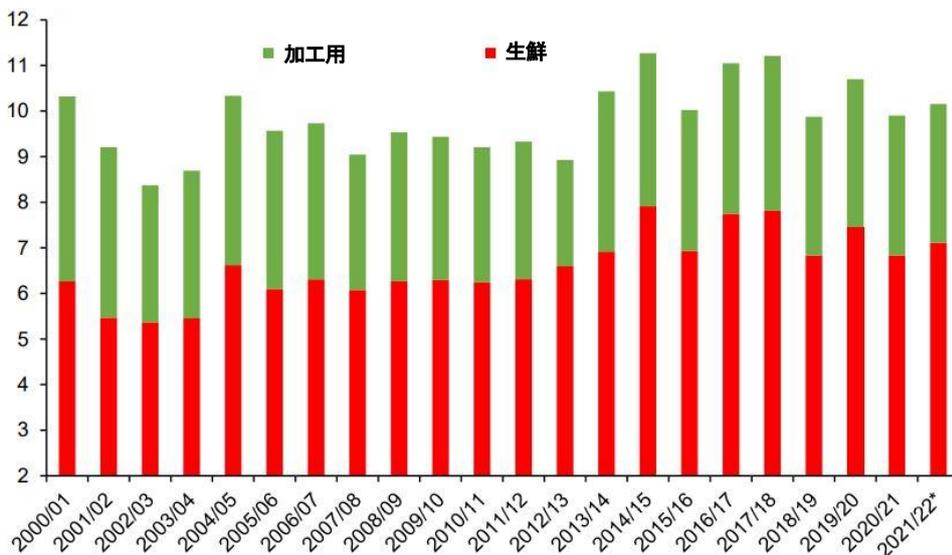
農務省は、6月下旬から7月上旬にかけて北西部で発生した「ヒートドーム」(熱気の滞留)により、ワシントン、オレゴン、アイダホ、ネバダ、モンタナ、カリフォルニアの各州及びカナダ西部の生産者が高温に見舞われたとしている。主要な果樹産地の一つであるワシントン州ウェナチー地域では、6月30日に気温が通常より華氏29度(摂氏16度)高い史上最高の華氏113度(摂氏45度)に達した。6月25日から7月1日の7日間のうち6日で華氏100度(摂氏37.8度)以上となり、7月7日に再び華氏100度に達した。

報告書は「多くの生産者は、生産量の減少、果実の小玉化、果実の日焼けの増加、果実内部の損傷などが生じる可能性があると考えている」としつつ、まだほとんどの作物について最終的な総収穫量が明らかでないため、熱波の影響全体は不明であるとしている。また、「収穫後の影響についても、貯蔵された果実がどの程度日持ちするかについては不明な点がある」としている。

農務省の推計によると、2021/22年度のリンゴの総生産量は、2020/21年度に比べて3%多いが、2019/20年度に比べて5%少ない105億ポンド(約476万トン)と見込まれる。

### 米国の2021/22年度産リンゴ生産量の見通し

10億ポンド



\* 米国農務省経済研究局推計値

出典: 米国農務省農業統計局「非柑橘果樹及びナッツ類要覧」(各年)

農務省の8月の生産見通しでは、夏の間のワシントン州の記録的な高温にもかかわらず、2021/22年度のワシントン州のリンゴ生産量は前年より7%多い74億ポンド(約336万トン)であった。ワシントン州果樹協会の最新の生産見通しは、40ポンド箱で1億2,480万箱(約50億ポンド)としており、前年比2.3%増の平年並みであった。農務省によると、ワシントン州の生産者は、高温障害により予測を下回る兆候がないか注視している。

農務省農業統計局は、米国のナシの生産量を、ワシントン州で減収した一方、オレゴン州とカリフォルニア州で増収となることから、全体では昨年と同程度と予測している。太平洋岸北西部のヒートドームよりも前の6月上旬、農務省は2021/22年度のナシの収穫量を、前年に比べれば1%未満の減少であるものの、2017～19年度を下回る67万トンと予測した。

農務省によると、2020/21年度に最大のナシ生産州であったワシントン州の生産量は、前年より19%少ないと見込まれる。一方、オレゴン州とカリフォルニア州の生産量は、後者の干ばつと前者の低温やカメムシなど生育初期の生産上の問題にもかかわらず、それぞれ10%及び39%増加するものと見込まれる。

北西部の熱波はナシの生産量に悪影響を及ぼす可能性があるが、生産者らは、影響を評価するため収穫量全体の把握を待っている。報告書は「ほとんどのナシの果樹は従来型で、樹高が高く、樹冠が大きく、日陰が多い。これは、壁状に仕立てられ、日陰が少なく、果実の日当たりが最大となるように葉が刈り込まれた最近のリンゴ園と比較して、ある程度果実を保護する可能性がある」としている。

### 米国の2021年産ナシ生産量は微減



f = 予想値

出典：米国農務省農業統計局「非柑橘果樹及びナッツ類要覧」(2020年)及び作物生産報告書(2021年8月)

### 柑橘類の生産見通し

農務省の果実生産見通しは、2021/22年度の柑橘類の生産量は、平年を下回った昨年度をさらに下回るとしている。農務省の2020/21年度産柑橘類の最終推計値によると、全米の柑橘類の生産量は690万トンで、前の年度を12%下回った。これは、同シーズンの当初の予測よりも少ないが、主としてフロリダ州のバレンシアオレンジとカリフォルニア州のネーブルオレンジが予想を下回ったためである。

農務省はまた、2021年2月の冬の嵐ウリにより、テキサス州のグレープフルーツの生産量が、昨年10月の当初の生産見通しの半分に減少したとしている。

報告書は、加工用と生鮮消費用のオレンジの両方が減少しており、オレンジの総生産量はこれらの用途で均等に2分されるとしている。2020/21年度の柑橘類の総生産量は、2017/18年度にハリケーンイルマの影響によりフロリダ州の柑橘類が減収して以来最低であり、この半世紀以上で2番目に少ない。

フロリダ州の2020/21年度の柑橘類の生産量は260万トンと前年比21%減少し、テキサス州でも同40%減の14万1千トンと28年ぶりの低水準となったとしている。

カリフォルニア州では、タンジェリンの作柄が堅調な一方、オレンジ、グレープフルーツ、レモンが減収し、柑橘類全体として昨シーズンに比べて3%(12万5千トン)減となった。アリゾナ州では、2020/21年度のレモン生産量が前年度に比べて55%以上の減と大幅に減少した。

## なぜそれほど減収するのか

農務省は、今シーズンの柑橘類の生産量の減少は、複数の要因に帰すことができるとし、「要因としては、フロリダ州におけるカンキツグリーンング病の引き続きの悪影響、テキサス州とアリゾナ州における高温障害、フロリダ、テキサス、カリフォルニアの各州の結果面積の減少等が挙げられる」としている。

2020/21年度の米国の生鮮市場向け柑橘類生産量は、オレンジ(11%減)、グレープフルーツ(15%減)、レモン(6%減)が減少し、柑橘類全体では前年比6%減の345万トンと推定される。生鮮市場向けの米国産柑橘類の半分近くを占める生食用オレンジは、カリフォルニア、フロリダ、テキサスの各州での減収により、168万トンと前シーズンに比べ減少した。

供給の縮小と堅調な需要により、価格は上昇した。全体として、農務省はオレンジ一箱当たりの平均樹上相当価格は、9月から5月までの高値のため、2019/20年度度の16.57ドルから2020/21年度には21.43ドルに上昇したとしている。また、今シーズンの輸出の減少(8%の減少)は、内需の増加を示唆している。韓国、カナダ、香港(米国産オレンジの輸出市場トップ3)への輸出量は、それぞれ12%、15%、20%減少した。

2020/21年度(11月～7月)の米国の生鮮オレンジ輸入量は、前年同期比6%減少した。メキシコからの生鮮オレンジの輸入量は8%増加したが、第2位及び第3位の生鮮オレンジ輸入先であるチリと南アフリカからの輸入は著しく減少した。

## 2021/22年度の見通し

農業統計局は、2021/22年度の全米の柑橘類生産量の最初の予測を2021年10月に発表する予定である。同局が9月10日に発表した2021/22年度のカリフォルニア州ネーブルオレンジ客観的評価報告書は、カリフォルニア州のネーブルオレンジ生産量を前年比14%減の7千万箱(40ポンド/箱)と予測した。この生産量の減少予測は、主に着果数の減少と小玉化によるものと見られ、結果面積の減少も一因と考えられる。

農業統計局は、フロリダ州の2021/22年度出荷シーズン最初のオレンジとグレープフルーツの成熟度検査の結果を9月10日に発表した。検査対象は、早生オレンジ(ネーブルを含む)、中生オレンジ(主にバレンシア)、赤肉と白肉の種なしグレープフルーツ等であった。

カンキツグリーンング病は、すべての生産州で引き続き柑橘類園地の健康と生産性に対する脅威となっている。この病気が蔓延しているフロリダ州では、今シーズンの総結果面積がさらに3%減少し、36万9,300エーカー(約15万ヘクタール)となった。農務省は、他の州ではそれほど蔓延していないが、感染した果樹の伐採や改植等のために生産コストの上昇につながる可能性があるとしている。2020/21年度には、カリフォルニア州でも、ネーブルとバレンシアの減少により、柑橘類の結果面積が2千エーカー(1%未満)減少した。農務省は、アリゾナ州とテキサス州の結果面積は、それぞれ7,300エーカー(約3千ヘクタール)と23,800エーカー(約9,630ヘクタール)で2019/20年度から横ばいと予想している。現在の傾向が続けば、2021/22年度の実産量は前年の水準を下回る可能性がある。

## 米国の柑橘類生産量は減少傾向



出典：米国農務省農業統計局「柑橘類要覧」(各年)

## 105. メキシコのアボカド事情

米国農務省GAINレポート(2021年10月5日)

これは米国農務省海外農業局メキシコシティ事務所(メキシコ)が作成した「アボカド年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

### 要旨

2021/22販売年度(以下「年度」)のメキシコのアボカド生産量は、前年度に見られた過去最高の生産量よりも8%少ないと予測される。生産は引き続き力強いものと見込まれるが、生産者らは果樹がひとシーズンの回復期間を必要とすると見ている。高い国際需要と世界市場の魅力的な価格は、生産者がより高い収益を求めて輸出することを後押ししている。また、ミチョアカン州は米国に輸出できる植物衛生証明書を有する唯一の州であるが、他の世界市場への輸出は今後数年間で増加するものと予想される。

### 生産

当事務所は、2021/22年度(7月～6月)のアボカド生産量を、果樹の生産性の低下により前年度より8%少ない233万トンと予測する。生産者らは、2020/21年度に過去最高の生産性と生産量(特にミチョアカン州)を実現した後、果樹の回復期間が必要であると見ている。また、ミチョアカン州以外の生産州では、降水量が不足し、気温が高いため、面積当たり収穫量と出荷量が減少するものと見込まれる。栽培面積と収穫面積はそれぞれ22万7,126ヘクタール及び22万5,910ヘクタールと予測され、全国平均の面積当たり収穫量は10.30トン/ヘクタールと予想される。収穫の最盛期は10月～2月で、3月～5月は中程度の出荷量があるが、6月～9月の間は出荷量が少ない。

メキシコは世界最大のアボカド生産国であり、世界の生産量の30%を占めている。主に収益性の高さで国際的な需要の高まりにより、栽培面積は年率3%で着実に増加している。メキシコでは3種類のアボカドを生産しており、ハス(Hass)種が総生産量の97%を占め、クリオロ(Criollo)種とフェルテ(Ferute)種が残りの3%を占めている。

ミチョアカン州はメキシコ最大の生産州であり、全国の総生産量の75%、総生産額の81%を占めている。ミチョアカン州はまた、米国にアボカドを輸出するための植物衛生証明書を有する唯一の州である。メキシコ・アボカド生産出荷輸出業者協会(APEAM)によると、同州内には29,000以上の登録生産者(園地は5～10ヘクタールと小さい)がおり、年4回の収穫により年間を通じて出荷している。2021/22年度の最初で最も生産性が高い収穫期の出荷量は、前年度よりも36%少ないものと予測される。主なアボカド産地はペリバン、ロスレイエス、ウルアパン及びタンシタロの各自治体に所在する。ミチョアカン州の2021/22年度の予測出荷量は178万トンで前年度より9%少なく、栽培面積は16万7,401ヘクタール、面積当たりの収穫量は10.64トン/ヘクタールと見込まれる。同州内の果樹園の約63%が天水による栽培で、残りは点滴灌漑またはスプリンクラー灌漑が導入されている。

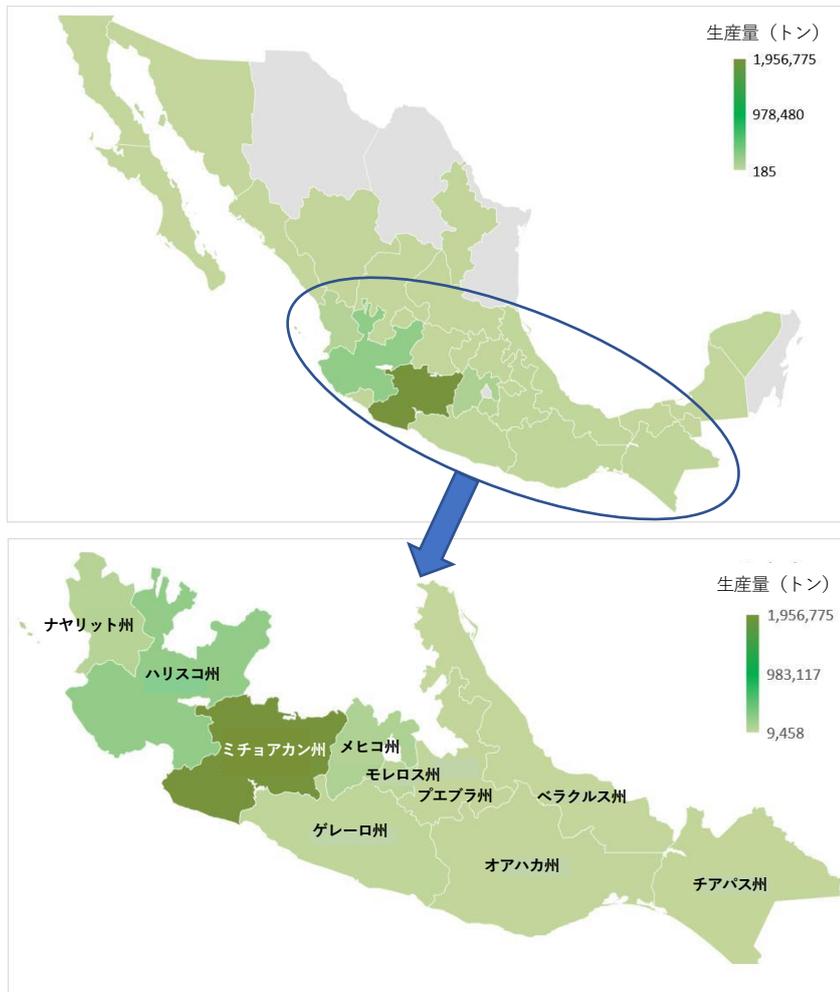
表 州別のアボカド生産状況(2020/21年度)

| 州名     | 栽培面積<br>(ヘクタール) | 収穫面積<br>(ヘクタール) | 生産量(トン)   |
|--------|-----------------|-----------------|-----------|
| ミチョアカン | 166,063         | 166,063         | 1,956,775 |
| ハリスコ   | 20,920          | 20,920          | 252,869   |
| メヒコ    | 9,930           | 9,930           | 117,298   |
| ナヤリット  | 6,886           | 6,886           | 69,599    |
| モレロス   | 5,579           | 5,579           | 48,013    |
| その他    | 15,121          | 15,048          | 111,037   |
| 合計     | 224,498         | 224,426         | 2,555,591 |

出典: 農業食料水産情報局(SIAP)

ハリスコ州は第2のアボカド生産州であり、3,100の生産者(10ヘクタール以上の中規模生産者で、総栽培面積の50%は15~20の生産者が占めている)が年間を通じ25万トン以上を出荷している。2021/22年度の栽培面積は前年度より2%多い21,414ヘクタールと予測される。ハリスコ州の栽培面積のうち、5年生以下の果樹園が12,000ヘクタールあり、アボカドを栽培する75の自治体に分布している。果樹園の85%は点滴灌漑またはマイクロスプリンクラーのいずれかで灌漑されており、栽植密度は高く、作物の生育や病虫害の有無を監視するためのドローンの使用など進んだ技術を用い洗練されている。

### メキシコのアボカド生産州



### 消費

国内の生鮮消費量の大部分は、メヒコ、ナヤリット、モレロスの各州から供給されている。2021/22年度の国内消費量は110万トンと予測される。農業食料水産情報局(SIAP)によると、一人当たりの年間消費量は7kgである。アボカドはメキシコ料理の主要食材であるが、国際的な需要の増加によって価格が高いため、国内消費量は近年伸びていない。

アボカドは、スプレッドのベースや化粧品用の油脂等、加工原料として幅広い用途がある。ハス種とフェルテ種からのアボカドオイルの生産は、近年増加している。

### 貿易

アボカドは世界で最も貿易量が多い熱帯果実である。メキシコは世界最大の輸出国で、供給量のうち80%を米国が輸入している。2021/22年度のメキシコのアボカド輸出量は、生産量の減少のため前年度より8%

少ない133万トンと予測され、そのうち米国向けの輸出量は104万トンと予測される。米国の需要は、スーパーボウルが開催される1月～2月とシンコ・デ・マヨの祭りがある4月～5月に高まる。

米国に輸出する植物衛生上の承認を得ている唯一の州であるミチョアカン州は、生産量の約85%を米国に輸出している。通常、米国への輸出の利幅は、国内市場向けの販売に比べて50%以上多い。ミチョアカン州はまた、2020/21年度には出荷量の増加に伴い、米国以外の国への輸出量が前年度に比べて22%増加した。主な輸出先はカナダ、日本、スペインであった。

メキシコ産のアボカドに対する国際的な需要は増加を続けており、米国市場へのアクセスを持たない生産者は、国内市場よりも収益性の高い国際市場を求めている。ハリスコ州の2020/21年度の輸出量は前年度に比べて26%増加した。主な輸出先は日本、カナダ、フランス、スペインであった。

冷凍アボカドピューレは、一般的な輸出可能副産物であり、8～10カ月の賞味期限がある。

### **米国農務省動植物検疫局 (APHIS) の事前承認プログラム**

APHISはメキシコ政府との協同役務協定を管理し、APEAMは米国向けアボカド輸出の事前承認と監督を行う。アボカド事前承認プログラムの下、米国農務省とメキシコ政府の協力的な取り組みを通じ、APHISは、すべての輸入要件が満たされており、輸出品に病害虫が付着していないことを確保する。また、APHISはメキシコ政府と協力して、標的病害虫に関する園地の調査を毎年行い、標的となる検疫対象病害虫が存在しないことが確認された果樹園のみを輸出向けに認定する。APHISはさらに、果実を輸出する前に梱包施設で行うアボカド果実の切断検査に立ち会う。

### **関税**

ミチョアカン州産の生鮮ハスアボカドは、米国に無税で輸入される。生産者は、米国農務省の検査手数料をまかなうため、APEAMに輸出果実1ポンド当たり5米セントを支払う。

米国からの生鮮アボカド (HS0804.40.01) の輸入には、いかなる関税も課されないが、農業農村開発局 (SADER) による植物衛生検査の対象となっている。

## 106. 世界のナシ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月8日)

春の低温が長引いたため、イタリアの一部の品種では最大90%減収したほか、ドイツでも損失を生じており、オランダでも減収が予想されるなど、ヨーロッパのナシ生産国では大きな被害が生じた。このため価格は平均よりもはるかに高くなると予想され、ドイツ市場では50%の価格上昇を見込んでいる。オーストラリアや北米などの他の市場は悪天候の影響を受けておらず、オーストラリアでは消費が増加し、北米では有機ナシの購入が増加するなど、より前向きなシーズンが見込まれている。



### オランダ：昨年よりもかなり大玉傾向

オランダではナシの収穫の最盛期である。オランダのナシ生産者は今シーズンについて肯定的だ。オランダのナシの収穫量が昨年よりも少ないだけでなく、フランスとイタリアのナシの収穫量が驚くほど少ないため、市場で良い販売機会が期待される。

ある業者は「オランダのナシは一部の晩生品種を除いてほとんど収穫が終了した。今年の果実は昨年より大玉の傾向が強い。昨年はサイズが60mmに満たないナシが多かったが、今年は多数の70mm以上のナシを適当な販売チャンネルに仕向けることに努めている。大玉のため玉数が少なくても一定の重量が収穫できるが、それにしてもほとんどの産地で昨年よりも大幅に収穫量が少ない。ナシの品質は素晴らしく、身が引き締まって味が大変良い。開花から着果までの期間の低温のため、外観はやや問題がある。コンフェレンス(Conference)品種のナシは明らかに赤みを帯びており、アレクサンダー・ルーカス(Alexander Lucas)品種の果皮は例年のように滑らかではない。現在、すでに輸出が始まっているが、輸出量はまだ国内産で対応可能である。今後数週間で輸出量が着実に増加し、適切な価格形成が行われると予想している」と言う。

WAPA(世界リンゴ・ナシ協会)は今年のコンフェレンス品種のナシの収穫量を80万5千トンと予測しており、生産者らはこの予測は実態にかなり近いと見ている。オランダ産のナシの品質は良好なようで、サイズも良い。この生産者らによると、価格が例年よりも高いため顧客にはこの価格水準に慣れてもらう必要がある。輸出に対する影響を予測することは難しい。

## ドイツ：価格は昨年より30～50%高い

ドイツ北部の大手企業の幹部は、同社はドイツ国内全域でナシを販売しており、販売先は食品小売業者と自然食品専門業者が半々だと言う。今年の果実収穫量は前年を約25%下回っている。これは、リンゴ等の木に生る果実25,000トンに相当し、そのうちナシは350～400トンで、大部分がリンゴである。アレクサンダー・ルーカス品種とコンファレンス品種が、ナシの少なくとも60%から多くて70%程度を占めている。その他は、クセニア(Xenia)品種とノベンブラ(Novembra)品種が主である。同社はこれ以外にも、ドイツ北部特有の品種であるケストリッヒ・フォン・シャルヌー(Köstliche von Charneux)やクラップス・リーブリング(Clapps Liebling)などの品種も提供している。

有機ナシの需要は好調に高まっているが、正確な数字はまだ明らかでない。同社は「食品小売店やディスカウントストアの多くの顧客は現在、有機ナシを販売アイテムとして仕入れていくが、常に仕入れるわけではない。したがって、成長率について一般化して言うことは困難である。これが安定した売り上げになるかどうか分かるには数年かかるだろう」としている。

現時点では、同社の農場はまだナシの出荷の初期段階にある。「総じていえばこの地域はドイツの中で植物の季節的变化が最も遅い。それでも既に分かることは、有機栽培も通常栽培もナシの収穫量が近年に比べ大幅に低くなるということだと思う。純粋に収穫量だけに着目すれば、今季は価格が非常に高くなるだろう。弊社の販売価格は昨年より30～50%高くなっている」と言う。

## イタリア：史上最悪の出荷シーズン

イタリアのナシ関係者は、2021年を特別に悪い年として記憶するだろう。国の北部からの出荷は、春の降霜によってほぼ壊滅した。北イタリアの関係者からの情報では、アバーテ・フェテル(Abate Fetel)品種の収穫量は90%減少した。エミリア・ロマーニャ州とヴェネト州の産地は、4月の低温で最も影響を受けた。

夏のナシの状況は、秋のナシと比較して数量的にやや増して、大部分が既に売られた。

アバーテ・フェテル品種については、小売価格が指数関数的に上昇し、4ユーロ/kgを超えている。別の関係者によると、消費者が買ってくれないので、生産者は十分な収入を得られず、この状況は誰のためにもなっていない。

品不足のため、イタリアはこれまでにない量のナシを主にスペインから輸入している。

昨2020/21年度の出荷期間中に、イタリアは11万2千トンのナシを輸出し、輸出量が少なかった前年と比較すれば55%増となったが、2016～2019年の3年間と比較すると控えめな水準(-23%)であり、15万トンに達することも多かったそれ以前の年の平均からは程遠い。

輸出金額は1億4千万ユーロに及び、前の年度と比較して増加(+31%)したが、年間平均価格は16%下落し、近年の水準を辛うじて維持した。

イタリア産ナシの輸出の90%がEU諸国向けで、昨年度は最大の市場であるドイツが輸出量の45%、フランス15%、オーストリア9%、ルーマニア5%、英国3%、ハンガリー、スイス、スロベニアがそれぞれ2%と、80%が少数の市場に集中している。

イタリアの家庭がナシを購入する頻度は平均して年に7.5回であり、主な果物の中ではリンゴ(12.1回)、オレンジ(10.2回)、レモン(8.1回)よりも低い頻度である。1回の平均購入量は1.1キロで、近年横ばいである。

ナシはすべての家庭が購入する果物だと思いがちだが、昨年イタリアで実際にナシを購入したのは1,524万4千世帯で、全世帯の58%であった。したがって、ナシは確かに肯定的に受け止められてはいるが、他方42%の世帯が1年間ナシを購入しないことを考慮すると、顕著な可能性があると言える。

## トルコ：量が少なく高価格

開花期の気温が高かったため、出荷量は昨年よりも少ない。さらにサイズは小さいが、品質は良い。外国為替のトルコリラ安にもかかわらず、数量が少ないため価格は昨年に比べて高くなると予想されている。栽培に

関しては、総栽培面積は変わっていないが、栽培されている品種の構成には変化があり、以前は同程度であったサンタマリア (Santa Maria) 品種とデヴェチ (Deveci) 品種について前者から後者への移行が見られる。ロシアとバルカン諸国がトルコ産ナシの主要輸出市場であるが、中東諸国向けも増加している。

### 北米：有機ナシが増加

ある生産・出荷業者は「今季はバートレット (Bartlett) 品種の作柄が良い。サイズは昨年とほぼ同じだが、品種と収穫時期によりわずかな変動がある。日々の推定収穫量は昨年と同程度である」と言う。

ナシの出荷は太平洋岸北西部から始まっており、上記の生産・出荷業者は、出荷量の約35%が有機であると指摘している。この業者は「弊社の収穫は、ワシントン州ヤキマ市の本社に近い谷間の低地で収穫されるバートレットやボスク (Bosc) などの早生品種から始まり、カナダ国境に近い北部の園地の晩生品種で終わる」と言う。

現在、バートレット、ボスク、その他の赤色系の品種が出荷中で、オンジュー (Anjou) の出荷量がこれに迫る。この業者は「弊社のオンジュー品種は、果皮が緑のものと赤いものの両方で勢いを増している」と言い、また「ここ数年で4位に上昇した (ニールセン調査会社による) アジア種のナシも安定供給を続けている」と言う。

需要の面では、米国全土、カナダ、メキシコから受注しており、中南米、中東、インドは開拓中の有望な市場である。

9月11日までの4週間のニールセン調査会社のデータによると、販売額は前年比4%増、販売量は0.1%増の横ばいで、平均小売価格は4%上昇して1.79ドル/ポンドであった。

品種別には、バートレット品種は販売額が5%、販売量が1%増加し、平均小売価格は5%上昇して1.67ドル/ポンドであった。ボスク品種は同様に販売額が11%、販売量が8%増加し、小売価格は3%上昇して2.08ドルとなった。他方オンジュー品種は、太平洋岸北西部の産地がこの品種の在庫を一掃していたため値下がりがした。

有機栽培ももちろん注目に値する。ニールセンの調査によると、有機ナシの出荷量は2%増、平均小売価格は14%上昇して2.28ドル/ポンドとなり、販売額は前年比16%増加した。昨年度低下した有機ナシの数量シェアも持ち直し、8%に上昇した。

パッケージ販売に関しては、販売額シェアが平均20%台半ばであったパンデミックのピーク時とは異なり、18%にとどまった。しかし、販売実額は前年比47%、数量は46%増加し、今後の収穫期間中の数量シェアの増加をほのめかした。

### オーストラリア：売り上げが大幅に増加

最新のデータによると、2021年5月までの1年間のオーストラリア産のナシの販売は、販売額で9.2%増、販売数量で5.2%増と急速に増加した。購入する世帯の割合は横ばいだが、平均購入重量が増加し、平均支出額は19.31豪ドルから20.89豪ドルに上昇した (当該期間の1豪ドルは概ね67~86円)。データはまた、ナシの販売額の68.1%が主要なスーパーマーケット (Coles、Woolworths、Aldi) を通じて販売されたことを示している。生産出荷の観点からは、ホートイノベーションの最新の統計によると、ナシの出荷量はわずかに増加した。2020年6月までの1年間に11万8,545トン (4%増加) が出荷され、出荷額は13%増加して1億3千万ドルとなった。輸出量は6%増の9,732トンであったが、輸出額は1,610万ドルと1%減少した。輸出の大半はニュージーランド向けであった。同じ期間にオーストラリアへの生鮮ナシの輸入はなかった。

## 107. ベトナム ビントゥアン省産ドラゴンフルーツが日本でGIを取得

SAIGON ONLINE ウェブサイト(2021年10月8日)

ベトナム科学技術省(MoST)は、3年以上にわたり日本における地理的表示(GI)の保護に関する手続きを進めてきた結果、日本の農林水産省が10月7日、ビントゥアン ドラゴンフルーツに対し、地理的表示保護(PGI)の証明書を正式に付与したと発表した。ベトナムの農産物としては、バクジャン省のルックガン ライチに次いで2番目に日本で保護される地位を獲得した。

同省によると、PGIの認証を受けたということは、ビントゥアン ドラゴンフルーツの高品質が日本市場で認められたことを意味し、様々な市場、特にヨーロッパ、韓国、ニュージーランドなどの難しい市場への輸出とそこでの消費の新しい機会を開くことを意味する。また、ベトナム産品、特に農産物が一層の競争力と輸出上の有利性を獲得するための支援手段であると考えられる知的財産の役割も示している。

同省傘下のベトナム知的財産庁(NOIP)のディン・フーピ長官は、日本におけるビントゥアン ドラゴンフルーツのPGI証明書の取得は時間をかけた興味深い経験であり、同庁がベトナムの特産品を世界に届ける手伝いをするための貴重な経験を積むのに有用であったと述べた。

同庁は、地域に関連付けられたベトナムの特産品が比較的強力な保護メカニズムである地理的表示によって保護されるよう、引き続きこの取り組みを進めていく。(以下、ベトナム国内の取り組み等について省略しました。)

## 108. 世界のバナナ貿易の動向 2020年は頭打ち

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月11日)

中南米・カリブ海諸国からの輸出の増加をアジアとアフリカからの輸出の減少が相殺

「バナナ市場レビュー」は、国連食糧農業機関(FAO)の商品問題委員会(CCP)の下部組織であるバナナと熱帯果実に関する政府間グループ・バナナ部会のメンバーとオブザーバーに毎年配布される。

この報告書は、2020年の世界のバナナ貿易の動向に関する1年間の結果を記述するもので、2020年バナナ市場予備報告書を更新するものである。この報告書に示された貿易量に関するデータは、FAO政府間グループ・バナナ部会の2021年のアンケートに対する各国の回答、国連のComtradeデータベース及びその他の二次データや調査結果からとりまとめられたものである。結果には、2021年6月末までに改訂された数値と情報が含まれる。FAOはバナナの世界貿易を継続的に監視しており、公式なデータの改訂版が公表された場合は、これらの結果を更新する。

入手されたデータによると、2020年の世界のバナナ(プランタンを除く)の輸出量は、中南米・カリブ海諸国からの輸出の増加がアジアとアフリカからの輸出の減少によって相殺されたため、約2,150万トンと概ね横ばいであった。この世界の輸出量の頭打ちは、2017年から2019年の間に見られた世界的なバナナ貿易の急速な拡大と対照的である。

業界や専門メディアの様々な情報源によると、2020年の世界のバナナ貿易は、年間の大半を通じて多様で広範囲に及ぶ影響を与え、特にアジアとアフリカからの輸出を妨げたCOVID-19パンデミックに大きく条件づけられた。しかし、2020年には自然災害の影響や病害の蔓延など多くの要因があり、また反事実(パンデミックが無かった場合に何が起きたか)がわからないため、COVID-19が世界のバナナ貿易に及ぼした正確な影響について明確な結論を導き出すことは困難である。

## 109. 米国農務省 2021-22年度産柑橘類最初の生産予測は減少

The Packer電子版(2021年10月12日)

2021-22年度のフロリダ州とカリフォルニア州のオレンジ出荷量が2桁のパーセンテージで減少し、全米のオレンジ総出荷量は12%減少すると予想される。

米国農務省の2021-22年度産柑橘類最初の生産見通しでは、全米のオレンジ総出荷量は9,105万箱で、昨年度の1億395万箱から12%減少する。

農務省によると、フロリダ州産オレンジの予想総出荷量は4,700万箱で、昨年度より11%少ない。このうち、早生、中生及びネーブルは1,900万箱と予測されており、昨年度から16%減少する。フロリダ州のバレンシアオレンジの予想出荷量は、2,800万箱で、昨年度の出荷量の最終推計値から7%減少する。

フロリダ州政府のシャノン・シェップ柑橘類部長はニュースリリースで、「もっと多い出荷見通しを期待していたのだが、それでも4,700万箱のオレンジは、フロリダ州の柑橘類生産者の苦境からの回復力、独創性、強さを示すものであり、また業界が直面している課題と戦うという確固たる決意を示している。フロリダ州産オレンジの90%以上は果汁用であり、今シーズンの果実のほぼ全部が、消費者が望む素晴らしい味の非濃縮プレミアム果汁になる」と述べた。

カリフォルニア州産オレンジの予想総出荷量は4,350万箱で、昨年度より13%少ない。このうちネーブルオレンジは3,500万箱で、昨年度から14%減少する。バレンシアオレンジの出荷量は850万箱と予測され、前年比11%減少する。

テキサス州産オレンジの予想総出荷量は、55万箱で、前年比48%減少する。

### その他の柑橘類

米国農務省によると、全米のタンジェリンとマンダリンの出荷量は、昨年度に比べ24%少ないと予測される。このうち、カリフォルニア州産は2,100万箱で、昨年度に比べ25%減少する。フロリダ州産は90万箱で、昨年度に比べ1%増加する。

グレープフルーツの総出荷量は、昨年度に比べ4%多いものと予測されている。このうち、テキサス州の予想出荷量は310万箱で、昨年度に比べ29%増加する。フロリダ州産の予想出荷量は380万箱で、昨年度に比べ7%減少する。カリフォルニア州産の予想出荷量は390万箱で、昨年度と変わらない。

レモンの予想出荷量は、昨年度より1%多いものと予測されている。このうち、カリフォルニア州産の予想出荷量は2,100万箱で昨年度から1%減少する。アリゾナ州産の予想出荷量は130万箱で、昨年度から63%増加する。

筆者：トム・カースト

訳注：次ページに米国農務省が公表した予測値を掲載します。なお、公表資料では、トン数がヤードポンド法のショートトン(米トン)で記載されているため、中央果実協会でもートル法のトン数に換算しました。

**品目別柑橘類の出荷量 州別及び全米  
2020-21年度推計値及び2021-22年度予測値(10月1日予測)**

収穫年度は、第1年の開花から翌年の収穫の完了まで

| 品目及び州            | 出荷箱数 1/   |           | 出荷トン数*    |           |
|------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|                  | 2020-2021 | 2021-2022 | 2020-2021 | 2021-2022 |
|                  | 1,000 箱   |           | 1,000 トン  |           |
| オレンジ             |           |           |           |           |
| カリフォルニア州合計       | 50,100    | 43,500    | 1,818     | 1,579     |
| 早生、中生、ネーブル 2/    | 40,600    | 35,000    | 1,473     | 1,270     |
| バレンシア            | 9,500     | 8,500     | 345       | 308       |
| フロリダ州合計          | 52,800    | 47,000    | 2,156     | 1,919     |
| 早生、中生、ネーブル 2/    | 22,700    | 19,000    | 927       | 776       |
| バレンシア            | 30,100    | 28,000    | 1,229     | 1,143     |
| テキサス州合計          | 1,050     | 550       | 41        | 21        |
| 早生、中生、ネーブル 2/    | 1,000     | 450       | 39        | 17        |
| バレンシア            | 50        | 100       | 2         | 4         |
| 全米合計             | 103,950   | 91,050    | 4,015     | 3,518     |
| 早生、中生、ネーブル 2/    | 64,300    | 54,450    | 2,439     | 2,063     |
| バレンシア            | 39,650    | 36,600    | 1,576     | 1,455     |
| グレープフルーツ         |           |           |           |           |
| カリフォルニア州         | 3,900     | 3,900     | 142       | 142       |
| フロリダ州            | 4,100     | 3,800     | 158       | 147       |
| テキサス州            | 2,400     | 3,100     | 87        | 112       |
| 全米合計             | 10,400    | 10,800    | 386       | 401       |
| タンジェリン及びマンダリン 3/ |           |           |           |           |
| カリフォルニア州         | 28,100    | 21,000    | 1,020     | 762       |
| フロリダ州            | 890       | 900       | 38        | 39        |
| 全米合計             | 28,990    | 21,900    | 1,058     | 801       |
| レモン              |           |           |           |           |
| アリゾナ州            | 800       | 1,300     | 29        | 47        |
| カリフォルニア州         | 21,300    | 21,000    | 773       | 762       |
| 全米合計             | 22,100    | 22,300    | 802       | 809       |

注

1/ 1箱当たりネット重量は以下のとおり

オレンジ

カリフォルニア州 80ポンド、フロリダ州 90ポンド、テキサス州 85ポンド

グレープフルーツ

カリフォルニア州 80ポンド、フロリダ州 85ポンド、テキサス州 80ポンド

タンジェリン・マンダリン

カリフォルニア州 80ポンド、フロリダ州 95ポンド

レモン 80ポンド

2/ カリフォルニア州ではネーブル及びその他の柑橘類、フロリダ州とテキサス州では早生品種(ネーブルを含む)及び中生品種

3/ タンジェロ及びタンゴールを含む。

(訳注)\* 公表資料では、この表のトン数はヤードポンド法のショートトン(米トン)で記載されているため、中央果実協会でメートル法のトン数に換算しました。

1ポンド≒0.45359キログラム、1ショートトン(米トン)≒907.18kg

## 110. 世界のバナナ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月15日)

豊富な生産量にもかかわらず、世界各地で原材料のコストが値上がりしている影響で、世界中のバナナ好きは近くバナナの値上がりを目の当たりにするかもしれない。しかし、バナナはイタリアで最も人気のある熱帯果実であり、オーストラリアでは過去最高に次ぐ生産量に達しており、全体的に見てバナナの見通しは明るい。一方、南アフリカでは寒い天候のため今年は生産量が減少し、パナマ病の系統TR4は依然としてバナナの将来を脅かしている。



### オランダ：市場は安定しているが、来年に向けて資材等の不足を懸念

オランダのバナナ市場は現在着実に発展している。あるバナナ業界関係者は、あまり変わったことは起きていないとして「供給量は正常な水準にある。自由市場の価格は非常に安定している」としつつ、「しかし、誰もが来年の経営計画を立てるのに忙しい。エネルギー、ガス、輸送、パレットなど多くのものの供給が限られており、バナナを含む青果物業界全体がこの影響を受けると見られる。このため、来年はバナナ価格が上昇すると見ている」と言う。

### ドイツ：静かな夏で価格はわずかに上昇

ドイツ北部のある業者は南米産の通常栽培のバナナを提供している。同社によると、2021年の夏は、バナナに関しては非常に穏やかな市場であったが、価格は昨年と比較してわずかに上昇した。同社の次の販売シーズンは、2021年10月末ないしは11月初旬に始まり、2022年の2月または3月頃に終了する。同社の輸入先は主にコロンビアであるが、一部エクアドル産も扱っている。担当者はコロンビア産バナナは最高の部類に属すると考えている。

コンテナと貨物輸送のコストが上昇したため、昨年と比較して価格がやや上昇した。昨年はオランダ経由の輸入品が安く、価格が極端に低かった(1箱当たり約9ユーロ)。

同社はハンブルクとバルリンに各1社、ブレーメンに2社の主要な輸入パートナーがある。品物はパレットまたはコンテナで配送される。夏には、おそらく年初にコロンビアで発生した暴動に関連して、同国からの一部の品物の配送に問題が生じ、その結果、数週間にわたって遅延が続いた。

ドイツ市場の需要は昨年に比べてそれほど高くない。しかし、わずかな増加が見られる可能性はある。上記の業者は、多くの品物の価格が上がる中、バナナは相変わらず安いと言う。また、この業者は一時期有機栽培

培のバナナを提供していたが、それはもう利益が出ないと言う。

### 英国：バナナの価格が低下

バーミンガムとロンドンの卸売市場のバナナ価格は今週下落した。最大の下げ幅をつけたのはベリーズ産で、1kg当たり0.79ポンドから0.57ポンドに0.22ポンド低下した。コロンビア産とコスタリカ産はそれぞれ同0.07ポンド及び0.08ポンド低下して0.70ポンド及び0.83ポンドとなった。エクアドル、グアテマラなどの他の産地のものはわずかに(0.02ポンド)下落し、パナマ産は先週と変わらなかった。(1英ポンド≒157円)

### イタリア：バナナは購入頻度が最も高い

GfK消費者パネル(市場調査サイト)のデータによると、バナナはイタリアにおいて、他の生鮮果実のほか、高級惣菜、チーズ、ハム類、さらにはパッケージ食品と比較して、販売時点のトラフィック(購入頻度を示す)が最も高い。実際、直近1年間に、イタリアの一般消費者はすべての販売経路を合わせて3億6,800万回バナナを購入した。バナナは平均して17.4回(月に1回以上)購入されたのに対し、例えばリンゴは12.1回、オレンジは10.2回、レモンは8.1回であった。平均購入量は約1kgで、過去3年間変わらない。しかしながら、この購買傾向は昨年、2020年(パンデミックの最初の年)の非常に高い購入レベルと比較して少なかった。有機バナナに関しては、イタリアの610万世帯(全世帯の23.6%)が購入しているが、2021年の購入率は2020年に比べて低下している。

コスタリカからバナナを輸入して熟成する北イタリアの主要業者は、非常に不調な8月と沈滞した9月の後、10月上旬のイタリアのバナナ市場は活気を取り戻したと言う。直近2週間は、バナナ一箱当たり15~16ユーロと価格の上昇が見られた。

しかし、物流コストと梱包コストの増加によって、利益の増加分はほぼ全部消えた。数ヶ月前に1.30ドルであった一般的な段ボール箱は、今では2ドルの費用がかかる。さらに、輸入業者に不利となるユーロに対するドル高は言うまでもなく、物流コストも記録的な高さに達している。

上記の業者によると、8月には果実の滞留と消費の減少により、価格低下と外国市場への輸出の崩壊を招き、多くの果実が廃棄されるなど、危機的な状況にあった。10月の初めからは、学校が再開したこともあり、消費が増加し、平常に戻った。しかし、全体的には長期の計画が立たない不規則で奇妙な市場となっている。

### 南アフリカ：寒い天候がバナナの出荷を遅らせ価格が上昇

夏の後半には幾度か大雨があり、その後の冬は寒く、どんよりとした曇り空の日が多いことから、バナナの成長が遅れ、その結果、現在市場にはMサイズのパナナが溢れており、また出荷時期もやや遅れている。

例えば、この3週間は涼しく、バナナの収穫が遅れた。バナナの価格は、この時期としては通常より10~15%高く、一箱18kg当たりMサイズのパナナで100~120ランド、Lサイズで150~160ランド、XLで180~200ランドとなっており、特選品は220ランドを付けている。(1ランド≒7.5円)

モザンビークは2012年に南アフリカのバナナ生産量を追い越し、FAOによると、2019年には南アフリカの40万5千トンに対して、モザンビークは72万5千トン近いバナナを出荷した。モザンビークでは生産サイクルが速く、土壌は病気による汚染が無く、気候はより熱帯性で地温が高く、果実は南アフリカ産よりも大きい。

モザンビーク産のバナナのほとんどは南アフリカの小売業者や卸売市場に輸出されており、一部は国内市場にも出荷されている。

モザンビークでは、2014年に十分な降雨があつて以来7年間干ばつが続いており、2020年はそれ以降初めて十分な降雨に恵まれた年であった。

南アフリカのバナナプランテーションは、柑橘類、アボカド、マカダミアナッツなどの他の作物に転換されており、南アフリカ、エスワティニ、モザンビークに跨るコマチ川流域に新しいバナナプランテーションが設置されている。

恐れられているパナマ病の系統TR4は、依然としてモザンビーク北部の一定の地域に封じ込められている。

バナナが多く栽培されているモザンビーク南部では、農場は厳格なバイオセキュリティ対策を講じている。

### 中国：高品質にもかかわらず低価格

この数ヶ月はバナナの販売は低調であった。国内産地からのバナナの供給は全般的に十分であったが、受注は大幅に減少した。高級バナナの市場での需要も減少している。

広東省の産地の出荷量は徐々に減少し、市場価格は横ばいまたは弱含みが続いている。良品の産地価格は、概ね1～1.4元/kg程度が主体である。広東省の陽江バナナは豊作であり、市場出荷の最盛期にある。今年のバナナの色、味、全体的な品質は、近年に比べて良くなっており、収量は8～9トン/ムーである。現在の産地価格は0.8元/kgで、近年の水準の3分の1程度となっている。(1元≒17円、15ムー(畝)=1ヘクタール)

広西自治区からのバナナの供給は徐々に増加しているが、最近では商人が購入に熱心ではなく、産地での取引にもこれが反映し、価格がやや弱含んでいる。南寧市の産地の良品の価格は2～2.5元/kgが主体だが、全体的な価格水準は依然として他の産地よりも高い。

現在、海南省の様々な産地でバナナの出荷が終盤に入り、バナナ園のほとんどが伐採されている。バナナの品質は様々で、産地により価格が全く異なる。澄邁県のバナナの産地価格は1.6元/kg程度が主体である。

### 中国におけるラオス産バナナ

雲南省保健委員会の10月7日の発表によると、ラオスとの国境施設である磨憨口岸<sup>モウハンこうがん</sup>で越境貨物輸送業者がコロナウイルスに陽性と確認された。ラオスのバナナ業界の多数の関係者によると、現在は貨物施設が実際に閉鎖されていることを確認しており、ラオス産バナナが通関することは短期的には困難である。一部の出荷拠点では、バナナを冷蔵貯蔵しているが、貯蔵できる期間は限られている。

### 中国におけるベトナム産バナナ

ベトナムの一部のバナナプランテーションは栽培面積を拡大した。全体の出荷量は昨年と比べて20～30%増加した。中国に輸出しているベトナムのバナナ農園の大部分は、実際には中国企業が所有している。それらの農園は主に中国市場向けに生産しており、収穫した全量を中国に出荷して、中国のバナナ市場に影響を与えることも多い。

### 中国におけるフィリピン産バナナ

フィリピンの小さなバナナプランテーションの中には、パンデミックでさらに困難になった状況に対応するリソースを欠いているものもあり、このためバナナの品質が低下している。多くの小さなプランテーションはパナマ病と闘っている。フィリピンから中国へのバナナ輸出は30%近く減少した。しかし、大規模なプランテーションでは通常の基準が保たれるよう管理されているため、生産量と品質の両面で影響はない。これらのバナナは中国市場で非常に人気がある。

### 中国におけるミャンマー産バナナ

ミャンマー国内の不安定な状況が、バナナの輸出に影響を与えている。これに加えて、パンデミックとその陸上輸送への影響により、ミャンマーから中国へのバナナ輸出は大幅に減少している。

### 中国における南米産バナナ

南米産バナナの中国向け輸出量は、コロナ禍のために60%近く減少した。南米は中国から遠く離れており、輸送が難しい。これに加え、東南アジアが中国市場に近いことから、南米産バナナの立場が弱まった理由は容易にわかる。中国北部の大連港には毎週一定数のコンテナが到着するが、ほとんどの業者は南米からのバナナ輸入を一時的に停止している。

### 北米：有機栽培で社会的責任を持つバナナの人気が向上

有機栽培バナナは、今年の出荷最盛期の終わりに近づいてきている。ある有機農産物生産出荷業者は、「今年はこれまでに何回もの出荷が嵐の影響を受けたが、現在の出荷状況は想定されたとおりで、現時点の出荷量は昨年と同程度だ」と言う。(以下、北米の項で「」はこの業者の発言)

同社の生産拠点はメキシコのコリマ州にあり、メキシコ、エクアドル両国の家族経営農家とのネットワークがある。しかし、競合品もペルーから入荷している。上記の業者は、メキシコが有機バナナ部門での役割を拡大していると指摘する。「メキシコの有機バナナ産業は、過去12カ月間に700万箱以上を米国に出荷した。メキシコは最近、エクアドルに次いで第2位のアメリカ向け有機バナナ供給国となった。この成長率で行けば、メキシコは今後数年間で米国にとって最大の有機バナナ輸入先になる可能性がある。」

有機バナナの需要は引き続き世界的な高まりを見せているが、特に米国、カナダ、アジアで著しい。「データは一貫した成長と市場への浸透を示しており、有機製品の消費がすぐに減速するようには見えない。有機製品が主流になってくるので、これは筋が通っている。ほぼすべての小売業者が有機製品を提供しようとしている。」社会的責任が、製品差別化の一つの要素になりつつある。

以上は良いニュースであるが、悪いニュースとしては、有機バナナ関連のコストの上昇が重要な懸念事項となっている。「契約価格に関しては、コストの増加を吸収した。しかし、全体的な生産コストも大幅に上がった。梱包資材の価格は20%近く、ビニール袋は15%上昇し、肥料価格は2倍になった。人件費は1割近く増加した。」

これらの懸念がある一方で、世界的なサプライチェーンの問題(これも物流コストに影響している)や最近の気候災害、特に産地に影響を与え、果実の損失と予期せぬ追加コストを発生させたハリケーン・ドロレスとノラなどの問題もある。

これらの結果、1ヘクタール当たりの収量が少なくなる中で生産コストが高くなると、価格に影響してくる。「スポット市場の価格が高くなっても、契約価格があるために、生産者は常により良い価格を受け取れるわけではない。人件費と資材費の上昇によって生産コストが上がっているのに、有機バナナの産地価格はここ数年で20%下落した。」一方、同社は小売業者に対して、公正な価格を支払うことで、小規模な有機生産者をサポートすることを奨励している。

### **オーストラリア：過去2番目に多いバナナ出荷量**

直近の会計年度に政府が徴収した税額に基づく、バナナ業界は2020/21年度に40万3千トンと、2016/17年度の41万4千トンに次ぐ史上2番目に多い生産量を達成した。正確な数字を確認する必要があるが、これらの数字は、近似値を示している。ただし、販売されなかった果実を考慮に入れていないほか、年度末の6月の売上の申告が間に合っていない可能性もある。これらの義務的な徴収金は、マーケティングやパナマ病TR4の管理などの研究開発プロジェクトの費用に充てられ、またバナナ産業におけるバイオセキュリティの向上を目指す活動を実施するために使われる。

生産量の強気の推計値は、コロナ禍による国境閉鎖のために全国的に園芸業界に影響を与えた労働者不足など業界にとって多くの課題がある中で出てきた。クイーンズランド州最北部では、バナナ農場に大きな被害を引き起こし、20%もの出荷量の減少を招いた厳しい天候の影響から回復しなければならなかったし、TR4の問題も依然としてある。生産者でオーストラリア・バナナ生産者協会(ABCG)理事のポール・インダービッツィン氏は今年開かれたバナナ会議で昨年度を振り返り、「誰かが深刻な果物不足に陥っているわけではないが、重要で途方もない課題に我々全員が取り組まなければならない状況にあった」と述べた。オーストラリアのバナナ産業は現在、まとまった量の輸出を行っておらず、出荷先は依然として国内市場に限られている。

## 111. ニュージーランド産アボカド 日本等アジア地域への販売を増やす

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月15日)

オーストラリアのアボカド市場が軟調なため、ニュージーランドの果実輸出業者の収益を圧迫しており、オーストラリア国内の生産者の利益も少なくなっている。ニュージーランド産のアボカドの収穫は7月に始まり、今シーズンは品質が良く収穫量も多かったが、残念ながら、去年は作柄が悪く収穫量が少なかったオーストラリア産の表年と重なった。

従来はオーストラリアがニュージーランド産アボカドの主要な輸出市場であったが、オーストラリア市場での価格が下がっているため、ニュージーランドの輸出業者は出荷の重点を切り替え、アジアとニュージーランド国内でより多くの果実を販売するようになった。

シーカ社(ニュージーランドの果実生産販売会社)の経営責任者であるマイケル・フランクス氏によると、「ニュージーランドでは、もう一年豊作が続くほか、多くの新しい大規模園地からの出荷が始まる。出荷はこれまでのところ順調で、収穫の初期段階では品質が優れておりサイズもよい。」同社は今シーズン、85万箱(5kg/箱)の出荷を見込んでおり、これは去年の65万箱を上回る。

同氏は、「オーストラリアの市況が良くないため、アジアや太平洋島しょ国の取引先への出荷量を増やすつもりだ。アジアの主な市場はタイ、中国、日本、韓国である」と言う。

オーストラリアの軟調な市況のため、生産者の収益は劇的に減少する。去年は約28NZドルであった1箱当たりの収益が10NZドル未満に減少すると見込まれる。この販売シーズンは何とかなったとしても、軟調な市況はその後も継続すると見込まれる。(1NZドル(ニュージーランドドル)≒77円)

ニュージーランドにおけるアボカドの新植は、ニュージーランドの最北部で大幅かつ急速に増加した後、主に水の確保の制約により減速している。

シーカ社は、ニュージーランドでGEMブランドのアボカドを栽培、販売する権利を有しており、2万本以上を植え付けている。今年は商業化前の収穫が見込まれ、2022年には商業ベースの出荷量が見込まれる。この品種は、小型の果樹に晩生の果実がなる。顧客に提供された果実のサンプルは好評を得ている。

筆者: ニコラ・マクレガー

## 112. ニュージーランド ゼスプリ赤肉キウイは新名称で商業販売(抜粋・要約)

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年10月15日)

ゼスプリ(Zespri)は、赤肉のキウイフルーツについて、その本格的商業販売を2022年に開始するにあたり、ゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツ(Zespri RubyRed Kiwifruit)と名付けることを決めた。

2019年12月に商業化され、試験販売中はゼスプリレッドと呼ばれていたゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツは、2022年にニュージーランド、シンガポール、日本、中国で初めて商業規模の数量が販売される。販売数量は2021年の7万箱から2022年には約25万箱に増加すると見込まれる。

ゼスプリで海外市場等の責任者を務めるチウン・シー氏は、「新しい名前は果実の特性をよりよく反映しており、消費者への調査で十分にテストした。過去3シーズンの限定的な試験販売における消費者の反応は予想を上回った。賞味期限が、ゼスプリ・サンゴールドやゼスプリ・グリーンと比較して短いため、海上輸送時間が短いアジア市場を優先した」と言う。

ゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツは、来年3月頃から5月下旬まで、ニュージーランド、シンガポール、日本、中国の消費者に提供される予定である。

## 113. 世界の果物・野菜の消費はまだ不十分

EUROFRUIT電子版(2021年10月15日)

果物と野菜の消費のファイブ・ア・デー(5 A DAY)運動を推進するグローバルアライアンス - AIAM5(以下「アライアンス」)は、10月15日に第9回世界果物野菜デー(WFVD 2021)を迎えたが、その健康的な食事に向けたメッセージに対する制度的な支援の欠如を引き続き懸念していると指摘した。

「果物・野菜をより健康的で持続可能な食料システムのために」というスローガンの下、今年のキャンペーンは国連食糧農業機関(FAO)の国際果実野菜年と重なった。

世界32カ国から合計40の国内組織と国際同盟が力を結集し、健康と日々の食事の中で果物と野菜をとることの利点に対する意識の向上を図った。

今回、アライアンスの科学委員会は、果物と野菜の消費ばかりでなく、それに関連する健康関係の勧告や消費を促進するための政策についてのより詳細な情報の収集・調査について協議した。

予備的な調査結果は、消費データを報告した18カ国のうち2カ国だけが1人1日当たり少なくとも400gの目標に達していることを示した。イタリアは平均461gで最も消費量が多く、チリが422gと続いた。アルゼンチンは160g、ブラジルは134gで平均消費量が最も少なかった。

1日に少なくとも5サービングを消費する人口の割合が高い国としては、コスタリカ(35.9%)、ニュージーランド(32.5%)、カナダ(28.6%)、フィンランド(26.8%)が際立っていた。

アライアンスは声明で「一般的に、年齢が上がるにつれて、果物と野菜の摂取量も増加する傾向がある。果物と野菜の購入のしやすさに関しては、これらへの支出は年間平均630米ドルを超え、食料品支出の約18%を占めているなど、引き続き支出が多いことを強調することが重要だ」としている。

### 是非が入り混じる状況

アライアンスの調査結果はまた、消費者に伝えるメッセージの調整が欠けていることを示唆しているが、それでも参加した国のほとんどの食事ガイドラインとファイブ・ア・デーのプログラムには、果物や野菜が何であるかの明確な定義が含まれていた。

報告書は「ほとんどの定義が未熟な豆類とトウモロコシ、乾燥したり最小限度加工したりした果物と野菜を含む一方で、ナッツや加工食品を含むものは少ないことに留意すべきである」としている。

最も一般的な推奨事項は「1日に5サービング以上」とするもので、これには19カ国が該当した。一方、20カ国では果物は1日に少なくとも3サービング、野菜は1日に少なくとも2サービング等、果物と野菜それぞれに具体的な推奨事項が設定されていた。

合計18カ国が推奨事項の一部として濃縮還元でない100%果汁を含み、「糖分を加えていないもの」と指定し、消費を1日1回以下に制限していた。

果物と野菜の消費促進を支援する公共政策に関しては、19カ国が国の政策や計画を有していた。しかし、精査の結果、ファイブ・ア・デーの方針や取組を支援する国家計画や法令があるのは7カ国だけであった。政府の支援の欠如は、一部を除くすべての参加国における懸念事項であるとされた。

筆者：マイク・ノウルズ

(訳注) 果物1サービングは、例えば(米国農務省の例)、中サイズの果物1個または100%果汁のジュース3/4カップです。

日本のファイブ・ア・デーは「1日5皿分(350g)以上の野菜と200gの果物を食べましょう」をスローガンに食育活動を推進しています。(一般社団法人 ファイブ・ア・デー協会ウェブサイトより)

## 114. 北半球のゼスプリキウイフルーツ収穫量は史上最高に

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年10月20日)

ゼスプリキウイフルーツの北半球での収穫量は前年度を上回ると見られ、生産者の収益が増えるほか、今年も世界中の消費者に美味しい果実を味わってもらえそうだ。

ゼスプリの北半球産地担当の執行役員であるニック・カートン氏は、北半球産の販売事業は始まったばかりだが、同社はフランス、イタリア、ギリシャ、韓国、日本の果樹園から約2,600万箱、すなわち約96,000トンのキウイフルーツを出荷する予定であると述べた。

同氏は、「今シーズンの収穫量はこれまでで最大であり、ニュージーランド産の果実から北半球で栽培された果実に移行するに当たり、高品質で味の良いキウイフルーツを消費者により多く提供できることを嬉しく思う」と語った。(以下「」は同氏の発言)

「市場需要の拡大に応じて供給体制の構築を続けており、出荷量の増加は我々が成長段階にあることも反映している。」

北半球の全産地を通じて、ゼスプリは20年以上をかけて1,300の生産者及び出荷業者とパートナーシップを構築してきた。これらの人々は、高品質なゼスプリキウイフルーツを1年12カ月を通じて出荷する世界供給戦略において、要となる役割を果たしている。

今シーズンのグリーンキウイの販売は前年比で堅調に推移すると見られる。一方、サンゴールドキウイフルーツの売上は、収量の増加、栽培面積の拡大及び病虫害防除の進歩を反映して13%増加すると予測されている。

カートン氏は、ヨーロッパとアジアの両方の生産者が今年直面した課題を考えると、今シーズンの力強い収穫に喜びもひとしおだと述べた。

「今年はヨーロッパの一部の地域では春の降霜と生育後期の降雹がキウイの生産に影響を与えたため生産者にとって厳しいシーズンであり、一方アジアでは雨が多く、収穫が完了する前に台風の被害を受けるリスクが残っている。」

「いまだ記録的な生産量に向けて軌道に乗っていることは、生産者と、より広範なサプライチェーンに関わる人々の努力の賜物であり、今後さらにパートナーシップを強化していきたい。」

カートン氏は、ゼスプリがヨーロッパとアジアの生産者や出荷業者と構築してきた関係のおかげで、病虫害の脅威を克服することを支援するために同社が世界的なアプローチを導入することが可能になったと言う。

「イタリアに拠点を置くキウイフルーツつる枯れ病(KVDS)タスクフォースは、イタリアだけでなく世界中の生産者に対する重要なリスクに対処するための業界全体としての協力事業の優れた事例である。」

「問題をよりよく理解し、影響を軽減するための戦略を見出すことによって、順調な進歩が見られることは喜ばしい。」

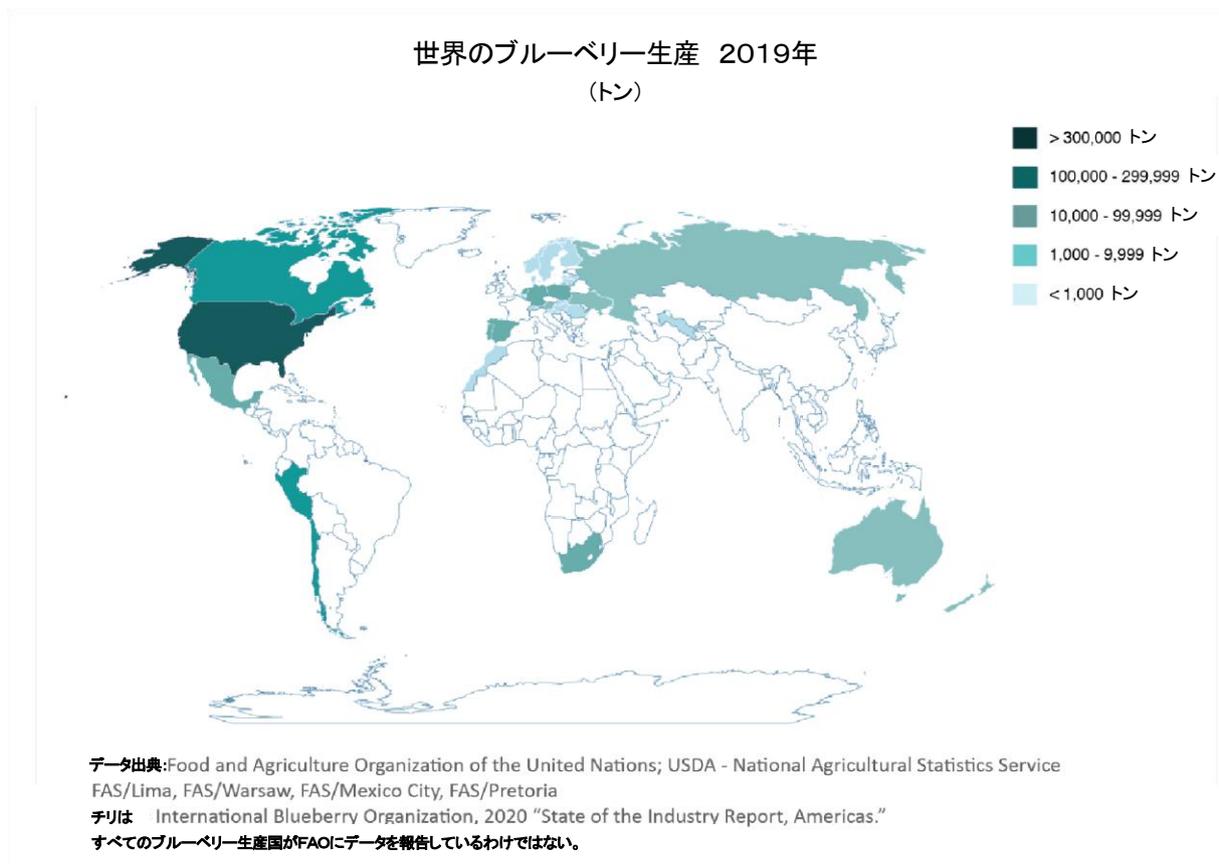
KVDSに関する研究と同様、キウイ産業が病虫害の脅威への警戒を維持する必要性を反映して、ゼスプリは北半球でクサギカメムシとキウイフルーツかいよう病菌に関する研究も行っている。また、水の効率的利用、栄養分の利用、土壌の健康などの分野に関する研究も、ゼスプリの世界的な持続可能性目標に向けた取り組みに貢献している。

「北半球での供給事業が成長を続ける中、我々はこの重要な研究を継続し、各地域の業界に利益をもたらす、生産者のためになる貢献をしたいと考えている。」

## 115. 世界のブルーベリー — 過去、現在、未来

米国農務省海外農業局 農産物貿易レポート(2021年10月21日)

その消費形態が多様化し効用が強調されるにつれて、ブルーベリーの貿易と生産は世界的に拡大している。ブルーベリーは、その風味、汎用性、健康上の利点のために高く評価され、消費形態は生鮮の枠を超えて、ピューレから粉末状に至るまで拡大している。また、ブルーベリーは食品や飲料の原料や添加物としても使用されている。ブルーベリーのこれらの新しい用途と形態は、生鮮消費の増加と相まって、世界的に生産を促進している。消費者の需要の高まりによって、世界の生産と貿易は2010年から2019年の間にこれまでにない劇的な成長を見せた。



### ブルーベリーの作物化: アイデアから産業へ

栽培種のブルーベリーの開発は、エリザベス・ホワイト氏と農務省の植物学者フレデリック・コヴィル氏の協働により、1900年代初頭に始まった。ニュージャージー州の克蘭ベリー農場に住んでいたホワイト氏は、1890年代に野生のハイブッシュブルーベリーに関する独自の研究に着手した。一方、コヴィル氏は1908年に野生のブルーベリーの栽培に関する研究を開始した。彼らが交流し始めた後、ホワイト氏は最終的に彼女の家族農場で一緒に働くようコヴィル氏を招いた。彼らは1911年にビジネスパートナーとなり、1916年に商品作物として最初のブルーベリーを収穫、販売した<sup>1</sup>。

それ以来、ブルーベリーの商業生産は、米国ばかりでなく南極を除くすべての大陸に拡大した。遺伝学と栽培技術の進歩により、2019年現在、ブルーベリーは少なくとも30カ国の様々な気候条件下で栽培されている。現在商業的に栽培されている主なブルーベリーは、ハイブッシュ、ローブッシュ(野生種とも呼ばれる)、ハーフハイ(ハイブッシュとローブッシュの交雑種)、ラビットアイ及びサザンハイブッシュに分類される。生

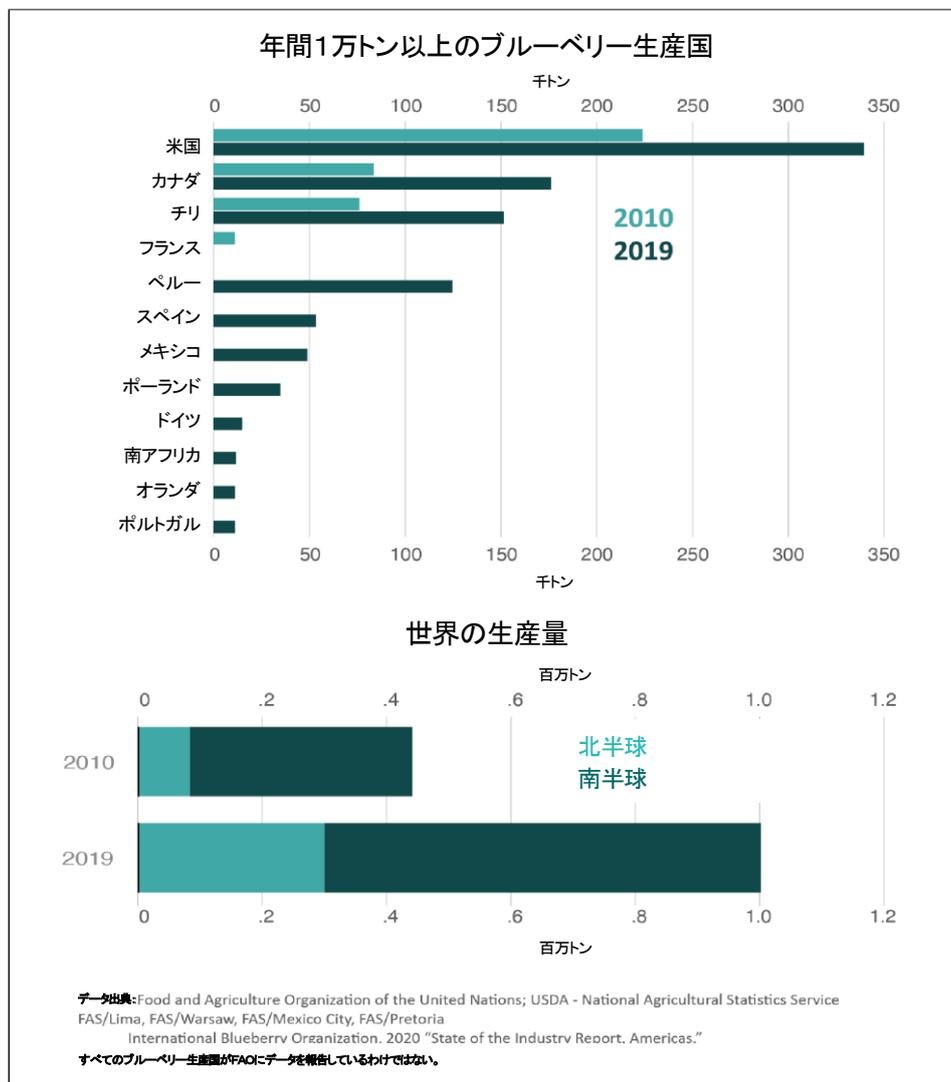
<sup>1</sup> 出典 USHBC website: <https://blueberry.org/about-blueberries/history-of-blueberries/>

産寿命は、わずか1～5年と短いものから40～60年と長いものまである<sup>2</sup>。

### 世界のブルーベリー生産

世界のブルーベリー生産量<sup>3</sup>は、2010年から2019年の間に43万9千トンから約100万トンへと2倍以上に増加した。この間、報告されている生産国の数は26カ国から少なくとも30カ国に拡大し、27カ国では今も生産が増加している。2010年には、米国(22万4千トン)、カナダ(8万4千トン)、チリ(7万6千トン)、フランス(1万1千トン)のわずか4カ国が生産量1万トン以上であった。1万トン以上の生産国の数は2012年まで増加し、その後減少していない。2019年までに、少なくとも11カ国が1万トンの大台を超えた。ペルーは最も劇的な拡大を見せ、50トン未満から約12万5千トンに増加し、米国、カナダ、チリに次ぐ第4位の生産国となった。ペルーは現在、輸出額世界一である。

南半球諸国は、この間の世界の生産量の増加の40%近くを占め、2019年には生産量が約30万トンに達した。ブルーベリー生産の南半球への広がりにより、市場でのプレゼンスが1年12カ月を通じたものに拡大し、消費者の購入機会を増やし、世界的に需要を押し上げた。



<sup>2</sup> 出典 USDA/AMS, "USDA Vaccinium Crop Vulnerability Statement 2016, Section 1: Blueberries," Small Fruit Crop Germplasm Committee.

<sup>3</sup> 出典 Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO); USDA/NASS; FAS/Lima, FAS/Warsaw, FAS/Mexico City, FAS/Pretoria; Chile = International Blueberry Organization, 2020 "State of the Industry Report, Americas."

米国では、ブルーベリーはベリー類の中で2番目に生産量が多い<sup>4</sup>。1970年代初頭まで、ブルーベリーの商業栽培は主にニュージャージー、ミシガン、ノースカロライナの3つの州で行われていた<sup>5</sup>。業界は他の州での生産を進めるよう動いた。1990年代には、米国の生産量は1億ポンド、すなわち4万5千トン以上に達した。2010年時点でミシガン州は約5万トンを生産する最大の生産州であり、米国の生産量の22%を占めていた。他の州も生産量を増やし、ワシントン州は2015年に最大の生産州となった。ワシントン州は現在も毎年平均5万8千トンを生産し、米国の総生産量の19%を占める最大の生産州であり、第2位の生産州であるオレゴン州が平均5万5千トンでこれに迫っている。農務省農業統計局の年次調査の対象となる州の数は、2018年に14州から9州に減少した(他の5州が生産量に占める割合は5%未満である)。しかし、生産量は増加を続けており、2019年には過去最高の33万9千トンに達した。米国の生産量は2015年以降平均約30万トンで、世界の生産量の36%を占めている。

## 世界のブルーベリー輸出

世界関税機構(WCO)は、多目的な国際的商品命名法、すなわち4桁および6桁の分類コード(それぞれ見出し、小見出しと呼ばれる)からなる階層構造の商品の名称及び分類についての統一システム(統一システムまたはHS)を公表している。現在、ブルーベリーには独自の6桁の分類コードはない。HSの下では、ブルーベリーはスノキ属の他の果実(クランベリー等)とともにグループ化された6桁コードで分類されており、ブルーベリーの実際の貿易を正確に把握することが困難になっている(以下の「より良い貿易データに向けた取組み」の項参照)。米国のセンサス、FAO及び業界の統計データを参考にすると、生鮮ブルーベリーの主要輸出国は、ペルー、チリ、メキシコ、米国、南アフリカ、ポーランド、カナダ等である。

生鮮ブルーベリーの輸出額はすべての輸出国について分かるわけではないが、上記の国を見ると輸出の状況が良く示されている。商務省国勢調査局、貿易データモニター及び農務省海外農業局の海外事務所が提供する国別データを使用して計算すると、これらの国々の輸出額は2019年に21億ドルに達した。これらの7カ国の合計では、2016年以降年平均18%で成長しており、ペルー、メキシコ、ポーランド、南アフリカは毎年連続で成長を見せている。今後5年間の輸出の平均成長率が5%だったとしても、これらの国の輸出額は2025年までに約30億ドルに達することになる。FAOのデータ<sup>6</sup>によると、世界の輸出量は少なくとも2010年以降減少しておらず、2015年から2019年の間には年平均4万6千トン増加した。2010年以降の生産と輸出の拡大と消費者需要の継続的な増加を考慮すると、生鮮ブルーベリー輸出の上向きの軌道は今後も続くものと予想される。

米国の輸出の伸びはこれよりも緩やかである。生鮮ブルーベリーの輸出額は2010年から2019年の間に30%増加したが、2014年から2017年の間は4年連続で減少し、その間の何年かは生産量も減少した。その期間の前後では、2013年に1億4,700万ドルのピークに達し、2017年以降は同年の1億700万ドルから2020年の約1億2,100万ドルまで毎年増加した。2021年の1～7月の輸出額は昨年をわずかに上回り、300万ドル増の約9,900万ドルであった。米国の輸出額の平均80%以上がカナダ向けで、2020年には1億600万ドルを超えた。7つの主要輸出国のうち、米国はペルー、チリ、メキシコに次いで第4位である。

---

<sup>4</sup> 出典 “Fresh Blueberry Supplies Expand as U.S. Consumers Develop a Taste for Year-Round Blueberries”, USDA/Economic Research Service, December 7, 2020 (<https://www.ers.usda.gov/amber-waves/2020/december/fresh-blueberry-supplies-expand-as-usconsumers-develop-a-taste-for-year-round-blueberries/>).

<sup>5</sup> 出典 “A Vision for Blueberries with Denny Doyle,” The Business of Blueberries Podcasts, U.S. Highbush Blueberry Council, episode 15, September 23, 2020.

<sup>6</sup> FAOはHS081040を「ブルーベリー」としている。FAOの輸出データは2019年分まで公表されているが、アルゼンチン、チリ、メキシコ等ブルーベリーの輸出量を報告していない国もある。

## 世界のブルーベリー生産の未来



品種の研究はもはや公的機関に依存しておらず、今では民間企業でも行われており、その結果、遺伝学と品種開発は急速に進んでいる。収量の増加、果実の品質の改善、病害虫抵抗性の向上、耐寒性・耐暑性の改善のための研究が進行中である。また、作物の管理、収穫、包装を改善するための技術の向上も進んでいる。例えば、サザンハイブッシュ品種は低温要求時間が短い(400~0時間)ため、常緑樹として栽培管理し、周年で、または一定の期間に結実させることができる。

地理的な条件に応じ、「常緑化」することで剪定のタイミングと強度により落葉を防止または管理することができる。落葉を防止できれば周年出荷が可能となり、落葉を管理することで、生産者はブルーベリーの熟期、ひいては収穫期を調整することができる。落葉を管理する場合、品種により、剪定から収穫までの期間は5~8カ月である。例えば、5月の収穫を目指すのであれば、1月に刈り込むことになる。常緑栽培は米国の一部の地域で行なわれているが、この技術はまた、オーストラリア、メキシコ、ペルー、スペインなど気候がより温暖な地域へのブルーベリー生産の拡大を可能にした<sup>7</sup>。

現在のブルーベリー品種はすべてツツジ科スノキ属 (*Vaccinium*) のシアノカス節 (*Cyanococcus*) に属している。しかし、南太平洋の島々などの孤立した地域を含め、世界中にはシアノカス節以外の野生品種が存在することが知られている。ブルーベリーの成功に伴い、これらの国の一部では、野生の品種を栽培し始めている。現在の科学では、シアノカス品種と非シアノカス品種の交配は難しいが、遺伝子技術の進歩により、今後数十年で可能になる可能性が高く、新しい品種の開発と、ブルーベリー生産の一層の拡大につながるものと予想される。

### より良い貿易データに向けた取組み

前述のようにHSの6桁コードでは、ブルーベリーは、クランベリーやビルベリーなどスノキ属の他の果実と同じグループに含まれている。ブルーベリーは現在のHS6桁の小見出しでは、0810.40(生鮮)、0811.90(冷凍)、0813.40(乾燥)として世界的に統一した分類がなされている。米国のようにHS6桁の生鮮、冷凍、乾燥をさらに細分化してブルーベリーを抜き出している国は少ないため、ブルーベリーの貿易を監視することは困難である。

過去10年間に世界のブルーベリー生産と貿易が飛躍的に増加し、特に生鮮ブルーベリーの貿易が大きく増加したことから、ブルーベリーを他のスノキ属の果実と区別するため、農務省海外農業局は、HSを修正して生鮮、冷凍、乾燥ブルーベリーのために別個の小見出しを作成するようWCOに提案する準備を進めている。HSの改正案は、通常は関係業界によって提出される。しかし、世界的な貿易データが必要なため、海外農業局は貿易(ひいては生産)の実態を明らかにし、市場の規模がどれだけあり、貿易(したがって生産)がどこで行われているのかをより正確に理解するため、この取組みを行っている。

(HSの修正手続きについて省略)

海外農業局は2021年9月に米国国際貿易委員会に提案書を提出した。手続きが順調に進めば、提案された変更は2027年のHSに反映される。変更が実装されるまでには数年かかるが、最終的にはこの変更によってブルーベリーの貿易を理解し予測する能力が大幅に向上する。

<sup>7</sup> 出典 “A Review for Southern Highbush Blueberry Alternative Production Systems,” [MDPI, Agronomy](#), volume 10, issue 10, October 2020.

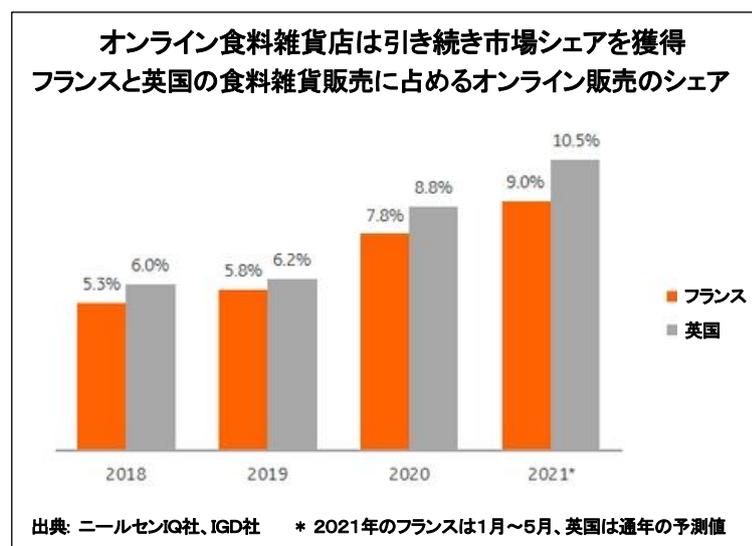
## 116. ヨーロッパ コロナ禍が誘発した4つの消費行動と青果物業界の対応

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月21日)

コロナ禍は、ヨーロッパの消費者の行動に4つの変化を引き起こし、果物・野菜業界への影響は続いている。青果物のオンライン購入は増えたが、健康的な消費パターンへの移行は継続するとは限らない。

### 1. オフラインからオンラインへの移行 青果物の玄関先への配達

食料雑貨のオンライン販売は、2020年3月以降、これまでにないほど新しい顧客が流入し、複数の販売経路(ネットと実店舗等)を有する小売業者、食料雑貨配達サービス、食材キット販売企業の成長につながっている。



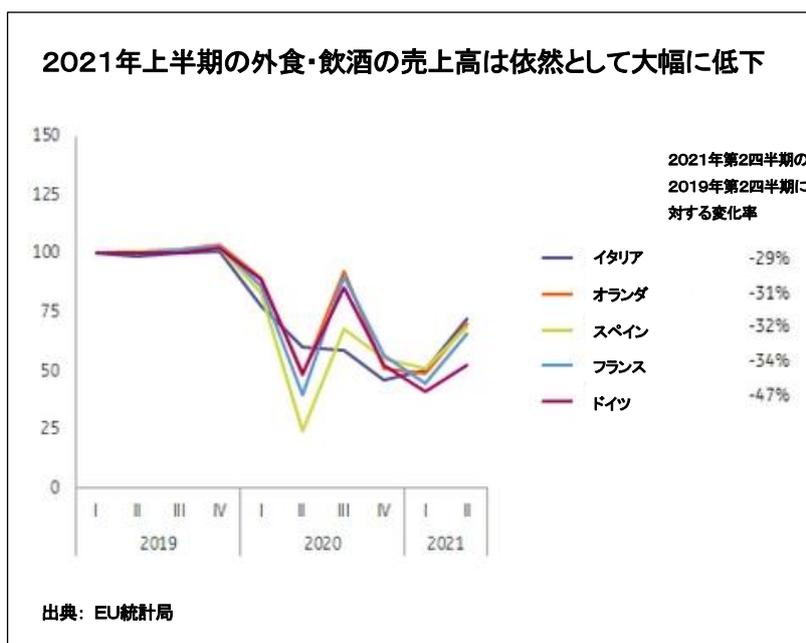
ニールセンIQ社のデータによると、西ヨーロッパの3世帯に1世帯が2020年に食料雑貨をオンラインで購入した。2019年には4世帯に1世帯であった。オンラインの市場シェアでは、英国とフランスが際立っている。

オンライン販売は他の国でも急速に成長している。例えば、オランダでは2021年上半期に50%以上の成長を達成し、イタリアでは40%以上の成長を見せた。青果物は、一般的にオンライン食料雑貨店の最大の商品カテゴリの一つであり、オンライン購入者は、購入する農産物を選ばないことをそれほど気にしていないと見られる。

### 2. 外食と家庭食の間のシフト バランスは回復していない

ロックダウンのため2020年は明らかに家庭での消費が多い年であった。ほとんどのレストランが営業を再開したにもかかわらず、コロナ禍以前の外食と家庭食の支出バランスが、完全には回復していないことは興味深い。

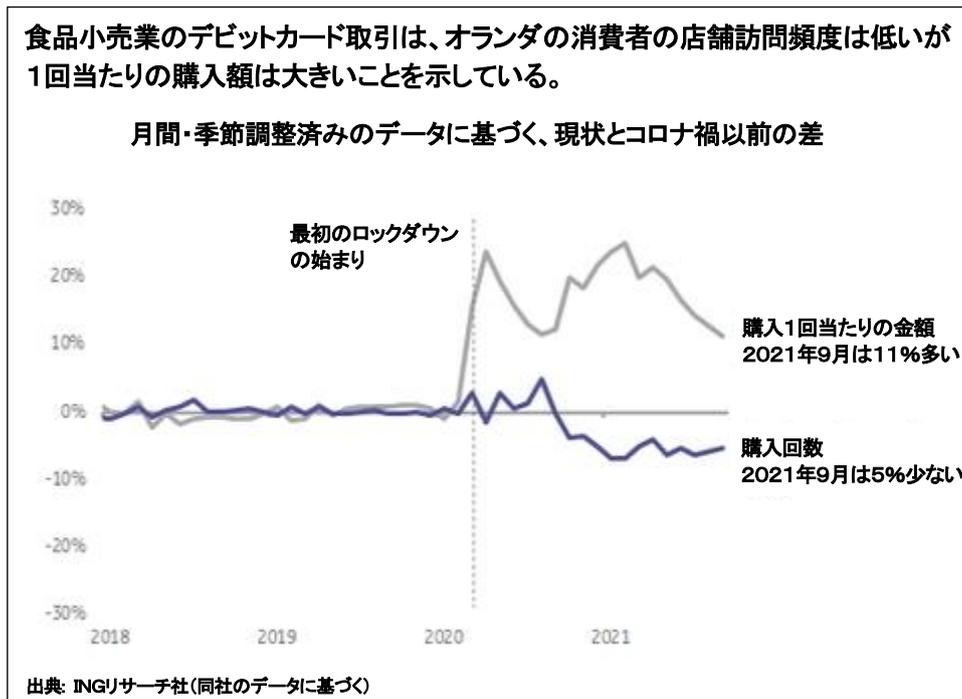
ユーロ圏の5大経済大国では、2021年第2四半期の外食支出が2年前の同じ四半期と比較して依然として30~50%減少している。同時にユーロ圏の食品小売販売額は2021年も依然として高く、7月までの1年間のインフレ調整済みの売上高は、2019年の同時期と比較して約6%多い。果物と野菜の小売売上高も増加している。ニールセン社の調査によると、英国では果物の販売量が2.1%増加し、野菜は6.5%増加した。また、GfK社のデータによると、2021年上半期のオランダの果物販売量は2.8%、野菜は4.4%増加した。



### 3. まとめ買いへのシフトは購入品目の変化につながる

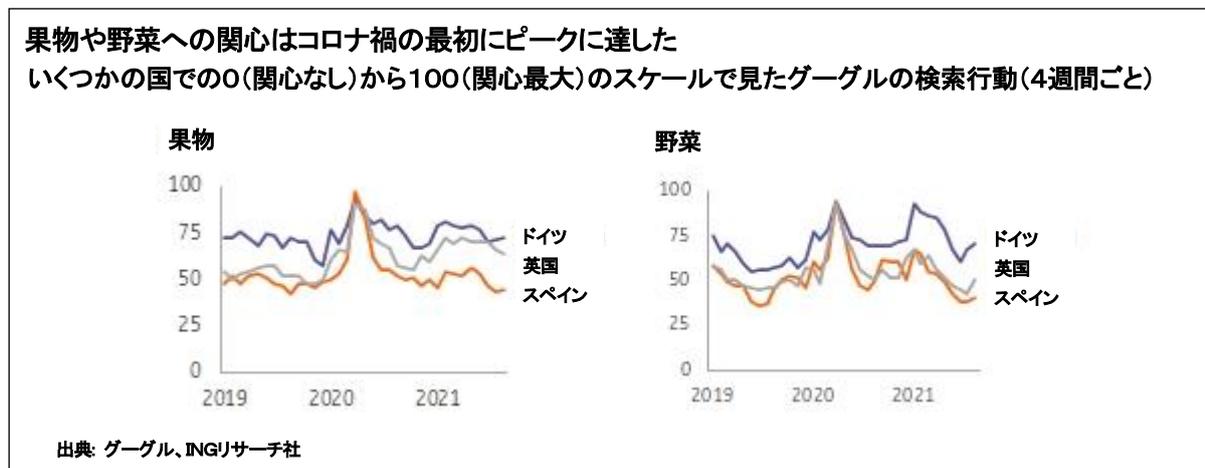
ワンストップショッピングは、コロナ禍の始まりから人気上昇し、消費者の食料雑貨店での購入頻度は今でも低く、一度の購入額が大きい。ING社のデータによると、オランダの食品小売業における2021年7月のデビットカードの取引件数はコロナ禍以前の水準と比較して4%減少し、購入額は6%増加した。多くの国で、店舗を訪れる頻度は低いが、典型的な「衝動買い」品目（ベリー等）の需要は購入量の増加につながった。

販売額の一般的な上昇傾向を上回ったのは、食材キット（素材からの調理の増加のため）とニンジンなどの日持ちする品目であった。サラダボウルとドライーフサラダは不調であった。2020年3月に起こった最初の買いだめは冷凍野菜への関心に火をつけ、コロナ禍以前と比較して今でも需要が高い。



### 4. 健康的な食事への移行 これまでのところ果物・野菜の消費量は差し引き増加の様様

コロナ禍は、より健康的な食事と免疫システムの両方への関心を引き起こし、グーグルでの「果物」と「野菜」の検索はパンデミックの第1波の間にピークに達し、柑橘類等のビタミンCが豊富な品目は同じ期間に需要が高かった。多くの国で、現在の検索件数はピークを大きく下回っているが、コロナ禍以前のレベルと比較するとまだ少し多い。一方、影響力のある英国のZOE Covid研究などの研究は、ほとんどの世帯が果物や野菜の摂取量の変化を報告したことを示している。増えたと報告した世帯もあれば減ったと報告した世帯もあるが、差し引きでは1日当たりの果物と野菜の消費量は増加が見られた。



消費者の行動がニューノーマルへと進化するにつれて、変化の一部はそのままとどまり、他の変化は徐々に解消すると予想される。



### オフラインからオンラインへの移行は非常に持続性があると予想される

食料雑貨のオンライン販売の伸びは、1年ほど継続した後減速してきている。英国のオンラインでの食料雑貨の売上高は、2021年6月に前年比で初めて減少した。我々の見解では、この減少は食品小売の収益が外食に流出していることにも関連している可能性がある。しかし、オンラインでの食料雑貨への支出はコロナ禍以前のレベルに比べて引き続き高くなっており、食料雑貨の総売上の中でオンライン市場のシェアが低下することはありそうもない。

需要面では、より多くの消費者がオンラインでの注文に慣れ、消費者の特定のニーズに対応する選択肢も増えている。食品以外のオンライン販売の増加も、人々は一度習慣を変えたらそれに固執する傾向があることを示している。供給側は、実店舗とオンライン店舗を持つ小売業者やオンライン専門業者による投資のおかげで、依然として非常に活力がある。例としては、複数の食料雑貨配達会社(食料雑貨版Uber)のための最近の一連の資金調達や、オランダに拠点を置くオンライン専門スーパーPicnic社の6億ユーロの資金調達が挙げられる。

### 家庭内消費は市場シェアをある程度維持すると見られる

家庭食と外食の支出のバランスは徐々に戻りつつある。しかし、外食が失った基盤を回復するには今後数年かかると見られる。多くの人にとって、自宅で仕事や勉強をすることは、少なくともある程度は続くと思われる。また、出張も完全に回復するとは考えられない。どちらの傾向も、家庭外の消費の機会を減らすことにつながる。しかし、自宅で働くことが可能で実際にそうする人の割合が、一般的に北ヨーロッパと西ヨーロッパでは南ヨーロッパや東ヨーロッパに比べて高いため、地域的な違いがあることは以前指摘したとおりである。

### まとめ買いの必要性は薄れる

平均的な購入量に対する外出制限、外出禁止の影響はほとんど無くなった。残っているのは、一部の国の屋内でのフェイスマスク着用と、一部の制限の再導入の可能性である。まとめ買いの急増は主に必要性から生じたものなので、ポストコロナ時代にはこれに固執する可能性は低い。同時に、食品小売店(コンビニ)での小規模な買い物も、仕事の減少と観光関連の客足の減少により、引き続き下押しされる可能性がある。

### より健康的な食事 政策立案者は進歩を維持するための取組みを強化するか

インフルエンザの季節が始まる時期にコロナウイルスがまだ周辺に存在するという事実は、健康的な食習慣が免疫系の「防衛線」を増やすという観点から、果物と野菜にとって有利な可能性がある。しかし、2020年と比較して、今は多くの人が自身を守るためにワクチンに頼ることができる。大きな疑問は、コロナ禍の恐怖が薄れた時に、人々が果物や野菜の毎日の推奨摂取量を遵守し続けるかどうかだ。特に我々の日々の食事の環境はあまり変わっておらず、まだ見届ける必要がある。長期的には、政策立案者が現在の勢いを利用して、人々により健康的なライフスタイルを促すことを目的とした措置を実施するかどうか大きく依存している。

青果会社は、次の段階に向けて準備を進めている。パンデミックの結果として消費者の習慣が変化し、変化のペースは遅くなる可能性が高いものの人々の行動は進化を続けると見られる。すでに述べた4つのシフトに関連して、以下は果物・野菜業者のために特定した4つの戦略的関心分野である。

### 1. 電子商取引は新たな機会を創出する

青果会社は、すでに取引先となっている複数の販売経路(ネットと実店舗等)を有する小売業者と成長を共にすることで、オンラインでの成長の多くを実現している。同時にHello Fresh、Ocado、Picnic、Rohlikなどのオンライン販売業者は、特に幅広い品揃えを持つ青果物業者にとって新しい販売分野となっている。オンライン小売業者は商品がすでに販売された時点で最終的な発注を行うことも多いため、電子商取引の増加は、果物や野菜の取引がさらに「ジャストインタイム」の状況に向かうことを意味する。オンライン販売はまだ比較的規模が小さいが、この分野は、無駄が出るリスクが低い分独占的な商品を多く販売する可能性など、革新の機会を提供する。

### 2. 青果会社は家庭向けと家庭外向けへの関与の度合いを再考する

過去1年半の小売売上高の増加は、小売業者への供給を重視している大規模青果物業者にとってプラスであった。多くのサプライヤーは小売業者とのより緊密な協力を求めており、こうした協力はコロナ禍の第1波の時に店舗の商品を切らさないために必要であった。家庭内消費へのシフトは、多くのフードサービス向けサプライヤーにとってはマイナスであった。青果会社は、ケータリング部門等への供給能力を抑える一方で、ますます小売販売への投資を行う可能性が高いと見られる。

### 3. 青果物は小売業者間の競争で中心的な役割を果たす

まとめ買いを選んだ消費者は、特定のスーパーマーケットを好む傾向があった。ドイツとオランダでは、一般的なサービスを提供する小売業者の2020年の成長は、ディスカウント業者の成長を上回った。スペイン等他の国では、消費者に近い店舗を持つ地域的な小売業者は、(郊外に立地する)ハイパーマーケットよりも業績が良かった。一部の小売業者は、こうした潮流を変え、失われた市場シェアを取り戻そうとすると見られる。その際、それらの業者は消費者を引き付けるために青果物の特売に着目する可能性が高い。

### 4. より健康的な食事を長く根付かせる機会をつかむ

マーケティングの面では、青果会社は前例のない無料の宣伝の波(コロナ禍による青果物ブーム)に乗ることができたが、これは今後消えていく。しかし、コロナ禍の影響は、果物・野菜セクターが政策立案者に対して、健康的な食習慣の重要性を主張する強い根拠を提供している。我々は、食料政策による後押しが、より健康的な食事への移行をより長く継続させるための重要な要素であると考えている。

需要面で強調される動向とは別に、果物や野菜の価格と消費は、当然ながら季節的な出回り量の影響を受ける。悪天候による収穫量の不足のほか、輸送コストの上昇や労働力不足などによるサプライチェーンの混乱も、出回り量と最終的な消費量に大きな影響を与える。それはコロナ禍以前にすでにそうであったが、パンデミックの第1波の時により一層明らかになった。現在、我々は回復の途上にあり、これらの重要な要因はより大きな影響を与えるようになっており、引き続き消費行動の顕著な変化の持続可能性といつまで続くのかに影響を与えている。

出典: ING

## 117. ペルー 新しい市場(中南米、日本)に向かう生食用ブドウ

EUROFRUIT電子版(2021年10月22日)

アグリコラ・ドン・リカルド社のアルトゥーロ・オフマン氏が、2021/22年度のペルー産生食用ブドウの見通しを本誌に語った。

ペルー産生食用ブドウは今シーズンこれまで以上に多くの市場に出荷されているが、難しい物流事情が影を落としている。

- **Provid(ペルー生食用ブドウ生産者協会)は、2021/22年度の収穫量を前年比9%増の6,250万箱と予測している。今季に対する期待は何か? 北半球産から南半球産へのスムーズな移行は見込まれるか?**

**オフマン氏** 今季は第34週(8月半ば)のレッドグローブ品種の出荷から始まった。種なしブドウは第38週(9月半ば)に、最初の白と赤の種なし品種が北半球に輸出された。今季の出荷は長くなり、来年の第7週(2月上旬)までは順当な量が出荷され、その後第14~15週(3月末~4月上旬)までに量が細ると見ている。

移行に関しては、米国は、熱波が果実の品質に影響を与えた結果、またカリフォルニア州では労働者の確保が困難で収穫できる量が制限されたため、出荷期間は長くないと見ている。スペインとイタリアに関しては、晩生の出荷量は確かに多いが、ペルーの出荷の初期に悪影響を与えるほどではない。どれくらいの出荷量になるかは、今後数週間の気象条件に大きく依存している。

- **物流の滞りが世界中で大混乱を引き起こしている。これは今季の出荷にどの程度影響を与えるか?**

**オフマン氏** それは、我々が現在最も懸念している要因だ。コストもかなり上昇しているが、何よりも物流チェーンの弱さが心配だ。リーファーコンテナはほとんど手配できず、また、特に米国東海岸とアジアの港湾の渋滞のために、どの海運会社の運航予定も予測不可能であり、さらに米国と英国のトラックやドライバーの不足など、国内の物流上の問題がある。それに加えて、港湾のインフラが崩壊しており、私が見るところ、これが突出して今シーズン最大の課題となるだろう。

- **ペルーは最近市場開放されたアルゼンチンに生食用ブドウを初めて出荷した。アルゼンチンや他の中南米市場の可能性をどのように見ているか? ペルーの生産が急成長している中で、輸出業者は米国、ヨーロッパ、アジアと並んで、中南米地域の市場にもっと焦点を当てる必要があると思うか?**

**オフマン氏** アルゼンチンは、出荷できる期間が11月末までと限られた市場だ。それ以降は、同国のサンフアン地域の収穫が始まり、アルゼンチン政府は国内産業の国内市場での競争力を保護している。

私は、可能なすべての市場を開く必要があり、また一旦商業的な関係を持ち始めたら、その可能性を見極めなければならないと考えている。Providと植物検疫当局であるSenasaはエクアドルとも交渉中であり、近いうちに参入できることを願っている。より多くの市場を開くほど可能性が高まり、中期的に事業が安定する。

- **アジアについては、日本市場開放の交渉の進展はどうか?**

**オフマン氏** Provid、Senasaと日本の関係当局との数年間の交渉の末、議定書の調整が進み、これまで主な障害であった多数の品種を含めることができた。交渉は最終段階にあり、今年この市場にアクセスできることを期待している。業界として多くの付加価値を得られる市場だと考えている。

- **今季の輸出に影響を与えると思われるその他のニュースや要因はあるか?**

**オフマン氏** ペルーは、市場の需要が高い高品質品種により付加価値を高める成長路線を引き続き歩んで行く。また、気象災害が少ないことからペルーは世界市場で信頼される輸出国であり、これは競合国に対する競争上の優位性となっている。さらに、今年ペルーは輸出量世界第2位の地位を確立するので、業界は市場の安定を保ち、十分な情報を提供するよう、よく考えたやり方で出荷量を扱う義務がある。Providは、この1年半こうした方針で取り組んできており、これによって、ペルーが生食用ブドウの優れた供給国であるとともに、生産国としてブドウ産業に多くの価値を付加することを願っている。

筆者: マウラ・マクスウェル

## 118. イタリア税関 違法栽培果実への認識を深める

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月25日)

今年6月、イタリアの港湾当局と税関当局は、ラヴェンナ港で積み替え中の1台のコンテナから不審な生食用ブドウを押収した。このブドウは独占権のある有名な生食用ブドウ品種のアーリースイート(Early Sweet®)であることが判明した。差し押さえられたプレミアム品種のブドウは、エジプトを出発して、(イタリア経由で)オランダに向かい、北ヨーロッパ各地の小売市場で販売されることとなっていた。

アーリースイート品種の権利者であるグラパバラエティーズ社(以下「グラパ社」)は、各地の国際港で税関当局と密接に協力している。この協力により、差し止められた商品は、グラパ社のイタリアでの法定代理人である弁護士事務所の支援を受けてDNA検査に供された。検査の結果、積み荷はアーリースイート品種で、不正に市場に投入されるところであったことが確認された。これを受けてラヴェンナ市の裁判所は、違法に商品化されたアーリースイート品種の押収と破棄を承認した。また、輸入者は税関当局によってイタリアの検察当局に報告され、検察当局はこれを受理し、現在裁判前の捜査段階にある。

弁護士事務所の関係者は、「税関による保護は知的財産権の執行において重要なメカニズムである。最近ラヴェンナ税関で起きたこの事案は、税関との協力がEU市場に侵入しようとする権利侵害商品を防ぐためにいかに効果的であるかを示している。輸入者が権利侵害の責任を負う可能性があることにも注目すべきだ。本件は、一般向けの小売業者や卸売業者が仕入れ先をもっと慎重に選択することを注意喚起している。消費者が安全で質の高い農産物を確実に楽しむ唯一の方法は、流通のすべての段階で、信頼できる合法的な生産者や業者から生産物を調達することが最低限必要な要件だとの認識が広まることだ」と説明する。

独占権のある品種の違法な生産と流通に対して行動を起こしグラパ社の知的財産権を保護することは、知的財産ばかりでなくライセンスを受けた生産者を保護するためにも必要だ。グラパ社のラフィ・カルニエル最高経営責任者(CEO)は、「違法生産の事案がまた一つ阻止された結果に満足しており、長年一緒に働いているイタリア当局の協力と努力にあらためて感謝する。弊社の品種の無許可の取引と生産に対して行動を起こすことによって、弊社はこれからも知的財産権の侵害に対抗していく」と述べた。

## 119. 中国とドイツの間の新しい鉄道コンテナ輸送

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月27日)

新サービスの最初のコンテナブロックトレイン(貸し切りのコンテナ貨物列車)はコンテナを満載し、10月25日にハンブルクのDUSSターミナルに到着した。新サービスは、既に一定程度あるハンブルクと中国の間の鉄道輸送の選択肢をさらに拡大する。新サービスはハンブルクの提携都市である上海を起点として、阿拉山口市からカザフスタンに入り、ベラルーシ、ポーランドのマワシェビチェを経由して終点のハンブルクに向かった。記念式典は上海市の2名の副市長とハンブルク市の第一市長が臨席して行われた。(式典の詳細は省略)

この「上海エクスプレス」は、上海オリエンタルシルクロードインターモーダル社が運行している。最初の列車は、衣類、靴、ガラス製品、自動車部品、太陽光発電機器、調理器具、家具、照明器具、その他の消費財を積んだ50個の40フィートコンテナを載せて運行された。運行会社は、約1カ月以内にハンブルクから上海への最初の戻り列車を走らせる予定だ。定期運行では当初は週に1列車がハンブルクに向かうが、長期的には週に2〜3便に引き上げる。運行会社によると、年内の便は既に全て予約されている。

ハンブルク港では中国関連で年間約240万個(20フィート換算)のコンテナが扱われており、岸壁を横切るコンテナのほぼ3分の1は、中国に向かうか、中国から来たかである。鉄道は海と空の輸送に代わる選択肢を提供している。昨年、ハンブルクと中国の20の都市の間で週230回以上の輸送が行われた。今年になって、河北省の石家荘市と甘粛省の武威市が追加された。2020年には、約10万7千個(同上)のコンテナが中国とハンブルクの間で鉄道輸送された。

## 120. チリの落葉果実事情(生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート(2021年10月27日)

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「生鮮落葉果実年次報告書」の生食用ブドウの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

### <生食用ブドウ>

表1 チリの生食用ブドウ生産需給統計

| 生食用ブドウ(生鮮)<br>販売年度<br>チリ | 2019/2020     |         | 2020/2021     |         | 2021/2022     |         |
|--------------------------|---------------|---------|---------------|---------|---------------|---------|
|                          | 2019年10月～翌年9月 |         | 2020年10月～翌年9月 |         | 2021年10月～翌年9月 |         |
|                          | 農務省公式         | 今回推計値   | 農務省公式         | 今回推計値   | 農務省公式         | 今回推計値   |
| 栽培面積                     | 47,834        | 47,834  | 45,489        | 45,489  | 0             | 45,400  |
| 収穫面積                     | 46,000        | 46,000  | 44,000        | 44,000  | 0             | 44,000  |
| 商業的生産量                   | 780,000       | 780,000 | 615,000       | 660,000 | 0             | 805,000 |
| 非商業的生産量                  | 4,600         | 4,600   | 4,700         | 4,700   | 0             | 5,000   |
| 生産量合計                    | 784,600       | 784,600 | 619,700       | 664,700 | 0             | 810,000 |
| 輸入量                      | 600           | 600     | 300           | 300     | 0             | 300     |
| 総供給量                     | 785,200       | 785,200 | 620,000       | 665,000 | 0             | 810,300 |
| 生鮮国内消費量                  | 180,200       | 180,200 | 110,000       | 140,000 | 0             | 165,300 |
| 輸出量                      | 605,000       | 605,000 | 510,000       | 525,000 | 0             | 645,000 |
| 市場からの隔離                  | 0             | 0       | 0             | 0       | 0             | 0       |
| 総仕向量                     | 785,200       | 785,200 | 620,000       | 665,000 | 0             | 810,300 |

単位: ヘクタール、トン

出典: サンチャゴ事務所推計

### 生産

当事務所は、2021/22販売年度(以下「年度」)の生食用ブドウの生産量を前年比22%増の80万5千トンと推計する。生産量の反発は、近年植えられた新品種の成園化による生産の増加と、気象条件の平常化に関係している。

2020/21年度は、2021年1月の最後の週の降雨により、国の中央部、特にバルパライソ、首都、オイギンスの各州で、収穫間際の生食用ブドウが損傷した。その結果、生産量は15.3%減少し、わずか66万4,700トンとなった。さらに、果実中の水分が多いという品質上の問題により、生産者の収入は全般的に当初の予想よりも少なかった。

生食用ブドウは、特に消費者の人気のない古い品種をはじめとして利益が非常に低いため、栽培面積は過去10年間減少が続いている(図1参照)。干ばつも生産性の低下を引き起こす問題となっており、このため生食用ブドウの総生産量は過去12年間減少している。

最近の問題のひとつは、生産者が生食用ブドウの生産と輸出のための基幹作業を実施する労働者を見つけることが次第に難しくなっていることである。剪定、収穫、選別、梱包などはすべて手作業で行われている。労働者の不足を説明する要因は多々あるが、大部分はコロナ禍対策としての移動制限や隔離に起因している。収穫・梱包の時期に雇われる労働者の多くは、他の地域や他国からの短期雇用労働者である。

生食用ブドウの生産者は、持続可能な管理、灌漑効率、品種の選択、風雨に対する作物保護など、多くの課題に直面している。輸出市場の消費者は、食品がどのように生産されたかを気にかけるため、持続可能性は生産の重要な側面である。品種選択も、外国市場に輸送され、良好な状態で到着する必要がある生食用ブドウの品質に直接関係するため重要である。過去10年間、生食用ブドウ生産者は、古い品種をより新しい生産性の高い種なし品種に更新してきた。これらの品種は、消費者への訴求力も高い。現在、新しい品種の園地が成園化し始め、全体的な生産量を押し上げている。

表2 2020/21年度産生食用ブドウの州別栽培面積

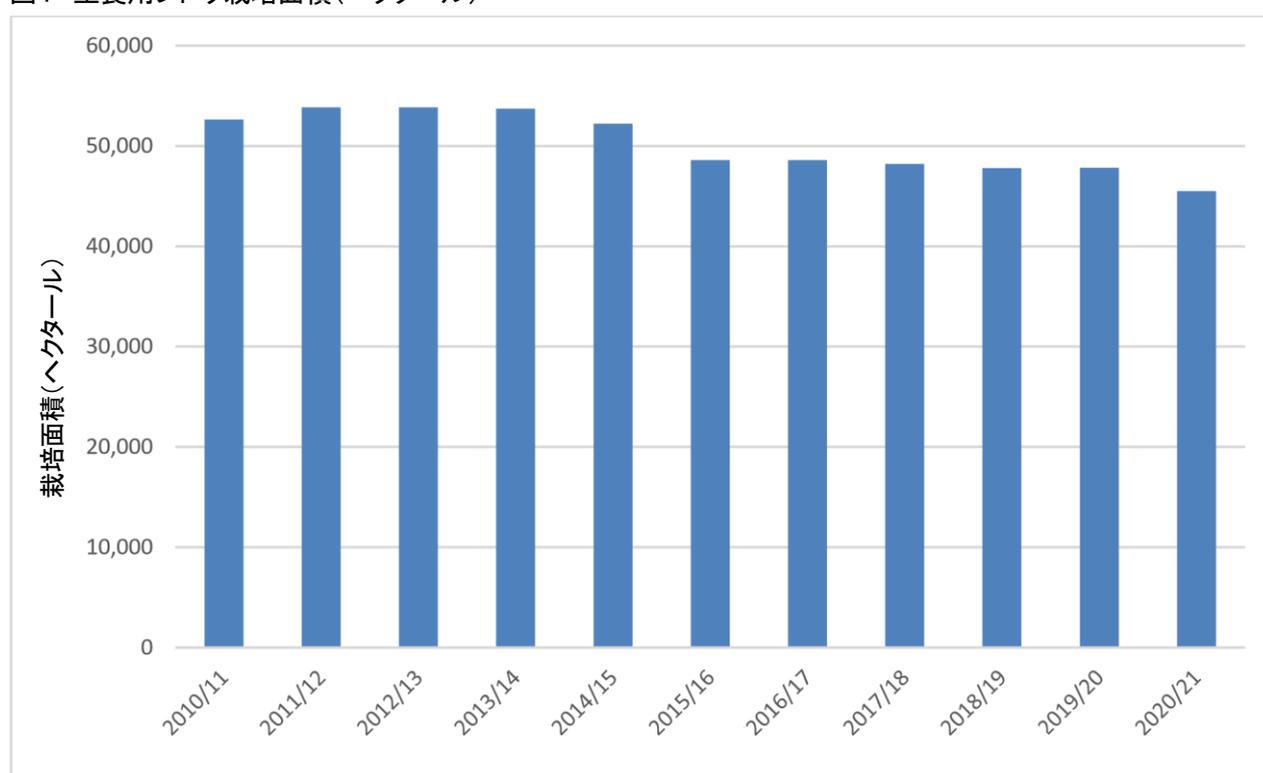
単位：ヘクタール

| 州      | 栽培面積   | シェア(%) | 増減率* (%) |
|--------|--------|--------|----------|
| アタカマ   | 6,836  | 15%    | -11.8%   |
| コキンボ   | 8,159  | 18%    | -6.5%    |
| バルパライソ | 9,970  | 22%    | -10.9%   |
| 首都     | 6,848  | 15%    | -14.1%   |
| オイギンス  | 13,435 | 30%    | 8.7%     |
| マウレ    | 241    | 1%     | 16.7%    |
| 合計     | 45,489 | 100%   | -4.9%    |

\*増減率は3年毎に計測される。表には入手可能な直近の数値を掲載した。

出典：農業省農業政策研究所(ODEPA)のデータに基づく

図1 生食用ブドウ栽培面積(ヘクタール)



出典：ODEPA、2021

### 消費

当事務所は、2021/22年度の消費量を、生産量の20.4%に相当する16万5,300トンと推計する。これは、生食用ブドウの国内消費向け出荷量の増加によるもので、2020/21年度の消費量よりも18%多い。2020/21年度は、生食用ブドウの生産量及び国内消費向け出荷量の減少により、国内消費量は減少した。

### 貿易

2020/21年度の生食用ブドウの輸出量は13.1%減の52万5,419トン(8月までのデータ)であった。この輸出量の減少は、主に2021年1月の降雨被害により生産量が減少したためであった。生食用ブドウ輸出額は10.8%減の8億2,610万ドルであった。さらに、輸出されたブドウは良好な状態で輸出市場に到着せず、到着後に腐敗した多くのブドウを取り除いて再包装しなければならなかったため、輸出業者の収入が大幅に減少した。

表3 チリの生食用ブドウ輸出量 (トン)

| 輸出先     | 販売年度    |         |        | 11月～8月               |                      |        |
|---------|---------|---------|--------|----------------------|----------------------|--------|
|         | 2018/19 | 2019/20 | 増減率(%) | 2019年11月～<br>2020年8月 | 2020年11月～<br>2021年8月 | 増減率(%) |
| 世界合計    | 654,516 | 604,561 | -7.6%  | 604,543              | 525,419              | -13.1% |
| 米国      | 295,149 | 275,495 | -6.7%  | 275,495              | 254,811              | -7.5%  |
| 中国      | 106,391 | 111,819 | 5.1%   | 111,819              | 78,117               | -30.1% |
| オランダ    | 29,946  | 35,308  | 17.9%  | 35,308               | 28,030               | -20.6% |
| 韓国      | 41,129  | 24,491  | -40.5% | 24,474               | 23,222               | -5.1%  |
| 英国      | 24,641  | 26,606  | 8.0%   | 26,606               | 18,175               | -31.7% |
| ロシア     | 11,318  | 11,002  | -2.8%  | 11,002               | 14,038               | 27.6%  |
| 日本      | 13,548  | 12,308  | -9.2%  | 12,308               | 11,535               | -6.3%  |
| カナダ     | 15,659  | 16,398  | 4.7%   | 16,398               | 10,892               | -33.6% |
| スペイン    | 9,073   | 7,903   | -12.9% | 7,903                | 9,489                | 20.1%  |
| インドネシア  | 8,004   | 2,098   | -73.8% | 2,098                | 9,392                | 347.7% |
| メキシコ    | 15,839  | 13,709  | -13.4% | 13,709               | 9,112                | -33.5% |
| エクアドル   | 8,212   | 9,625   | 17.2%  | 9,625                | 9,011                | -6.4%  |
| サウジアラビア | 6,650   | 7,052   | 6.0%   | 7,052                | 4,302                | -39.0% |
| ポルトガル   | 4,789   | 3,805   | -20.5% | 3,805                | 3,888                | 2.2%   |
| ブラジル    | 9,170   | 4,943   | -46.1% | 4,943                | 3,873                | -21.6% |
| その他     | 54,998  | 41,999  | -23.6% | 41,998               | 37,532               | -10.6% |

データの出典: Trade data monitor, LLC

表4 チリの生食用ブドウ輸出額(米ドル)

| 輸出先     | 販売年度        |             |        | 11月～8月               |                      |        |
|---------|-------------|-------------|--------|----------------------|----------------------|--------|
|         | 2018/19     | 2019/20     | 増減率(%) | 2019年11月～<br>2020年8月 | 2020年11月～<br>2021年8月 | 増減率(%) |
| 世界合計    | 952,780,911 | 926,221,114 | -2.8%  | 926,188,714          | 826,181,079          | -10.8% |
| 米国      | 393,976,002 | 382,436,706 | -2.9%  | 382,436,706          | 366,608,621          | -4.1%  |
| 中国      | 154,732,212 | 186,676,292 | 20.6%  | 186,676,292          | 131,502,991          | -29.6% |
| 韓国      | 84,320,451  | 56,577,540  | -32.9% | 56,545,140           | 53,868,037           | -4.7%  |
| オランダ    | 36,191,878  | 45,295,153  | 25.2%  | 45,295,153           | 37,904,086           | -16.3% |
| 英国      | 40,549,099  | 44,060,556  | 8.7%   | 44,060,556           | 29,549,365           | -32.9% |
| カナダ     | 23,179,142  | 24,915,288  | 7.5%   | 24,915,288           | 23,442,866           | -5.9%  |
| ロシア     | 16,508,118  | 16,744,751  | 1.4%   | 16,744,751           | 20,961,924           | 25.2%  |
| 日本      | 20,758,452  | 22,521,017  | 8.5%   | 22,521,017           | 20,838,279           | -7.5%  |
| スペイン    | 14,052,125  | 13,217,362  | -5.9%  | 13,217,362           | 16,293,201           | 23.3%  |
| エクアドル   | 12,679,786  | 15,163,986  | 19.6%  | 15,163,986           | 14,451,363           | -4.7%  |
| メキシコ    | 25,053,079  | 22,721,460  | -9.3%  | 22,721,460           | 14,074,790           | -38.1% |
| インドネシア  | 11,737,714  | 3,137,405   | -73.3% | 3,137,405            | 13,779,387           | 339.2% |
| サウジアラビア | 10,472,567  | 11,138,919  | 6.4%   | 11,138,919           | 7,059,559            | -36.6% |
| 台湾      | 7,452,574   | 9,883,607   | 32.6%  | 9,883,607            | 6,351,691            | -35.7% |
| ポルトガル   | 6,195,353   | 5,368,346   | -13.3% | 5,368,346            | 6,020,558            | 12.1%  |
| その他     | 94,922,359  | 66,362,726  | -30.1% | 66,362,726           | 63,474,361           | -4.4%  |

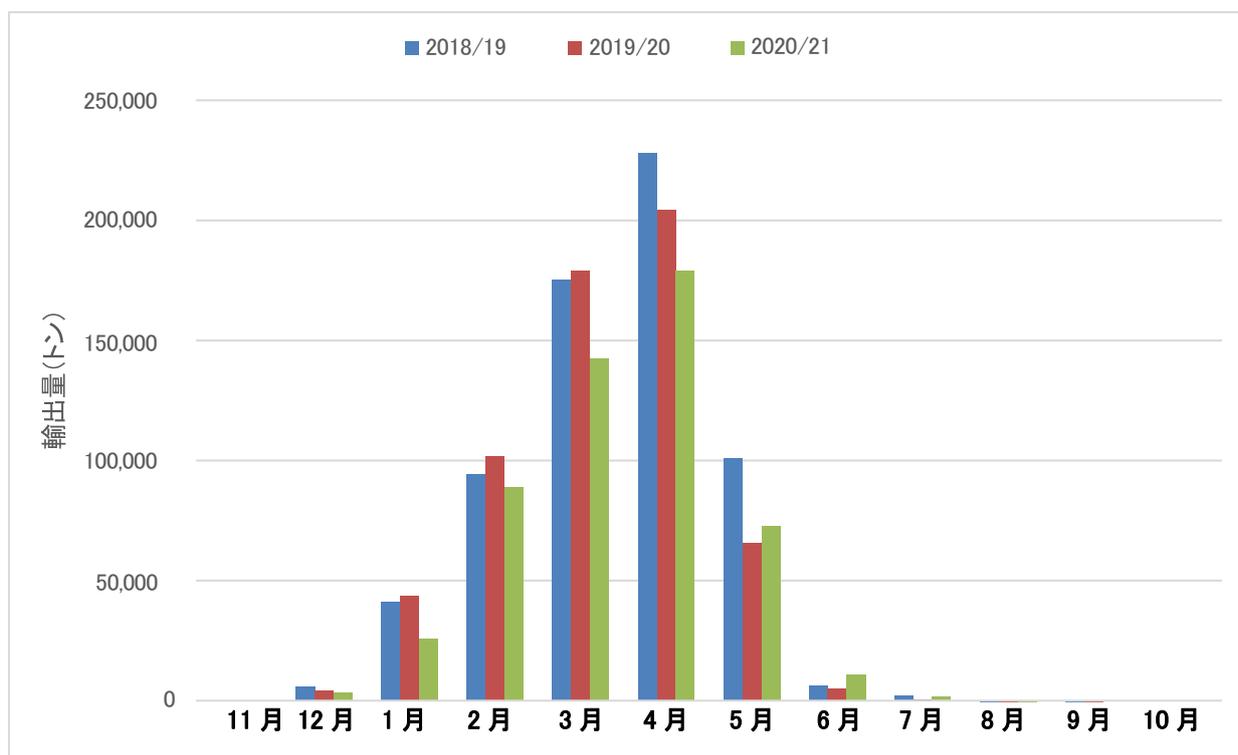
データの出典: Trade data monitor, LLC

当事務所は、2021/22年度の生食用ブドウ輸出量を2020/21年度に対して22.8%増の64万5千トンと推計する。この推計では、2021年1月の降雨による生産量の減少が反発することを前提としている。

米国は引き続き、チリの生食用ブドウ輸出の48.5%を占める主要輸出市場である。2020/21年度の米国向け生食用ブドウ輸出量は、2019/20年度に比べて7.5%少ない、25万4,811トンであった(表3参照)。

中国はチリの生食用ブドウの第2の市場であり、2020/21年度の輸出量は2019/20年度より30.1%少ない78,117トンであった。この減少は、降雨により果実の品質が低下したためである。この年の果実の多くは、中国のようなチリから遠い市場に輸送した場合、到着時に全体的な品質と必要な堅さを維持できる品質ではなかった。

図2 チリの生食用ブドウ月別輸出量(トン)



出典: 貿易データモニター、LLC

## 政策

チリ農業省の農畜産局(SAG)は、2021/22年度ホソバヒメハマキ(*Lobesia botrana*)の防除のための全国事業を実施中である。SAGによる防除対策は、チリの生食用ブドウ産地のすべての生食用ブドウ(*Vitis vinifera*)に必須で適用される。

ホソバヒメハマキは深刻な懸念をもたらす害虫で、米国では2016年に根絶された。チリは現在、臭化メチル燻蒸を行って生食用ブドウを米国に輸出している。現在の臭化メチル燻蒸は、果実の品質と棚持ちを著しく低下させる。チリ農業省は2014年、ホソバヒメハマキ防除根絶計画を提示し、米国農務省にチリの特定の地域(コキンボ州及びアタカマ州)からの生食用ブドウのシステムアプローチによる輸入を検討するよう求めた。システムアプローチの下では、チリ産生食用ブドウはより良い状態で市場に到着する。システムアプローチの下で米国に生食用ブドウを輸出するとのチリの要求は、米国農務省動植物検疫局(APHIS)の評価待ちとなっている。

## 121. ニュージーランドの落葉果実事情(要約とリンゴの輸出入)

米国農務省GAINレポート(2020年10月28日)

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「落葉果実年次報告書」の中のエグゼクティブサマリー及びリンゴの章の輸出入の項と図表を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

また、ニュージーランドの販売年度は1月1日から12月31日までであり暦年と一致しますが、本報告書では北半球諸国の報告様式に揃えるため、例えば2022年1月1日から12月31日までを2021/22年度と表示しています。

### 要約

#### 2021/22年度

労働力不足をはじめとする2020/21年度のリンゴ生産に起こった問題は、2021/22年度にも続く可能性がある。このことが生産の増加を抑制すると予想され、2021/22年度の生産量は57万8千トンと予測される。これは2020/21年度に比べて5%多いが、主に収穫面積が増加したためであり、2019/20年度に記録された過去最大の収穫量を大幅に下回っている。輸出量は7%増の38万トンと予測されるが、これもコロナ禍前に達成した水準を下回る。収穫時の労働力不足は、2021/22年度も続く可能性が高い。輸送コストの増加と輸送スケジュールの信頼性の低下も継続すると見られる。このことは、収穫後の選別・梱包費の増加と相まって、生産者手取りを圧迫する。ニュージーランドのリンゴ産業は主に輸出用のリンゴ生産を目的としているため、ブレイバーン(Braeburn)などの古い品種(市場価格が低いと予想される)の園地では、園主が自主的に収穫作業を減らすか、または全く収穫しない可能性がある。新植は継続しているが、現在は長期的な土地利用の変更に取り組むマオリ族の生産組織が中心となっている。

#### 2020/21年度

2020/21年度のニュージーランドのリンゴの作柄は、当初の予測では過去最高に近い生産量が示唆されていたが、多くの要因が期待をしばませ、現在の推定生産量は前年比6%減の55万3千トンである。降雪を伴う嵐は主要なリンゴ産地で広範囲にわたる被害を引き起こしたが、さらに重大なのは収穫時の深刻な労働力不足による出荷と輸出への影響であった。労働力不足は、コロナ禍のためにニュージーランドの国境が閉鎖された結果であり、太平洋の島しょ国からニュージーランドに入国できる短期労働者の数が制限された。そのため、園主は果樹園の各区画の収穫果実数を制限しなければならず、その結果輸出品質の果実の量が減少した。一部のリンゴ

### ニュージーランドのリンゴ生産需給統計

| リンゴ(生鮮)<br>販売年度<br>ニュージーランド | 2019/2020   |         | 2020/21     |         | 2021/2022   |         |
|-----------------------------|-------------|---------|-------------|---------|-------------|---------|
|                             | 2020年1月～12月 |         | 2021年1月～12月 |         | 2022年1月～12月 |         |
|                             | 農務省公式       | 今回推計値   | 農務省公式       | 今回推計値   | 農務省公式       | 今回推計値   |
| 栽培面積                        | 10,725      | 10,725  | 11,050      | 11,000  | 0           | 11,300  |
| 収穫面積                        | 10,180      | 10,180  | 10,300      | 10,200  | 0           | 10,650  |
| 結果樹本数                       | 0           | 0       | 0           | 0       | 0           | 0       |
| 非結果樹本数                      | 0           | 0       | 0           | 0       | 0           | 0       |
| 果樹本数合計                      | 0           | 0       | 0           | 0       | 0           | 0       |
| 商業的生産量                      | 588,200     | 588,200 | 540,000     | 550,000 | 0           | 575,000 |
| 非商業的生産量                     | 3,000       | 3,000   | 3,000       | 3,000   | 0           | 3,000   |
| 生産量合計                       | 591,200     | 591,200 | 543,000     | 553,000 | 0           | 578,000 |
| 輸入量                         | 600         | 638     | 600         | 500     | 0           | 500     |
| 総供給量                        | 591,800     | 591,838 | 543,600     | 553,500 | 0           | 578,500 |
| 国内消費量                       | 190,600     | 190,638 | 198,600     | 198,500 | 0           | 198,500 |
| 輸出量                         | 401,200     | 401,200 | 345,000     | 355,000 | 0           | 380,000 |
| 市場からの隔離                     | 0           | 0       | 0           | 0       | 0           | 0       |
| 総仕向量                        | 591,800     | 591,838 | 543,600     | 553,500 | 0           | 578,500 |

単位: ヘクタール、千本、トン

収穫面積には非商業的収穫面積の推定値を含む。

は最終的には加工用に収穫されたが、収穫されずに樹上に残された果実もあった。熟したリンゴの約8%が労働力不足の直接的な結果として収穫されなかったとの報告がある。このため、2020/21年度の輸出量は35万5千トンで前年に比べ12%減少するものと予測される。この状況は加工を後押しし、加工用を含む国内総消費量は2019/20年度より4%多い19万8,500トンと推定される。ニュージーランド国内の生鮮消費量は、毎年比較的安定していると見られる。

2020/21年度のニュージーランドのリンゴ収穫面積の推計値は、2019/20年度よりわずかに20ヘクタール多い10,200ヘクタールに改訂された。成績の悪い園地の果樹が収穫前に引き抜かれたり、一部の園地が全く収穫されなかったりしたという報告がある。

## ナシ

ナシについては、2021/22年度のニュージーランドの総生産量は11,950トンで、2020/21年度の推定値10,650トンに比べ12%増加するものと予測される。2021/22年度の収穫面積は351ヘクタールと予想され、2020/21年度の改訂推定面積330ヘクタールに比べ6%増加すると見込まれる。2020/21年度の収量は、リンゴと同じ理由で伸び悩んだ。2021/22年度には生産量がいくらか持ち直す可能性があるが、労働力不足は依然として生産を制約する可能性が高い。2021/22年度のナシの輸出量は、2020/21年度を28%上回る2,750トンと見込まれる。2021/22年度の輸入量は、国内産果実の供給量の増加により、2020/21年度の推定4,500トンから3,800トンに減少するものと見込まれる。

| ニュージーランドの品種別落葉果実栽培面積(ヘクタール) |       |       |       |       |       |       |        |        |        |        |
|-----------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 品種名\収穫の暦年                   | 2012  | 2013  | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018   | 2019   | 2020   | 2021   |
| Braeburn                    | 1589  | 1504  | 1381  | 1352  | 1303  | 1239  | 1199   | 1111   | 964    | 851    |
| Cox                         | 203   | 178   | 150   | 134   | 121   | 111   | 101    | 81     |        |        |
| Cripps Pink/Pink Lady       | 446   | 459   | 443   | 461   | 523   | 562   | 606    | 655    | 717    | 766    |
| Dazzle                      |       |       |       |       |       |       |        |        | 280    | 452    |
| Envy                        | 272   | 285   | 315   | 346   | 416   | 544   | 610    | 733    | 856    | 933    |
| Fuji                        | 934   | 906   | 832   | 837   | 858   | 831   | 854    | 848    | 822    | 793    |
| Granny Smith                | 256   | 246   | 240   | 219   | 233   | 231   | 247    | 230    | 250    | 256    |
| Honey Crisp                 |       |       |       |       |       | 141   | 152    | 140    | 139    | 147    |
| Jazz                        | 943   | 905   | 869   | 855   | 825   | 821   | 807    | 844    | 868    | 817    |
| Koru                        |       |       |       |       |       | 120   | 150    | 160    | 150    | 167    |
| Pacific Beauty              | 120   | 113   | 92    | 84    | 83    | 71    | 56     | 49     |        |        |
| Pacific Queen               | 351   | 456   | 622   | 730   | 827   | 878   | 880    | 862    | 859    | 856    |
| Pacific Rose                | 396   | 390   | 379   | 364   | 365   | 342   | 321    | 260    | 227    | 172    |
| Pacific 系品種小計               | 867   | 959   | 1,093 | 1,178 | 1,275 | 1,291 | 1,257  | 1,171  | 1,086  | 1,028  |
| Rockit                      |       |       |       |       |       |       |        |        | 272    | 322    |
| Royal Gala & sports         | 2369  | 2386  | 2337  | 2410  | 2549  | 2604  | 2708   | 2859   | 2853   | 2974   |
| その他の品種                      | 385   | 484   | 709   | 790   | 707   | 643   | 759    | 972    | 817    | 883    |
| リンゴ合計栽培面積                   | 8,264 | 8,312 | 8,369 | 8,582 | 8,810 | 9,138 | 9,450  | 9,804  | 10,074 | 10,389 |
| ナシ合計栽培面積                    | 441   | 448   | 403   | 407   | 403   | 371   | 361    | 375    | 322    | 332    |
| 品種未登録面積                     |       |       | 383   | 320   | 384   | 395   | 409    | 425    | 442    | 447    |
| 合計                          | 8,705 | 8,760 | 9,155 | 9,309 | 9,597 | 9,904 | 10,220 | 10,604 | 10,838 | 11,168 |
| Braeburn の割合(%)※            | 19.2% | 18.1% | 16.5% | 15.8% | 14.8% | 13.6% | 12.7%  | 11.3%  | 9.6%   | 8.2%   |
| Royal Gala の割合(%)※          | 28.7% | 28.7% | 27.9% | 28.1% | 28.9% | 28.5% | 28.7%  | 29.2%  | 28.3%  | 28.6%  |

出典: NZAPI Survey

注: 品種未登録面積は、現在輸出向け果実を生産していない栽培面積を含む。

訳注: ※はリンゴの合計栽培面積に占める割合

## 輸出

### 2021/22年度

当事務所は、2021/22年度の輸出量を38万トンと予測しており、これは前年比約7%増である。生産の増加により輸出も増加するものの、この水準は依然としてコロナ禍以前に達成した記録を大幅に下回っている。これは、収穫労働力の不足とそれによる輸出品質の果実の減少が起こる可能性が高いためである。

### 2020/21年度

2020/21年度のリンドの輸出量は2019/20年度より12%少ない35万5千トンと推計される。これは、収穫期の労働力不足による推定生産量の減少の結果であり、一部のリンドは輸出に最適な熟度で収穫することができなかったため、後日加工用に収穫されたか、または樹上に放置された。今年これまで(1~9月)のリンド輸出量は35万2,535トンで、昨年同期に比べ約11%少ない。輸出業者の多くは8月または9月上旬に出荷を完了したと伝えられており、今年の輸出量は最終的に2019/20年度を大幅に下回る可能性が高い。

ニュージーランドのリンド輸出は多様化しており、アジア、欧州連合(EU)、英国、米国、中東への出荷が多い。2020/21年度の輸出の減少は、特にEU向け(26%減)、ロシア向け(27%減)、英国向け(18%減)で顕著である。一方、インドへの出荷は25%増加した。インドのリンド市場は成熟してきており、高品質のリンドの高い価格に対して安定的な支払いができるようになってきているという感触がある。

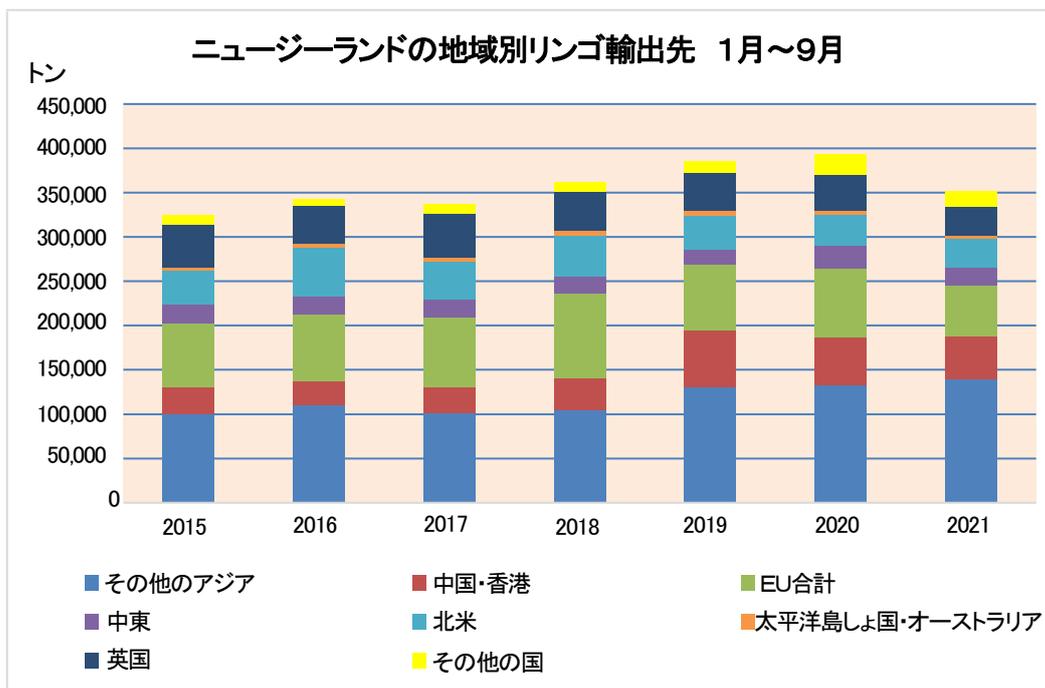
伝えられるところによれば、市場価格自体は堅調で、現に今年これまで(1~9月)の米ドル換算の1トン当たり平均価格(FOB)は18%上昇した。しかし、ニュージーランドドルは米ドルに対して高くなっており、このことが市場価格の上昇を吸収して、ニュージーランドドルで評価したFOBは4%の上昇にとどまっている。出荷の終盤で市場での果実の損失が例年よりも大きいとの報告があるので、最終的な収益では、価格上昇分を完全に失う可能性がある。梱包費用の増加と相まって、生産者手取りは2019/20年度ほど良くない可能性がある。

| ニュージーランドの生鮮リンド輸出統計 |                |                |                |                |                |                |                |                |
|--------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 輸出先国               | 暦年別輸出数量(トン)    |                |                |                |                | 1月~9月(トン)      |                |                |
|                    | 2016           | 2017           | 2018           | 2019           | 2020           | 2020           | 2021           | 増減%<br>2021/20 |
| EU合計               | 75,040         | 78,310         | 96,280         | 74,496         | 77,947         | 77,947         | 57,978         | -25.62         |
| 英国                 | 42,925         | 49,237         | 44,665         | 43,299         | 39,449         | 39,449         | 32,443         | -17.76         |
| 中国                 | 17,491         | 16,586         | 22,171         | 45,015         | 38,406         | 37,938         | 35,674         | -5.97          |
| ベトナム               | 8,316          | 13,311         | 18,149         | 25,874         | 31,965         | 30,645         | 32,389         | 5.69           |
| 米国                 | 48,625         | 38,220         | 40,462         | 33,883         | 28,494         | 28,494         | 26,554         | -6.81          |
| 台湾                 | 32,183         | 23,673         | 22,437         | 20,858         | 26,901         | 26,854         | 29,050         | 8.18           |
| タイ                 | 24,889         | 23,605         | 18,654         | 32,890         | 23,406         | 22,688         | 19,887         | -12.35         |
| インド                | 13,253         | 9,667          | 25,787         | 17,068         | 22,272         | 22,025         | 27,542         | 25.05          |
| ロシア                | 5,757          | 8,168          | 8,152          | 8,992          | 21,443         | 21,443         | 15,611         | -27.2          |
| アラブ首長国連邦           | 17,785         | 18,178         | 15,424         | 14,198         | 19,141         | 18,275         | 15,471         | -15.34         |
| 香港                 | 10,183         | 13,416         | 14,074         | 19,010         | 16,062         | 15,393         | 12,773         | -17.02         |
| その他                | 50,466         | 52,559         | 43,134         | 55,359         | 55,702         | 52,951         | 47,163         | -10.93         |
| <b>世界合計</b>        | <b>346,913</b> | <b>344,930</b> | <b>369,389</b> | <b>390,942</b> | <b>401,188</b> | <b>394,102</b> | <b>352,535</b> | <b>-10.55</b>  |
| 平均 FOB 価格 米ドル/トン   | \$1,414        | \$1,416        | \$1,449        | \$1,458        | \$1,417        | \$1,409        | \$1,666        | 18.24          |
| 平均 FOB 価格 NZドル/トン  | \$2,039        | \$1,998        | \$2,066        | \$2,198        | \$2,263        | \$2,253        | \$2,343        | 3.99           |
| 平均 FOB 価格 NZドル/箱※  | \$36.71        | \$35.96        | \$37.19        | \$39.56        | \$40.73        | \$40.55        | \$42.17        | 3.99           |

出典: TDMLLB

果実の大部分は出荷時には価格を決めずに販売委託され、税関書類の価格は出荷時の最善の推定値であるため、FOB価格は参考指標であることに注意されたい。

訳注: ※は一箱18kg(TCE: Tray Carton Equivalent)当たり



出典: Trade data monitor LLB

元々はコロナ禍によって引き起こされた輸送の遅れとスケジュールの突然の変更は、引き続き広く発生している。様々な出荷経路に適したタイプのコンテナを十分な数だけ手配することが難しくなっている。出荷施設では時として、出荷・配送スケジュールに合う輸送手段がそれしかないという理由で、様々なコンテナや輸送業者の仕様に合わせて梱包を変更する必要が生じている。輸出業者は、市場への円滑で計画的な果実の供給を確保できないことに悩まされている。時には輸送の遅れが卸業者や小売業者での品切れを引き起こし、その後短い間隔で2回続けて入荷するなどして、在庫管理の問題を引き起こし、ひいては果実の品質上の問題を起こす可能性が生じている。

## 輸入

ニュージーランドでは、CA冷蔵施設がよく整備されており、次の収穫の数ヶ月前まで国内産の果実を貯蔵できるため、リンゴの輸入は非常に限られている。2020/21年度の9月までの輸入量は、前年同期を100トン下回っている。その結果、2020/21年度の推定合計輸入量は500トンに減少し、2021/22年度の輸入量も同じく500トンと予測される。

| ニュージーランドの生鮮リンゴ輸入統計 |              |            |            |            |            |            |            |
|--------------------|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 原産国                | 暦年別輸入数量 (トン) |            |            |            |            | 1月～9月(トン)  |            |
|                    | 2016         | 2017       | 2018       | 2019       | 2020       | 2020       | 2021       |
| 米国                 | 281          | 414        | 152        | 467        | 489        | 183        | 134        |
| ニュージーランド(再輸入)      | 42           | 43         | 0          | 150        | 149        | 149        | 86         |
| ポーランド              | 0            | 0          | 12         | 0          | 0          | 0          | 0          |
| イタリア               | 0            | 25         | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          |
| <b>世界合計</b>        | <b>323</b>   | <b>482</b> | <b>164</b> | <b>617</b> | <b>638</b> | <b>332</b> | <b>220</b> |

出典: Trade data monitor LLB

## 122. 世界のオレンジ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年10月29日)

今年のオレンジ出荷シーズンは、特にヨーロッパ市場でスペイン産と南アフリカ産の出荷時期が大きく重なるなど、様々な生産国が輸出市場で競い合う展開となった。中国では、貿易関係の問題のためにオーストラリア産オレンジが港に滞留し、南アフリカ産に負けているようだ。



### オランダ：スペイン産と域外産の競合

今週、最初のスペイン産ネブリーナオレンジ(早生ネーブル)がオランダに到着する。オランダのある輸入業者は「現在、南アフリカ産のほかアルゼンチン産やペルー産のオレンジもまだ大量に市場に出回っている。それらの価格は11～13ユーロである」と言う。

### ドイツ：南アフリカ産が市場を支配

ドイツの市場では今シーズン、オーストラリア産ブラッドオレンジは3.50ユーロ/kgで販売された。イタリア産のネブリーナオレンジは、非常に少量しか出回らなかった。それ以外では、南アフリカ産が市場を支配し、価格は大部分において前年の水準を下回った。北ドイツの異なる地域の2つの卸売業者は、ともに主として南アフリカ産オレンジを果汁製造用に販売したと言う。しかし、品質はスペイン産に比べてかなり低い。

北ドイツの別の卸売業者もコロンビア産とペルー産のオレンジを販売している。貨物運賃と配送費用が高いため、それに合わせて価格を改定する必要があった。この業者はまた、オレンジの需要が徐々に減少していると言う。第44週(11月初め)にスペインの出荷シーズンが始まると、現在支配的な南アフリカ産に取って代わると見られる。

### イタリア：今季のイタリア産柑橘類は量が少なく大玉の予想

イタリアの2021/22年産柑橘類の出荷シーズンはまだ始まっていない。シチリア島のカタニーア平野では悪天候による被害があった。出荷量が少なくとも30%減少することが予想される。この他、プーリア州では、春の降霜のため、一部の柑橘類で最大60%の損失が出る可能性がある。着果数が少なく、そのため全般的に大玉である。今季のイタリア産柑橘類の課題としては、人手不足、プラスチック資材や包装の価格上昇、エネルギーコストの上昇等がある。シチリア島の出荷シーズンは11月にブラッドオレンジで始まる。12月の初めにブラッドオレンジの収穫が始まり、最後の晩生品種のオレンジの出荷は2022年夏まで続く。

データによると、2021年9月までの1年間にイタリアの世帯の76.2%がオレンジを少なくとも1回購入した。これは、2020年の78.9%と比較して2.7ポイントの減少である。イタリアの世帯がオレンジを購入する頻度は安定しており、前年と同じ平均10.2回であった。オレンジの購入1回あたりの平均支出額は2.95ユーロ(昨年に比べてわずかに減少)で、1回当たりの購入量は平均2.24kgとかなり多い。イタリアでは、2021年9月までの1年間に470

万世帯(オレンジ購入世帯全体の23.5%)が有機オレンジを購入した。

### スペイン: 南アフリカ産との競合で低価格

スペインでは、今年のオレンジシーズン最初のネブリーナ品種の出荷が始まっている。オレンジは、柑橘類の中で最も出荷量が多く、今シーズンのオレンジの出荷量は0.4%増の351万1,099トンと予測され、柑橘類の総出荷量の52%を占めると見込まれる。

すでにスペイン産オレンジが収穫されているが、ヨーロッパ市場では南アフリカ等南半球産の在庫が多いため、小売業者は現在、昨年よりもはるかに少ないネブリーナオレンジを通常よりもはるかに低い価格で購入しており、売気は活気が無い。ヨーロッパの小売業者や輸入業者は、南アフリカ産オレンジを買い込み在庫を抱えている。南アフリカ産の入荷が大幅に遅れたため、スペイン産と大きく競合し、この競合は通常よりも3週間長く続く可能性がある。現時点で、オレンジの生産者価格は平均0.15ユーロ/kgで、今年のこの時期のほぼ半値である。同時に、電気、肥料、包装資材、燃料などの生産コストが大幅に上昇している。

2016年6月に発効したEUと南アフリカとの貿易協定は、今年見直されることとなっている。現在の協定では、南アフリカ産オレンジは6月1日から11月30日まで(以前は10月15日まで)ヨーロッパ市場に入荷することができ、関税は段階的に引き下げられ、2025年に無税となることとなっている。生産者団体は、協定のこの条項がスペイン、ひいてはヨーロッパの柑橘類セクターに及ぼす影響は、経済的及び植物衛生上の両方の観点から、非常に悪い結果をもたらしていると主張している。それらの団体は、輸入期間を再び短縮し、10月15日からの課税を復活させるよう求めている。

### 南アフリカ: ワクチンはビタミンCが豊富なオレンジの需要を減らした

現在、北部の産地のオレンジ園は着果期にある。開花が良好だったので、着果数が多いかも知れないが、次のシーズンを語るのはまだ早い。今シーズン最後のバレンシアオレンジが西ケープ州から出荷されている。

今季のオレンジ出荷シーズンは、素晴らしかった昨年とは大きく異なっていた。エジプト産が市場に長く出回ったため販売期間が短縮されたことと世界経済が不調なことから、南アフリカにとって非常に困難な季節であった。バレンシアオレンジは推定5,510万箱が輸出されると見込まれ、第41週の終わり(10月8日)までに5,470万箱が梱包された。ネーブルオレンジは今シーズン、推定2,720万箱(15kg/箱)が出荷された。

昨年は北半球からのオレンジの出荷が早く終わったため市場が品薄であり、このことが2020年の輝かしい出荷シーズンの背後にある主な要因であった。今年は、市場は満杯で、南アフリカの生産者はエジプト産バレンシアの出荷期間の長さには驚いた。エジプト産は7月になっても8月になっても市場に出回り、市場関係者らはこのため南アフリカ産の販売期間を最大6週間短縮したと言う。

物流は大きな制約であり、サプライチェーンには2~4週間の遅延が生じた。

市場関係者らは、オレンジの消費量と売り上げは昨年ほど多くなかった、ビタミンCと柑橘類のブームは終わった、ワクチンの投入で消費者の危機感が薄らいだと語った。

### 中国: オーストラリア産オレンジの輸入が減少

中国には独自のオレンジ生産があるが、中国産ガンナンオレンジ(赣南脐橙: ネーブルの一種)の収穫はまだ始まっていない。

今年の輸入オレンジ市場では、収量が多かった南アフリカ産とペルー産の入荷量が増加した。全体の入荷量も前年同期より多かった。このことは、オーストラリア産オレンジの輸入にも影響を与えた。以前オーストラリア産オレンジを輸入していた一部の業者は、南アフリカ産オレンジに切り替えた。ある業者は「世界的な処理能力不足による港湾の混雑に加えて、中国税関はオーストラリア産果実の全量検査を実施している。検査と消毒などの検疫処理に約10日かかる。このため、オーストラリアから来たコンテナが市場に入るまでに深刻な遅れが生じている。弊社は2カ月前にオーストラリアの産地にオレンジを発注したが、この貨物はまだ港にある。他方、コンテナの到着が遅いことで市場での荷動きが生じ、価格が保たれており、ある程度の安定化効果がある。今シーズンの中国市場でのオーストラリア産オレンジの販売は総じてあまり良くない」と言う。

## 北米：北米産オレンジは生産減で価格が上昇

オレンジの供給は全般的に力強いが、米国では今年は供給量が少ないようだ。

フロリダに拠点を置くある生産者は「今は早生品種を出荷している。10月～12月の早生品種はHamlin、Early Gold、Parson Brownの3つがある。天候に恵まれたので、今年のフロリダ州産が良好なのを邪魔するものは何もない」と言う。(以下、北米の項でカリフォルニア州を除き「」はこの生産者の発言)

この生産者は現在、主として搾汁業者に出荷しており、一部は店内搾汁用の袋詰めを出荷している。搾汁用の要件がブリックス値10以上であることを踏まえ、その用途向けには現在Early Gold品種を出荷している。

国内では、フロリダ州は今シーズン出荷量が少ない。「カリフォルニア州のバレンシアの出荷シーズンが終わる時期だが、まだいくらか市場に出ている。しかし、以前よりは少し早く終了しそうだ。」その上テキサス州でも、2021年初頭の低温のため、出荷量はそれほど多くないと予想されている。輸入に関しては、今年は南アフリカ産ミッドナイト品種(Midknight:南アフリカ産のバレンシアの一種)が入荷し、南米産は輸入量が多いと言われている。

今シーズンの需要は高いと見られる。「テキサス州の低温も理由のひとつとして挙げられる。中西部では、昨年より少し早く需要の高まりを見せている。北東部と南東部の需要量は昨年と同程度と見られる。」

一方、世界の全般的な需要の強さもある。「今、世界中でオレンジの需要が高まっている。ブラジル、カリフォルニア、メキシコはすべて減収しており、フロリダ州も作柄が悪く、テキサス州では低温があった。」

これらすべてのことは、昨年に比べてわずかに価格を押し上げている。

2021年6月15日～9月1日に実施された2021/22年度ネーブルオレンジ客観的評価調査の結果によると、2021/22年度のカリフォルニア州産ネーブルの最初の出荷予測は7千万箱で、前年比14%減少した。

カリフォルニア州に拠点を置くある生産者兼出荷業者は、夏の過度の暑さや干ばつも生産量の低下予測の一因だとしつつ、「昨年のネーブルの出荷期間中には、次期作の開花期になっても果実が多く残っていた。開花期に前作の果実が残っていると、新しい花がうまく保持できない傾向がある」と言う。

供給は強い需要を満たす必要があるが、輸入果実の在庫、混乱したサプライチェーン及び港湾の遅延が、需要に織り込まれる可能性がある。

国内では、カリフォルニア州産マンダリンなど他の柑橘類も、今シーズンは出荷量が少ないと見られ、ネーブルの減収をカバーできないと見込まれる。価格も上昇する可能性が高い。

## オーストラリア：オレンジ輸出業者の新しいチャンス

米国農務省がクイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州の内陸部及び西オーストラリア州からの生鮮柑橘類の輸入要件を改訂するとの最近の発表により、オーストラリアのオレンジ生産者が米国に輸出するチャンスが増えるかも知れない。これまで、柑橘類の米国向け輸出は、ニューサウスウェールズ州のリベリーナ地域、南オーストラリア州のリバーランド地域及びビクトリア州からニューサウスウェールズ州にかけてのサンレイシア地域に限られていた。オーストラリア柑橘協会のネイサン・ハンコックCEOは、「生産者は、新植した園地が成園化するので、輸出市場の多様化を目指しており、これは歓迎すべきニュースだ。米国は以前からオーストラリアの南東部地域からの有力な輸出市場であり、我々は他の地域からの果実にもチャンスがあると感じている」と述べた。同CEOは、上記の決定は8月に発表されたが、貿易の開始は実施計画に関して政府間で合意することが条件であり、それはまだ協議中であると警告した。

一方、ある中国系の輸入業者は、オーストラリア産のオレンジは中国市場で今年は近年ほど順調にいったいないと指摘し、「今年のオーストラリア産オレンジの品質は特に良いわけではない。それに加えて、中国とオーストラリアの貿易関係の問題がある。中国の多くの輸入業者は、今シーズンオーストラリアからオレンジを輸入することを躊躇している。輸入量は近年に比べてかなり少ない」と語った。

## 123. 米国の有機農産物 パンデミック後の成長要因

The Packer電子版(2021年11月1日)

コロナ禍は有機農産物の需要に非常に良い影響を与えたが、ラボバンク(オランダに本拠地を置く農業金融機関)の最近の研究は、その需要急増の背後にある理由と次に何が起こるかを検討している。

ラボバンクの果実・野菜・ナッツ類のアナリストであるアルムハナド・メルヒム氏は、「北米の有機農産物の現状: パンデミック後の動向と新たな問題の検討」と題するレポートを10月に執筆した。

報告書の中で同氏は、パンデミックの影響が弱まった後、有機食品の小売売上高の成長率が低下する可能性が高い理由を検討した。なお、同氏の分析によると(成長率が低下しても)有機食品の小売売上高はパンデミック前よりも高止まりする。

### パンデミックによる有機食品ブーム

小売データによると、2020年の有機食品の小売売上高は前年比13%増の565億ドルであった。メルヒム氏は、パンデミックの間のいくつかの要因が、有機の食品や青果物の消費を促進したと言う。

危機に関連して有機食品の消費に拍車がかかった例としては、BSE(狂牛病)危機が挙げられる。メルヒム氏は、「これらの危機は、食品の安全性に関する消費者の認識に影響を与え、消費者は自身が消費する食品に対するリスク感を軽減しようとする」と言う。BSE危機の間、有機牛肉の需要が急増した。

同氏は、「健康危機に直面した際にはこうした需要の急増が予想され、それは方程式の一部である」と言う。

他の要因は、レストランを閉鎖し人々を家に閉じ込めたロックダウンなど、パンデミックの余波として取られた措置であった。同氏は、米国人に支払われたパンデミック救済金は、可処分所得の増加を生み出し、有機食品の購入の増加にもつながった、さらに、オンラインショッピングは有機食品を消費する者に新しい選択肢を提供したと言う。

メルヒム氏は、今年はフードサービスの再開と多くの米国人がオフィスに復帰したことによって、有機青果物の需要が減速したと言う。報告書は、それでもパンデミック中の習慣が持続するため、有機青果物の需要は高止まりが続くと予想している。

家庭での調理を好む傾向とそのための有機食材の購入は、持続する人が多いと見られる。同氏は、一部の人はあらためて気づいた有機農産物に対する思い入れを受け止め、それがパンデミックの後も続くだろうと言う。

### 輸入の重要性

ラボバンクの報告書の重要な要素の1つは、輸入有機農産物の役割の増大についての認識である。

従来米国に有機農産物を出荷してこなかった中南米諸国からの輸入が増加している。ラボバンクの報告書によると、2016年以降、米国以外で認定された有機事業の数は37%増加し、150カ国以上で約17,000件に達した。報告書は、これらの事業の約半分が生鮮果実・野菜の供給者によるものだとしている。

米国の有機農産物市場における米国産以外の出荷量は、2016年にはわずか3%であったが、2020年にはメキシコ産を主体に総出荷量の11%に増加した。

ラボバンクの報告書によると、メキシコの有機青果物出荷量全体に占める米国への出荷量は、過去3年間の平均13%に対し、2021年はその途中までで46%と驚異的な割合を占めている。

報告書によると、米国の有機農産物輸入量の半分近くがメキシコから来ており、メキシコは現在、有機のブルーベリー、ブドウ、イチゴ、バナナ、マンゴー、多くの野菜について、また最近ではアボカドとレモンも加え、米国市場における主要供給国のひとつとなっている。

メルヒム氏は、有機青果物の輸入の増加は、有機農産物の出荷に関連するインフラへの投資の増加を反映しているとして、「このインフラはオンラインで、現在利用可能であり、供給を呼び込んでいる」と言う。

同氏はまた、需要が増加し続けるならば、米国による有機果実・野菜の輸入は継続的に成長する可能性が高いと言う。ラボバンクの報告書によると、米国国内の有機農業の成長は近年順調であったが、今は減速している。すなわち、米国国内の有機果実・野菜の出荷量は、2016～2020年には年率22%で増加していたが、2021年上半期には、2020年上半期と比べて15%、2019年上半期と比べて10%減少した。

### 長期的な成長

多くの人々が有機農産物を健康的で安全な食品と関連付けて捉えるため、有機農産物に対する消費者の需要は今後増加する可能性が高い。メルヒム氏は、より大きな問題は方程式の供給側にあると言う。

「より多くの生産者が思い切って有機農業に参入するか？ その決断をさせるために十分な割増価格があるか？ なぜなら、有機栽培は明らかに大変なコストと労力のかかる取組だからだ」と同氏は言う。

同氏は、新たに有機農業に取り組む国内の生産者の伸び悩みに対する答えは、輸入の増加かも知れないと言う。

ラボバンクの報告書によると、一般的に見て、有機果実の価格の割増は近年、有機野菜よりも一層圧迫されている。同氏は「それは、果実の有機生産がかなり拡大し、野菜よりも少しだけ主流になったからだ」と言う。消費者は有機果実に慣れてきており、有機果実は大規模チェーンストアで慣行栽培の農産物に対して価格競争力がある。

報告書は、植物工場における有機栽培の増加がもうひとつの重要な傾向であるとしている。

「(植物工場は)重要かつ独特の有利性を提供することによって、従来型の有機パラダイムに挑戦を続ける」としており、土壌を用いない栽培は、水の使用量が少なく、収量が高く、一年中作物を出荷でき、生産物を迅速に届けることができ、多くの場合フードマイルージも少ないとしている。

また「(植物工場が)収益を改善するためにまだ多くのハードルがある。間接経費とエネルギーコストが非常にかかるかも知れないが、有機と表示することは財務上のリスクを軽減する助けになる」としている。

ラボバンクの報告書は、概して言えば有機農産物の長期的な見通しはポジティブに見え、小売業者と消費者の両方が引き続き成長を推進するとしている。

この点について報告書は、有機青果物の周年供給、すべての食品小売店における有機果実・野菜の入手可能性の拡大、若い消費者の影響力の増大、健康的で持続可能な食品への消費者全般の関心の高まりは、有機農産物の将来的な成長の力強い兆候であるとしている。

筆者: トム・カルスト

## 124. 台湾の落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート(2021年11月3日)

これは米国農務省海外農業局台北事務所(台湾)が作成した「生鮮落葉果実年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

### レポートのハイライト

2020/21年度の台湾におけるリンゴの推計消費量は、輸入量の減少により13万378トンに減少した。2021/22年度のリンゴの輸入量は前年からさらに9千トン減の12万トンと予測される。台湾のリンゴ需要は依然として堅調である。コロナ禍による輸送の遅れと、米国とチリにおけるこれもコロナ禍による人手不足に起因する収量の低下により、輸入品の供給がタイトになった。米国は依然として量的に最大のリンゴ供給国であり、一方金額では日本が上回っている。有機リンゴの需要は成長を続けており、米国は市場のこの分野を独占している。

### <リンゴ>

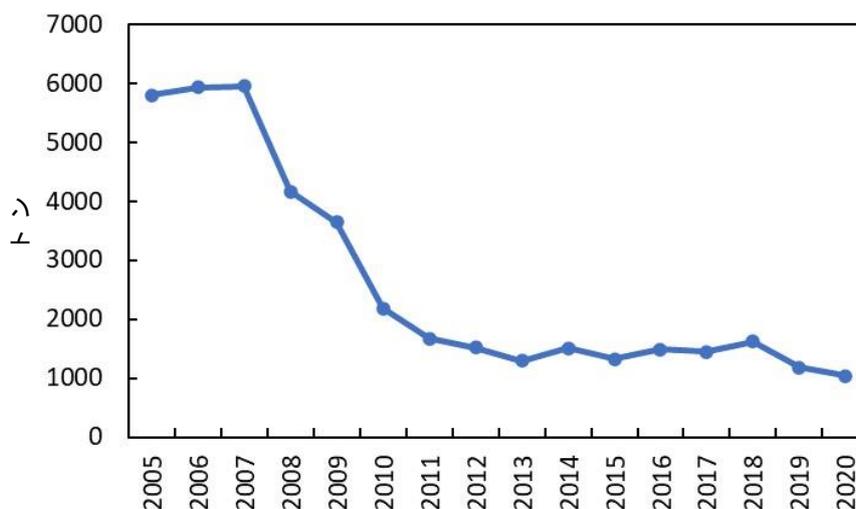
#### 生産

2020/21年度のリンゴの推計生産量は1,041トンに下方修正された。気候変動の影響は、平均気温の上昇と休眠期間の短縮をもたらし、生育期間が短くなる結果として収量が低下する。2021年の残りの期間にリンゴの生育に影響する気象ストレスがないものと仮定すると、2021/22年度の生産量は1千トンに減少すると予測される。リンゴ産地は引き続き、商業的な生産からリンゴもぎ取りの観光農園に移行するものと見られる。

台湾の落葉性果実の栽培の歴史は1960年に遡ることができる。第二次世界大戦後、中国本土から多数の軍人が台湾に移住した。退役軍人を従事させて山岳地帯の生活の質を高めるため、台湾の中央政府は温帯作物の生産を奨励し始めた。主なリンゴ産地は、標高1,500メートル以上に位置する台中市と南投市である。1990年には、リンゴ産業の成功と収益性の絶頂にあり、リンゴの栽培面積は過去最高の2,509ヘクタールに達した。現在は200ヘクタール未満である。



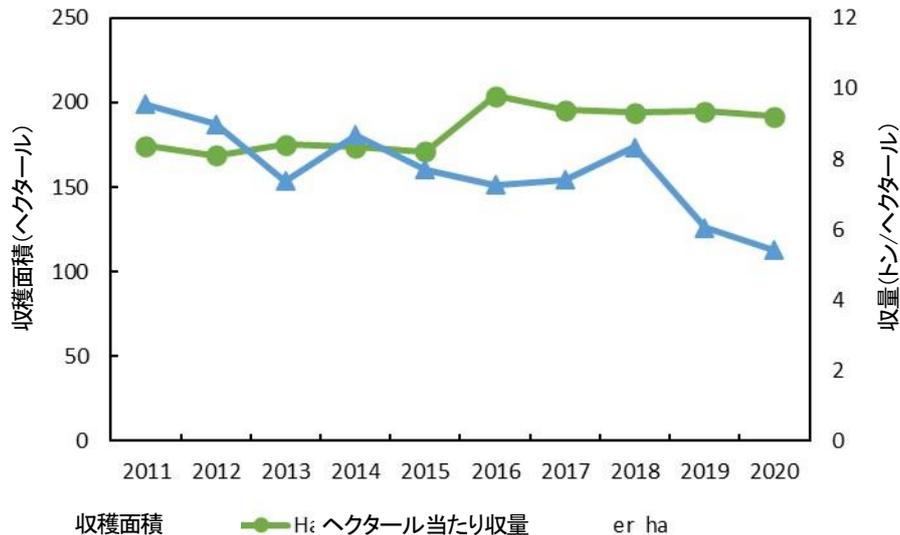
図表1: 台湾リンゴの生産量



出典: 台湾農業委員会

時が経つと中央政府は高地での落葉果樹栽培の普及を取りやめ、傾斜地での違法な栽培を禁止するようになった。これは、斜面の保全と水質汚染に対する懸念のためであり、また輸入リンゴに対する競争力の欠如によるものであった。モモや東洋種のナシ品種とは異なり、リンゴは低温要求量が少ない品種でも台湾ではうまく生育しなかった。収量と品質の低さのために栽培面積は急激に減少した。

図表2: 台湾のリンゴ栽培 収穫面積と収量



出典: 台湾農業委員会

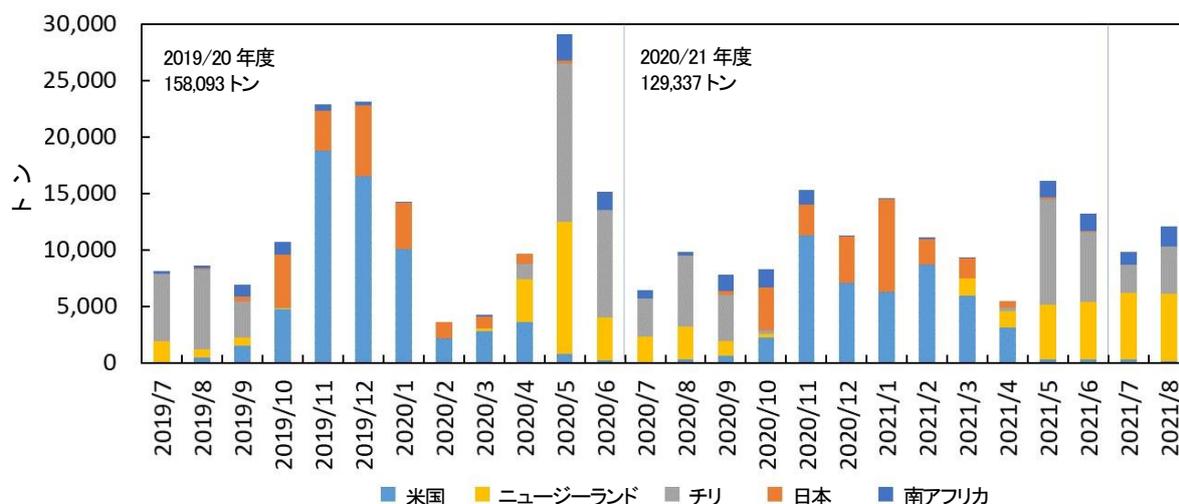
### 貿易と消費

台湾のリンゴ消費は、輸入に大きく依存している。国内生産量は、総消費量の1%以下である。2020/21年度は輸入が減少したため、消費量は13万378トンに減少した。2021/22年度のリンゴの輸入量は前年からさらに9千トン減の12万トンと予測される。台湾のリンゴの需要は依然として堅調である。コロナ禍による輸送の遅れと、米国とチリにおけるこれもコロナ禍による人手不足に起因する収量の低下により、輸入品の供給が極めてタイトになった。

台湾の一人当たりの果物消費量は世界で最も多い部類であるが、台湾の果実小売部門には国内生産と輸入の両方から果実が豊富に供給されている。これらの要因と、市場が価格に非常に敏感であることや代替品目が多いことを考え合わせると、リンゴの消費量の減少分は市場に出回っている他の果物の消費に配分された可能性が高い。

2020/21年度のチリからの輸入は、2021年1月の降雨による被害と物流上の問題に起因して、30,024トンとほぼ40%減少した。一方、2020/21年度の米国からの輸入は、4千トン増の46,209トンであったが、これはまだ2018/19年度よりも少なかった。2020/21年度に米国は引き続き台湾にとって量的に最大のリンゴ供給国であり、一方金額では日本が最大の市場シェアを占めた。ニュージーランドは、同国と台湾の経済協力協定(ANZTEC)に基づきリンゴの免税アクセスを有しているが、出荷時期がチリと同じであるため激しい競争に直面し、協定の締結前に比べて大幅に輸出量を増やしているわけではない。

図表3: 台湾のリンゴ輸入(2019年7月~2021年8月)



出典: 台湾農業委員会

ふじとガラは、その赤い果皮、甘い味と棚持ちの良さで人気があり、今でも台湾で最も多いリンゴ品種である。輸入業者はまた、コズミッククリスピーなどいくつかの新しい品種を導入しようとしている。プレミアムリンゴ市場は日本の独壇場である。ふじ、トキ、王林など価値の高い日本の品種は、祝祭日に交換される台湾式の箱入り贈答用果実として好まれる。台湾や日本の品種の中には、「蜜入りリンゴ」(蜜蘋果)として販売されているものもある。

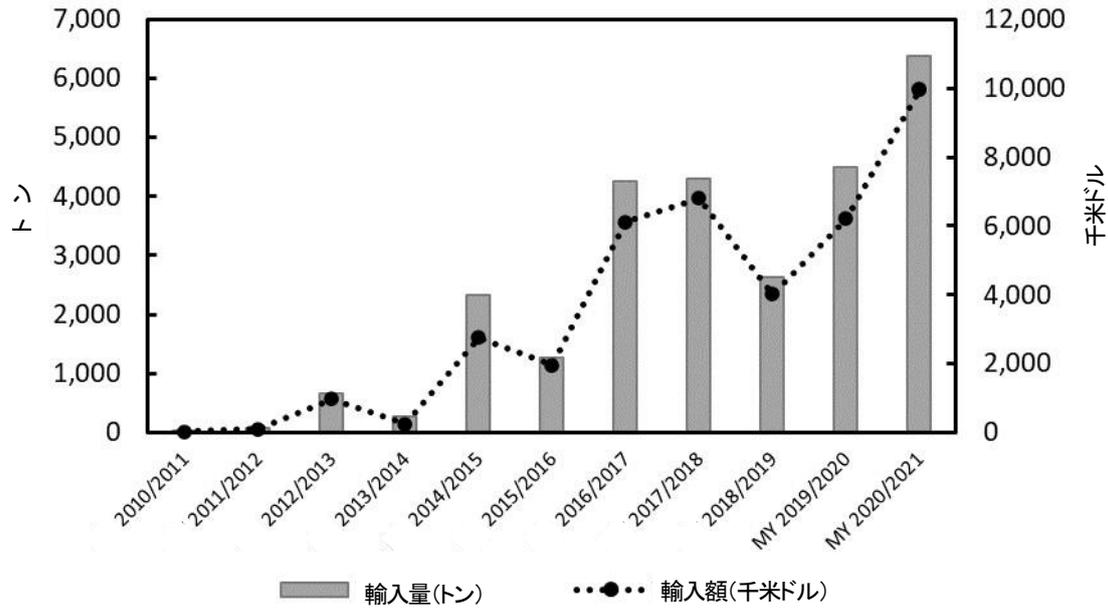
台湾の果実小売部門は、野外の屋台といったローエンドからエアコン付きの輸入品売り場や有機食品店といったハイエンドまで、価格帯で区分されている。有機リンゴの需要は急速に伸び続けている。2020年の米台有機同等性相互認証の下で、米国農務省が有機と認定した農産物は台湾でも有機と認識される(逆もまた同じ)。台湾では有機リンゴの特定のHSコードがないので、有機リンゴの輸入量は記録も報告もされていない。米国農務省の輸出データは、台湾への有機リンゴの輸出は、この10年間でほぼゼロ(2010/11年度)から6,371トン(2020/21年度)に増加し、約1千万米ドルの価値があることを示している。これは台湾のリンゴ輸入量の約5%を占めている。これらの傾向に基づき当事務所は、米国産有機リンゴの市場シェアが2021/22年度のリンゴ輸入量全体の7%に増加すると予測する。

図表4: 台湾のリンゴ輸入 国別市場シェア

| (トン/百万米ドル) | 2018/2019 |     | 2019/2020 |     | 2020/2021 |                |
|------------|-----------|-----|-----------|-----|-----------|----------------|
|            | 輸入量       | 輸入額 | 輸入量       | 輸入額 | 輸入量       | 輸入額            |
| 米国         | 59,938    | 54  | 42,303    | 75  | 46,209    | (36%) 59 (27%) |
| チリ         | 51,445    | 67  | 49,408    | 50  | 30,024    | (23%) 37 (17%) |
| 日本         | 20,125    | 60  | 21,396    | 64  | 23,917    | (18%) 72 (33%) |
| ニュージーランド   | 24,551    | 32  | 20,075    | 40  | 19,711    | (15%) 40 (18%) |
| 南アフリカ      | 9,436     | 7   | 7,047     | 8   | 8,842     | (7%) 8 (4%)    |
| 合計         | 142,356   | 225 | 158,093   | 239 | 129,337   | 217            |

出典: 貿易データモニター

図表5: 台湾の米国産有機リンゴ輸入額及び輸入量



出典: 米国農務省世界農業貿易システム

## 政策

輸入関税: (HS080810/生鮮リンゴ)

台湾との経済協力協定により2013年以降免税アクセスを有しているニュージーランドを除いて、台湾への主要なリンゴ輸出国のほとんどは20%の関税が課される。

図表6: 台湾のリンゴ関税 輸出国別

| 国名             | 関税率 |
|----------------|-----|
| 米国、チリ、日本、南アフリカ | 20% |
| ニュージーランド       | 0%  |

## 輸入植物衛生規則

生鮮食品は食品薬物管理局(TFDA)と動植防疫検疫局(BAPHIQ)によって規制されている。米国から輸入される生鮮リンゴは、BAPHIQの「米国から輸入される生鮮リンゴの検疫要件」の下で規制されており、米国農務省動植物検疫局(APHIS)発行の植物検疫証明書(PPQ様式577)を添付する必要がある。植物検疫証明書は、APHISの指定された職員もしくはAPHISが認可した州または郡当局によって発行される。台湾の植物検疫当局は以前と異なり、米国産生鮮果実の出荷のためのこれ以外の植物衛生証明書は受け付けない。検疫を要する病害虫のリストが変更された場合、更新されたリストはウェブサイトに掲載される。

TFDAは、国境検査の権能を有する機関である。台湾は、食品中の農薬残留基準についてポジリスト方式を採用している。最新版(2021年8月18日更新)のリストはウェブサイト上で公開されている。最新の更新により、シアントラニロロール(リンゴ)の残留基準は0.5ppm、ペンチオピラド(リンゴ)は0.4ppmに設定された。重金属の基準は、TFDAの「食品中汚染物質及毒素衛生標準」に記載されている。

図表7: リンゴ用主要農薬の米国と台湾の残留基準(PPM)

|             | 米国  | 台湾  |
|-------------|-----|-----|
| シプロジニル      | 1.7 | 1   |
| ジフェノコナゾール   | 5   | 1   |
| ペンチオピラド     | 0.5 | 0.4 |
| ピリメタニル      | 15  | 7   |
| ブプロフェジン     | 3   | 1   |
| クロラントラニプロール | 1.5 | 0.5 |
| 酸化フェンブタスズ   | 15  | 2   |
| フェンプロパトリン   | 5   | 0.5 |
| フルトリアホール    | 0.4 | 0.3 |

台湾のリンゴ生産需給統計

| リンゴ(生鮮)<br>販売年度 | 2019/2020    |         | 2020/21      |         | 2021/2022    |         |
|-----------------|--------------|---------|--------------|---------|--------------|---------|
|                 | 2019年7月～翌年6月 |         | 2020年7月～翌年6月 |         | 2021年7月～翌年6月 |         |
|                 | 農務省公式        | 今回推計値   | 農務省公式        | 今回推計値   | 農務省公式        | 今回推計値   |
| 台湾              |              |         |              |         |              |         |
| 栽培面積            | 195          | 195     | 196          | 193     | 0            | 191     |
| 収穫面積            | 195          | 195     | 196          | 192     | 0            | 191     |
| 結果樹本数           | 70           | 69      | 0            | 68      | 0            | 69      |
| 非結果樹本数          | 0            | 0       | 0            | 1       | 0            | 0       |
| 果樹本数合計          | 70           | 69      | 0            | 69      | 0            | 69      |
| 商業的生産量          | 1,200        | 1,179   | 1,400        | 1,041   | 0            | 1,000   |
| 非商業的生産量         | 0            | 0       | 0            | 0       | 0            | 0       |
| 生産量合計           | 1,200        | 1,179   | 1,400        | 1,041   | 0            | 1,000   |
| 輸入量             | 158,100      | 158,093 | 150,000      | 129,337 | 0            | 120,000 |
| 総供給量            | 159,300      | 159,272 | 151,400      | 130,378 | 0            | 121,000 |
| 国内消費量           | 159,300      | 159,272 | 151,400      | 130,378 | 0            | 121,000 |
| 輸出量             | 0            | 0       | 0            | 0       | 0            | 0       |
| 市場からの隔離         | 0            | 0       | 0            | 0       | 0            | 0       |
| 総仕向量            | 159,300      | 159,272 | 151,400      | 130,378 | 0            | 121,000 |

単位: ヘクタール、千本、トン

## 125. 世界のグレープフルーツ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年11月5日)

生育期間中に好ましくない状況に見舞われた国もあるが、グレープフルーツの一般的な見通しは肯定的である。実際、テキサス州等一部の地域では、樹上の果実が少ない方が残った果実の品質とサイズがよくなる可能性が高いため、異常な天候の恩恵を受ける可能性さえある。グレープフルーツは家庭消費ではあまり人気のある果実ではなく、一般的にフードサービス業界で最も使用されるが、業界はうまく活用すれば、その健康的な特性を有利に利用することができる。



### オランダ：トルコ産の販売が好調、スペイン産はますます減少

オランダのある果実業者は現在、主にトルコからグレープフルーツを輸入しており、「販売は順調に進んでいる。小玉の入荷量が多い。価格は11～14ユーロ前後で変動している。市場にはまだ南アフリカ産グレープフルーツが出ている。スペイン産は、最近では散発的に市場で見かけるだけだ」と言う。

### ドイツ：需要は安定、スタールビーはまだ人気が高い

ある貿易会社は、第43週(10月末)にトルコ産の初荷でグレープフルーツの販売シーズンを開始した。販売は2022年の1月ないし2月まで続く。グレープフルーツの品質は良い。購入しているのは様々な高級惣菜事業者やケータリング事業者であり、少量は食品小売業者にも供給されている。

同社はすでに少量のスペイン産グレープフルーツを提供しているが、品質はまだ特に良いわけではない。果肉が赤くなってくるのは12月以降だ。同社は依然として人気が高いスタールビー品種のみを提供している。

需要は前年に比べて比較的安定している。最近では物流上の重大な問題は発生していないが、出荷スペースの不足により、配送の問題が生じている。

売上高の水準は、過去の年とは比較にならない。同社は約30～40%の減少を見込んでいる。様々な飲食産業とそれに関連する従来の販売先の閉鎖は明らかに影響を与えた。さらに、スーパーマーケットでの値引き販売が、消費者の購入意欲を刺激しなくなっている。

### イタリア：8割の世帯でグレープフルーツ購入は年に1回未満

イタリアでは、グレープフルーツはリンゴ、オレンジ、ナシ、バナナ、モモ、アプリコットなどの従来からある品目との競争に負けただけでなく、アボカド、マンゴー、その他の熱帯果実など他の成長品目にも負け、時折購入するだけの品目となっている(購入者の平均で年2.8回)。イタリアの世帯の80%以上が12カ月以内にまったく購入していないことを踏まえると、グレープフルーツは、大きく発展する可能性がある。グレープフルーツの人気を高めるためには、糖分とカロリーが少なく、ビタミンCとカリウムを豊富に含むことや、何よりも抗酸化作用とダイエット効果など、健康上の利点を強調することが有用かも知れない。

2021年9月までの1年間にイタリアの世帯の18.9%が生鮮グレープフルーツを購入した。これは、約500万世帯に相当する。加工品については、同じ期間にグレープフルーツ風味の炭酸飲料を購入した世帯は9.1%で、近年に比べてかなり安定した傾向にある。果汁飲料におけるグレープフルーツの役割はより限られており、従来からあるグレープフルーツ風味の果汁を購入した世帯は0.8%、ピンクグレープフルーツ風味の果汁を購入した世帯は0.9%であった。どちらの割合も近年横ばいである。

熱帯果実を専門とするイタリア北部のある卸売業者によると、グレープフルーツはこの20日間ほど地中海地域からイタリアに輸入されており、その前は南アフリカ産であったと言う。イスラエルが主要輸入先であるが、スペイン、トルコ、キプロスからも入荷している。キプロス産は、品質的に若干問題がある。

スペイン産は包装形態に意を用いており、他の輸出国が従来からの15kg箱であるのに対し、1段詰めまたは10kg箱で入荷する。最近の卸売価格は1~1.20ユーロ/kgである。グレープフルーツはニッチな商品であり、あるスーパーマーケットの幹部は、柑橘類部門に占める割合は1%以下であると言う。

売上の90%は赤肉系で、10%が黄色または白色系である。イタリアでは、ケータリング業者が多く購入しており、ホテルでは朝食、特に外国人客用に使用され、バーではカクテルやジュースの材料として使用される。

### **スペイン：品質の懸念にもかかわらずスペイン産の価格は良好**

スペインではグレープフルーツの出荷シーズンは10月中旬から進行中であるが、春の長雨により開花に影響があったため収穫量は少ないものと見込まれる。低級品の販売を容易にするフードサービス業界への販路の回復により見通しは良好である。農業漁業食料省(MAPA)の予測によると、2021/22年度出荷シーズンのグレープフルーツの収穫量は前年より1.25%多い84,010トンと見込まれる。南半球産から北半球産への移行は順調であった。市場にはトルコ産のグレープフルーツの入荷が増え続けている。スペイン産は、出荷シーズンの最初にメキシコ産と重複し、特に出荷時期が近いフロリダ州産及びイスラエル産とも競合する。一方、小売部門の需要は安定しており、販売は堅調に推移している。卸売市場では、販売のリズムは安定している。このため、在庫量は少なく、価格は平均以上の水準を示している。この後は、地中海諸国からの入荷量の増加により供給量は増加する。

### **北米：テキサス州の低温がサイズに影響**

テキサス州では2月に被った壊滅的な低温のため、2021/22年産のグレープフルーツの収穫量が大幅に減少すると見られる。テキサス州のある生産者兼出荷業者は「しかし、果樹は回復しつつあり、見たところ良好なので満足している。果樹1本当たりの着果数が少ないので、一部の果実は本来よりも少し大きく育つことができる」と言う。

低温はまた、出荷の開始時期にも影響を与えた - 通常テキサス州では9月下旬から10月上旬に収穫を開始し、3月末から4月上旬に終了する。今年は出荷が約1カ月遅れている。

フロリダ州産グレープフルーツについては、今年は昨年と同程度の出荷量が予想される。同州のある出荷業者は「樹上の果実の品質は良好である。今年は生育条件がよく、嵐の被害も避けられた」と言う。

果実のサイズは昨年よりも小さいようで、おそらくフロリダ州の規格で1段階小さい。上記の業者は「11月にもう少し肥大することを期待している。グレープフルーツが自然に発色して糖度を上げるためには安定した涼しい天候が必要だが、それがまだ来ていない。しかし、出始めの果実に満足しており、出荷シーズンが進むにつれて良くなると思う」と言う。

これらのことから、今シーズンのグレープフルーツの需要は高くなると見込まれる。この業者は「テキサス州産の出荷量が少ないので、フロリダ州の出荷業者が主要なサプライヤーになることがわかっている。これによって、フロリダ州が市場シェアを取り戻すことができる」と言う。

一方、輸入に関しては、長年使用されており現在も国内の果汁製造業者が遵守している輸入された生鮮グレープフルーツから製造する果汁の基準を削除するという最近の農務省の決定をめぐって、最も高いレベルで議論が進められている。

価格に関しては、堅調な市況が予想される。前出のテキサス州の出荷業者は「市況は堅調に始まりそれが維持できることを期待している。通常我々の最も忙しい時間は、人々がグレープフルーツを祝祭日の贈答用に購入する感謝祭(11月の第4木曜日)から新年の休日までの時期だ。その後、新年には誰もがより健康的な食事を摂ろうとする。出荷の開始が遅いため、出荷開始から祝祭日シーズンまでの間に市況が軟化するとは考えていない」と述べた。

## 126. タイ ジェトロが日本果実フェスを開催

ASIAFRUIT電子版(2021年11月5日)

日本貿易振興機構(ジェトロ)が日本産のリンゴ、サツマイモ、イチゴのキャンペーンを実施



ジェトロバンコク事務所は、タイで日本の青果物のプロモーションを行う新しい取組みを開始した。

バンコクポスト紙が伝えるところによると、「ジャパンフルーツフェスティバル - 日本からの季節の贈り物」と名付けられたイベントは、認定を受けた日本食品支援小売店や果実輸出入業者と協力して実施される。

このキャンペーンは、2021年10月末から2022年1月末まで、タイの消費者にリンゴ、サツマイモ、イチゴを宣伝する。

ジェトロバンコクの竹谷厚所長が、キャンペーンの背景にある考え方と期待を説明した。

「まず、このキャンペーンを実現できたことについて、タイと日本の関係者の皆様に感謝いたします。タイは日本食品の輸出先として、国別で7番目に大きな市場です。」

「2020年のタイへの日本の食品輸出額は401億円でした。コロナ禍の前には、タイの人々は日本に飛んで、日本の食べ物、野菜、お菓子の本場の味を直接体験することができ、その結果タイの消費者の間で日本食品の人気が高まりました。今日、コロナ禍の中でも、タイへの日本食品の輸出は昨年より増加しています。」

「このキャンペーンは、タイの消費者とのコミュニケーションに焦点を当て、ほかのものとは異なる味と鮮度を持ったプレミアム品質の日本の果物を体験していただき、日本の果物の本当のファンになっていただくことを目指しています。また、このプロジェクトが、タイと日本の絆と友好関係をさらに強化することを期待しています。」

キャンペーンの一環として、さまざまなチャンネルを通じて日本産果実の宣伝を実施する。日本の果物の物語とそれがどのように栽培されるのかを伝えるため、大手メディア企業や様々なプラットフォーム上のインフルエンサーが起用される。

キャンペーンウェブサイトのメインページには、タイの大手レストラン格付けサイトであるウォンナイ(Wongnai)のコンテンツが掲載される。

また、キャンペーンに参加する小売店やオンラインストアのスタッフや店内広告を通じて日本産果実の宣伝を行う。参加店舗のリストは、ウォンナイのウェブサイトに掲載されている。

最後に、消費者は日本の果物に関する調査に回答することで、景品を受け取ることができる。具体的には、店内や携帯電話でアンケートに回答した消費者は、日本産のサツマイモ1kgを受け取ることができる。

筆者: リアム・オカラハン

## 127. EUの落葉果実事情(リンゴ、ナシ、生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート(2020年11月7日)

これは米国農務省海外農業局ベルリン事務所(ドイツ)がEU域内関係事務所と共同で作成した「落葉果実年次報告書」の翻訳であり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。長文のため、ハイライト、エグゼクティブサマリー及び主な図表のみ翻訳しました。なお、本報告は、特記した場合を除き、EU27カ国を対象としており英国を含みません。

### レポートのハイライト

2021/22年度のEUにおけるリンゴの商業的生産量は1,100万トンで、前年比4.5%増加すると予測される。同じく、ナシの商業的生産は、生育初期の好ましくない天候条件のために、前年比28%減の160万トンと予測され、生食用ブドウの商業的生産量は138万トンで前年比1%増と予測される。コロナ禍は生産量に影響を与えなかったが、収穫及び流通プロセスにおけるコロナ禍関連の衛生基準の適用により、生産コストが増加した。

### 要約

#### <リンゴ>

2021/22年度(7月～6月)のEUにおけるリンゴの商業的生産量は1,100万トンで、前年比4.5%増加すると予測される。この増加は主に、霜害を受けたアイルランド、フランス、イタリア、オーストリア、スロベニアの生産量の減少以上に、ポーランド、ハンガリー、スペインの生産が回復した結果である。生鮮リンゴのほか、リンゴ果汁と濃縮リンゴ果汁(CAJ)も期初在庫の水準が非常に低かったため、市場の見通しは良好である。加工部門は、品質の低いリンゴのかなりの量を吸収する点で重要である。米国産リンゴのEU向け輸出は、ワックスの添加剤としてのモルホリンの使用と貯蔵中のやけど症状に対するジフェニルアミン(DPA)の使用に関連する技術的な問題のため、2014年以来かなり少なくなっている。近年、EUに輸出された米国産リンゴのほとんどすべてが、英国からEUに入り、また有機リンゴであった。英国のEU離脱プロセスの完了に伴い、米国産リンゴのEUへの輸出は停止した。EUは、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、インド等の輸出市場において、米国産リンゴの競争相手である。

#### ナシ

2021/22年度(7月～6月)のEUにおけるナシの商業的生産量は、生育初期の好ましくない天候条件のために着果数が減少したことから、前年比28%減の160万トンと予測される。この減少は特に、イタリア、ベルギー、オランダ、フランスで発生した。対照的に、スペインでは生産量が比較的安定しており、ポルトガルでは増加すると予測される。オランダ、スペイン、ベルギー、イタリア、ポルトガルの合計で、EUのナシ生産量の80%以上を占めている。今年は降雹の被害が大きな問題ではなかったため、味、色、貯蔵性の点で品質は良好であると予想される。2021/22年度はEU域内の生産量が少ないため、EUのナシ輸入量は増加する見込みである。同じ理由で、輸出は減少すると予想される。EUと米国間のナシの貿易量はごく少量である。

#### 生食用ブドウ

2021/22年度(6月～5月)のEUにおける生食用ブドウの商業的生産量は、前年比1%増の138万トンと予測される。これは主にイタリアで、5月から6月前半にかけての乾燥した天候により着果数が多くなり、収穫量が増加したためである。スペイン、ルーマニア、ポルトガル、ブルガリアでも若干の増加が予測される。一方、ギリシャとフランスでは悪天候のために収穫量の減少が予測される。果実の品質は、7月から9月上旬までの高温のために糖度が高まり、総じて優れたものになると予想される。EUの米国産生食用ブドウの輸入量は極めて少ない。EU産生食用ブドウの米国への輸出は少ないが、増加している。

### COVID-19の影響

#### 生産への影響

2020/21年度と2021/22年度の両方で、コロナ禍がリンゴ、ナシ、生食用ブドウの生産量に与えた総合的な影響は限定的であった。しかし、コロナ禍関連の衛生基準の適用により、生産コストが増加した。これは、作業員間の最小限の距離の確保、新たな書類作成の必要性、労働者の宿泊施設と輸送に関する基準の引き上げ等によるものであり、基準に適合した作業手順の再構築と追加的な投資が必要となった。2020年の晩春から初夏にか

けてパンデミックが発生し、国境が閉鎖され、移動制限が設けられた時期には、ヨーロッパの果樹農家にとって大きな懸念である季節労働者の不足が発生した。これは、夏の間の剪定や摘果等の果樹の管理保護作業に影響を与えた。季節労働者の確保に関連する法的な問題は2020年の収穫期までに解決されたが、母国に戻った際に検疫を受ける必要があるため、生産国に出向く季節労働者の数は減少した。これは、特にウクライナとモルドバからの労働者について報告された。一部の国(ブルガリア等)では、季節労働者の不足は2021年に持ち越されている。

### 消費への影響

コロナ禍が消費に与えた影響は多様であった。様々なロックダウンの間、リンゴ、ナシ、生食用ブドウの家庭外消費は、ホテル、レストラン等の閉鎖のために急落した。これは特に地中海沿岸の観光地で発生した。人々が家に閉じこもっていたため、外出時に携帯する軽食の需要は完全に停止した。これらの減少の一部は、消費者が健康的で日持ちの良い食品を買いだめしたため、小売売上増加によって相殺された。影響の大きさは、加盟国ごとのロックダウンの厳格さに大きく依存し、それはほぼ完全な自宅滞在要請(スペイン)から、私的な集会の参加者数は制限されるが一定の条件と客数制限の下にレストランの営業が認められる「軽度のロックダウン」(ドイツ)に至るまで幅があった。一般的に、2020/21年度の影響は、2021/22年度に予想される影響よりも深刻であった。

### 貿易・流通への影響

パンデミックの初期に国境が閉鎖された際には、EU内の国境を越えた貿易に混乱が見られたが、これは迅速に解決された。国際貿易は、輸入国(中国、南米)におけるロックダウン措置の影響を受けた。当初、影響はパンデミックの初期段階に限定されていた。しかし、業界の専門家は、ソーシャルディスタンス対策によって、パンデミックの前に必要とされた以上の作業時間を要することが流通プロセスに影響を与えていると指摘する。これは、コンテナの不足等の物流の一般的な混乱と相まって、リンゴ、ナシ、生食用ブドウの取引と流通のコストを増加させた。

### 経済へのコロナ禍の影響を緩和するための財政支援

一部の加盟国(ハンガリー等)は、コロナ禍の経済的影響を緩和するために、農業部門に絞った財政支援を行った。その他の一部の国(ドイツ等)では、より広範な経営体に利用可能な、より一般的な支援プログラムの対象に農業が含まれた。支援の形態は、給付金、減税、貸付、低利融資、返済猶予等、加盟国によって異なった。

### 英国のEU離脱

英国はEU産果実の重要な市場である。このため、EU27カ国の果実関係者は、2020年12月24日にEUと英国の交渉者が新しいパートナーシップに関する規則を定めた貿易協力協定(TCA)の合意に達したことで安堵した。協定は2021年1月1日に発効したが、EUの港湾と税関がEUガイドラインに従って新しい通関書類の要件を直ちに施行したのに対し、英国は2021年7月1日までの段階的な猶予期間を設定し、その後さらに2022年7月1日まで延長したため、特に英国側で国境の混乱、遅延、貨物の滞留が発生した。

品目別図表

<リンゴ>

EUのリンゴ生産需給統計

| リンゴ(生鮮)<br>販売年度 | 2019/2020          |                 | 2020/2021          |                 | 2021/2022          |                 |
|-----------------|--------------------|-----------------|--------------------|-----------------|--------------------|-----------------|
|                 | 2019年7月～翌年6月       |                 | 2020年7月～翌年6月       |                 | 2021年7月～翌年6月       |                 |
|                 | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 今回推計値<br>(EU27) | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 今回推計値<br>(EU27) | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 今回推計値<br>(EU27) |
| 欧州連合            |                    |                 |                    |                 |                    |                 |
| 栽培面積            | 530,247            | 513,183         | 530,975            | 505,872         | 0                  | 506,136         |
| 収穫面積            | 515,709            | 491,350         | 517,221            | 494,680         | 0                  | 494,017         |
| 商業的生産量          | 11,011,426         | 10,797,264      | 10,802,640         | 10,529,496      | 0                  | 11,004,850      |
| 非商業的生産量         | 693,280            | 682,292         | 1,424,800          | 1,189,672       | 0                  | 872,200         |
| 生産量合計           | 11,704,706         | 11,479,556      | 12,227,440         | 11,719,168      | 0                  | 11,877,050      |
| 輸入量             | 502,500            | 377,780         | 460,000            | 324,625         | 0                  | 340,000         |
| 総供給量            | 12,207,206         | 11,857,336      | 12,687,440         | 12,043,793      | 0                  | 12,217,050      |
| 国内消費量           | 11,192,106         | 10,659,185      | 11,807,440         | 10,960,179      | 0                  | 11,157,050      |
| 輸出量             | 1,015,100          | 1,198,151       | 880,000            | 1,083,614       | 0                  | 1,060,000       |
| 市場からの隔離         | 0                  | 0               | 0                  | 0               | 0                  | 0               |
| 総仕向量            | 12,207,206         | 11,857,336      | 12,687,440         | 12,043,793      | 0                  | 12,217,050      |

単位: ヘクタール、トン

出典: 2019/20年度及び2020/21年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) 2021年9月17日アクセス

その他は海外農業局EU各国事務所

注: 「農務省公式」の列はEU27カ国と英国の合計の数値であり、「今回推計値」の列はEU27カ国の数値である。したがって、データの内容が異なるため、これらの列は互いに比較できない。

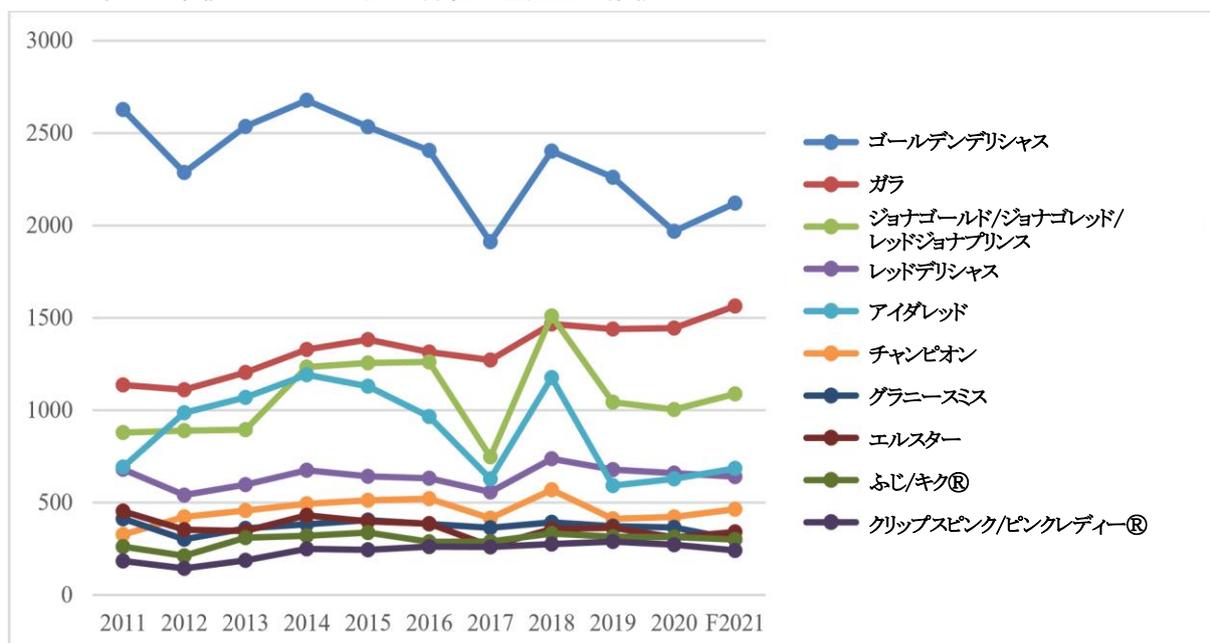
EUにおけるリンゴの商業的生産量 (トン)

| 国名     | 2019/20    | 2020/21    | 2021/22<br>推計値 | 2021/22<br>対前年増減 | 2021/22<br>生産量シェア |
|--------|------------|------------|----------------|------------------|-------------------|
| ポーランド  | 3,040,000  | 3,300,000  | 3,650,000      | 11%              | 33%               |
| イタリア   | 2,095,586  | 2,123,640  | 2,045,610      | -4%              | 19%               |
| フランス   | 1,519,000  | 1,322,000  | 1,162,000      | -12%             | 11%               |
| ドイツ    | 991,451    | 1,023,316  | 1,080,000      | 6%               | 10%               |
| スペイン   | 592,289    | 465,453    | 587,750        | 26%              | 5%                |
| ハンガリー  | 464,470    | 324,415    | 484,500        | 49%              | 4%                |
| ルーマニア  | 370,000    | 400,000    | 420,000        | 5%               | 4%                |
| ポルトガル  | 355,700    | 278,000    | 312,000        | 12%              | 3%                |
| ギリシャ   | 277,106    | 290,716    | 280,000        | -4%              | 3%                |
| オランダ   | 272,000    | 220,000    | 250,000        | 14%              | 2%                |
| ベルギー   | 233,000    | 161,000    | 187,000        | 16%              | 2%                |
| オーストリア | 184,265    | 160,053    | 138,000        | -14%             | 1%                |
| チェコ    | 99,496     | 115,585    | 111,540        | -4%              | 1%                |
| クロアチア  | 68,352     | 63,317     | 63,000         | -1%              | 0.6%              |
| スロベニア  | 54,272     | 66,668     | 45,000         | -33%             | 0.4%              |
| リトアニア  | 32,000     | 53,000     | 40,000         | -25%             | 0.4%              |
| ブルガリア  | 40,122     | 36,274     | 37,000         | 2%               | 0.3%              |
| スロバキア  | 35,185     | 28,429     | 30,700         | 8%               | 0.3%              |
| スウェーデン | 20,000     | 32,000     | 27,000         | -16%             | 0.2%              |
| アイルランド | 19,880     | 20,460     | 18,000         | -12%             | 0.2%              |
| デンマーク  | 15,000     | 24,000     | 18,000         | -25%             | 0.2%              |
| ラトビア   | 10,000     | 14,000     | 12,000         | -14%             | 0.1%              |
| フィンランド | 8,090      | 7,170      | 5,750          | -20%             | 0.1%              |
| 合計     | 10,797,264 | 10,529,496 | 11,004,850     | 4.5%             |                   |

注: 表は、2021/22年度の生産量が多い順で表示。四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。

出典: 海外農業局EU各国事務所

### EU27カ国及び英国\*のリンゴ上位10品種の生産量の推移(千トン)



F = 予測値 出典: 海外農業局EU各国事務所(世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)のデータに基づく)

\*: 現時点では、英国を除くデータは入手できない。

### 生鮮及び加工用リンゴ消費量

|     | 2019/20    |      | 2020/21    |      | 2021/22F   |      |
|-----|------------|------|------------|------|------------|------|
|     | トン         | シェア  | トン         | シェア  | トン         | シェア  |
| 生鮮  | 6,975,105  | 65%  | 7,190,916  | 66%  | 7,226,450  | 65%  |
| 加工用 | 3,684,080  | 35%  | 3,769,263  | 34%  | 3,930,600  | 35%  |
| 合計  | 10,659,185 | 100% | 10,960,179 | 100% | 11,157,050 | 100% |

F = 予測値 出典: 海外農業局EU各国事務所

### EU27カ国のリンゴ輸入量 (トン)

| 輸入先国        | 2018/19        | 2019/20        | 2020/21        | 2020/21<br>対前年増減 | 2020/21<br>輸入量シェア |
|-------------|----------------|----------------|----------------|------------------|-------------------|
| チリ          | 114,585        | 112,546        | 101,950        | -9%              | 31%               |
| ニュージーランド    | 81,801         | 74,907         | 54,375         | -27%             | 17%               |
| 北マケドニア      | 43,280         | 44,314         | 40,174         | -9%              | 12%               |
| 南アフリカ       | 27,991         | 29,437         | 36,956         | 26%              | 11%               |
| 英国          | 52,890         | 21,506         | 28,648         | 33%              | 9%                |
| セルビア        | 6,754          | 39,475         | 22,847         | -42%             | 7%                |
| ブラジル        | 21,467         | 9,388          | 13,146         | 40%              | 4%                |
| アルゼンチン      | 15,826         | 16,528         | 11,982         | -28%             | 4%                |
| ウクライナ       | 9,872          | 7,248          | 3,692          | -49%             | 1%                |
| アルバニア       | 5,770          | 8,029          | 3,083          | -62%             | 1%                |
| 米国          | 114            | 0              | 0              | 0%               | 0%                |
| その他         | 8,121          | 14,402         | 7,772          | -46%             | 2%                |
| <b>世界合計</b> | <b>388,471</b> | <b>377,780</b> | <b>324,625</b> | <b>-14%</b>      |                   |

注: 表は、2020/21年度の輸入量が多い順で表示。四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに下回る。  
データの出典: Trade Data Monitor, LLC (TDM) 2021年9月17日アクセス

## EU27カ国のリンゴ輸出量（トン）

| 輸出先国         | 2018/19          | 2019/20          | 2020/21          | 2020/21<br>対前年増減 | 2020/21<br>輸出量シェア |
|--------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|
| エジプト         | 268,096          | 250,793          | 265,082          | 6%               | 25%               |
| 英国           | 184,448          | 184,277          | 189,380          | 3%               | 17%               |
| ベラルーシ        | 199,159          | 152,187          | 117,715          | -23%             | 11%               |
| サウジアラビア      | 81,882           | 78,887           | 64,002           | -19%             | 6%                |
| インド          | 76,584           | 48,154           | 54,340           | 13%              | 5%                |
| カザフスタン       | 84,938           | 59,798           | 49,390           | -17%             | 5%                |
| ヨルダン         | 52,901           | 40,118           | 37,321           | -7%              | 3%                |
| ノルウェー        | 34,978           | 32,992           | 36,512           | 11%              | 3%                |
| アラブ首長国連邦     | 46,515           | 37,736           | 27,857           | -26%             | 3%                |
| ブラジル         | 24,894           | 24,887           | 27,011           | 9%               | 2%                |
| イスラエル        | 19,137           | 21,736           | 25,572           | 18%              | 2%                |
| スイス          | 15,776           | 18,580           | 16,466           | -11%             | 2%                |
| コロンビア        | 10,429           | 19,188           | 13,860           | -28%             | 1%                |
| ウクライナ        | 17,138           | 19,509           | 11,310           | -42%             | 1%                |
| ボスニア・ヘルツェゴビナ | 19,661           | 18,197           | 11,280           | -38%             | 1%                |
| セルビア         | 23,903           | 12,103           | 8,883            | -27%             | 1%                |
| リビア          | 15,629           | 10,969           | 8,131            | -26%             | 0.9%              |
| 米国           | 24               | 22               | 101              | 359%             | 0.01%             |
| その他          | 182,825          | 168,018          | 119,401          | -29%             | 11%               |
| <b>世界合計</b>  | <b>1,358,917</b> | <b>1,198,151</b> | <b>1,083,614</b> | <b>-10%</b>      |                   |

注：表は、2020/21年度の輸出量が多い順で表示。四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに下回る。  
データの出典：Trade Data Monitor, LLC (TDM) 2021年9月17日アクセス

## EU産と米国産のリンゴが競合する主要輸出市場

| 輸出市場     | 米国産リンゴと競合するEU加盟国          |
|----------|---------------------------|
| サウジアラビア  | イタリア、フランス、ギリシャ、ポーランド、スペイン |
| アラブ首長国連邦 | フランス、イタリア、スペイン            |
| インド      | イタリア、ポーランド、フランス、ベルギー、スペイン |

<ナシ>

EUのナシ生産需給統計

| ナシ(生鮮)<br>販売年度 | 2019/2020          |                 | 2020/2021          |                 | 2021/2022          |                 |
|----------------|--------------------|-----------------|--------------------|-----------------|--------------------|-----------------|
|                | 2019年6月～翌年5月       |                 | 2020年6月～翌年5月       |                 | 2021年6月～翌年5月       |                 |
|                | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 今回推計値<br>(EU27) | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 今回推計値<br>(EU27) | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 今回推計値<br>(EU27) |
| 欧州連合           |                    |                 |                    |                 |                    |                 |
| 栽培面積           | 116,059            | 115,504         | 115,770            | 111,959         | 0                  | 111,838         |
| 収穫面積           | 111,505            | 109,902         | 110,173            | 107,678         | 0                  | 106,695         |
| 商業的生産量         | 1,964,701          | 1,963,510       | 2,217,834          | 2,246,156       | 0                  | 1,623,531       |
| 非商業的生産量        | 96,718             | 95,316          | 119,050            | 134,924         | 0                  | 103,475         |
| 生産量合計          | 2,061,419          | 2,058,826       | 2,336,884          | 2,381,080       | 0                  | 1,727,006       |
| 輸入量            | 182,700            | 171,643         | 190,000            | 174,553         | 0                  | 190,000         |
| 総供給量           | 2,244,119          | 2,230,469       | 2,526,884          | 2,555,633       | 0                  | 1,917,006       |
| 国内消費量          | 1,939,219          | 1,824,041       | 2,256,884          | 2,179,829       | 0                  | 1,667,006       |
| 輸出量            | 304,900            | 406,428         | 270,000            | 375,804         | 0                  | 250,000         |
| 市場からの隔離        | 0                  | 0               | 0                  | 0               | 0                  | 0               |
| 総仕向量           | 2,244,119          | 2,230,469       | 2,526,884          | 2,555,633       | 0                  | 1,917,006       |

単位: ヘクタール、トン

出典: 2019/20年度及び2020/21年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) 2021年9月アクセス

その他は海外農業局EU各国事務所

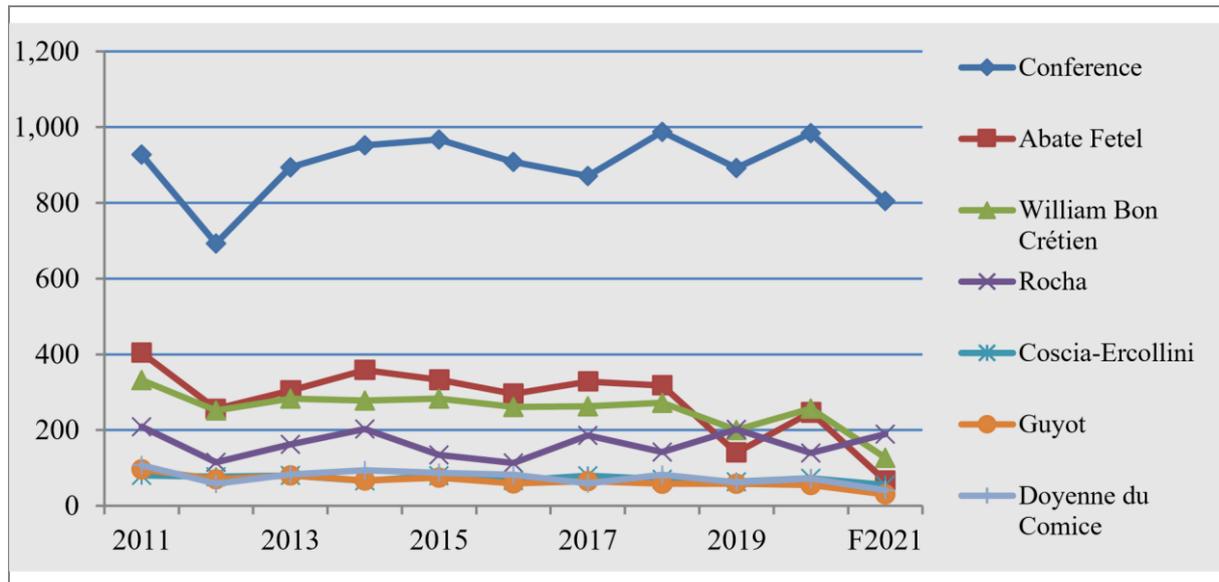
注: 「農務省公式」の列はEU27カ国と英国の合計の数値であり、「今回推計値」の列はEU27カ国の数値である。したがって、データの内容が異なるため、これらの列は互いに比較できない。

EUにおけるナシの商業的生産量 (トン)

| 国名    | 2019/20   | 2020/21   | 2021/22<br>推計値 | 2021/22<br>対前年増減 | 2021/22<br>生産量シェア |
|-------|-----------|-----------|----------------|------------------|-------------------|
| オランダ  | 373,000   | 400,000   | 325,000        | -19%             | 20%               |
| スペイン  | 325,207   | 302,707   | 295,788        | -2%              | 18%               |
| ベルギー  | 322,000   | 383,000   | 290,000        | -24%             | 18%               |
| イタリア  | 363,000   | 611,000   | 213,000        | -65%             | 13%               |
| ポルトガル | 202,000   | 139,000   | 189,000        | 36%              | 12%               |
| ポーランド | 68,000    | 74,000    | 75,000         | 1%               | 5%                |
| フランス  | 120,000   | 144,000   | 62,000         | -57%             | 4%                |
| ギリシャ  | 76,270    | 77,484    | 60,000         | -23%             | 4%                |
| ドイツ   | 42,477    | 39,270    | 42,000         | 7%               | 3%                |
| ルーマニア | 22,000    | 21,000    | 22,000         | 5%               | 1%                |
| その他   | 49,556    | 54,695    | 49,743         | -9%              | 3%                |
| 合計    | 1,963,510 | 2,246,156 | 1,623,531      | -28%             |                   |

出典: 海外農業局EU各国事務所

### EUのナシ主要品種の生産量の推移（千トン）



F = 予測値 データの出典: 世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)

### EUのナシ輸入量（トン）

| 輸入先国         | 2018/19        | 2019/20        | 2020/21        | 2020/21<br>対前年増減 | 2020/21<br>輸入量シェア |
|--------------|----------------|----------------|----------------|------------------|-------------------|
| 南アフリカ        | 60,021         | 56,282         | 60,320         | 7%               | 35%               |
| チリ           | 39,021         | 40,305         | 44,512         | 10%              | 26%               |
| アルゼンチン       | 39,972         | 49,218         | 42,193         | -14%             | 24%               |
| トルコ          | 5,016          | 9,726          | 13,283         | 37%              | 8%                |
| 中国           | 7,693          | 11,583         | 8,573          | -26%             | 5%                |
| セルビア         | 1,342          | 1,314          | 2,105          | 60%              | 1%                |
| 英国           | 1,009          | 1,054          | 1,355          | 29%              | 1%                |
| ボスニア・ヘルツェゴビナ | 1,501          | 1,017          | 1,250          | 23%              | 1%                |
| ウルグアイ        | 949            | 225            | 600            | 167%             | 0%                |
| オーストラリア      | 0              | 0              | 103            |                  | 0%                |
| その他          | 40,604         | 50,137         | 42,452         | -15%             | 24%               |
| <b>合計</b>    | <b>157,156</b> | <b>171,643</b> | <b>174,553</b> | <b>2%</b>        |                   |

データの出典: Trade Data Monitor (TDM) 2021年9月アクセス

## EUのナシ輸出量（トン）

| 輸出先国         | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 | 2020/21<br>対前年増減 | 2020/21<br>輸出量シェア |
|--------------|---------|---------|---------|------------------|-------------------|
| ベラルーシ        | 117,181 | 120,009 | 112,691 | -6%              | 30%               |
| 英国           | 109,935 | 101,559 | 105,897 | 4%               | 28%               |
| モロッコ         | 39,258  | 38,816  | 33,320  | -14%             | 9%                |
| ブラジル         | 48,226  | 42,882  | 24,398  | -43%             | 6%                |
| ノルウェー        | 15,650  | 12,829  | 13,418  | 5%               | 4%                |
| カザフスタン       | 12,961  | 12,446  | 12,996  | 4%               | 3%                |
| ウクライナ        | 2,700   | 6,385   | 7,387   | 16%              | 2%                |
| スイス          | 6,036   | 5,967   | 6,902   | 16%              | 2%                |
| ボスニア・ヘルツェゴビナ | 10,573  | 8,105   | 6,708   | -17%             | 2%                |
| 中国           | 7,711   | 6,641   | 6,581   | -1%              | 2%                |
| サウジアラビア      | 4,836   | 5,827   | 5,571   | -4%              | 1%                |
| イスラエル        | 4,594   | 5,650   | 3,627   | -36%             | 1%                |
| リビア          | 3,991   | 4,748   | 3,436   | -27%             | 1%                |
| ヨルダン         | 1,269   | 2,381   | 3,286   | 38%              | 1%                |
| アラブ首長国連邦     | 2,612   | 3,293   | 3,004   | -9%              | 1%                |
| セルビア         | 2,849   | 3,183   | 2,787   | -12%             | 1%                |
| カナダ          | 2,712   | 2,731   | 2,652   | -3%              | 1%                |
| セネガル         | 1,751   | 1,829   | 2,556   | 40%              | 1%                |
| その他          | 25,352  | 21,057  | 18,587  | -12%             | 1%                |
| 合計           | 420,197 | 406,428 | 375,804 | -8%              |                   |

データの出典: Trade Data Monitor, LLC (TDM) 2021年9月アクセス

## <生食用ブドウ>

### EUの生食用ブドウ生産流通統計

| ブドウ(生鮮・生食用)<br>販売年度 | 2019/2020          |                 | 2020/2021          |                    | 2021/2022       |                    |
|---------------------|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|-----------------|--------------------|
|                     | 2019年6月～翌年5月       |                 | 2020年6月～翌年5月       |                    | 2021年6月～翌年5月    |                    |
|                     | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 今回推計値<br>(EU27) | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 農務省公式<br>(EU27+英国) | 今回推計値<br>(EU27) | 農務省公式<br>(EU27+英国) |
| 欧州連合                |                    |                 |                    |                    |                 |                    |
| 栽培面積                | 95,199             | 95,335          | 95,320             | 95,590             | 0               | 95,670             |
| 収穫面積                | 90,171             | 90,581          | 90,652             | 91,049             | 0               | 90,667             |
| 商業的生産量              | 1,564,743          | 1,539,159       | 1,394,000          | 1,364,565          | 0               | 1,377,950          |
| 非商業的生産量             | 8,521              | 8,521           | 8,500              | 6,900              | 0               | 8,000              |
| 生産量合計               | 1,573,264          | 1,547,680       | 1,402,500          | 1,371,465          | 0               | 1,385,950          |
| 輸入量                 | 677,100            | 500,600         | 725,000            | 570,000            | 0               | 570,590            |
| 総供給量                | 2,250,364          | 2,048,280       | 2,127,500          | 1,941,465          | 0               | 1,956,540          |
| 国内消費量               | 2,172,264          | 1,871,580       | 2,047,500          | 1,768,465          | 0               | 1,786,540          |
| 輸出量                 | 78,100             | 176,700         | 80,000             | 173,000            | 0               | 170,000            |
| 市場からの隔離             | 0                  | 0               | 0                  | 0                  | 0               | 0                  |
| 総仕向量                | 2,250,364          | 2,048,280       | 2,127,500          | 1,941,465          |                 | 1,956,540          |

単位: ヘクタール、トン

出典: 2019/20年度及び2020/21年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) 2021年9月アクセス

その他は海外農業局EU各国事務所

注: 「農務省公式」の列はEU27カ国と英国の合計の数値であり、「今回推計値」の列はEU27カ国の数値である。したがって、データの内容が異なるため、これらの列は互いに比較できない。

### EUにおける生食用ブドウの商業的生産量（トン）

| 国名    | 2019/20   | 2020/21   | 2021/22<br>推計値 | 2021/22<br>対前年増減 | 2021/22<br>生産量シェア |
|-------|-----------|-----------|----------------|------------------|-------------------|
| イタリア  | 830,000   | 670,000   | 720,000        | 8%               | 52%               |
| スペイン  | 314,140   | 297,800   | 300,000        | 0.7%             | 22%               |
| ギリシャ  | 273,266   | 276,509   | 250,000        | -10%             | 18%               |
| ルーマニア | 48,200    | 46,000    | 47,500         | 3.3%             | 3.4%              |
| フランス  | 45,000    | 46,000    | 32,000         | -30%             | 2.3%              |
| ポルトガル | 16,710    | 15,880    | 16,000         | 0.8%             | 1.2%              |
| ブルガリア | 11,843    | 12,376    | 12,450         | 0.6%             | 1.0%              |
| 合計    | 1,539,159 | 1,364,565 | 1,377,950      | 1%               |                   |

注: 四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに下回る。 出典: 海外農業局EU各国事務所

### EUの生食用ブドウ輸入量（トン）

| 輸入先国   | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 | 2020/21<br>対前年増減 | 2020/21<br>輸入量シェア |
|--------|---------|---------|---------|------------------|-------------------|
| 南アフリカ  | 135,887 | 143,612 | 177,519 | 24%              | 31%               |
| ペルー    | 81,287  | 76,360  | 99,219  | 30%              | 18%               |
| インド    | 94,639  | 73,192  | 84,162  | 15%              | 15%               |
| チリ     | 63,148  | 59,493  | 48,640  | -18%             | 9%                |
| エジプト   | 32,597  | 47,789  | 47,805  | 0.03%            | 8%                |
| トルコ    | 22,560  | 27,231  | 29,994  | 10%              | 5%                |
| ブラジル   | 27,149  | 21,051  | 25,869  | 23%              | 5%                |
| ナミビア   | 18,933  | 16,377  | 23,076  | 41%              | 4%                |
| モルドバ   | 16,572  | 19,217  | 16,117  | -16%             | 3%                |
| 北マケドニア | 5,325   | 3,880   | 6,362   | 64%              | 1%                |
| 米国     | 414     | 169     | 107     | -36%             | 0.02%             |
| その他    | 20,946  | 12,193  | 11,090  | -9%              | 2%                |
| 合計     | 519,457 | 500,564 | 569,960 | 14%              |                   |

出典: Trade Data Monitor, LLC (TDM) 2020年9月アクセス 四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。

### EUの生食用ブドウ輸出量（トン）

| 輸出先国         | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 | 2020/21<br>対前年増減 | 2020/21<br>輸出量シェア |
|--------------|---------|---------|---------|------------------|-------------------|
| 英国           | 114,384 | 98,599  | 95,278  | -3%              | 55%               |
| スイス          | 26,894  | 24,730  | 27,779  | 12%              | 16%               |
| ノルウェー        | 15,158  | 16,256  | 17,121  | 5%               | 10%               |
| ウクライナ        | 2,424   | 2,550   | 2,865   | 12%              | 1.7%              |
| ボスニア・ヘルツェゴビナ | 2,323   | 2,932   | 2,825   | -4%              | 1.6%              |
| 南アフリカ        | 3,270   | 3,059   | 2,600   | -15%             | 1.5%              |
| ロシア          | 2,549   | 1,806   | 2,590   | 43%              | 1.5%              |
| アルバニア        | 3,217   | 3,195   | 2,513   | -21%             | 1.5%              |
| サウジアラビア      | 1,796   | 2,076   | 2,232   | 8%               | 1.3%              |
| ベラルーシ        | 2,674   | 2,005   | 1,927   | -4%              | 1.1%              |
| 米国           | 712     | 1,004   | 1,363   | 36%              | 0.8%              |
| その他          | 17,786  | 18,444  | 13,925  | -25%             | 8%                |
| 合計           | 193,187 | 176,656 | 173,018 | -2%              |                   |

出典: Trade Data Monitor, LLC (TDM) 2020年9月アクセス 四捨五入のためシェアの合計が100%をわずかに上回る。

## 128. エジプト 対日輸出で柑橘類のランクを上げる

EUROFRUIT電子版(2021年11月8日)

日本などの厳格な市場がエジプトの柑橘類に解放されてきており、輸出業者らはこれを輸出手続きにおける同国の主要な進歩の証と見ている

昨シーズン、エジプトの柑橘類輸出量が20%以上急増し、EU向けでは南アフリカを追い抜いて最大の柑橘類輸出国になった。エジプトの柑橘類専門家アフメド・ガジー氏は、昨シーズンのエジプトの柑橘類の輸出量は約170万トンで、主要な市場はヨーロッパとアジアであったと明かした。

同氏は、「エジプトは昨年4月、柑橘類の輸出に関して日本と合意した。25年間禁止されてきたエジプト産柑橘類を積んだ最初のコンテナが出荷された。日本は非常に厳格な市場であるため、これはエジプトの検疫手続きと農産物規格の大きな成功である。将来は高品質の柑橘類を大量に輸出していきたい」と述べた。

輸出業者であるダルテックス社のサミール・エルナガー代表は、エジプトのエルサイド・エルコサイエ農業・干拓大臣と農業検疫局が果たした役割を称賛した。

エジプト農業検疫局長のアフメド・エルアター博士はエジプトデイリーニュース紙に対し、植物衛生要件の適用と実施が合意の中心であったと語った。

報道によると、輸出は海外向けに区分された出荷を通じてのみ認められ、エジプト農業検疫局に登録され、検証されてリストに掲載された農場と梱包施設からのみ許可される。同局による農場と梱包施設の認定は、すべて国際的な基準に従って行われ、エジプト産柑橘類の世界的な評判を維持している。

この措置には、特別審査委員会が、出荷物にミバエの痕跡がないことを確認し、包装材料、ラベリング、書類整備、冷却など日本側のすべての要件の履行を完全に監督することが含まれる。

エル・アター局長は、日本市場の開放は農業検疫局にとって近年最大の挑戦であったが、エジプト産柑橘類の国際的な品質の証となったと述べた。(EUへの輸出について省略しました。)

筆者: トム・ジョイス

## 129. フィリピン 日本との貿易協定見直しは市場アクセスで失速

FreshPlazaウェブサイト(2021年11月8日)

今年行われているフィリピンと日本の経済連携協定(PJEP)の総点検は、フィリピンの重要な輸出品である農産物、特にバナナの市場アクセスに関連して進展していない。

セフェリーノ・ロドルフォ貿易次官は最近の会見で記者団に対し、特に国内の輸出業者は依然としてかなりの輸入関税を支払っているため、フィリピンはバナナの市場アクセスの改善交渉に熱心だと語った。

現在、フィリピン産バナナは冬の期間には18%の関税を課され、夏の期間には8%と低くなっている。

フィリピン統計局(PSA)によると、同国の日本向けバナナ輸出量は昨年134万5千トンに達し、日本は同国のバナナの最大の輸出市場であった。ビジネスミラー紙電子版によると、今年の日本向けバナナ輸出量は、7月末までの時点で50万8,590.569トンであった。

同次官は、「フィリピンと日本の自由貿易協定の見直しと再交渉は、特にフィリピンが熱帯果実を含む農産物の市場アクセス改善のための協議と交渉を主張しているため、前進していない」と述べた。

訳注: フィリピンと日本の経済連携協定(2006年9月署名、2008年11月発効)では、協定及びその実施運用状況について、2011年及びその後5年ごとに総合的な見直しを行うこととされています。

## 130. 米国 冷蔵貨物輸送は2022年まで増加が続く見込み

American Journal of Transportation 電子版(2021年11月8日)

コロナ禍とその結果として生じたサプライチェーンの混雑は、冷蔵貨物事業に悪い影響を与えたかも知れないが、他のカテゴリーの貨物と比較すれば影響は少ない。現在、世界のサプライチェーンでは、家具、運動用具から家電製品、衣類まで、あらゆる種類の貨物が滞留しており、冷蔵コンテナで輸送される果実、野菜、肉、魚介類なども同様である。しかし、冷蔵コンテナは他のカテゴリーの貨物に比べいくらかマシなようだ。

冷蔵コンテナ事業は近年、力強く成長してきた。様々な冷蔵品を年間を通じて入手できるようにしたいという需要の増加により、コンテナは常に満杯である。冷蔵コンテナ事業はまた、バルク冷蔵船から冷蔵コンテナへの移行の恩恵を受けている(現在の物流の混雑がバルク冷蔵部門にいくらか命を吹き込んでいるが、おそらく短命である)。このため、シーキューブ(SeaCube Container)社等のコンテナや機材の賃貸事業者は、近年、冷蔵コンテナ事業部門を強化している。

パンデミックの初期には、多くのカテゴリーで貨物の量が急減したが、生鮮食品については需要への影響は少なく、自宅で食事をする人が増え生鮮食品をより多く求めるにつれて反発した。ドリューリー(Drewry)海運調査会社のアナリストは、2020年の生鮮食品の海上輸送は0.4%減少したが、冷蔵コンテナの輸送個数は540万コンテナ(20フィートコンテナ換算)と0.3%増加したことを見出した。

その後、冷蔵貨物が急増する一方、人々が住宅の改造やホームオフィスの設置などに支出し始めたこともあり、あらゆる種類の商品の需要が急増した。ドリューリー社によると、2021年上半期には、肉類、柑橘類、熱帯果実の取引量が増加し、冷蔵コンテナの海上輸送量は前年比4.8%増加した。現在、冷蔵コンテナの運用会社と荷主は、サプライチェーンの混雑に苦労しているが、おそらく他のカテゴリーの貨物に比べれば問題は少ない。

### 冷蔵コンテナ優先

ニュージャージー州ウッドクリフに拠点を置くシーキューブ社のグレッグ・タットヒル上級副社長兼最高マーケティング責任者は、「冷蔵コンテナは常に優先的に船に積み込まれる。冷蔵コンテナも渋滞の例外ではないが、ドライコンテナ(冷蔵でない通常のコンテナ)程の遅れは見られない」と説明する。

冷蔵貨物はコンテナターミナルでは他の貨物より問題が少ないとしても、同氏は「それでも流通ネットワーク全体では他の貨物と同じ課題に直面している。労働力と施設・設備の制約が、この業界の現在の最大の頭痛の種になっている」と言う。

冷蔵コンテナの海上輸送費は、ドライコンテナ程ではないものの上昇しているが、この状況は続かないと見込まれる。ドリューリー社の冷蔵コンテナ運賃指標によると、15の主要路線について、今年は第3四半期までで、ドライコンテナ運賃が2倍以上に値上がりしたのに対し、冷蔵コンテナ運賃は50%値上がりした。しかし、2022年については、同社は貿易状況の正常化に伴ってドライコンテナ運賃が値下がりするのに対し、冷蔵コンテナ運賃は値上がりを続けると予想している。

タットヒル氏は、生鮮特産品の需要の増加と冷蔵商品の貿易のグローバル化の継続により、冷蔵コンテナの市場は2023年までに5~6%拡大するものと見込んでいる。消費者は引き続き健康に良い食事を求め続け、このことは年間を通じて世界中から集めた生鮮食品を消費することを意味する。同氏は、「1970年代には、生鮮食品の80~90%は国産であった。現在はこの数字は50%に近づいている。アボカド、柑橘類、ブルーベリーは、すべてこの現象の恩恵を受けている品目の一例である」と言う。

生鮮果実・野菜以外では、同氏は海産物がリーファー事業の成長分野であると見ている。同氏は、海産物は世界の15地域のうち13地域で在庫水準が低くなっており、海産物業界はやや困難な状況にあるため、養殖が盛んになっているが、これは世界的なコンテナ貿易に適していると言う。

(一部省略しました。なお、リーファーコンテナは冷凍の温度帯でも使用されますが、この翻訳では「冷蔵コンテナ」としました。)

## 131. 米国ワシントン州産リンゴ 業界の生産量予測は5%減少

The Packer電子版(2021年11月9日)

2021年産のリンゴのほとんどが収穫され貯蔵される中、ワシントン州果樹協会によると、同州のリンゴ出荷業者は、生鮮リンゴ出荷量の11月の予測を早い時期の予測と比較して5.3%引き下げた。

ニュースリリースによると、8月の予測ではワシントン州の生鮮リンゴの出荷量は40ポンド箱で1億2,485万箱と見込まれたが、11月9日の推計では1億1,826万箱に引き下げられた。ワシントン州果樹協会のジョン・デバニー会長はリリースで「ワシントン州のリンゴの収穫はまだ一部の品種で終盤を迎えているが、これまでに収穫された量に基づいて、1億1,826万箱に減少すると予想している」と述べた。

また、「当協会の会員からは、ハニークリップ、ガラ、レッドデリシャスなど、一部の品種で収穫量の減少が報告されている。生育の早い段階での高温が最終的な収穫量に影響を与えたケースも見られる。有機リンゴは引き続き1,500万箱以上と予測される。収穫量が少ないが、品質は高く、消費者は2022年には美味しいワシントン州産リンゴを期待できる」としている。

ワシントン州の生鮮リンゴ出荷量は、2020年産は1億2,200万箱であり、2019年産は1億3,500万箱であった。

リリースによると、11月の報告書は、同協会の会員の調査に基づいており、10月31日までに収穫された果実と、今後収穫する果実の最善の推計値の合計を表している。

この推計値は、最終的に生鮮市場向けに梱包・販売されるリンゴの収穫量を表しており、加工業者に仕向けられる量は含んでいない。

### 業界の反応

ハニーベアマーケティング社のドン・ローパー副社長は、業界の11月の出荷予測は信頼性が高く、通常8月に出荷が終了する時点の最終的な出荷量と比較して、わずか3%か4%しか変わらないとしつつ、そうは言っても、2021年について1億1,826万箱の予測は楽観的かもしれないと述べた。

今年、ワシントン州のリンゴの生育期間は、6月某日には華氏115度(摂氏46.1度)を突破するなど記録を更新する暑さに見舞われ、生産者にとってこれまでで最も困難な年の1つであった。

ワシントン州立大学の果実生理学の准教授であり、同大学果樹研究普及センターの普及研究員であるリー・カルシツ氏は8月初め、ワシントン州中部のリンゴ産地では華氏100度(摂氏37.8度)以上の日が16日、同109度(同42.8度)を超えた日が少なくとも3日あったと述べた。

ローパー氏は、熱波の影響は品種によって様々であったと言う。ワシントン州のリンゴの集出荷業者は、損傷した果実が消費者の手に渡るのを防ぐ優れた技術を有しており、出荷業者は、CA貯蔵され来年販売されるリンゴの品質を注意深く見守っている。

同氏は、ワシントン州のリンゴ品種の中には、収穫量の健全な増加を示すものもあれば、平年並みのものもあり、また最も暑さに弱い品種は前年に比べてかなり減収すると見られると言う。

同氏はまた、ワシントン州の生鮮リンゴ出荷量は、全米のリンゴ出荷量の70~80%を占めると言う。

筆者: トム・カルスト

(品種別の収穫量見込み等は省略しました。)

## 132. 世界のブドウ市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年11月12日)

多くの生産国で当初は悪天候による品質低下の懸念があったが、スペインとインドのブドウ栽培は比較的影響を受けていないようだ。一方、イタリアでは心配された影響がある程度見られた。他の国、特に北米と南アフリカでは、現在進行中の物流問題と、それに伴うコストの上昇が困難を引き起こしている。

### オランダ：ヨーロッパ産から海外産に移行

オランダのブドウ市場では、ヨーロッパ産のブドウから海外産に切り替わってきている。海外産の出荷シーズンは通常ブラジル産から始まり、今ではペルー産もすべての品種が市場に入荷している。ある輸入業者によると、ギリシャ産の出荷シーズンは終了し、イタリア産の供給も急速に減少している。イタリア産は品質の面では悪くなかったが、暖かい天候のため数量が大幅に少なく、売上は近年の水準を下回った。南アフリカ産の収穫は前年と同様と見込まれる。インド産は天候が良好で、十分な収量が見込まれ、上記の輸入業者は「このことが市場価格をあまり押し下げず、妥当な価格に納まることを願っている」と言う。

### ドイツ：イタリア産の販売は制約なし

ミュンヘンのある卸売業者は、緑色系のシュガーワン(Sugar One)品種と赤色系のクリムゾン(Crimson)品種を、紙袋に入れて販売している。

出荷シーズンは6月の終わりまたは7月の初め頃に始まり、おそらく12月に終了する。この業者は、価格と味の両面で、イタリア産は「最上級」と言う。さらに、価格は販売上の重要な要素であるが、外観、味、食感も重要だと述べた。

この業者によると、ブドウの品質は非常に良い。その会社には、イタリアから毎週赤ブドウ約5パレットと緑色系のブドウ約4パレットが入荷しており、これらは年間を通じ入手できる。

ブドウは同社から飲食業者、学校の食堂や病院給食などに供給される。特に幼稚園や病院などでは、ブドウが食事の飾りつけに使われ関心が高い。この業者は、冬の間は他の果実が全くまたは非常に少量しか手に入らないため、(入手可能な)ブドウは冬でも十分な量が必要であり、販売が制約されないと言う。

この業者によると、需要は依然として高く、昨年と比較的似ている。価格はシーズンを通して安定しており、昨年をわずかに下回っている。有機ブドウは需要がほとんどないため、ブドウは慣行栽培である。これは特に、ミュンヘン卸売市場では有機ブドウの価格が他よりも2倍近く高いためである。

### イタリア：過去2年間で種なしブドウの売上げが倍増

シチリア産の生食用ブドウは、出荷シーズンの前半(5月～8月)は素晴らしかったが、後半は悲惨であった。8月末から、45°Cを超える熱波に広く覆われ、果実は脱水し、そのため品質は全般的に悪かった。

シーズンの初め頃の種あり従来品種の価格は、温室栽培の早出しの品種で最低1.20ユーロ/kgから最大1.60ユーロ/kgと生産者にとって満足のいくものであった。しかし、出荷シーズンの半ばには0.80～1.20ユーロ/kgの間で変動し、最後は0.80ユーロ、0.50ユーロ(またはそれ以下)と次第に低下した。

シチリア産は、7月中旬にスペイン産の種なし品種とプーリア州産が同時に出荷を開始すると直接的に競合する。ギリシャ産のビクトリア(Victoria)品種も7月末に入荷する。しかし、今シーズンのその時期には、シチリア産は非常に出来が良く品質も良かったので、この競合の影響を受けなかった。

市場の傾向は間違いなく種なしブドウに向っている。イタリア産種ありブドウの主要市場は引き続きフランスとスイスである。

統計によると、2021年9月までの1年間に、イタリアの全世帯の63.3%に当たる1,650万世帯がブドウを購入した。購入は非常に季節的で、大部分が8月から11月の間に集中している。1世帯当たりの購入回数は6.6回で、1回の平均購入額は2.77ユーロであった。最も多く購入されたのは、種なし白ブドウで、2年前に比べて2倍以上

の約330万世帯が購入した。

### スペイン: 高品質で種なし品種の傾向

スペインの主要産地であり輸出も多いムルシア地域では、生食用ブドウの出荷シーズンが終わりに近づいている。天候条件としては極端な雨が降らなかったため、ブドウの品質がよく、収穫期間も長くなった。スペインの生食用ブドウの輸出は通常10月末または11月の第1週に終了する。価格は、イタリアなど他の生産国との競争のために、現時点では低くなっている。イタリアも出荷期間が長くなり、種なし品種の量が増えている。海上貨物運賃の値上がりにより、EU域外、特にアジアへの輸出が減少した。スペインのブドウ関係者は、生産コストの上昇が2022年産の最大の脅威となると考えている。

付加価値の高い生食用の種なし新品種への投資により、ますます多くの市場でブドウの消費が増加し始めている。生産者や取引業者によると、過去3年間で、従来は種なしブドウが消費されていなかった国で需要が増加している。これは、スペインとフランスの市場で、昨シーズンから特に顕著である。スペイン産のブドウは、これまでイタリア産が支配的であった中央ヨーロッパと北ヨーロッパで販売が増えている。

ある輸出業者によると、種なし生食用ブドウの消費量の増加は今後はそれほど急激ではないが、キャンディ(Candy)系などの品種はまだ成長の余地が大きい。消費者はそれらの品種を知り始め、欲しがっている。スペインでは、この種の種なし生食用ブドウの将来は非常に有望である。

スペインの生食用ブドウの主要産地はムルシア州、バレンシア州アリカンテ県、またこれらの地域ほどではないがアンダルシア州のいくつかの県に集中している。スペイン農業漁業食料省の2020年作物栽培面積及び収量調査のデータによると、これらの地域の生食用ブドウ栽培面積は14,000ヘクタール以上であり、そのうち6,688ヘクタールは種あり白ブドウ、3,452ヘクタールは種なし赤ブドウ、2,441ヘクタールは種なし白ブドウ、1,891ヘクタールは種なし赤ブドウであった。スペイン産生食用ブドウの生産量は27万5千トン程度である。

### 南アフリカ: 物流問題に対する懸念

先週、今シーズンのブドウの収穫が北部地域(リンポポ州)とナミビアで始まった。品種は種なし白ブドウのアーリースイート(Early Sweet)と種なし赤ブドウのスターライト(Starlight)である。早生品種の多くは国内市場向けで、平均価格は78ランド(4.48ユーロ)/kgである。

今シーズンの出荷量は4.5kg箱で7,060万~7,770万箱と見込まれ、大部分が最も出荷が遅いヘックスリバー地域のものである。昨シーズンは過去最高の7,218万箱が輸出された。

昨シーズンは、雨による品質の問題、物流上の課題、市場需要の落ち込み、自国通貨の対米ドル高(輸出収益を減少させる)のために非常に困難であった。また、今シーズンの初めには、出荷スケジュールとコンテナの確保の面で不安が生じている。貨物運賃、特に中東向けと極東向けは、急上昇している。

南アフリカのブドウ産業は、ペルー、チリ、ブラジル、インドとの国際的な競争が激化している。

### インド: 悪天候にもかかわらず肯定的な見通し

今年の夏、インド北部の一部の地域では降雨が続き、洪水や土砂崩れが発生し、インフラに大きな被害を与えたばかりでなく、人命が失われた。しかし、西インド、特にマハラシュトラ州のブドウ産地は、概ね被害を免れた。ただし、同州ナシク市周辺の一部の産地では、ところにより開花期に降雨があり、ある程度の被害を受けた。これまでの生育条件を踏まえ、インドでは質量ともに手堅いブドウの収穫が期待される。昨年のインド産ブドウの品質は、ほとんどの市場で良いと認識された。生産者は、高品質な果実を生産する利点を次第に認識し、ブドウの品質を向上させるためにスマート農業に取り組んでいる。

### 北米: カリフォルニア州産の供給は今年の今頃よりも少ない

カリフォルニア州の最新の冷蔵貯蔵レポートによると、冷蔵中の赤ブドウの箱数は昨年に比べて240万箱少なく、2019年より340万箱少ない。ある出荷業者は、「11月にはまだ在庫があり、新たな果実が収穫梱包されているが、12月にはカリフォルニア州産赤ブドウが不足するのではないかと」言う。(以下、北米の項で「」はこの業者の発言)

実際、カリフォルニア州の10月の降雨では一カリフォルニア州のブドウ栽培は大部分が雨よけまたは施設栽培であるにもかかわらず一短時間に強い雨が降ったため、果実を完全に保護することが困難であった。「赤ブドウの貯蔵量は2週間前から増えていない。つまり、過去2週間に収穫された果実は貯蔵に堪えないことが分かったので、すべて(出荷され)貯蔵されなかったということだ。」

一方、緑色系のブドウはもっと豊富にある。「しかし、緑色の種なし品種の出荷量も11月中旬が近づくにつれて減少すると見込まれる。カリフォルニア州産は、貯蔵量だけでなく、貯蔵中の果実の状態も問われている。」

赤ブドウの供給量の減少が見込まれるが、この出荷業者は、ブラジルとペルーからすでに入荷してきているので、市場は品不足になるだけで、品切れは予想されないと言う。

ペルーでは収穫が始まり、12月中旬までに入荷量が増えるはずである。「米国は依然としてペルーにとって出荷したい市場であり、今年は6千万箱以上の出荷量があると予測される。これは昨年よりも10%多い。」ペルー産果実のもう一つの重要な市場はアジアであるが、世界的に物流問題が見られ、40～60日の輸送の遅れが報告されているため、米国向けの果実の出荷はペルーの生産者にとってアジア向けよりも魅力的である可能性がある。

ペルー北部から米国へのブドウの出荷は大幅に増加しているが、南米からの入荷量は安定しないと見られる。ブラジル産のブドウは11月の最後の週に到着するはずだが、ブラジル産全体の作柄は平年並みのようだ。「ブラジルでは過去5～7年栽培面積があまり増えていないため、入荷量の大幅な増加は見込めない。」

チリからの輸入に関しては、全体的な作柄はいまだ疑問である。「昨年、多くの生産者が経済的苦境に陥ったので、彼らが今年どうやって作物を市場に出荷するつもりか分からない。」チリからの最初のバルクの荷の到着は12月20日頃と予測され、その大部分は赤ブドウのフレイム・シードレス(Flame Seedless)品種であると予想される。小売業者はもっと良い品種を求めているが、赤ブドウが市場で不足する場合はこの品種を受け入れると見込まれる。

価格に関しては、カリフォルニア州産の価格は現在高くなっている。「今から年末まで供給が少ないと予想されており、ブラジルとペルーの生産者はそれを知っている。彼らは、12月に米国のスポット市場の価格が上がれば出荷しようと狙っている。」

果実の価格も貨物運賃も高いため、この出荷業者は、「現在はカリフォルニア州から東海岸までトラックで輸送するより、ペルーからの海上輸送の方が安価だ」として、ミシシッピー川以東、特に東海岸の小売業者は通常よりも早期に輸入果実に切り替える可能性があるとして予想している。

### オーストラリア：ブドウの輸出増加は続く見込み

オーストラリア産食用ブドウの出荷シーズンは始まったばかりで、早生品種が市場に出ている。今の時期には、フレイム・シードレス品種の国内小売価格は、店舗と立地に応じて10～17豪ドル/kgである。一方、2019/20会計年度のブドウの輸出額は6億2,290万豪ドルと青果物の中で最大であり、年々成長しているため、今シーズンも出荷量の大部分が輸出されると見られる。統計によると、生食用ブドウの輸出額は2014/15年度の2億4千万豪ドルから、過去5年で2倍以上に増加した。コロナ禍の影響を受けた2020/21年度においても、アジアの主要市場や国内市場でオーストラリア産果実のプロモーションを継続するために多くの資金が投じられ、主催者の報告ではオーストラリア産ブドウの認知度がこれまでに高く高まった。国内外での新たな消費者の大幅な増加は、健康的で味が良いオーストラリア産食用ブドウに対する需要が今後高まることを示唆している。オーストラリアの生食用ブドウ産業の産出額は、2019/20年度までの5年間、年率平均13.4%で成長し、生産量は同年度に21万4,660トンに達した。

## 133. 世界柑橘類機構 北半球の生産予測を発表

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年11月15日)

世界柑橘類機構(WCO)は、2021/22年度出荷シーズンの北半球の柑橘類生産予測を発表した。この予測によると、柑橘類の総生産量は2,934万2千トンに達すると予測され、これは前年比1.3%のわずかな減少となる。しかし、柑橘類の品目別に見ると、より大きな変動が見られる。この予測は、エジプト、ギリシャ、イスラエル、イタリア、モロッコ、スペイン、チュニジア、トルコ及び米国のデータに基づいている。

オレンジの生産量は合計約1,550万トンと3%以上の減少が予測される。グレープフルーツとソフト柑橘類(マンダリン等)についても、それぞれ95万トン及び846万トンと1%未満の微減が予測される。レモンの生産量は6%近く増加し、約450万トンに達すると予測される。

EUの柑橘類生産量は、ギリシャで約10%、スペインで8%、イタリアで3%の減少が見込まれる。地中海の南側では、チュニジアで22%の減少が見込まれるものの、エジプトでは横ばい、イスラエルでは27%、トルコでは22%、モロッコでは6%の増加が予測される。米国では前年比12%の減少が見込まれる。

WCOのフィリップ・ビナル事務局長は、「WCOは中国食品商工会議所(CFNA)及び農業農村部(農業省に相当)に対しても柑橘類の予測の収集について働きかけた。これにより、来シーズンの北半球の柑橘類生産量の全体像が総計8,320万トンと示された」と述べた。これは、中国の来シーズンの柑橘類生産量が、約5%増の5,400万トンと予測された結果である。

同機構のナタリア・サントス=ガルシア・ベルナベ事務次長は、この予測を11月16~17日にロンドン、ロサンゼルス、メルボルンからライブストリーミングで配信される第2回世界柑橘類会議で発表すると述べた。昨年の会議には59カ国から1,300人以上の生産者、輸出入業者、小売業者及び関連事業者が参加した。

## 134. フィリピン 日本にバナナ価格の改善を求める

ASIAFRUIT電子版(2021年11月18日)

フィリピンのバナナ生産者輸出業者協会(PBGEA)は、コストの上昇に対応するため、日本市場でのバナナの価格改善を求めている。ビジネスミラー紙(フィリピンの経済紙)の伝えるところによると、PBGEAは在京フィリピン大使館のホセ・ラキアン農業担当官に書簡を送り、重要な日本市場で販売されるフィリピン産バナナの価格引き上げ要求に対する政府の支援を求めた。同協会は、価格の向上は、フィリピンのバナナ業界が、バナナの病気の流行、生産コストの上昇、コロナ禍関連の課題などに対処するのに役立つと主張した。

ビジネスミラー紙によると同協会はその書簡の中で、「急激に増大しているコストを相殺し、市場が求める高い品質基準に適合する製品を引き続き提供するため、フィリピンのバナナ業界が日本のフィリピンバナナ市場に対して、小売店やスーパーマーケットでの値付けを高くするよう求めることについて、フィリピン政府が在京大使館を通じて支援するよう求める」とした。

同協会によると、生産コストは上昇しているのに対し、日本の総務省のデータで見ると日本におけるバナナの小売価格は1キログラム当たり約2.36米ドルの横ばいで推移している。

書簡は、本件に関する政府間協議や日本小売業協会、日本チェーンストア協会、日本スーパーマーケット協会、全国スーパーマーケット協会等の関係業界団体との協議などの対応策を提案した。

この動きは、中南米のバナナ生産国がヨーロッパと米国の小売業者に対し、より現実的な価格設定の仕組みを採用するよう求めている取組に続くものである。

筆者: リアム・オキヤラハン

## 135. 世界アボカド機構 アボカドの持続可能性を擁護

The Packer電子版(2021年11月18日)

ワシントン(首都)とロンドンに拠点を置く世界アボカド機構は、英国のガーディアン紙が11月初めに掲載したアボカドを「持続的でない果実」と決めつけた記事に失望している。

フードライターのアリア・フィニー氏の記事は「アボカドの終わり」という見出しで、アボカドは生産に要する水の使用量が巨大であり、アボカドの生産は「壊滅的な環境影響」を引き起こすと主張している。

記事では、メニューからアボカドを削除したり、グアカモレ(アボカドのディップ)の材料を別の食材と置き換えたりしたと伝えられる英国とトロント(カナダ)のシェフを取り上げている。

この記事は、アボカドは「おいしくクリーミーで、使い道が広く、インスタ映えする」と認めているが、英国のメキシコレストランチェーン「ワハカ」の共同創業者で、ソラマメ、青トウガラシ、ライム、コリアンダーからグアカモレの代替品を作ったトマシーナ・マイヤーズ氏等のシェフを紹介している。他のシェフや食通が提案する代替食材としては、ピスタチオ、つぶしたエンドウ豆、発酵させたグーズベリー、キクイモなどがある。

記事の筆者は、アボカド、アボカドオイル、アボカドバターはグルテンフリーとビーガンベーキング(卵や乳製品を使わない菓子作り)で果たす役割があるため他のもので置き換えることは難しい、また多くのアボカド愛好家はつぶしたエンドウ豆に対して本物のグアカモレと同じ親近感を持たないだろうと認めている。

シェフのマイヤーズ氏は、グアカモレの代替品に対する客の反応は良かったと言うが、それにもかかわらず店のメニューに「作りたての伝統的なグアカモレ」という選択肢を残している。

世界アボカド機構のザビエル・エクイワ代表(CEO)は、アボカドの持続可能性を擁護する書簡を同紙に送り付け、その中で(以下同じ)、使用される水1リットル当たりの収穫物について、同じ栄養価を持つ食品は他にないと述べた。

同氏は、アボカドは生産物1キロ当たり600リットルの水しか必要としない、物事を明らかにするために記事に回答したとして、「隠すことは何もない。むしろ、持続可能性について大いに語る必要がある。技術の進歩により多くのアボカド生産国では過去10年間でアボカド生産の水使用量を3分の1に減らした。シェフが使用する代替食材のほとんど(特にソラマメ)は、アボカドよりも多くの水を必要とし、牛肉、豚肉、鶏肉などのメニューに残っている食材の多くは、1キロを生産するために最大14,000リットルの水を消費し、アボカドよりもはるかに持続可能性が低い」と言う。

さらに、アボカドは樹上で栽培されており二酸化炭素を酸素に変えるので地球の肺と考えられる、アボカドは手にすることができる最も健康的なスーパーフードの一つである、記事で紹介されているレストラン経営者は誤った情報を与えられ、つつましいアボカドを犠牲にして自分自身を宣伝しようとしていると述べた。

一方、米国の消費者とレストラン経営者ははるかに現実的であり、水1リットル当たりのアボカドの栄養価を認識しており、これまでのところ、この話に乗っていないと言う。

同氏は、アボカドだけでなく農産物業界全体として、このような「誤った情報キャンペーン」に対抗し、水の使用量と栄養価など、生鮮果実・野菜の生産について消費者やレストラン経営者を教育する時だとし、「世界アボカド機構は、この問題に関して過去4年間先行しており、この誤った情報に関してメディアと消費者を教育するための取組みに他の団体が参加することを願っている」と述べた。

同氏は「果実や野菜の水使用量について多くの誤解がある。水の使用から得られるものは、通常の農産物に比べてとてつもなく大きい」と言う。

筆者: トム・バーフィールド

## 136. 世界のパイナップル市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年11月19日)

世界のパイナップル市場の状況は、今年は地域によって非常に異なっており、一部の国では他の国に比べてはるかに良好だ。生産国である台湾は中国へのパイナップル輸出を禁止されたが、その結果日本と香港への販売が大幅に増加した。南アフリカでは、今年は消費者の購買力の低下が売上の減少につながった。また、オランダでは今シーズンは例年のクリスマス時期の売上げ増加が見られないかも知れない。一方、南北アメリカでは、生産コストと物流コストの増加が、今後価格の大幅な上昇をもたらす可能性がある。



### オランダ：11月は常に低調だが、それにしても残念な売上げ

オランダのあるパイナップル輸入業者は、「取引先は今パイナップルを求めている。販売は非常に低調だ」と溜息をつき、「パイナップル市場について言うことはあまりない。市場は低調で、入荷が少なく価格も上がらない。11月はパイナップルの取引が多い月ではないが、今後数週間も回復するとは思えない。クリスマス用に予約注文を受けた時代は終わった」と言う。

### イタリア：12月はパイナップルの消費量が増加

GfK消費者パネルのデータによると、2021年9月までの1年間に、イタリアでは1千万世帯以上(全世帯の39%)が、パイナップルを少なくとも1回購入した。その他の1,300万世帯はパイナップルを購入しなかった。最も消費量が多いのは、クリスマス休暇がある12月であった。

生鮮パイナップルのカット販売は商業的に浸透してきている。購入した世帯は2年前まではわずか2.5%であったが、今日では4.3%に達している。オンライン購入も倍増した。イタリアの世帯の6%が少なくとも1回オンラインでパイナップルを購入した(2年前にはこの数字は半分であった)。

果汁では、パイナップル風味のジュースは、以前より多い430万世帯以上(イタリアの全世帯数の16.6%)が購入し、浸透度ランキングの第6位(ミックス、モモ、ナシ、アプリコット、オレンジに次ぐ)であった。

パイナップルは海路または空路でイタリアに輸入される。海路で輸入されるパイナップルの価格は、ミラノ卸売市場の2021年の通年平均で1.20ユーロ/kg、空路で輸入されるパイナップルの平均価格は3.50ユーロ/kgであった。

イタリアに空路で届くパイナップルは、スーパーマーケット、レストラン、青果物専門小売店での販売が定着し

た後、数年前まで市場シェアが高かった。しかし、最近は、船で輸送される樹上完熟パイナップルという新しいアイテムの登場により、空輸ものは再びニッチな品目に戻った。

空路によるパイナップルの輸入は、様々な産地から年間を通じて行われる。パナマ産は4月から1月まで最高の品質のものがあり、10月末からは上級品を生産するドミニカ共和国からの輸入が始まる。イタリアのパイナップル輸入のピークは12月であり、ガーナからも輸入される。

世界的な主要品種はMD2で、果肉の黄色みが強く、今ではほぼ完全に見られなくなったスムーズカイエン (Smooth Cayenne) 品種よりも甘味がある。

### 南アフリカ：消費者支出の抑制が市場に悪い影響

国内産のパイナップルは、東ケープ州とクワズールナタール州から一年中出荷されており、今の時期には出荷量が増加してくる。

しかし、ある生産者は、パイナップルはニッチな果物であり、不振な経済の下で消費支出が抑制されているため、パイナップルの消費需要はコロナ禍以前のレベルに下がったと言う(昨年はコロナ対策のロックダウンに伴って酒の販売が禁止されたため、醸造目的でパイナップルを購入する騒ぎがあった)。

主に空路で行われるパイナップルの輸出は、依然として深刻な落ち込みを見せている。南アフリカは直近では、中東、ヨーロッパ、英国、カナダ、米国及びインド洋の島々にパイナップルを輸出していた。海外旅行や観光の停止の結果として航空便が減少したことは、航空貨物の機会確保の点で有害である。

パイナップルの平均市場価格は7.65ランド(0.4ユーロ)で、前週から下落した。

### 台湾：中国の輸入禁止の結果、香港と日本への輸出が大幅に増加

台湾から中国へのパイナップルの輸入が2021年3月1日に停止された。中国本土は、台湾の輸出の90%以上を占める最大の輸出先である。ここ数カ月間、台湾のパイナップル輸出先の割合が変わった。台湾産パイナップルの第2位と第3位の輸出先である日本と香港は、輸入量が数倍に増加した。

日本では、今年1月から7月までの台湾産パイナップルの輸入量は昨年の7倍以上に増加し、17,583トンとなった。香港については、1月から7月までの台湾からの輸出は5.5倍近くに増加した。

### 中国：台湾産の輸入禁止により価格が上昇

台湾産パイナップルの輸入禁止により本土産パイナップルの人気が高まった。現在、<sup>ザンヂヤン</sup>湛江市<sup>シューウェン</sup>徐聞県(広東省)では最も忙しい植え付けのシーズンを迎えている。今年、徐聞県のパイナップルの生産者価格は総じて1.8~2.5元/500グラム(1元≒18円)で、最高価格は3元と昨年の最高価格1.5元の2倍になり、これは30年ぶりの高値である。今年、徐聞県のパイナップルの品質は近年のものに比べて良く、良い品質のものが良い価格で販売され、果実農家の収入が全体的に増加した。

### 北米：資材費の上昇により新たな価格水準を期待

パイナップルの入荷量は、昨年の今頃より約10%多くなっている。

コスタリカでパイナップルを栽培するある農業生産会社の関係者は、「一部の小売業者はパイナップルの売上げをパンデミックで増加した水準に維持するために販売促進に投資しており、入荷量が増えることは良いことだ」と言う。(以下、北米の項で「」はこの会社の関係者の発言)

この入荷量の増加にはいくつかの理由がある。まず、コスタリカのパイナップル業界では大規模で技術力の高い事業者の出荷量が多い。「また、天候がパイナップル生産に非常に適していた。これらの要因が全体的な生産性に良い影響を与え、大玉のパイナップルの出回り量が、中玉、小玉と比べて多くなっている。」

供給元は引き続き支配的な輸出国のコスタリカである。同国は米国とヨーロッパで消費されるパイナップルの約90%を供給している。「メキシコも米国にパイナップルを輸出しているが、主にテキサス州に留まっている。」

この生産会社は、ホリデーシーズン - 特にヨーロッパの - の需要の増加をカバーするために、毎年11月に

出荷可能量が増えるよう計画していると言う。しかし、同社にとって最大の市場は依然として米国である。「消費者が栄養価が高いと認識するアボカドやその他の果実の消費が増加したようにパイナップルの消費も増加すると期待している。一部の小売業者は消費者教育のために、パイナップルの健康上の利点とレシピを宣伝するようになった。」

一方、コスタリカでは、主として段ボール、農薬などの投入コストの増加によりパイナップルの価格が上昇した。「サプライチェーンの世界的な混乱が、生産資材の輸入に影響を及ぼしている。この傾向はパイナップル産業だけでなく消費市場全体に影響を与えており、年明けまで続くと思われる。」

「弊社はこれらのコストの上昇を緩和し、ビジネスを持続可能に保つために、連携企業と緊密に協力している。コストの増加は顕著で避けられない現実であるが、取引先との連携を通じて効率化を図ることにより、取引先、最終的には消費者に与える影響を軽減する方法を見出した。」

「今は、小売業者や契約販売先の顧客と次の年の価格設定を行う時期でもある。しかし、今年は事業コストと物流コストが高いという従来と全く異なる事情がある。この価格設定の過程で、パイナップルの新たな価格水準が定まることを期待している。これは、生産に投資し、品質とサービス水準を維持することを約束している弊社のような企業にとって重要なことである。」

### **オーストラリア：見通しは良好だが、悪天候の影響を懸念**

オーストラリアのある大手生産会社は、夏の需要増加に対応するため、パイナップル出荷の最も忙しい時期に備えている。同社はパイナップルを一年中出荷しているが、ある幹部は、クイーンズランド州北部のマリーバ地域の産地で春の天候が穏やかであったことで、良い兆候が見られると指摘した。同幹部は「果実の大きさは1月まで良好だと思われる。夏場のパイナップルは常に生食に適しており、適度に気温と湿度の高い天候の下で味が大変良くなる。弊社では収穫物は十分にあるようだが、消費者は出荷量の変動を好まないで、我々も全体として安定した供給を心掛けている」と言う。しかし、クイーンズランド州北部では、夏の間は何度かの荒天のほかサイクロンが一度来ることまでも予報されているため、天候面では難しい数カ月になる可能性があると言及する。悪天候は、収穫作業の問題と、特に洪水によって道路や高速道路が寸断された場合は物流の面で問題を引き起こす可能性がある。

## 137. フィリピンの生鮮果実市場

米国農務省GAINレポート(2021年11月24日)

これは米国農務省海外農業局マニラ事務所(フィリピン)が作成した報告書「生鮮果実市場の概要」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。なお、米国産品の関税及び輸出入手続きについては省略しました。

### 要旨

コロナ禍が始まって以来、フィリピンの消費者はより多くの生鮮果実を食事に取り入れている。2020年の世界各国からフィリピンへの生鮮果実の輸出額は36%増の6億9,500万ドルで、2021年には5%の増加が見込まれる。しかし、米国からの輸出は、長引く海上貨物輸送の問題により、2020年には35%減の3,250万ドルとなった。輸出業者らは、世界的なサプライチェーンの問題が緩和されれば、フィリピンへの米国産生鮮果実の輸出額は年間5千万ドルに回復すると楽観的に見ている。フィリピンでは様々な熱帯果実が栽培されており、米国の輸出業者は、出荷時期が異なる果実やアジア太平洋地域で広く栽培されていない果実に着目することが奨励される。

### フィリピンの市場概要

#### <生鮮果実>

パンデミックの間、より多くの消費者が健康的だと考えられる食品を好み、生鮮果実は「あなたのためになる」選択肢に関連付けられた。2020年の世界各国からフィリピンへの生鮮果実の輸出額は2019年と比較して36%増の6億9,500万ドルであり、2021年には5%増加すると予測される。

2020年の輸出国の上位は中国、オーストラリア、米国であった。中国本土とオーストラリアからの輸出はそれぞれ80%及び17%増加したが、米国からの輸出は35%減少した。米国の輸出の減少は、海上貨物輸送が困難な中、生鮮果実の上位3品目であるブドウ、リンゴ、オレンジのすべてに及び、一方、空輸されるサクランボの輸出は33%増加した。以下の表に、2020年にフィリピンに輸出された生鮮果実の上位品目と輸出国を示す。

表1 フィリピン向け生鮮果実輸出上位品目

| 輸出国      | フィリピン向け主要輸出品目                                   |
|----------|---|
| 中国       | りんご、ブドウ、マンダリン、レモン及びライム、ナシ、グレープフルーツ、メロン類(スイカを除く) |
| オーストラリア  | ブドウ、オレンジ、マンダリン                                  |
| 米国       | ブドウ、リンゴ、オレンジ、サクランボ                              |
| パキスタン    | マンダリン、その他の柑橘類                                   |
| 香港       | マンダリン、オレンジ                                      |
| アルゼンチン   | マンダリン   |
| ニュージーランド | キウイフルーツ、リンゴ                                     |
| チリ       | ブドウ、サクランボ                                       |

注: 貿易データモニターによる年間輸出額250万ドル以上のもの。

香港は主要な中継地である。

2021年1月から9月までの世界各国からフィリピンへの輸出は前年比8%増加した(中国とオーストラリアはそれぞれ9.4%及び8.9%増加し、米国は40%減少した)。輸入業者らは年末に向かって輸送問題が悪化すると報告しており、リスクを最小限に抑えるため、輸送時間が短い地域内からの輸入を好んでいる。

## 米国からフィリピンへのノンストップ配送サービス

米国国際開発庁(USAID)は、開発のための規制改革推進プログラム(RESPOND)の事業を通じて、輸出開発協議会とフィリピン大学行政財団がロイヤル・カーゴ社及びアイリス・ロジスティクス社と提携して、フィリピンと米国の間で初めてのノンストップ輸送サービスを立ち上げるよう支援を行ってきた。アイリス・パオアイ号は、フィリピンと米国西海岸の間をノンストップで航行する最初のフィリピン船籍のコンテナ船である。輸送時間を短縮し、米国とフィリピンの貿易事業者の負担を軽減することが期待される。

## 輸入可能な生鮮果実

フィリピン農業省植物産業局(BPI)は、輸入可能な生鮮果実のリストをオンライン( <https://npqsd.bpi-npqsd.com.ph/import/> )で提供している。リストの米国に関するセクションには、リンゴ、アンズ、ブルーベリー、サクランボ、ブドウ、レモン、キウイフルーツ、ネクタリン、オレンジ、モモ、カキ、スモモ、イチゴ等が掲載されている。リストにない生鮮果実の輸出に関心がある米国の輸出事業者は、米国農務省海外農業局マニラ事務所に問合せ願いたい。

## 市場の状況と動向

フィリピンでは様々な熱帯果実が栽培されている。バナナとパパイヤは一年中収穫され、その他の果実は季節性がある。このことは、様々な品目の米国産生鮮果実がフィリピン市場に参入し、消費者の選択肢を増やし、または季節の異なる選択肢を提供するまたとない機会があると解釈できる。以下の表はフィリピンの果実の季節性を示している。

表2 フィリピンの果実の季節性(出荷時期)

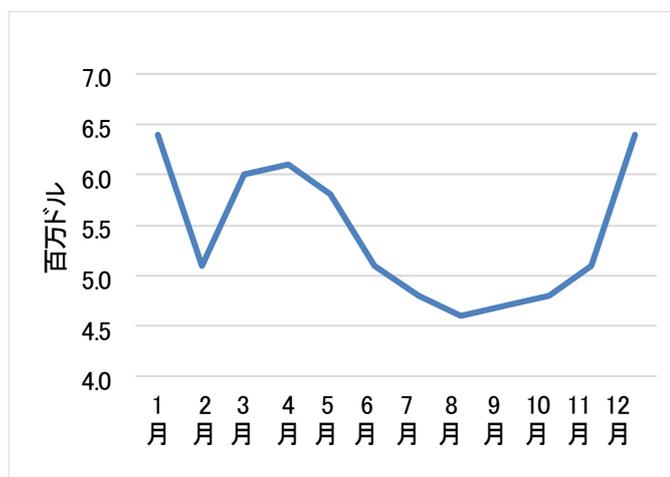
|          |          |                 |             |
|----------|----------|-----------------|-------------|
| バンレイシ    | クリスマス～9月 | ランブーネ           | 4月～6月/1月～4月 |
| アボカド     | 6月～9月    | ワックスアップル        | 4月～クリスマス    |
| バナナ      | 一年中      | マンダリン及びスイートオレンジ | 11月～2月      |
| スターアップル  | 12月～4月   | マンゴー            | 4月～8月       |
| カラマンシ    | クリスマス-9月 | マンゴスチン          | 6月～12月      |
| サポディラ    | 4月～9月    | パパイヤ            | 一年中         |
| ライム      | 10月～12月  | パイナップル          | マル・ジュン      |
| ジャワプラム   | 4月～6月    | ランブータン          | 6月～9月       |
| ドリアン     | 8月～11月   | サントール           | 6月～10月      |
| グアバ      | 6月～8月    | スカーレットプラム       | 4月～クリスマス    |
| サワーソップ   | 5月～6月    | ポメロ             | 10月～6月      |
| ジャックフルーツ | 3月～8月    | タマリンド           | クリスマス～12月   |

出典: フィリピン農業省植物産業局

- 一般的に、消費者は様々な果実を食べることで幅広い栄養を摂取できると考えている。典型的な果物がごには国内産の果実と輸入果実の両方が含まれる。リンゴ、カンキツ類、ブドウは、病気見舞いの定番である。
- パンデミックの間のリモートワークへの移行により、消費者は自宅で食事を準備する機会が増え、より多くの果実を食事に含めることができるようになった。ビジネスミラー紙が伝えるワンポール(OnePoll)社とハーバライフニュートリション(Herbalife Nutrition)社による2020年の食事に関する調査の結果では、回答者の53%が果実・野菜を多く食べるようになった。

- 消費者の果実摂取量は、ホリデーシーズン(10月～12月)の軽食や、乾季(3月～5月)の脱水防止のために増加することから、輸入果実の需要はこれらの時期にピークに達する。
- リンゴやオレンジなどの輸入された生鮮果実は、しばしば一部の国内産果実よりも価格が低くなる。これは、主に国内産果実の季節性と、フィリピン産果実、特にバナナとパイナップルは日本や他の東アジア諸国への輸出志向が強いためである。また、輸出用の果実は外国市場向けに生産されるが、そのために投入された資金は国内消費果実の供給にも影響を与える。

図1 フィリピン向け果実輸出の山と谷(2020暦年)



出典: 貿易データモニター  
 注: パキスタン、ベトナム等、年次データのみで月次データの無い輸出国を含まない。

- コロナ禍に後押しされて、クイックコマース(即時配達サービスを伴う電子商取引)が生鮮果実の販売を伸ばす上で重要となっている。クイックコマースは、ほぼ瞬時に顧客に少量の商品を提供する。生鮮果実のオンライン販売業者とGrab社やLalamove社などの配達サービス業者の数が急増しており、このニーズを満たしている。

消費者は、ブドウのコットンキャンディ(Cotton Candy)品種など新たに市場に登場した果実品種を試すことを楽しみ、ソーシャルメディア上でそれを友人に伝えている。米国北西部サクランボ協会(Northwest Cherries)は、これを利用し、フィリピンで影響力のある3人のシェフを起用した4週間のチャリティ・キャンペーンを通じ、ブラックパール(Black Pearl)、コーラルシャンペイン(Coral Champagne)、エレガント(Elegant)、サンティーナ(Santina)、ソネット(Sonnet)等、15品種のサクランボの宣伝に力を入れた。

図2、3 ソーシャルメディアによるプロモーション活動



## 138. 英国 消費者の支出を増やさない環境にやさしい取り組み

FreshFruitProtalウェブサイト(2021年11月25日)

持続可能な商品の購入を促進するのに役立つものは何か? 答えはいたって単純: 低価格

Asda(英国で第3位のスーパーマーケットチェーン)が行った新しい調査によると、消費者の注目を集めるのは、環境関係のラベルでも品揃えでもなく、価格である。

75%以上の消費者が、価格が妥当であれば持続可能性により配慮した考え方を持たせようとした。しかし、統計結果で重要なことは、半分の人はそうした商品を得るために支出を増やさないということだ。

それは消費者が環境に関心が無いということではないと報告書は指摘する。消費者は持続可能であろうとするだけのために支出を増やすことはできないとわかっているということだ。

Asdaの商業サステナビリティ担当幹部のスーザン・トーマス氏は、「我々の調査によると、消費者はその属性にかかわらず持続可能性を気にかけているが、買い物をする段になると、多くの消費者は環境に優しい商品を購入する余裕がない。

価格が高いために持続可能な選択ができないということがあってはならず、弊社の『Asda価格でより環境にやさしくなる約束』は、価格が購入の障壁とならないことを目指している。スーパーマーケット、小売業者、そして業界全体として、より環境に優しい商品をより手頃な価格にするために協力して取り組む責任がある。業界の投資は消費者の需要に応じて増加するので、より環境に優しい選択肢を受け入れることによって、消費者もその役割を果たすことができる」と述べた。

Asdaは、グラスゴーで開催されたCOP26の会合の前に、消費者の購買習慣と消費者が持続可能な商品を購入することにどれだけコミットしているかを把握するため、約3千人の顧客に調査を行った。多くのスーパーマーケットが2050年までに炭素排出量を実質ゼロにしようとしており、それに先立ってどのようにしたら目標を達成できるかを理解するためには、消費者の意見を得ることが不可欠である。

調査結果から取り急ぎ抽出したいくつかの数字を掲げる:

- 消費者の55%は「カーボンフットプリントを削減するためのライフスタイルの大幅な変更」を行いたいが、コストが妨げになっているとしている。
- 大多数が価格が購入意思決定のひとつの要因であるとしているが、56%が選択肢の増加を、45%がブランディングを、意思決定の重要な要素だとしている。
- 消費者は、リサイクルの取り組みを増やし(89%)、電子機器や照明のスイッチを切り(84%)、車による移動を減らす(52%)ことで自分の役割を果たしたいとしている。

Asdaの研究は、サプライチェーン全体が協力して消費者向けの持続可能な商品のコストを削減しなければならないことを示唆している。Asdaは、昨年発表した「より環境にやさしい約束」(Greener Promise)でその役割を果たしている。これは、バラ売りまたは非包装の商品(果実、野菜)の価格が、包装された類似商品よりも高くないことを保証するものである\*。

Asdaはまた、70以上のブランド商品と自社ブランド商品を量り売り(容器持参)する「リフィルストア」の数を増やしている。

出典: [Produce Business UK](#)

\* 訳注: この取り組みが昨年発表された際のThe Guardian電子版の記事によると、その時点におけるバラ売り・非包装品の価格保証の対象はリンゴ、カリフラワー、キャベツ等53品目、量り売りの対象はシリアル、ティーバッグ、コーヒー豆等30品目以上となっています。

## 139. オーストラリア 業界は「有機」の語の使用基準策定を歓迎

FreshPlazaウェブサイト(2021年11月26日)

「有機」という言葉の使用に関する強制力のある基準を定めるためのパブリックコメントを求めるオーストラリア政府の発表について、26億豪ドル(約2,100億円)の規模を有する同国の有機産業界は、大きな節目として歓迎している。

長期にわたりオーストラリアの有機農産物に関する規制の枠組みの改善と合理化を支援しているデビッド・リトルプラウド農業大臣のこの発表により、業界と消費者は有機農産物のサプライチェーン全体での規制による、または規制によらない取組の選択肢に関して意見を共有することができる。

オーストラリアは現在、強制力のある国内基準を持たない唯一の先進国として世界の市場で遅れをとっており、産品は認証なしに有機と表示することができる。また、有機産品の輸出業者は、信頼できるオーストラリアの枠組みが無い場合、個々の国内手続きの手数料を支払い、輸出先国ごとの要件を満たさなければならないという煩雑な手続きのために、極めて不利な立場にある。

オーストラリアン・オーガニック社(AOL)(有機認証を推進している非営利企業)のニキ・フォード代表(CEO)は、オーストラリア政府の発表を称賛し、過去3年間、有機産業界を代表して重要なロビー活動に従事してきたとして、「市場アクセスの向上、消費者の信頼感及び業界の信頼性を支えるこの取り組みの推進に対するリトルプラウド大臣の変わらぬ支援に感謝する」と述べた。

同氏はまた、「有機農業セクターを代表する団体として、我々は会員を支援し、この重要な問題について政府に一貫した声を届けるためにたゆまぬ努力を払ってきた。我々は、この重要な手続きが正式に始まったことを大変嬉しく思っている。今後数週間のパブリックコメントの期間中、我々は業界メンバー、生産者、出荷業者、輸出業者及び消費者が、顧客の信頼とオーストラリアの有機農産物の将来の成長に不可欠なこの議題に関して見解を表明することを精力的に支援する」と語った。

フォード氏は、強制力のある基準を定めることにより、有機農産物に対する世界的な需要の高まりの中で競い合う上で、オーストラリアを他の国と同列に置くことになるとして、「強制力のある有機の基準を確立することは、急成長する我々の産業界が国内市場と世界の輸出市場の両方で増加する需要を捉えるに当たって、有利な状況を確保するのに役立つ。園芸、畜産、養蜂から化粧品、ワイン、デザートまで幅広い分野にまたがるこの業界では、消費者が購入にあたって、情報に基づく自信を持った選択を行うことが重要だ」と述べた。

## 140. ニュージーランド 今シーズン最後のゼスプリ・キウイを日本等に出荷

FreshPlazaウェブサイト(2021年11月30日)

今年最後のゼスプリ・キウイフルーツを積んだ船がタウランガ港を出港し、ニュージーランド産のキウイフルーツの出荷シーズンを終了した。今年も、力強くも課題の多い年であった。

ゼスプリ・グリーンキウイフルーツの最後の1,800トン、12月初旬に東京と神戸で荷下ろしすることとなっている冷蔵船カリキ号と、数日中に出港する香港行きの冷蔵コンテナに積まれている。

海外市場責任者のアラスデア・ハルバート氏は、世界的な海運ネットワークの混乱により、ゼスプリは今シーズン、チャーターした冷蔵船への依存度を高めており、昨年の延べ49隻に対し今年は延べ66隻が運航されたと言う。このほか約17,000個の冷蔵コンテナが使用された。これにより、再びコロナ禍の影響を受けた今シーズン中に、総計1億7,700万箱以上(約62万トン)の1級品の果実が無事に輸送された。

ハルバート氏は「労働力の不足とコストの上昇のほか、コロナ禍によって状況がより複雑でより不確かになったことから、今年は間違いなくこれまでで最も困難なシーズンの一つであった。我々が直面している課題は、来シーズンに向けても残りそうだ。アジア、北ヨーロッパ、地中海の主要港に果実を安全かつ柔軟に出荷するため、チャーターした冷蔵船の使用を計画していたが、パンデミックとそれに関連する世界的な輸送の混乱のため、出航数を増やした。これにより、混乱の影響を最小限に抑えて出荷することができた」と言う。

ゼスプリとフレッシュキャリアーズ社(日本の船会社)との長年の提携により、新造の3隻の専用冷蔵船が今シーズンすべて投入され予定どおり運航されたことから、輸送量を追加するのに役立った。長年の提携先であるクールキャリアーズ社(スウェーデンの船会社)もまた、一番大きな新しい冷蔵船クールイーグル号の初めての航海で、これまでで最も多い量のゼスプリ・キウイフルーツをヨーロッパに輸送し、今シーズンを支えた。

同氏はまた、「今シーズンの成功のためには、最前線のスタッフ、より広範な業界関係者、さらに世界のサプライチェーン関係者の多大な努力が求められた。サプライチェーン全体を通じたこれらのチームは、強化された安全手順を遵守しながら、コロナ禍によって引き起こされた混乱と重圧を管理し、より多くのキウイフルーツを出荷するために懸命に働いてきた。海上及び陸上でのパートナーシップは、ニュージーランドのキウイフルーツ業界の成功のために大変重要であり、今年もビタミンCが豊富な果実を世界に届ける上で必須のものであった」と言う。

今シーズンは、初めて1億箱以上のゼスプリ・サンゴールドキウイフルーツを出荷して記録を塗り替え、また約7,700万箱のグリーンキウイフルーツを提供した。

ハルバート氏は「今年の出荷シーズンは終了したが、来年の計画は既に順調に進んでいる。我々は再び世界的な輸送の混乱、貨物輸送コストの上昇、コロナ禍がもたらす推定6,500人の大幅な労働力不足及びその他の課題を予想しているので、それらに対処して果実を提供するため、提携先及びより広範なサプライチェーン関係者と緊密な協力を続けるとともに、この取り組みを通じて関係者と地域社会を支援することに引き続き力を入れる」と述べた。

## 141. 世界のベリー類市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年12月3日)

多くの国でラズベリー、ブラックベリー、レッドカラントの人気の高まっているが、一部の国ではレッドカラントの人気は他の2品目に比べてやや劣っている。南アフリカでは、ブルーベリーへの関心の高まりがベリー類全体の人気を高めており、特にラズベリーとブラックベリーはこの恩恵を受けている。メキシコとオーストラリアの生育期間中の豪雨は、ベリー類の量と品質にいくらかの影響を与えたが、オーストラリアでは雨よけ栽培のため被害が軽減された。

### オランダ：ラズベリーは需給が均衡 一方、ブラックベリーは非常に高値

オランダのある業者は、「ラズベリーについては、弊社のポルトガルの農場の出荷シーズンはすでに終わりに近づいている。モロッコからの直送を数週間前にイギリス向けから開始し、現在はその他のヨーロッパ各地への出荷も始まった。販売は順調に進んでいる。この時期の供給はあまり多くないが、需要も多くないので、市場は良好なバランスを保っている。価格はおよそ8.50~9ユーロ/kgである。今後数週間で供給も、できれば需要も、再び増加することを期待している」と言う。



また、ブラックベリーの販売は現在最も難しいとして、「通常、この時期には供給の大部分はメキシコに頼っている。しかし、そのほとんどは商用の旅客機に積まれてくるものであり、現在はその数が以前の半分にも満たない。このため、ブラックベリーの価格は12~16ドル/kgと非常に高くなっている。米国とアジアの業者も様子を見ているので、今のところ入荷可能性は限られている」と語った。

この業者はさらに、「レッドカラントの需要は、私見では他の年ほど強くない。価格はおよそ6~6.50ユーロ/kgである。レッドカラントに関しては、ドイツとイタリアが弊社の最大の市場である。従来の傾向では、1月と2月には需要が幾分増加すると見込まれる」と述べた。

### イタリア：ベリー類の購入が増加

統計によると、一部のベリー類の人気が高まっており、直近の1年間に750万世帯が購入し、前年に比べて+22%、前々年に比べて+26%と力強い増加を示した。中でも、ブラックベリー、ラズベリー及びカラントは、2021年10月までの1年間に約460万世帯が購入し、力強い成長にもかかわらず、依然として大きな発展の可能性がある。

ブラックベリーは約170万世帯が購入し、年による変動は少ない。ラズベリーは最も浸透しており、2021年10月までの1年間に320万世帯以上が購入し、2年前に比べて+24%となった。一方、カラントはまだ比較的新しい品目で、約130万世帯が購入したが、この数は2年前と比べてほぼ2倍である。

種々の報告書によると、ラズベリー、ブラックベリー、カラントの3品目は、イタリアのスーパーマーケットで優れた販売成績を上げている。このことは、ある主要チェーンストアのバイヤーも認めている。2021年の売上高は2020年に比べて10%増加した。11月に入り果実と野菜の売上げが全般的に減少しても、これらの品目は売上げを維持した。価格も、イタリア国内産とその他のヨーロッパ産の不足のため、現時点では平均12~14ユーロ/kgと高い。市場関係者は、クリスマス休暇で需要がさらに増加する今後数週間、この傾向が続くことを望んでいる。

包装に関しては、商品がよく見えるよう透明な容器が強く求められる。ラズベリーはやや日持ちし、1包装当たり

の単価も安いと、包装単位は125～250グラムであるが、最近では少なめの125グラムが好まれる。一方、ブラックベリーとカラントの場合は、125グラムの包装が最も多い。

産地については、ブラックベリーは主にメキシコから輸入されている。ラズベリーはイタリア国内及びスペイン、モロッコから入荷しており、レッドカラントはほとんどの場合イタリアの国内産である。

### スペイン：国内産はモロッコ産との競争が圧力

スペインは、2020年に市場シェア25.43%でEU27カ国のうち第2位のラズベリー生産国であった。スペイン産の99%はアンダルシア州産で、主に同州ウエルバ県から出荷されており、大部分が輸出されている。現在では、様々な二度咲き以上の品種(1シーズンに2回以上花を付ける品種)と一度咲きの品種の組合せにより、ラズベリーはほぼ一年中出荷されるが、出荷の最盛期は3月～5月である。

スペインのある業者によると、モロッコとの競争が大幅に拡大し始めた2週間前までは、売り上げは順調に推移していた。ヨーロッパでのCOVID-19の流行の拡大と制限の強化により、ホテル、レストラン、ケータリング業界がさらなる閉鎖に追い込まれたため、ラズベリーの販売にも悪影響を及ぼしている。

スペインのラズベリー栽培面積は2021年に11.9%減少し、2020/21年度出荷シーズンの出荷量は前シーズンより1.7%少ない48,258トンと推計される。輸出は、2015/16年度～2020/21年度の期間に約58%増加した。しかし、2020/21年度には、モロッコ産(75%)とポルトガル産(23.6%)を主体に輸入も増加した。主な輸出先はドイツで、昨年のスペイン産の輸出の30.4%を占め、イギリス(28%)、オランダ(13%)、フランス(11%)がこれに続いた。

### 南アフリカ：ブラックベリーとラズベリーはベリー類人気の恩恵を受ける

上げ潮はすべての船を持ち上げる\*：ブラックベリーとラズベリーは、ブルーベリーへの関心の爆発的高まりの恩恵を受けている。(※は経済分野の格言)

この1ヶ月の間にブラックベリーの収穫量は持ち直し、2021/22年度の出荷シーズンには17トン以上が輸出された。2020/21年度には193トンのブラックベリーが輸出されたが、これは12トンを輸出した2014/15年度から続く急激な上昇の一環であった。統計によると、2018/19年度には、南アフリカ産ブラックベリーの51%が中東に、47%が英国に輸出された。

ラズベリーの輸出はここ数年伸びており、新しい品種の試験が進行中である。南アフリカのラズベリー出荷業者は10社に満たず、その多くは海岸地方にあり、一部はハイフェルト地域(内陸の高地)に所在する。今年度のラズベリー輸出はこれまでのところ298トン弱である。2020/21年度には1,500トン以上が出荷された。2019/20年度には、南アフリカ産ラズベリーの61%が英国に出荷され、中東が29%を占めた。輸出品は空輸される。

### 北米：メキシコの雨季が北米市場のラズベリーの質と量に影響

ラズベリーの入荷量はしっかりしている。ある出荷業者は、ラズベリーは現在、8月下旬から9月上旬に出荷が始まったメキシコ中部と、その後で出荷が始まったバハカリフォルニア州(メキシコ)の2つの地域から入荷しており、「12月中旬まではしっかりした量がある」と言う。また、メキシコ中部では秋に長雨があったと指摘し、「メキシコ産のすべてのベリー類に影響があったことは、残念ながら間違いない。その結果、出荷量の減少と出荷の本格化の遅れが見られる。しかし、果実は入手可能である」と言う。

一方、ベリー類の需要は旺盛で、特にこの業者が取り扱っている新品種のマルー(Malu)ラズベリーの需要が高い。この業者は、「果実のサイズも色も大変良く、果肉もしっかりしている。また棚持ちがよく、若干の酸味がありつつも大変甘い。ラズベリーの品種開発は盛んに行なわれている」と言う。

この業者は、メキシコ中部とバハカリフォルニア州の両方の地域の生産者がマルー品種を栽培しているが、バハカリフォルニア州では他の品種も栽培していると、「冬の時期には2つの産地から入荷するため、特に1月中旬から2月末までは非常に入荷量が多い。マルー品種もバレンタインデーの時期に当たるその頃が出荷の最盛期だ」と言う。

全体的な需要も昨年よりも強いようだ。この業者は、「この秋はラズベリーの売れ行きがよく、またラズベリーはホリデーシーズン、特に新年によく売れる。その後の1月と2月は素晴らしい月だ。(ホリデーシーズンの後で)人々が健康的な食事を摂るため、非常に多くの健康上の利点があるベリー類は大変適している」と言う。価格に関しては堅調で、クリスマスと大晦日が近づくにつれて一層強含むことが見込まれる。

メキシコ産ブラックベリーの供給は安定しているが、特に量が多いわけではない。

前出の業者とは別のある出荷業者は、同社が現在扱っているブラックベリーは主にトゥピ(Tupi)品種で、ミチョアカン州(メキシコ)から入荷しており、「入荷は昨シーズンに比べて安定しているようだ。しかし、供給量は豊富ではなく、品質にも問題があるかも知れない。今季はシーズンを通して同様だと見ている」と言う。トゥピ品種は、少なくとも15年以上入荷しているブラックベリーの主要品種である。この業者は、「何年も前は品質の面で非常に優れていたが、扱い方が悪いため今は良くない状態にある」と言う。

さらに、ブラックベリーの品質の懸念に拍車をかけるのはメキシコの雨季が長引いたことだ。通常、雨は9月の終わりから10月の初めまでに降り終わるが、今季は10月の終わりまで長引いた。このため、ブラックベリーだけでなく、他のベリー類や多くの作物に影響を与えたと言う。

出荷シーズンの始まりも少し移動した。この出荷業者によれば、昨シーズンは強い霜があり、ミチョアカン州で約800ヘクタールのベリーに影響を与えたが、今年は約4週間早く9月上旬に出荷が始まった。

同時に、同社はもっと新しいスルタナ(Sultana)品種を扱っており、すでに収穫が始まっている。「現在は出荷量が限られているが、4~5週間以内には多くの収穫が見込まれる。理想的には、弊社はスルタナ品種だけを出荷したいが、農場を整備するのに時間がかかる。今は店頭の棚を埋めるのに十分な量がないため、複数の品種を出荷している」と言い、この品種は棚持ちがよく、食味も消費者に喜ばれると述べた。

現在、トゥピ品種の品質が良くないため、需要は昨シーズンよりも弱い。「小売業者は品質が良くないため宣伝をためらっている。そのことが需要に影響を与えた」と言う。

価格に関しては、例年と比較して果実の入荷量が少ないことから、健全な市況が期待される。

米国でのレッドカラントの出荷量は限られている。その多くは米国内のヨーロッパ人が生鮮果実として購入し、それ以外はジャムやゼリーに加工される。

### オーストラリア：雨よけ栽培が降雨の悪影響からラズベリーを守る

オーストラリアの主要果実出荷業者のひとつは、同社の産地のうち二つが11月に出荷を開始したことから、今年の夏は、多くの高品質なラズベリーが店頭で並ぶと期待している。他の産地の出荷が始まる中、クイーンズランド州のサンシャインコーストに近いワムラン地域では、冬から春の時期の出荷計画をほぼ完了し、現在、最終月の出荷を終えつつある。スタンソープ地域(クイーンズランド州南部)とタスマニア州では3週間前に出荷が始まったので、12月中旬までの今後数週間、同社の3つの産地すべてから全国に出荷が行なわれる。スタンソープ地域は過去2カ月の間、大雨に続いて雨が多いが、すべてのラズベリーが雨よけ栽培なので、雨自体は果実の品質に影響を与えていない。しかし、湿度が高くなっているため、栽培の観点からは真菌性の病気を防除することが難しくなっている。

ラズベリー、ブラックベリー及びその他のベリー類(ボイセンベリー、シルバンベリー等)を含むキイチゴ属(Rubus)についてデータが収集されている。これらのベリー類の生産量は、2018年以降毎年増加している。最新の統計データによると、2020年6月までの1年間に、9,932トンが生産され、そのうち7,404トンがラズベリー、2,483トンがブラックベリーで、45トンが他のベリー類であった。キイチゴ属の生産額は2億1,600万豪ドル(約170億円)で、前年から4%増加した。

## 142. リーフターコンテナの料金は2022年にドライコンテナを超える

FreshFruitProtalウェブサイト(2021年12月7日)

海運調査のドリューリー (Drewry) 社が最近発表した「リーフター輸送に関する年次報告及び予測2021/22」によると、リーフターコンテナ\*の運賃は2021年の年間を通じて急激に上昇したが、(リーフターでない)通常の貨物運賃とは対照的に、(東西路線に比べて遅れていた)南北路線の値上がりにより、2022年にはさらに上昇すると予想されている。(\*: リーフターコンテナは、庫内の温度を冷蔵、冷凍等に設定できるエアコン付きのコンテナ)

ドリューリー社の世界リーフターコンテナ運賃指数(リーフターコンテナの輸送量が多い外洋航路15路線の加重平均)は、2021年第2四半期までの1年間で32%上昇し、この上昇率は第3四半期の終わりまでに50%にまで達すると予想されている(下図参照)。

しかし、この増加は、同じ期間にドライコンテナ(リーフターでない普通のコンテナ)の輸送単価が2倍以上に急増したため、小さく見られている。

リーフターコンテナ運賃の再上昇は、すべての取引で均一に起こったわけではなく、船舶の輸送能力が著しく逼迫した東西方向の主要路線で特に上昇率が大きかった。一方、南北方向の貿易は、特に中米、南アフリカ及びその他の南部アフリカ諸国からの輸出ルートにおいて、全般的に上昇率が低かった。

ドリューリー社のリーフター部門の調査責任者であるフィリップ・グレイ氏は、「ドライコンテナの貨物料金が貿易環境の正常化に伴って2022年には低下すると予想されるのとは対照的に、リーフターコンテナでは南北路線の長期契約の料率が改定される際に高騰している価格が反映されるため、料金は引き続き上昇すると予想されている。これらの貿易で扱われるリーフター貨物は、ほとんどの場合長期契約が結ばれる」と言う。



注: リーフターコンテナの輸送量が多い路線の加重平均である。

出典: ドリューリー社「リーフター輸送に関する年次報告及び予測2021/22」

リーフターコンテナの運賃上昇の主な要因は積載容量に関係しており、生鮮食品の荷主が、より高い運賃を支払うドライコンテナの大口の荷主とコンテナ船の積み荷の枠を奪い合ったためであり、リーフターコンテナ用の電源は十分に提供されている。一方、コンテナの供給体制の混乱が続いたことからリーフターコンテナの急激な不足が生じており、リーフターコンテナを用いた貿易の課題となっている。

グレイ氏は、「我々は、これらの状況は短期的であり、2022年の半ばから貿易が正常化するにつれて自然と修復されると考えている。しかし、世界の(非コンテナ)輸送船の容量は貨物需要の増加に追いつかないと予想され、コンテナの記録的な新造にもかかわらず、一部の取引では出荷の最盛期にリーフターコンテナの確保が依然として問題になると予想している」と語った。

これらの状況は、一部の大口荷主がコンテナの供給不足から逃れるためにコンテナを用いない輸送形態に戻ったことで、専用の冷蔵船に短期的な活躍の場を与えた。しかし、これらの動きにもかかわらず、ドリューリー社

は、生鮮食品用の専用冷蔵船のシェアは2020年に12%に低下し、今後数年間で一桁台に落ちると予想している。

したがって、2020年の世界の生鮮食品の海上輸送量が1億3,200万トンと0.4%減少したにもかかわらず、コンテナ船による冷蔵輸送は0.3%増加し540万コンテナ(20フィートコンテナ換算)に達した。リーファーコンテナによる輸送は、そのシェアの拡大と貨物需要の増大により、2022年以降、ドライコンテナよりも速いペースで拡大すると見られる。

2020年の生鮮食品の海上輸送全体の縮小は、通常の貨物の縮小よりもはるかに穏やかで、経済ショックに対する冷蔵・冷凍品貿易の強い回復力を示した。この分野の貿易では、特にホスピタリティ部門の閉鎖の影響を受けて落葉果実、生鮮野菜、冷凍ジャガイモの需要が減少し、一方では、新型コロナウイルスの封じ込め措置のために農作物の生産量と魚の漁獲量が減少した。

また、フィリピンでのフザリウム病TR4の発生はバナナ貿易の成長を弱めたが、アフリカ豚熱の発生による中国の豚肉輸入の増大が貨物需要を支えた。

冷蔵・冷凍貨物の海上輸送は2021年前半に持ち直し、肉類、柑橘類、熱帯産品を中心に対前年比4.8%増加したが、2020年の落ち込みから回復していないため、今年の残りの期間は(冷蔵でない)通常の貨物と同じペースで拡大するとは考えられない。

## 143. 米国 停泊船舶数の減少は数字のトリック

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年12月8日)

米国のロサンゼルス港及びロングビーチ港における順番待ちの新しい方式により、報告される停泊船舶の数が大幅に減少したことは、事態が改善したとの誤った印象を与えた。

ニュースサイトのクォーツ(QUARTZ)によると、11月16日には(上記両港が面している)サンペドロ湾に86隻の船が停泊していたが、11月22日までに60隻となり、30%の減少が見られた。

従来は、船舶がロサンゼルス港及びロングビーチ港から40マイル(64km)以内に居る場合に「港内にいる」と数えられ、先着順で並んでいた。

しかし、カリフォルニア州南部の港への船の到着を監視する南カリフォルニア・マリン・エクスチェンジ(非営利団体)は、11月15日に順番待ちの新しい方式を発表し、40マイル以内の区域に入る前に並ぶ順番を確保することが可能となった。

港の近くの海域に持ち込まれる汚染物質の量を減らすために、船舶は港から150マイル(241km)離れた水平線の向こうで待機するよう求められた。

一部の船舶については、これは151マイル離れた場所に錨を降ろすか、さらに遠く離れて待機することを意味したが、アメリカンシップパー(業界情報サイト)によると、別の一部の船舶は単に太平洋上をゆっくりと航行したり、メキシコ沖や台湾沖の海域で待機したりしている。

サンペドロ湾の船の混雑は緩和したように見えたが、実際には、最高記録を更新していた。

12月5日現在、96隻がロサンゼルス港及びロングビーチ港への入港を待っており、そのうち56隻が40マイル圏の外にいた。さらに31隻が接岸して荷下ろし中であり、合計は127隻となる。

南カリフォルニア・マリン・エクスチェンジは12月5日、40マイル圏の外にいる船舶を含むように数え方を変更した。

## 145. 世界リンゴ・ナシ協会が世界の生産予測を更新

simfruit.cl ウェブサイト(2021年12月7日)

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、12月3日にオンラインで開催された直近の会議で、リンゴとナシの北半球及び南半球の予測の更新を発表するとともに、市場の動向や見通しなどの議題にもついても取り上げた。

### 北半球の予測生産量の更新

#### 米国

- **リンゴ** 予測生産量は、一部の州や品種について修正されたが、全体としては前回予測と同じ464万4千トン(前年比6%減)と見込まれる。
- **ナシ** 前回予測の52万5千トンから52万9千トンへとわずかな増加が予想される(オレゴン州とワシントン州での増加による。なお、カリフォルニア州は水不足の影響を受けた)。

#### 欧州連合(EU)

- **リンゴ** 新たな予測生産量は、ポーランド(13万トン増の430万トン)、ベルギー(48,000トン増)及びオーストリア(5千トン増)で増加した一方、イタリア(23,000トン減の202万3千トン)、フランス(12,000トン減の136万3千トン)、オランダ(5千トン減)で減少し、域内合計は1,187万8千トンとなった。プログノスフルーツ(Prognosfruit: 8月に開催されたイベント)で発表された予測値と比較して際立っている(1,170万トンから増加)。なお、イタリアの収穫量の最終データは、すべての収穫が完了する2週間後に公表される。
- **ナシ** ベルギー(59,000トン増)及びオランダ(15,000トン増)で増加する一方、イタリア(11,000トン減)、及びフランス(1,000トン減)等で減少が予想されることから、合計生産量は166万5千トン(61,000トン増)と予想される。コンフェレンス(Conference)品種は68,000トン増加し、アバテ(Abate)品種は12,000トン減少すると見込まれる。

#### 南半球

WAPAのデータによると、ブラジル産のリンゴについて若干の修正がなされた。最終的な予測は、リンゴ523万トン、ナシ134万6千トンである。

## 北半球の生産見通し リンゴ

12月時点の米国の州別予測



| 州       | 1000トン |       |       |       |       |       |      |
|---------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|         | 2016   | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | F2021 | (1)  |
| ニューヨーク  | 535    | 544   | 633   | 550   | 628   | 572   | -9%  |
| ペンシルベニア | 200    | 222   | 221   | 200   | 189   | 200   | 6%   |
| バージニア   | 82     | 100   | 93    | 100   | 74    | 90    | 22%  |
| ミシガン    | 533    | 363   | 476   | 500   | 420   | 348   | -17% |
| ワシントン   | 3,320  | 3,039 | 3,039 | 3,449 | 3,137 | 2,996 | -4%  |
| カリフォルニア | 114    | 104   | 113   | 112   | 123   | 84    | -32% |
| オレゴン    | 89     | 79    | 77    | 100   | 79    | 79    | 0%   |
| その他の州   | 240    | 285   | 288   | 297   | 275   | 275   | 0%   |
| 合計      | 5,113  | 4,736 | 4,940 | 5,308 | 4,925 | 4,644 | -6%  |

訳注  
F2021は2021年の予測値  
(1)は2020年に対する2021年  
予測値の増減

### 市場の展望と動向

#### 米国

市場の見通しと動向についてWAPAは、米国産のナシについては近年と比較して安定した出荷が見られると指摘している。販売額は、国内産、メキシコ産、カナダ産が圧倒的に多い。輸出は、輸送の問題により大幅に減少する(中東、インド向け等)見込みである。

同協会はまた、「資材、賃金、エネルギー、輸送のコストの増加が懸念されており、生産者の収益性と売上げに影響を与える。カリフォルニア州では干ばつと人手不足のため、将来のナシ生産の見通しはかなり困難になっている」としている。

米国産のリンゴに関しては、輸送上の問題が従来からの伝統的な海外市場への輸出に影響を与えているが、コンテナばかりでなく包装、労働力、肥料も価格が上昇するとともに入手が困難なため、国内の物流も危機に瀕している。さらに、給与が6%上昇すると予想されており、WAPAの文書は「来シーズンの懸念材料になるだろう」と強調している。



## 北半球の生産見通しの更新 ナシ

8月時点の品種別予測値 米国

| 品種名                     | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | F2021 (1) | (2)     |
|-------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----------|---------|
| Anjou                   | 205  | 232  | 224  | 194  | 166  | 169  | 187  | 190  | 158  | 170       | 8 -4    |
| Bartlett's / William BC | 356  | 363  | 336  | 347  | 333  | 303  | 294  | 286  | 253  | 268       | 6 -3    |
| Bosc                    | 65   | 75   | 62   | 70   | 70   | 53   | 70   | 49   | 54   | 57        | 5 -1    |
| Doyenne du Comice       | 5    | 6    | 5    | 4    | 6    | 3    | 4    | 3    | 3    | 3         | 2 -20   |
| Red Anjou               | 20   | 22   | 22   | 19   | 20   | 20   | 19   | 22   | 16   | 18        | 12 -4   |
| Seckel                  | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1         | -13 -14 |
| その他の赤ナシ                 | 1    | 7    | 8    | 10   | 9    | 8    | 8    | 7    | 6    | 7         | 17 -6   |
| その他の品種                  | 13   | 6    | 5    | 3    | 4    | 3    | 4    | 3    | 2    | 2         | -19 -36 |
| 米国合計                    | 666  | 711  | 663  | 648  | 608  | 561  | 587  | 559  | 493  | 525       | 7 -4    |

12月予測値

1000トン

| F2021 (1) | (2)     |
|-----------|---------|
| 169       | 7 -5    |
| 270       | 7 -3    |
| 59        | 8 2     |
| 2         | -10 -29 |
| 19        | 18 1    |
| 1         | -17 -19 |
| 7         | 25 0    |
| 3         | 15 -9   |
| 529       | 7 -3    |

訳注

F2021は2021年の予測値

(1)は2020年に対する2021年予測値の増減

(2)は2018年~2020年の3年平均に対する2021年予測値の増減

### 欧州連合

**ポーランド:** 最終的な予測収穫量は430万トンで、近年で最も収穫量が多い年の一つとなった。色も品質も良いが、他の多くの国で豊作のため、低価格にもかかわらず販売は難しい。

**イタリア:** 今シーズンはやや楽観的である。収穫量は23,000トン下方修正され202万3千トンと見込まれているが、最終的な水準は2週間以内に収穫が完了するまで待つ必要がある。

**フランス:** 春の降霜のため、1991年以来最も収穫量が少ない年になりそうだ。秋の天候は良かった。色と品質は良い。果実、特に極早生の品種は小玉化した。市況は昨年と同程度である。英国は依然として良い輸出先だが、海外市場については中東で、トルコ産、セルビア産、ウクライナ産との激しく競合している。

**ベルギー:** 夏の間と収穫前の最後の週には非常に天候に恵まれ、収穫に向かって雨が多く、適当な気温であった。リンゴとナシの両方とも予測収穫量は当初の予想よりもはるかに多い(リンゴでは平均25%増加)。ナシについては上方修正されたものの、前年に比べてまだ10%少ない。

**オランダ:** リンゴの収穫量の75%が国内市場で販売される見込みである。収穫量は昨年より11%多いが、2019年より10%少ない。ナシの収穫量は春の低温のため減少した。ナシの75%は輸出に向けられる。

**セルビア:** 生産量は多い。輸出市場の多様化(中東向け等)を目指している。公式の数字は3月に公表される。

**モルドバ:** 収穫量は昨年よりも多い。収穫期間は通常より1カ月長く続いた。状況はポーランドと似ている。色付きはよく、サイズも昨年よりもわずかに大きい。ベラルーシ、ロシア、カザフスタン向け等の輸出量は、昨年の2倍となった。大量のリンゴが加工に仕向けられる。価格は上昇するものと見込まれる。コスト(エネルギー、貨物輸送、包装)の上昇に関して、他国と同様の懸念を有している。



## 北半球の生産見通しの更新 リンゴ

8月時点の国別予測値 EU27カ国及び英国 12月予測値

| 国名     | 1000トン |        |        |        |        |       |        |        |        |        |         |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|
|        | 2012   | 2013   | 2014   | 2015   | 2016   | 2017  | 2018   | 2019   | 2020   | F2021  | (1) (2) |
| オーストリア | 157    | 155    | 188    | 177    | 40     | 67    | 164    | 146    | 126    | 115    | -9 -24  |
| ベルギー   | 220    | 220    | 318    | 285    | 234    | 88    | 231    | 242    | 168    | 192    | 14 -10  |
| クロアチア  | 59     | 96     | 62     | 101    | 35     | 66    | 86     | 60     | 55     | 85     | 18 -3   |
| チェコ    | 118    | 121    | 131    | 156    | 139    | 102   | 145    | 103    | 118    | 126    | 7 3     |
| デンマーク  | 18     | 23     | 26     | 24     | 24     | 19    | 24     | 15     | 24     | 18     | -25 -14 |
| フランス   | 1,119  | 1,576  | 1,444  | 1,674  | 1,514  | 1,424 | 1,477  | 1,651  | 1,337  | 1,375  | 3 -8    |
| ドイツ    | 972    | 804    | 1,116  | 973    | 1,033  | 597   | 1,093  | 991    | 1,023  | 1,080  | 6 4     |
| ギリシャ   | 242    | 236    | 245    | 242    | 259    | 231   | 301    | 276    | 280    | 203    | -26 -29 |
| ハンガリー  | 750    | 585    | 920    | 522    | 498    | 530   | 782    | 452    | 350    | 520    | 49 -2   |
| イタリア   | 1,939  | 2,122  | 2,456  | 2,280  | 2,272  | 1,704 | 2,264  | 2,096  | 2,124  | 2,046  | -4 -5   |
| ラトビア   | 9      | 15     | 10     | 8      | 10     | 8     | 14     | 10     | 14     | 12     | -14 -5  |
| リトアニア  | 39     | 40     | 27     | 46     | 50     | 48    | 62     | 26     | 60     | 32     | -47 -35 |
| オランダ   | 281    | 314    | 353    | 336    | 317    | 228   | 267    | 272    | 220    | 250    | 14 -1   |
| ポーランド  | 2,900  | 3,170  | 3,750  | 3,979  | 4,035  | 2,870 | 4,810  | 2,910  | 3,410  | 4,170  | 22 12   |
| ポルトガル  | 221    | 284    | 272    | 329    | 263    | 314   | 267    | 354    | 278    | 312    | 12 4    |
| ルーマニア  | 351    | 387    | 382    | 336    | 327    | 230   | 425    | 327    | 389    | 410    | 5 8     |
| スロバキア  | 36     | 42     | 46     | 40     | 17     | 15    | 44     | 35     | 30     | 31     | 3 -15   |
| スロベニア  | 45     | 56     | 68     | 71     | 12     | 6     | 72     | 36     | 46     | 19     | -59 -63 |
| スペイン   | 391    | 464    | 505    | 482    | 495    | 480   | 478    | 555    | 425    | 543    | 28 12   |
| スウェーデン | 14     | 17     | 16     | 21     | 20     | 18    | 32     | 20     | 32     | 27     | -16 -4  |
| 英国     | 162    | 204    | 206    | 243    | 239    | 207   | 219    | 205    | 196    | 191    | -3 -8   |
| 合計     | 10,045 | 10,829 | 12,541 | 12,326 | 11,833 | 9,251 | 13,275 | 10,783 | 10,766 | 11,736 | 10 1    |

| 1000トン |     |     |
|--------|-----|-----|
| F2021  | (1) | (2) |
| 120    | -5  | -21 |
| 240    | 43  | 12  |
| 66     | 18  | -3  |
| 126    | 7   | 3   |
| 18     | -25 | -14 |
| 1,363  | 2   | -8  |
| 1,080  | 6   | 4   |
| 203    | -28 | -29 |
| 520    | 49  | -2  |
| 2,023  | -5  | -6  |
| 12     | -14 | -5  |
| 32     | -47 | -35 |
| 245    | 11  | -3  |
| 4,300  | 26  | 16  |
| 312    | 12  | 4   |
| 410    | 7   | 8   |
| 31     | 3   | -15 |
| 19     | -59 | -63 |
| 543    | 28  | 12  |
| 27     | -16 | -4  |
| 191    | -3  | -8  |

**変更箇所**  
(8月予測と12月予測の比較)

- ・ベルギー(+25%)
- ・オーストリア(+4%)
- ・ポーランド(+3%)
- ・オランダ(-2%)
- ・イタリア(-1%)
- ・フランス(-1%)

**訳注**  
F2021は2021年の予測値  
(1)は2020年に対する2021年予測値の増減  
(2)は2018年~2020年の3カ年平均に対する2021年予測値の増減

## 北半球の生産見通しの更新 ナシ

8月時点の国別予測値 EU27カ国及び英国 12月予測値

| 国名     | 1000トン |       |       |       |       |       |       |       |       |       |         |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
|        | 2012   | 2013  | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | F2021 | (1) (2) |
| ベルギー   | 236    | 315   | 374   | 369   | 322   | 310   | 369   | 332   | 393   | 295   | -25 -19 |
| クロアチア  | 2      | 3     | 2     | 2     | 1     | 6     | 4     | 3     | 2     | 2     | 0 -29   |
| チェコ    | 6      | 7     | 4     | 10    | 7     | 4     | 7     | 6     | 6     | 7     | 14 3    |
| デンマーク  | 5      | 6     | 6     | 6     | 6     | 5     | 6     | 4     | 6     | 6     | 0 13    |
| フランス   | 124    | 157   | 131   | 155   | 138   | 133   | 134   | 121   | 133   | 57    | -57 -56 |
| ドイツ    | 34     | 34    | 45    | 43    | 35    | 23    | 45    | 42    | 39    | 42    | 8 0     |
| ギリシャ   | 42     | 32    | 37    | 60    | 47    | 59    | 60    | 58    | 80    | 44    | -45 -34 |
| ハンガリー  | 25     | 36    | 40    | 33    | 38    | 35    | 38    | 32    | 16    | 17    | 3 -43   |
| イタリア   | 650    | 726   | 736   | 764   | 681   | 738   | 730   | 363   | 611   | 213   | -65 -63 |
| ラトビア   | 0      | 0     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 1     | 1     | 1     | 0 -1    |
| オランダ   | 199    | 327   | 349   | 349   | 374   | 330   | 402   | 373   | 400   | 325   | -19 -17 |
| ポーランド  | 45     | 65    | 50    | 80    | 55    | 40    | 70    | 70    | 65    | 70    | 8 2     |
| ポルトガル  | 115    | 162   | 203   | 134   | 113   | 186   | 142   | 202   | 139   | 189   | 36 17   |
| ルーマニア  | 19     | 24    | 17    | 13    | 16    | 12    | 21    | 16    | 19    | 21    | 6 11    |
| スロバキア  | 0      | 1     | 0     | 1     | 0     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 12 -6   |
| スロベニア  | 3      | 3     | 4     | 4     | 1     | 0     | 5     | 1     | 1     | 0     | -67 -84 |
| スペイン   | 355    | 403   | 400   | 344   | 311   | 331   | 298   | 313   | 307   | 300   | -2 -2   |
| スウェーデン | 1      | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 2     | 1     | 2     | 2     | -15 2   |
| 英国     | 28     | 26    | 25    | 25    | 24    | 23    | 23    | 20    | 17    | 15    | -13 -26 |
| 合計     | 1,888  | 2,330 | 2,425 | 2,394 | 2,171 | 2,237 | 2,358 | 1,959 | 2,236 | 1,604 | -28 -27 |

| 1000トン |       |         |
|--------|-------|---------|
| 2020   | F2021 | (1) (2) |
| 393    | 304   | -10 -3  |
| 2      | 2     | 0 -29   |
| 6      | 7     | 14 3    |
| 6      | 6     | 0 13    |
| 133    | 56    | -58 -57 |
| 39     | 42    | 8 0     |
| 80     | 44    | -45 -34 |
| 16     | 17    | 3 -43   |
| 611    | 202   | -67 -64 |
| 1      | 1     | 0 -1    |
| 400    | 340   | -15 -13 |
| 65     | 70    | 8 2     |
| 139    | 189   | 36 17   |
| 19     | 21    | 6 11    |
| 1      | 1     | 12 -6   |
| 1      | 0     | -67 -84 |
| 307    | 300   | -2 -2   |
| 2      | 2     | -15 2   |
| 17     | 15    | -13 -26 |

**変更箇所**  
(8月予測と12月予測の比較)

- ・ベルギー(+17%)
- ・イタリア(-5%)
- ・オランダ(+5%)
- ・フランス(-2%)

**訳注**  
F2021は2021年の予測値  
(1)は2020年に対する2021年予測値の増減  
(2)は2018年~2020年の3カ年平均に対する2021年予測値の増減

## 南半球

**南アフリカ:** 出荷シーズンは終わりに近づいている。リンゴは記録的な収穫量で、輸出量は昨年より21%増加した。ナシの輸出量は9%増加した。リンゴの主要輸出先は極東、英国及びアフリカ諸国であり、ナシの主要輸出先はEU、英国、ロシアである。冬の天候が良かったことから、西ケープ州では2022年の収穫量について楽観視している。

**チリ:** 今シーズンの輸出は前年比2%の増加で終了すると見られる。リンゴの輸出のほとんど(80%)は中南米地域内向けである。ナシの輸出先についても同様である。



## 南半球の生産見通し ナシ

品種別予測

| 品 種         | 1000トン |       |       |       |       |       |       |       |       |       |     |     |
|-------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|
|             | 2012   | 2013  | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | F2021 | (1) | (2) |
| Beurre Bosc | 32     | 38    | 33    | 30    | 13    | 13    | 13    | 13    | 12    | 12    | -1  | -8  |
| Forelle     | 107    | 115   | 120   | 132   | 139   | 110   | 113   | 107   | 108   | 109   | 1   | 0   |
| Packham's T | 489    | 513   | 436   | 505   | 526   | 439   | 450   | 455   | 488   | 489   | 0   | 5   |
| Williams BC | 487    | 519   | 488   | 478   | 490   | 383   | 387   | 391   | 355   | 371   | 5   | -2  |
| その他         | 312    | 336   | 309   | 354   | 367   | 331   | 342   | 344   | 367   | 364   | -1  | 4   |
| 合 計         | 1.426  | 1.521 | 1.388 | 1.500 | 1.535 | 1.276 | 1.305 | 1.310 | 1.330 | 1.346 | 1   | 2   |

注

F2021は2021年の予測値

(1)は2020年に対する2021年予測値の増減

(2)は2018年～2020年の3カ年平均に対する2021年予測値の増減



## 南半球の生産見通し リンゴ

国別予測

| 国 名      | 1000トン |       |       |       |       |       |       |       |       |       |     |     |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|
|          | 2012   | 2013  | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | F2021 | (1) | (2) |
| アルゼンチン   | 840    | 776   | 744   | 760   | 774   | 545   | 557   | 550   | 614   | 617   | 0   | 8   |
| オーストリア   | 293    | 289   | 275   | 309   | 301   | 306   | 292   | 288   | 220   | 271   | 23  | 2   |
| ブラジル     | 1.184  | 1.063 | 1.165 | 1.145 | 826   | 1.329 | 1.094 | 1.101 | 939   | 1.270 | 35  | 22  |
| チリ       | 1.806  | 1.746 | 1.670 | 1.708 | 1.635 | 1.675 | 1.761 | 1.665 | 1.515 | 1.512 | 0   | -8  |
| ニュージーランド | 476    | 550   | 478   | 554   | 539   | 506   | 576   | 554   | 575   | 547   | -5  | -4  |
| 南アフリカ    | 813    | 907   | 794   | 924   | 902   | 940   | 884   | 878   | 955   | 1.013 | 6   | 12  |
| 合 計      | 5.412  | 5.331 | 5.126 | 5.400 | 4.977 | 5.300 | 5.165 | 5.035 | 4.818 | 5.230 | 9   | 4   |

注

F2021は2021年の予測値

(1)は2020年に対する2021年予測値の増減

(2)は2018年～2020年の3カ年平均に対する2021年予測値の増減

## 146. 世界のアボカド市場

FreshPlazaウェブサイト(2021年12月10日)

世界的なアボカド人気の高まりはとどまるところを知らず、イタリアでは消費量が倍増すると予想されている。しかし、オランダやオーストラリアなど一部の国では、時として供給過剰が価格に影響を与えており、このためオーストラリアでは一部のアボカドが廃棄された。それにもかかわらず、同国は2026年までにアボカドの生産量を2倍にする計画であり、またスペインは今年、昨年に比べて20%増の収穫量を見込んでいる。



### オランダ：アボカド市場は非常に困難

オランダのある輸入業者によると、アボカド市場は現在非常に困難な状況である。この業者は、従来から12月は他の品目に棚を奪われて小売販売が困難な月であるうえ、イスラエル産とコロンビア産の供給が多すぎるせいだと言う。それに加えて、ヨーロッパの大部分では、ホテル、レストラン、食品サービス業が閉鎖され、多くの輸入業者は在庫の積み上がりで低価格の中での販売困難に直面している。

### ドイツ：熱帯産とモロッコ産のアボカドが増加

西ヨーロッパ市場では依然としてハスアボカドが最も人気のある品種である。ドイツとオーストリアの食品小売業ではまもなくスペイン産アボカドのシーズンが始まるが、モロッコ産のシーズンはすでに始まっている。ある輸入業者は「モロッコ産のアボカドは、現在はヨーロッパの消費者に次第に浸透してきているが、最近まで主にスペイン産として出荷されていた」と言う。同じことが、高級品市場で特に人気のあるセミル(Semil)品種などの熱帯産アボカドにも当てはまる。

ドイツ市場ではまだアボカドの成長の余地が残っている。消費は上昇傾向にあるが、今年は困難な年であった。進行中のコロナ禍は、熱帯産品の貿易に大きな不確実性をもたらした。上記の業者は、2020年末から徐々に販売が安定してきている一方で、海上貨物輸送費は着実に値上がりしていると言う。さらに、世界的な物流問題のため、コンテナの配送が一層遅れる傾向にある。

### 英国：ロックダウンの終了により小売販売額が減少

この夏はペルーからのアボカドの輸入量が増加したが、これは新植された園地の成園化と、隔年結果の表年に当たったためである。

英国のある輸入業者は、「取扱量が昨年に比べて約20%増加した。これは、チリ産の供給に移行する前の11月までペルー産の供給を延長することができたためだ」と言う。

現在英国とヨーロッパに入荷しているアボカドは、モロッコ産とメキシコ産で、コロンビアからも強力な供給があ

る。ヨーロッパの多くの国々ではコロナ禍のため、外出禁止などの一層厳しい制限を受けて人々の外食が少なくなっており、需要が減少している。

英国では、今年のまだ何らかのロックダウンの制限があって、より多くの人々が(外食ではなく)小売業者から購入していた時期にくらべて、小売販売額が減少している。

出荷状況はそれほど悪くなく、輸入業者は今や輸送の遅延に慣れてきているが、それでも課題ではある。南アフリカからの供給は昨年よりもはるかに良く、このため到着時の品質に関しては問題が少ない。

この業者は、「チリでは(遅延を避けるために)一部の船が寄港しないため、岸壁に残されているコンテナもあり、状況はもう少し複雑だ。供給量は少なくはないが、全般的に出荷状況の信頼性は低くなっている」と言う。

アボカドの需要は、クリスマスに向かって少しは増加が見られそうだが、かなり安定している。

### **イタリア: アボカド消費は倍増すると予測**

イタリアでは、アボカドは成長の余地が十分にある。1人当たりの消費量は北ヨーロッパや米国の約3分の1である。熱帯果実やアボカドを常時消費する人は、主に大規模小売業者(71%)から購入しており、青果物店(18%)はこれに遠く及ばない。

数年後には、イタリアの消費量は倍増すると予想されている。現在、他のEU諸国の消費量は年間1人当たり1.30kgであるのに対して、イタリアでは約440gである。最も多く購入されるのはハス品種であり(ハス品種 92%、緑色品種 7%)、そのうちパッケージされたものが52%を占めている。

最近コロンビアでアボカド栽培のためだけに千ヘクタールの農場を開設した主要業者が、この話題について語った。この生産出荷業者は、過去12ヶ月の間にイタリアで約6千トンのアボカドを販売したが、成長の見通しはかなりある。5年前、イタリアのアボカドの1人当たりの消費量は250gであった。今日では約440gに達しており、力強い成長の見通しを示している。

イタリアでは25,000トンの輸入があり、昨年だけで売上高は67.4%増加した。より一般的には、ハス品種のアボカドは2020~2025年の間に年率4.8%で成長し、世界で最も人気のある品種になると見込まれる。

### **スペイン: 昨年と比較して生産量が最大20%増加**

スペイン産ハスアボカドの出荷はマラガ県で順調に続いており、出荷量は昨シーズンより多くなりそうだ。しかし、市場では多くの産地から荷が集まっており、需要はまだ増え始めていない。この出荷シーズンには、カディス、ウエルバ、バレンシアの各県で過去3~4年間に植えられた約4,000ヘクタールの新植園地が成園化するため、スペイン産アボカドの生産量が約20%増加する可能性があり、スペインのアボカド生産量は約7万トンに達する可能性がある。今年のアボカドは、乾燥した条件の下、果実は中玉で品質は大変良い。

ある輸出業者によると、数週間前に出荷シーズンが始まって以来、これまでのところ需要は一様でない。ヨーロッパの一部の小売業者はすでにスペイン産アボカドの取り扱いを始めたが、1月まで待つ業者もいる。これは、コロンビア、メキシコ(出荷期間がますます伸びている)、チリ、モロッコ(今年は競合が激化している)など、さまざまな原産地からの供給がまだ多いためである。さらに、ポルトガルも生産量が多い。供給が増えており、消費は原産国の間で一層分散しているようである。

一方、この輸出業者によると、過去2週間のコロナウイルス感染の新しい波も消費の動向に変化をもたらしており、各国の規制強化が販売に影響している。その結果、価格は昨年より約10~12%低く、4年前の平均に近づいている。依然として収益性の高い品目ではあるが、生産と取り扱いに要するコストが38%上昇しており、すべての状況が今後もコストの上昇が続くことを示しているという事実を業界としては直視する必要がある。輸出業者らは、今後数日間で消費が安定し、アボカドの需要が少し増加することを期待している。

### **モロッコ: オランダ市場に焦点**

モロッコ産アボカドの出荷シーズンは11月に始まり、良いシーズンが期待されている。モロッコは32,000トンのアボカドを輸出しており、スペイン向けだけでその半分を占めている。11月からはフェルテ品種を出荷している

が、12月中旬までにはハス品種の出荷が始まり、輸出業者らは英国の顧客への出荷を開始する予定である。園地の樹齢はまだ若い、まもなく完全に成園化する。ヨーロッパ市場はモロッコの輸出業者にとって非常に重要であり、42万トンを入力するオランダ市場に今年の重点が置かれると見られる。

### 南アフリカ：現在は輸出用よりも低価格で国内販売

現在南アフリカのクワズールナタール州と西ケープ州から出荷される晩生のアボカドは、輸出用よりも低い価格で国内販売されている。国内市場での価格は23ランド(1.44ユーロ)/kgであり、国内産のほかスペイン産とイスラエル産が出回っている。

前シーズンの南アフリカのアボカド輸出量は、4kg箱で1,517万2,246箱(約6万トン)であった。最後の輸出用アボカドは最近空輸されたが、コロナ禍の直近の波による南部アフリカ諸国を対象とした国境封鎖のため、航空貨物運賃は「恐ろしい」(ある亜熱帯果実業者)状況となっている。

国の北部の早生産地では、作柄は良いようで、サイズは大きく品質は良好である。しかし、ツァニーン地域(リンポボ州)では、降雹の影響がこれからのシーズンの作柄に現れると見られる。一方、レブブ地域(同)やローフェルト地域(ムプマランガ州)など他の産地の生産者は「慎重に楽観的」である。最も早い早生産地であるリンポボ州最北部のレブブ地域では、1月下旬頃にアボカドの収穫が始まるが、天候はこれまでのところ大変良く、生産者らは収穫量が昨年比で15%増加するかも知れないと見込んで、今シーズンの作柄に大いに期待している。

11月は従来からアボカド果樹園で落果が多い月であるが、産地ではこれまでのところ熱波が来ておらず、例年のようなそれに伴う落果は見られない。夏の前半までは通常よりも涼しく、生産者らは雨が降る中で防除作業に励まなければならなかった。

最初の生産見通しはおそらく1月上旬に公表されると見込まれる。

### 中国：アボカド市場の市況は混沌

現在、中国市場のアボカドは主にチリ、ニュージーランド、メキシコから入荷している。また国内の雲南省産のアボカドも少量ある。市場に出回っている果実は品質が大きく異なり、品質によって価格は混沌としており、時には輸入コストをやっとカバーする程度である。

今シーズンのチリ産の早生の果実が、チリ北部の農場から2週間前に卸売市場に到着した。収穫時期が早いため、この荷の果実は乾物重があまりなく、果実は油分が少なく、食感はあまりクリーミーでない。

盛況なサクランボ市場がアボカドの売り上げに影響を与えている。特にホリデーシーズンが近づいており、中国では親戚や友人を訪問する際の贈り物としてサクランボを購入する消費者が多い。市場ではサクランボを現時点の中心的商品に据えている業者も多い。このことは間違いなくアボカドの販売に影響を与えている。

近年、雲南省のアボカド栽培面積がますます拡大しているが、栽培が始まったばかりのため面積当たりの収量は総じてあまり高くなく、品質はまだ輸入アボカドと競える水準に達していない。第一に品種が異なる。雲南省で栽培される品種のほとんどはピンカートンなどの品種であり、市場で人気のあるハス品種ではない。第二に、雲南省では栽培を始めたばかりなので、栽培技術があまり高くなく、品質の面でまだ欠点がある。このため、中国の市場は主にニュージーランドとメキシコからの輸入に依存している。

メキシコは、中国にアボカドを輸出することを最初に許可された国であった。同国は広大な栽培面積と大規模な生産量を有しており、年間を通じてアボカドを出荷している。中国の消費者のメキシコ産アボカドの認知度は高い。しかし、他の産地と比較して、メキシコの産地の気候は比較的湿度が高く、生産される果実の外皮はあまり見栄えがよくなく、果肉の水分も多い。長距離輸送の後では果皮が膨れ上がることがあり、見た目が悪い。今シーズンはメキシコ産も出荷スケジュールが不安定である。市場が品薄になると、メキシコ産果実はよく売れ、価格は高くなる。メキシコ産アボカドの現在の価格は100元(約1,800円)/箱(5.5kg)である。

ニュージーランド産の出荷シーズンは、チリ産の出荷シーズンの初期及びペルー産と重なり、すでに終わりに近づいている。過去には、多くのニュージーランド産アボカドが日本と韓国の市場に出荷されていた。昨年、生

産量と品質の観点から同国内の多くの果樹園が中国市場に注目し始め、中国への輸出を増やすことを望んでいる。チリ産と比べてニュージーランド産アボカドの中国向け出荷は遅く始まり、販促活動は他の輸出国よりもやや弱い。全体として中国のアボカド輸入量は少ない。

### 北米：メキシコのふたつ目の州にアボカド輸出を開放

あるメキシコ産アボカドの出荷業者は、メキシコのふたつ目の州に米国向けのアボカド輸出を許可した今週の決定は、試合の流れを変える「ゲームチェンジャー」であると言う。25年近くの間、メキシコでは西部のミチョアカン州からのみ米国向けにアボカドを輸出することが許可されてきた。ふたつ目の州はハリスコ州である。

この業者は、「米国市場がハリスコ州に開放されたので、この地域の産地はヨーロッパと日本という2つの市場から手を引く可能性がある」と述べ、世界的なアボカドの流通は、様々な生産国が市場のネットワークに依存する繊細なダンスのようなものであり、この決定が他の市場に影響を与える可能性があるとは指摘し、「商業的に調整が行われるだろう」と言う。例えば、日本はアボカド輸入全般についてメキシコにかなり依存しているが、ハリスコ州もそれ以上に日本に依存しており、また、メキシコから日本への海上輸送は15日かかるが、「それは（熟度の観点から）アボカドを輸送するのにちょうど良い時間である。しかし、この決定はメキシコにとって大きな一歩である。ひとつの業界として、我々はこの決定に向けて常に取り組んできた」と述べた。

この決定は、メキシコ産アボカドの出荷量が全般的に少ない時期に発表された。この業者は、「今年は間違いなくアボカドが不足している」と言う。アボカドは、隔年結果する果実であり、表年は収量が多く裏年はこれを相殺する。「出荷量は昨年の70パーセントである」と言う。

メキシコが圧倒的な輸出国であるが、アボカドはコロンビアからも輸入されている。米国内では、カリフォルニア州がこれからの2021/22年度アボカド出荷シーズンの出荷量をまだ見極めているところだが、現時点では通常の作柄を見込んでいる。昨シーズンは、2億6,400万ポンド（約12万トン）（うち約700万ポンド（約3千トン）は2020年からの繰越し在庫）で、春の予測にかなり近い最終結果となった。

一方、アボカドの需要は大変安定している。この業者は、1月になると、（ホリデーシーズンに比べて）人々が健康的な食事をとることと、スーパーボウル（アメリカンフットボールの優勝決定戦）が近づくことから、需要が高まる可能性があるとは指摘している。また、アボカドの消費量は総じて毎年増加し続けていると付言した。

これらすべてのことから、現在の価格はかなり強気である。上記の出荷業者は、「価格は昨年より約10～15%高くなっている」と言う。

### オーストラリア：2026年までにアボカド生産量が倍増すると予測

種々の報告によると、オーストラリア産のアボカドは今年出荷量が多く、出荷額も多い。アボカドはこの数カ月間、販売業者や立地によって、1～2豪ドル（1豪ドル≒約81円）で小売されている。大手アボカド会社の代表は、「今年のはす品種は品質が優れている。この時期のオーストラリア産はすアボカドは西オーストラリア州とトライステート地域の産地のものだ」と言う。しかし、今シーズンのアボカドの大量供給については良いニュースばかりではなく、一部の生産者は供給過剰と非常に低い価格のために、果実を廃棄しなければならなかった。（\*：ニューサウスウェールズ、ビクトリア、南オーストラリアの3州の州境付近の地域で、果樹産地が多い）

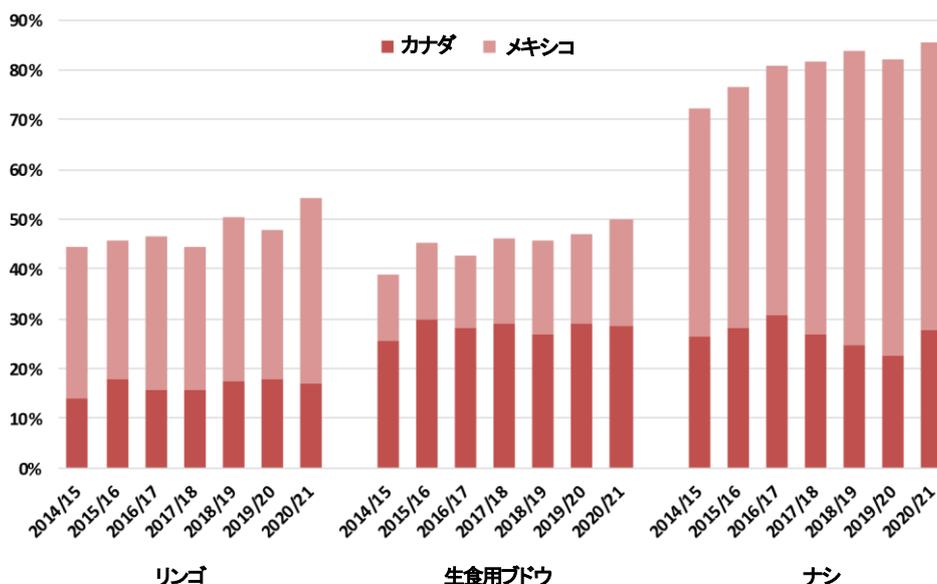
最近行われたオンライン調査で、回答者の大半は、輸入品よりもオーストラリア産のアボカドを購入することを強く好むことがわかった。消費者の72%が家庭消費用にオーストラリア産のアボカドを購入することを「とても重要」（34.11%）または「極めて重要」（37.81%）と評価しているが、55%が店舗でオーストラリア産のアボカドを特定することが難しいとした。更新された長期見通しでは、オーストラリア産アボカドの生産量は増加を続け、2026年までに2020/21年度の2倍以上の約17万トンに達し、国内の生産者はオーストラリア産アボカドを年間を通じて容易に小売店に供給できるようになるとしている。

## 147. 世界の落葉果実事情と市場動向

米国農務省海外農業局(2021年12月10日)

何十年もの間、カナダとメキシコは米国のリンゴ、ナシ、生食用ブドウの最大級の輸出市場であり、その重要性は次第に増している。2014/15年度から2020/21年度の間、カナダとメキシコへの輸出シェアの合計は、リンゴで10ポイント、生食用ブドウでは13ポイント、ナシでは11ポイント上昇した。米国はこれらの市場への依存を強めている。

米国の落葉果実の輸出におけるカナダとメキシコのシェアが拡大



**リンゴ**については、カナダとメキシコは2001/02年度以降、20年間のうち19年間でトップ2の市場となっている。通常、メキシコが1位、カナダが2位で、輸出先シェアは両国合わせて40%を超えている。しかし、2018/19年度以降、2度にわたって50%を上回り、2018/19年度に51%に達した後、2020/21年度には55%に跳ね上がった。この変化の大部分は、報復関税の発表と2019年6月の実際の発動によるインドへの輸出の急激な減少に帰すことができる。これらの年(2018/19年度及び2020/21年度)の両方で、州として最大の産地であるワシントン州は、収量の低下と悪天候のため生産量が9%減少し、米国全体の供給量減少の大きな要因となった。2020/21年度には、カナダのシェアがわずかに減少したため、メキシコが輸出シェアの増加の大半を占めているが、北米市場(カナダ及びメキシコ)は米国産リンゴの有力な輸出先となっている。

**生食用ブドウ**については、カナダとメキシコは、少なくとも2003/04年度以降、ほとんどの年でその順番でトップ2の市場となっている。その後2018/19年度までの期間には、両国合わせた輸出先シェアは37~46%の間であった。輸出先シェアは2019/20年度に47%となり、2020/21年度には1999/20年度以来初めて50%に達した。これらの輸出先シェアの増加は、2012/13年度以来の最低水準に落ち込んだ国内生産の収量の低下と軌を一にした。メキシコが輸出先シェアの増加の大半を占めている。カナダは過去5年間ほとんど変わらず、メキシコは7ポイント上昇して22%となった。

**ナシ**については、カナダとメキシコは、さらに長い期間支配的な役割を果たしており、少なくとも1989/90年度からトップ2の市場であり、メキシコは1998/99年度にトップ市場の座に就いた。両国合わせた輸出先シェアは通常50~80%で、2009/10年度以降は着実に伸びている。カナダとメキシコへの出荷は、2019/20年度より前の5年間には平均79%であったが、2020/21年度には86%に急増した。なお、この年にはカリフォルニア州の収量の低下により国内生産量がわずかに減少した。2020/21年度にはメキシコのシェアがやや減少したため、カナダがこの輸出先シェアの増加の大部分を占めているが、両国は米国のナシ輸出において引き続き重要な役割を果たしている。

## <リンゴ>

**世界**の2021/22年度の生産量は、中国での緩やかな増加と欧州連合(EU)と米国の主要産地での供給量の回復により、130万トン増の8,180万トンと予測される。輸入量は、インド向けとEU向けの出荷量が多く、全体として増加するものと予測される。

**中国**の生産量は、新植園地の成園化によりわずかに増加して4,500万トンと予測されるが、年間を通じて気象被害が発生し、品質の高い果実の供給が少なくなっている。栽培面積は、甘粛省や陝西省等の主要産地における拡大が、他の産地での縮小によって相殺され、全体としては変わらないものと予想される。山東省や湖北省など一部の省では、より収益性の高いサクランボなどの作物に転換されているリンゴ園もある。輸出は、コロナ禍関連の混乱により主要市場であるタイ、バングラデシュや一部のASEAN諸国への出荷が制限されるため、10万トン減の100万トンと予想される。輸入についても、現在も続いている物流上の問題により買い付けが慎重になっているため、6万トンに減少するものと見込まれる。

**EU**の生産量は、主要産地であるポーランド、スペイン、ハンガリーの生産量の反発が、春の降霜によるイタリアとフランスの減収を相殺し、前年とほぼ変わらない1,190万トンと予想される。輸出国上位3カ国のうちの2カ国であるイタリアとフランスからの供給の減少により、輸出量は110万トンに減少すると予想される。輸入は、チリをはじめとする南半球の輸出国からの出荷量の増加により、3万トン増の35万5千トンと予測される。

**米国**の生産量は、10万トン以上増の460万トンと予測される。最大の産地であるワシントン州は前年の山火事や強風による減収から反発し、霜害を受けたミシガン州の損失を相殺する以上に増収するものと予想される。農務省農業統計局(NASS)は、業界の調査を行い、2021年8月の作物生産レポートで米国のリンゴ生産に関する予測を公表した。供給量の改善により、主要輸出先であるメキシコとカナダへの出荷量が増大し、輸出量は78万5千トンに増加するものと予想される。一方、販売年度の初めにチリとニュージーランドからの出荷が増加したことから、輸入量は13万トンに増加するものと予測される。

**チリ**の生産量は、110万トンで横ばいと見込まれる。栽培面積は主要産地ながら干ばつの影響を受けたオイギンズ州とマウレ州では減少した一方、降水頻度の高い南部のアラウカニア州では拡大している。生産量と同様、輸出量は63万5千トンで横ばいと予測される。

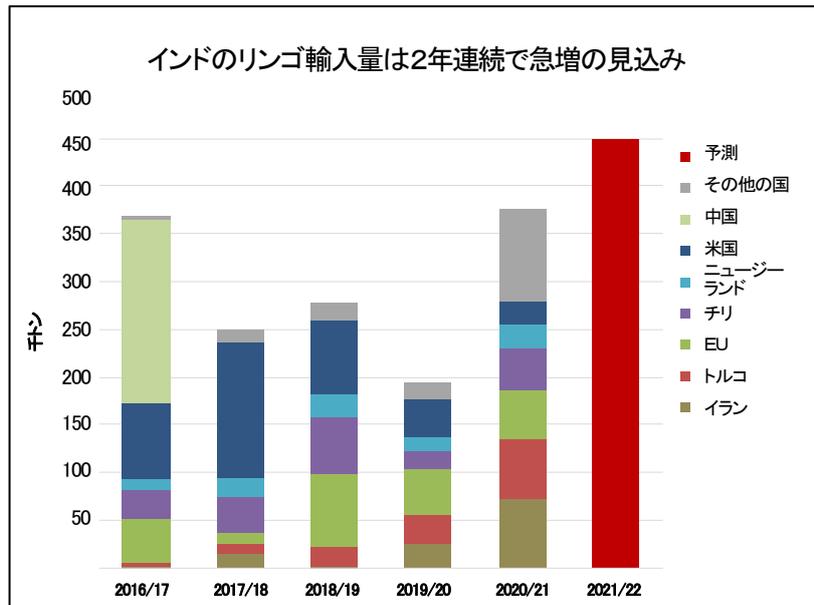
**メキシコ**の生産量は、収穫前の大雨により収量が増加し、6万6千トン増の78万トンと予測される。供給量の増加により、消費量は100万トン以上に増加する一方、輸入量は25万トンに減少すると予想される。主要産地のチワワ州では、密植植栽、水供給の機械化、CA貯蔵施設\*の容量の拡大等に取り組む生産者が増加しており、業界の改善が進んでいる。(\*: 温度のほか湿度や酸素濃度等を調整できる貯蔵施設)

**ニュージーランド**の生産量は、前年に比べ2万5千トン増の57万8千トンと予測されるが、いまだコロナ禍以前の水準を下回っている。人手不足が継続し、一部の生産者は市場の需要が低い品種の果樹を伐採しているが、これは新植園地の成園化により相殺されると予想される。供給量の増加により輸出量は38万トンに増加するものと予測される。

**南アフリカ**の生産量は、生育条件が良好で、十分な灌漑により収量が維持されるため、6千トン増の99万7千トンと予測される。わずかな増加ではあるが、2017/18年度以降の途切れのない増加傾向が継続する。供給量の増加により、輸出量は微増の56万5千トンと予想される。

**トルコ**の生産量は、生産量第2位のリンゴ産地であるカラマン県の春の降霜のため、430万トンとほぼ横ばいに留まる見込みである。もしこの予想が実現すれば、2014/15年度以来の継続的な増加が途切れることになる。供給量は変わらないが、輸出量は中東市場への出荷の増加により1万2千トン増の30万トンと予測される。生産者は、輸出市場における消費者の需要に応えるために、引き続き果樹園に投資し、新しい品種への改植を行っている。

インドの生産量は、230万トンで横ばいと予測されるが、良好な生育条件と労働力の確保が通常に戻ったことから果実の品質は向上すると予想される。これまでのところあまり進んでいないが、主要産地であるジャンムー・カシミール州では、生産を改善するためデリシャス品種の変種を含む密植栽培品種や密植果樹園への転換の取り組みが進行中である。州政府は、苗木や小規模灌漑施設、防雹ネットの費用を賄うための補助金を提供している。輸入量については、インドが中国と米国からの供給の減少を補うために他の供給国に目を向ける中、イラン、トルコ、チリから引き続き強力な出荷が見られるため、ほぼ倍増した昨年続き、今年も7万トン以上増加して45万トンに達すると予想される。



2021/22年度の輸入量は、販売年度の初めの南半球諸国からの出荷の減少が、モルドバとアゼルバイジャンからの増加を相殺し、63万トンで横ばいと予想される。

### 2020/21年度の予測に対する主な修正

世界の生産量は470万トン増加して8,050万トン。

- 中国は春の降霜による被害が予想を下回ったため、360万トン増の4,410万トンに引き上げ。
- EUは、非商業的果樹園の生産量が予想を下回ったため、50万8千トン減の1,170万トンに削減。
- イランのデータが再び利用可能となったため、220万トンデータベースに再追加。

世界の輸入量は99万1千トン増加して620万トン。

- 英国をEUとは別の国として、33万5千トンデータベースに追加。
- データが利用可能となったため、アフガニスタン、イラク、パキスタン、トルクメニスタンの合計66万トンデータベースに再追加。

世界の輸出量は130万トン増加して660万トン。

- 中国は供給量が予想を上回ったため、輸出量も4万7千トン増の110万トンに引き上げ。
- EUは、英国のEU離脱を反映して、20万4千トン増の110万トンに引き上げ。
- イランのデータが再び利用可能となったため、95万6千トンデータベースに再追加。

### <生食用ブドウ>

世界の2021/22年度の世界生産量は、中国での増加とインドでの反発により110万トン増の2,560万トンと予測される。チリが昨年の雨の被害から回復したため、輸出は370万トンに増加するものと予測される。

中国の生産量は、主要産地である新疆、河北省、山東省で力強い生産が続く、30万トン増の1,120万トンと見込まれる。栽培面積は引き続き増加したが、増加のペースは鈍化した。一方、ブドウの品質を向上させ、出荷期間を延長させるため、生産施設や成熟期遅延技術などの新技術への投資が見られる。供給量の増加にもかかわらず、コロナ禍関連の混乱が、特に主要市場であるタイとベトナムへの出荷に影響を与えると予想されるため、輸出量は10万トン減の33万トンと予測される。輸入については、チリからの供給の反発により、1万6千トン増の21万トンと緩やかな回復が見込まれる。

インドの生産量は26%増の290万トンと予測され、過去最高であった2018/19年度の記録に並ぶものと見込ま

れる。ブドウ園では、天候に恵まれたほか、労働力確保の改善により重要な時期に的確な管理作業が実施できた。生産量の増加と品質の改善により、輸出量は1万3千トン増の28万トンと予測される。

**トルコ**の生産量は、生食用ブドウの主要産地であるマニサ県の晩春の降霜被害により、28万トン減の190万トンと予測される。生産量の減少にもかかわらず、輸出市場の市況が一層良くなったことから、輸出量は1万5千トン増の23万トンと予測される。

**EU**の生産量は、良好な着果が見られたイタリアで生産量が回復し、他のブドウ生産加盟国の悪天候による減収を相殺して、全体では140万トンの横ばいと予想される。栽培面積は増加しているが、消費者の需要が種なし品種への新たな投資を促進していることから、増加のペースは遅くなっている。輸出量は輸送コストの増大によって抑制され9千トン減の17万トンと予想され、一方、輸入量は消費者の需要の回復と南半球の輸出国の生産量の増加により2万トン増の59万トンと見込まれる。

**米国**の生産量は、干ばつと高温がそれ以上の力強い回復を妨げる可能性が高いものの、3万4千トン増の90万5千トンと緩やかな回復を遂げるものと予想される。農務省農業統計局(NASS)は業界の調査を行い、2021年8月の作物生産レポートで米国の食用ブドウ生産に関する予測を公表した。輸出は、ほとんどの主要市場への出荷が減速したため29万トンに減少すると予測されており、3年連続の減少となる。輸入量はチリの供給量の反発とペルーの生産量の増加により、3万トン増加して史上最高の70万トンに達するものと予測される。英国がEUから離脱したことで、米国はEUを抜いて生食用ブドウの世界最大の輸入国となった。

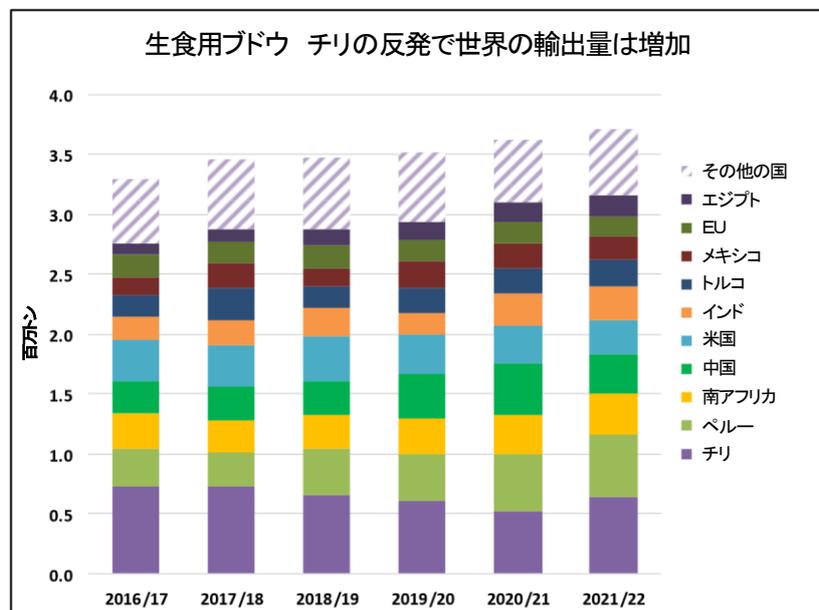
**ペルー**の生産量は、良好な生育条件と新植園地が引き続き成園化してくることから70万トンに増加するものと予測される。レッドグローブが依然として、主に中国市場向けに栽培される主要品種であるが、他の市場での需要を満たすため品種構成は拡大している。輸出量は供給量の増加に伴い51万トンに増加し、4年連続の増加となるものと予測される。

**チリ**の生産量は、良好な生育条件と新植園地の成園化により、深刻な雨の被害を受けた昨年の減収から反発し、14万5千トン増の81万トンと予想される。生産者は、ブドウ園をより生産性が高く旺盛で消費者に好まれる品種に切り替えており、現在は次第に成園化し始めている。供給量の増加により、輸出量は20%以上増の64万5千トンと予想される。

**南アフリカ**の生産量は、良好な生育条件と多収性新品種を植えた園地の成園化により3年連続で増加し、38万トンに達するものと見込まれる。生産者は消費者が好む種なし品種への切り替えを続けており、現在、ブドウ園の90%以上が種なしブドウを栽培している。輸出は生産量の増加に伴い、34万4千トンに増加するものと予測される。

**オーストラリア**の生産量は、より高い潜在的な生産量に向かってわずかに回復し、21万トンと予測される。新しい園地は成園化しつつあるが、その生産量の増加は人手不足によって妨げられている。上記の生産量の予測が実現すれば、輸出量も1万トン増の13万トンと昨年の急激な減少から緩やかな回復を示すものと予想される。

**ロシア**の輸入量は、主要供給国であるトルコとウズベキスタンの出荷急増で4万トン増の37万トンと予測される。



## 2020/21年度の予測に対する主な修正

世界の生産量は13万9千トン減少して2,450万トン。

- 中国は改訂された公式データに基づき10万トン減の1,090万トンに引き下げ。
- エジプトは気象災害により25万トン減の120万トンに引き下げ。
- トルコは、公式データの改訂により、22万トン増の220万トンに引き上げ。

世界の輸入量は4万2千トン増加して350万トン。

- エジプトは、データ計算の誤りの修正により10万8千トン減の1万2千トンに引き下げ。
- EUは、英国のEU離脱を反映して、15万5千トン減の57万トンに引き下げ。
- 英国は、別個の国として27万4千トンデータベースに追加。

世界の輸出量は18万5千トン増加して360万トン。

- EUは、英国のEU離脱を反映して、9万9千トン増の17万9千トンに引き上げ。
- インドは、バングラデシュとネパールへの予想以上の輸出増加で、8万2千トン増の26万7千トンに引き上げ。
- モルドバは5万2千トンデータベースに追加。2011/12年度に遡ってデータを追加。

## <ナシ>

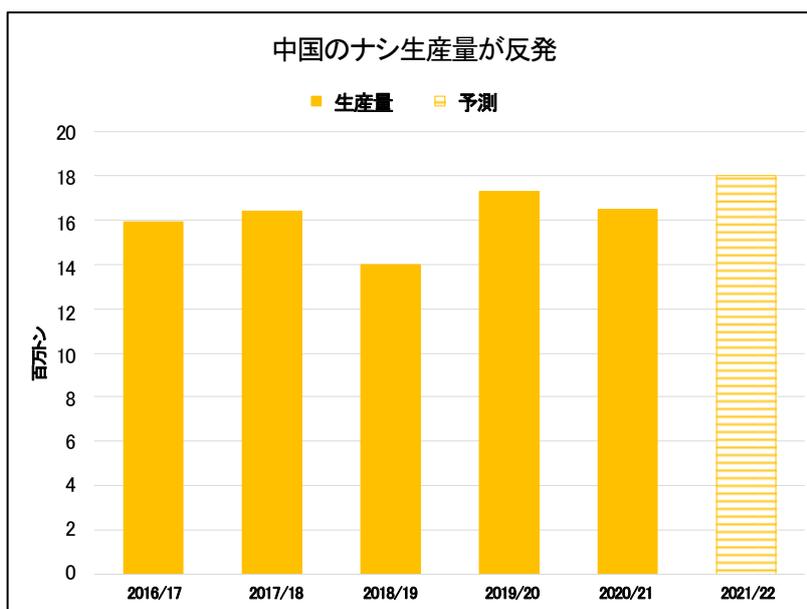
世界の2021/22年度の世界生産量は、天候被害を受けたEUの減収を相殺する以上に中国の生産量が反発し、84万4千トン増の2,340万トンと予測される。輸出量は、EUの供給量の減少により、11万8千トン減の170万トンと予測される。

**中国**の生産量は新疆の豊作と昨年厳しい霜害を受けた河北省の生産量の反発により、150万トン増の1,800万トンと見込まれる。輸出量は、供給量の増加により、最大の輸出先であるインドネシア向けをはじめとして53万トンに増加すると予想される。輸入量は、EUからの供給量の減少により9千トンに減少すると見込まれる。

**EU**の生産量は、春の降雪、降霜、低温が主要生産国に影響を与えたため、27%減の170万トンと予測される。イタリアとフランスは特に大きな打撃を受けると予想される。生産量の減少により、輸出量は12万4千トン減の25万トンに急落すると見込まれる一方、輸入量は19万トンに増加する。

**米国**の生産量は、カリフォルニア州とオレゴン州の増収が最大の産地であるワシントン州の減収を相殺し、60万5千トンで横ばいと予想される。農務省農業統計局(NASS)は業界の調査を行い、2021年8月の作物生産レポートで米国のナシの生産に関する予測を公表した。輸出量は、メキシコの需要増加による同国への出荷の増加がカナダなど他の主要市場への出荷の減少を相殺し、ほぼ横ばい(11万トン)と予測される。輸入量は、韓国からの出荷量の増加が、アルゼンチンとチリの不作による出荷量の減少によって相殺され、7万4千トンとほぼ横ばいで推移すると予想される。

**アルゼンチン**の生産量は、10月の降霜のため2万5千トン減の59万トンと見込まれる。放棄された果樹園がより収益性の高い作物や不動産開発による都市利用に転換されたこの数年間の減少に歯止めがかかり、栽培面積



は、横ばいを維持するものと予想される。供給量の減少により、輸出量は31万トンに減少すると予想される。

**チリ**の生産量は、栽培面積の縮小が続く中で減少傾向が続き、1万6千トン減の21万7千トンと予測される。輸出量は、生産量の減少により11万2千トンに減少すると予想される。

**南アフリカ**の生産量は、良好な生育条件と安定した収量により42万5千トンのほぼ横ばいと予想される。依然として収益性の高さが投資を誘っており、栽培面積は緩やかな拡大を続けている。輸出量は、主要市場であるEUとロシアへの安定出荷により24万5千トンを維持すると予測される。

**ロシア**の輸入量は、主要輸入先であるアルゼンチンからの供給量が引き続き少ないため、2万トン減の22万トンと予測されるが、ロシアは世界最大の輸入国としての地位を維持する。

### 2020/21年度の予測に対する主な修正

世界の生産量は51万7千トン増加して2,260万トン。

- 中国は、業界データの改訂により50万トン増の1,650万トンに引き上げ。

世界の輸入量は11万9千トン増加して170万トン。

- 英国は別個の国として11万トンでデータベースに追加。

世界の輸出量は17万8千トン増加して180万トンに引き上げ。

- アルゼンチンは、ロシアとEUへの輸出量の増加により3万トン増の35万トンに引き上げ。
- EUは、英国のEU離脱を反映して、10万4千トン増の37万4千トンに引き上げ。

### 注記

**欧州連合(EU)の定義:** 関税同盟の27カ国(オーストリア、ベルギー/ルクセンブルク、ブルガリア、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、マルタ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン)。

2021年1月1日に両者間の貿易を含む英国のEUからの離脱が完了した。2021年12月の2021/22年度データの公表から、リンゴ、ナシ、生食用ブドウの生産需給統計(PSD)はEU27(PSDシステムでは「欧州連合」と表示)と英国を別々に扱っている。EU27と英国の両方の履歴データは、5年間分(2016/17~2020/21)提供されている。

**イラン:** この報告書の公表の時点で、イランのリンゴの輸出データは再び利用可能となっている。アフガニスタン、イラン、イラク、パキスタン及びトルクメニスタンについてはデータが入手できないため2020/21年度の予測が保留されたが、現在は予測と過去のデータが復旧した。

**ロシア:** ロシアからの報告が停止したため、リンゴ、ナシ、生食用ブドウの生産データは前年のものを用いている。

### 販売年度:

- **リンゴ** - 米国とメキシコについては8月から翌年7月である。他のすべての北半球の国については7月から翌年6月である。南半球の国は、分割年の2年目として示された年の暦年である。
- **生食用ブドウ** - 米国とメキシコについては5月から翌年4月である。他のすべての北半球の国については6月から翌年5月である。南半球の生産国のうちアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは10月から翌年9月、ブラジルは分割年の2年目として示された年の暦年である。
- **ナシ** - 北半球の国については7月から翌年6月である。南半球の国については、分割年の2年目として示された年の暦年である。

## リンゴ(生鮮) 主要国の生産需給統計

(1,000トン)

|              | 2016/17       | 2017/18       | 2018/19       | 2019/20       | 2020/21       | 2021/22<br>12月予測 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------|
| <b>生産量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| 中国           | 40,393        | 41,390        | 33,000        | 42,425        | 44,066        | 45,000           |
| EU           | 12,479        | 9,798         | 14,810        | 11,480        | 11,719        | 11,877           |
| 米国           | 5,010         | 5,085         | 4,479         | 4,852         | 4,490         | 4,608            |
| トルコ          | 2,926         | 3,032         | 3,600         | 3,620         | 4,300         | 4,286            |
| インド          | 2,258         | 1,920         | 2,371         | 2,370         | 2,300         | 2,300            |
| イラン          | 2,399         | 1,937         | 2,241         | 2,241         | 2,241         | 2,241            |
| ロシア          | 1,509         | 1,360         | 1,611         | 1,779         | 1,540         | 1,540            |
| ブラジル         | 1,308         | 1,203         | 1,223         | 1,223         | 1,223         | 1,223            |
| ウクライナ        | 1,076         | 1,462         | 1,154         | 1,154         | 1,154         | 1,154            |
| チリ           | 1,310         | 1,330         | 1,210         | 1,124         | 1,095         | 1,090            |
| その他          | 6,046         | 6,690         | 6,164         | 6,476         | 6,404         | 6,480            |
| <b>合計</b>    | <b>76,714</b> | <b>75,206</b> | <b>71,863</b> | <b>78,743</b> | <b>80,533</b> | <b>81,799</b>    |
| <b>国内消費量</b> |               |               |               |               |               |                  |
| 中国           | 39,088        | 40,172        | 32,275        | 41,487        | 43,033        | 44,060           |
| EU           | 10,983        | 9,247         | 13,839        | 10,659        | 10,960        | 11,172           |
| トルコ          | 2,712         | 2,844         | 3,324         | 3,412         | 4,013         | 3,987            |
| 米国           | 4,314         | 4,212         | 3,884         | 4,098         | 3,821         | 3,953            |
| インド          | 2,283         | 1,955         | 2,384         | 2,250         | 2,400         | 2,580            |
| ロシア          | 2,042         | 2,156         | 2,322         | 2,339         | 2,095         | 2,155            |
| イラン          | 2,166         | 1,212         | 1,916         | 1,423         | 1,286         | 1,281            |
| ブラジル         | 1,331         | 1,207         | 1,246         | 1,268         | 1,181         | 1,213            |
| ウクライナ        | 1,105         | 1,426         | 1,110         | 1,153         | 1,148         | 1,159            |
| メキシコ         | 983           | 1,001         | 794           | 1,017         | 973           | 1,029            |
| その他          | 8,845         | 9,326         | 8,438         | 8,972         | 8,937         | 8,958            |
| <b>合計</b>    | <b>75,851</b> | <b>74,758</b> | <b>71,532</b> | <b>78,080</b> | <b>79,847</b> | <b>81,546</b>    |
| <b>輸入量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| ロシア          | 657           | 859           | 793           | 647           | 632           | 630              |
| インド          | 370           | 249           | 277           | 194           | 377           | 450              |
| イラク          | 242           | 307           | 329           | 405           | 406           | 415              |
| EU           | 299           | 394           | 389           | 378           | 325           | 355              |
| 英国           | 410           | 522           | 360           | 331           | 335           | 350              |
| エジプト         | 145           | 72            | 271           | 253           | 266           | 300              |
| ベトナム         | 150           | 160           | 158           | 232           | 278           | 280              |
| バングラデシュ      | 245           | 245           | 188           | 271           | 266           | 250              |
| メキシコ         | 267           | 287           | 247           | 257           | 260           | 250              |
| インドネシア       | 162           | 154           | 150           | 140           | 177           | 195              |
| その他          | 3,598         | 3,208         | 2,947         | 3,201         | 2,892         | 2,938            |
| <b>合計</b>    | <b>6,546</b>  | <b>6,457</b>  | <b>6,108</b>  | <b>6,309</b>  | <b>6,214</b>  | <b>6,413</b>     |
| <b>輸出量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| EU           | 1,701         | 944           | 1,359         | 1,199         | 1,084         | 1,060            |
| 中国           | 1,376         | 1,281         | 818           | 1,042         | 1,102         | 1,000            |
| イラン          | 233           | 725           | 325           | 818           | 956           | 960              |
| 米国           | 868           | 1,007         | 741           | 861           | 778           | 785              |
| チリ           | 716           | 779           | 674           | 660           | 640           | 635              |
| 南アフリカ        | 553           | 449           | 472           | 509           | 560           | 565              |
| ニュージーランド     | 345           | 369           | 391           | 401           | 360           | 380              |
| トルコ          | 217           | 189           | 278           | 209           | 288           | 300              |
| モルドバ         | 167           | 264           | 299           | 238           | 147           | 200              |
| セルビア         | 239           | 156           | 184           | 206           | 185           | 160              |
| その他          | 473           | 493           | 590           | 469           | 489           | 482              |
| <b>合計</b>    | <b>6,887</b>  | <b>6,655</b>  | <b>6,130</b>  | <b>6,611</b>  | <b>6,589</b>  | <b>6,527</b>     |

注: 米国とメキシコの販売年度は8月から翌年7月。他のすべての北半球の国は7月から翌年6月。南半球諸国は、2年目として示された年の暦年。

## ブドウ(生食用、生鮮)主要国の生産需給統計

(1,000トン)

|                | 2016/17       | 2017/18       | 2018/19       | 2019/20       | 2020/21       | 2021/22<br>12月予測 |
|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------|
| <b>生産量</b>     |               |               |               |               |               |                  |
| 中国             | 10,100        | 10,500        | 9,900         | 10,800        | 10,900        | 11,200           |
| インド            | 2,784         | 2,800         | 2,900         | 2,280         | 2,300         | 2,900            |
| トルコ            | 1,991         | 2,109         | 1,950         | 2,050         | 2,220         | 1,940            |
| ウズベキスタン        | 1,626         | 1,590         | 1,603         | 1,603         | 1,603         | 1,603            |
| ブラジル           | 1,743         | 1,592         | 1,485         | 1,485         | 1,485         | 1,485            |
| エジプト           | 1,280         | 1,315         | 1,350         | 1,385         | 1,170         | 1,435            |
| EU             | 1,718         | 1,448         | 1,589         | 1,548         | 1,371         | 1,386            |
| 米国             | 943           | 935           | 997           | 905           | 871           | 905              |
| チリ             | 917           | 915           | 835           | 785           | 665           | 810              |
| ペルー            | 611           | 623           | 630           | 645           | 687           | 700              |
| その他            | 1,134         | 1,231         | 1,107         | 1,279         | 1,263         | 1,252            |
| <b>合計</b>      | <b>24,848</b> | <b>25,058</b> | <b>24,347</b> | <b>24,766</b> | <b>24,536</b> | <b>25,617</b>    |
| <b>生鮮国内消費量</b> |               |               |               |               |               |                  |
| 中国             | 10,081        | 10,464        | 9,873         | 10,677        | 10,665        | 11,080           |
| インド            | 2,358         | 2,401         | 2,356         | 1,803         | 1,830         | 2,282            |
| EU             | 2,016         | 1,792         | 1,916         | 1,872         | 1,762         | 1,806            |
| トルコ            | 1,818         | 1,830         | 1,771         | 1,845         | 2,006         | 1,710            |
| ウズベキスタン        | 1,528         | 1,463         | 1,485         | 1,507         | 1,487         | 1,468            |
| ブラジル           | 1,723         | 1,571         | 1,455         | 1,443         | 1,428         | 1,431            |
| 米国             | 1,189         | 1,217         | 1,199         | 1,252         | 1,227         | 1,315            |
| エジプト           | 1,199         | 1,210         | 1,235         | 1,248         | 1,027         | 1,273            |
| ロシア            | 228           | 412           | 307           | 307           | 347           | 391              |
| 英国             | 276           | 275           | 274           | 280           | 274           | 280              |
| その他            | 2,014         | 2,167         | 2,024         | 2,095         | 2,127         | 2,124            |
| <b>合計</b>      | <b>24,430</b> | <b>24,803</b> | <b>23,895</b> | <b>24,329</b> | <b>24,181</b> | <b>25,161</b>    |
| <b>輸入量</b>     |               |               |               |               |               |                  |
| 米国             | 593           | 618           | 571           | 672           | 670           | 700              |
| EU             | 487           | 523           | 520           | 501           | 570           | 590              |
| ロシア            | 212           | 387           | 290           | 288           | 329           | 370              |
| 英国             | 276           | 275           | 274           | 280           | 274           | 280              |
| 中国             | 237           | 242           | 262           | 239           | 194           | 210              |
| カナダ            | 176           | 179           | 179           | 190           | 191           | 195              |
| 香港             | 229           | 250           | 259           | 238           | 201           | 195              |
| タイ             | 157           | 143           | 124           | 131           | 140           | 120              |
| バングラデシュ        | 31            | 51            | 48            | 60            | 70            | 105              |
| メキシコ           | 76            | 81            | 102           | 91            | 98            | 105              |
| その他            | 644           | 659           | 693           | 692           | 744           | 732              |
| <b>合計</b>      | <b>3,117</b>  | <b>3,409</b>  | <b>3,320</b>  | <b>3,380</b>  | <b>3,481</b>  | <b>3,602</b>     |
| <b>輸出量</b>     |               |               |               |               |               |                  |
| チリ             | 731           | 731           | 655           | 605           | 526           | 645              |
| ペルー            | 311           | 277           | 388           | 400           | 468           | 510              |
| 南アフリカ          | 304           | 279           | 276           | 298           | 338           | 344              |
| 中国             | 257           | 278           | 289           | 362           | 428           | 330              |
| 米国             | 347           | 336           | 368           | 325           | 314           | 290              |
| インド            | 200           | 210           | 250           | 185           | 267           | 280              |
| トルコ            | 173           | 280           | 179           | 205           | 215           | 230              |
| メキシコ           | 156           | 196           | 147           | 224           | 207           | 190              |
| EU             | 189           | 179           | 193           | 177           | 179           | 170              |
| エジプト           | 90            | 115           | 125           | 150           | 155           | 170              |
| その他            | 531           | 582           | 599           | 583           | 528           | 550              |
| <b>合計</b>      | <b>3,289</b>  | <b>3,464</b>  | <b>3,468</b>  | <b>3,514</b>  | <b>3,624</b>  | <b>3,709</b>     |

注: 米国とメキシコの販売年度は5月から翌年4月。他のすべての北半球の国は6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー及び南アフリカは10月から翌年9月。ブラジルは2年目として示された年の暦年。一部の国は干しブドウ用を含む。

ナシ(生鮮) 主要国の生産需給統計  
(1,000トン)

|              | 2016/17       | 2017/18       | 2018/19       | 2019/20       | 2020/21       | 2021/22<br>12月予測 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------|
| <b>生産量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| 中国           | 15,960        | 16,410        | 14,000        | 17,314        | 16,500        | 18,000           |
| EU           | 2,313         | 2,361         | 2,568         | 2,059         | 2,381         | 1,727            |
| 米国           | 668           | 663           | 726           | 645           | 608           | 605              |
| アルゼンチン       | 540           | 580           | 600           | 640           | 615           | 590              |
| トルコ          | 472           | 503           | 520           | 530           | 550           | 535              |
| 南アフリカ        | 432           | 408           | 413           | 407           | 423           | 425              |
| インド          | 340           | 280           | 3,000         | 310           | 308           | 310              |
| ロシア          | 236           | 218           | 242           | 290           | 247           | 247              |
| 日本           | 275           | 259           | 239           | 239           | 239           | 239              |
| チリ           | 290           | 262           | 252           | 222           | 233           | 217              |
| その他          | 600           | 687           | 550           | 548           | 477           | 531              |
| <b>合計</b>    | <b>22,125</b> | <b>22,631</b> | <b>23,110</b> | <b>23,204</b> | <b>22,580</b> | <b>23,424</b>    |
| <b>国内消費量</b> |               |               |               |               |               |                  |
| 中国           | 15,458        | 15,875        | 13,645        | 16,707        | 16,030        | 17,479           |
| EU           | 2,093         | 2,096         | 2,305         | 1,823         | 2,181         | 1,667            |
| 米国           | 615           | 621           | 654           | 586           | 574           | 569              |
| ロシア          | 445           | 470           | 461           | 437           | 446           | 466              |
| トルコ          | 456           | 459           | 478           | 479           | 477           | 465              |
| インド          | 333           | 267           | 2,988         | 327           | 330           | 335              |
| アルゼンチン       | 261           | 260           | 291           | 300           | 265           | 280              |
| 日本           | 273           | 257           | 237           | 237           | 237           | 237              |
| インドネシア       | 155           | 180           | 145           | 236           | 196           | 210              |
| 南アフリカ        | 166           | 186           | 188           | 181           | 181           | 180              |
| その他          | 1,696         | 1,783         | 1,581         | 1,710         | 1,515         | 1,526            |
| <b>合計</b>    | <b>21,951</b> | <b>22,454</b> | <b>22,973</b> | <b>23,024</b> | <b>22,433</b> | <b>23,414</b>    |
| <b>輸入量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| ロシア          | 252           | 285           | 261           | 194           | 240           | 220              |
| インドネシア       | 155           | 180           | 145           | 236           | 196           | 210              |
| EU           | 195           | 186           | 157           | 172           | 175           | 190              |
| ブラジル         | 156           | 158           | 154           | 138           | 124           | 125              |
| ペラルーシ        | 152           | 133           | 118           | 119           | 111           | 105              |
| 英国           | 156           | 129           | 126           | 108           | 110           | 100              |
| ベトナム         | 79            | 87            | 63            | 133           | 97            | 90               |
| 香港           | 68            | 73            | 85            | 76            | 81            | 80               |
| メキシコ         | 67            | 72            | 92            | 84            | 73            | 75               |
| 米国           | 73            | 79            | 73            | 72            | 75            | 74               |
| その他          | 464           | 472           | 426           | 495           | 455           | 445              |
| <b>合計</b>    | <b>1,816</b>  | <b>1,855</b>  | <b>1,699</b>  | <b>1,825</b>  | <b>1,736</b>  | <b>1,714</b>     |
| <b>輸出量</b>   |               |               |               |               |               |                  |
| 中国           | 509           | 543           | 366           | 619           | 480           | 530              |
| アルゼンチン       | 280           | 320           | 310           | 340           | 350           | 310              |
| EU           | 415           | 452           | 420           | 407           | 374           | 250              |
| 南アフリカ        | 266           | 222           | 226           | 227           | 242           | 245              |
| チリ           | 152           | 129           | 132           | 114           | 120           | 112              |
| 米国           | 126           | 122           | 144           | 130           | 109           | 110              |
| トルコ          | 16            | 44            | 42            | 51            | 73            | 70               |
| ペラルーシ        | 92            | 83            | 70            | 16            | 54            | 50               |
| 韓国           | 26            | 32            | 27            | 31            | 19            | 25               |
| オーストラリア      | 9             | 12            | 9             | 9             | 9             | 9                |
| その他          | 18            | 13            | 14            | 15            | 11            | 13               |
| <b>合計</b>    | <b>1,907</b>  | <b>1,971</b>  | <b>1,760</b>  | <b>1,959</b>  | <b>1,842</b>  | <b>1,724</b>     |

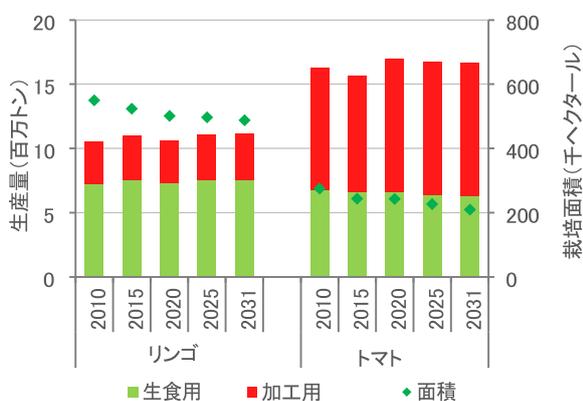
注: 北半球の国の販売年度は7月から翌年6月。南半球の国は、2年目として示された年の暦年。

## 148. EU 果実・野菜の見通し2021-2031

欧州委員会(2021年12月14日)

これは、欧州委員会(EC)発行の「EU農業の見通し2021-2031」の果実・野菜の項を訳したものです。

図5.13 EUのリンゴとトマトの生産量と栽培面積



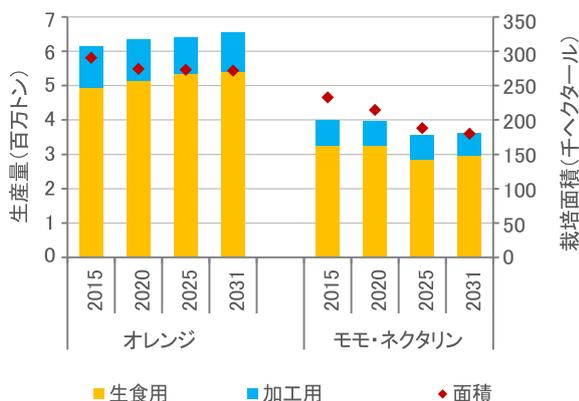
### EUの果実・野菜の生産は横ばい

生食用トマトとモモ・ネクタリンの生産量はともに、2031年までに減少する(年率-0.4~-0.5%)見込みである。トマト生産量の減少は、主にスペインの冬の生産量の大幅な減少と、量は少ないが付加価値がより高い小型トマトへの移行によるものである。スペインの生産者はまた、モロッコとの厳しい競争のため、より収益性の高い他の冬作物に移行している。モモ・ネクタリンについては、栽培面積の減少が続き、これが生産量減少の要因である。

EUの合計リンゴ出荷量は、2031年まで1,110万トンで横ばいの見込みである。これは、栽培面積が減少する一方、新しい多収性矮化品種の導入と栽培管理の改善による収量の増加の結果である。2031年にはリンゴの生鮮消費量は760万トン、加工仕向量は360万トンと予測される。

また、加工用トマトの生産量は約1,040万トンで横ばいである。加工品目は、濃縮度の高いトマトペーストなどから、濃縮度が低く付加価値の高いトマト缶詰、トマトピューレ、トマトソースや有機トマト製品などに移行する。

図5.14 EUのオレンジ、モモ・ネクタリンの生産量と栽培面積



### 果実の生鮮消費は増加し、加工消費は減少

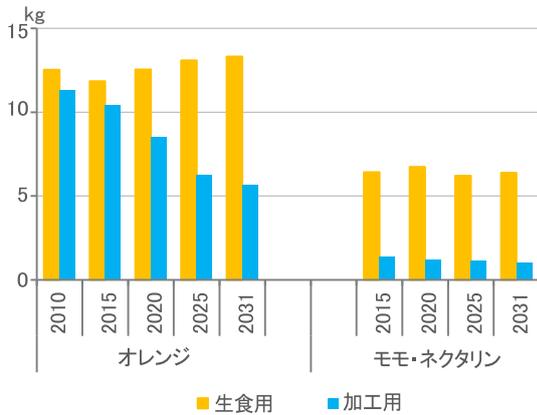
EUの生鮮果実・野菜の消費量は、果実と野菜が豊富な食事をとることの利点に対する消費者の意識の高まりと、消費を促進するための公的な取り組みによって、2031年までに増加すると予想される。しかし、品目や国により大きな違いがある。特に、生鮮オレンジ消費量は、一人当たり13.3kgに増加する(年率+0.5%)と見込まれる。スーパーマーケット、カフェ、レストランの店内で絞られる新鮮なオレンジジュースの消費がこれを後押しする。

同じ期間に、EUの一人当たりの生鮮リンゴ消費量は、特にポーランドでリンゴの品種が消費者の好みを反映したものに変わることによって、15kgに増加する(年率+0.6%)と予想される。消費量増加の予想にもかかわらず、リンゴは熱帯果実やベリー類などのよりトレンド的な品目との競争力を失う。また、モモは果実消費量全体の中でのシェアを失い、モモ・ネクタリンの消費量は一人当たり6.4kgに減少すると予測される。

図5.15 リンゴとトマトの一人当たり消費量



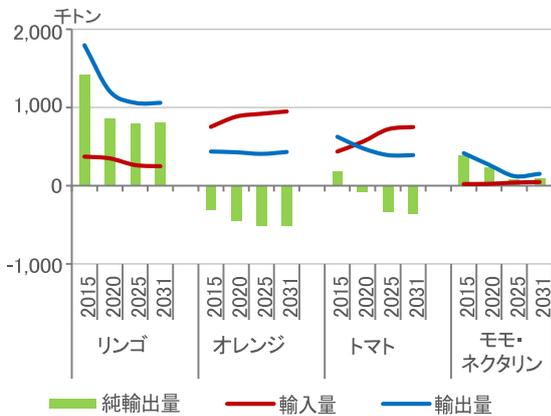
図5.16 オレンジとモモ・ネクタリンの一人当たり消費量



2031年までに、小型のトマトの消費量が増加し、一人当たり消費量の下押し要因となる一方、トマトを「スナック」(軽食、おやつ)として食べる傾向が需要を押し上げ、EUの生鮮トマトの一人当たり消費量は横ばい(15kg)と予想される。

生鮮果実・野菜の消費量の増加とは対照的に、EUの加工果実の消費量は減少を続けると予想される。これは、最大のシェアを占める果汁の減少が続くためである。一方、コンポート(特に有機で砂糖を加えないコンポート)とサイダーの消費量は増加する。モモ缶詰とドライピーチについては、現在の入手の難しさと高価格が続けば、消費者(食品サービスを含む)が他の加工品に切り替え、中期的に消費に影響を与える可能性がある。

図5.17 EUの主要生鮮果実・野菜の貿易量

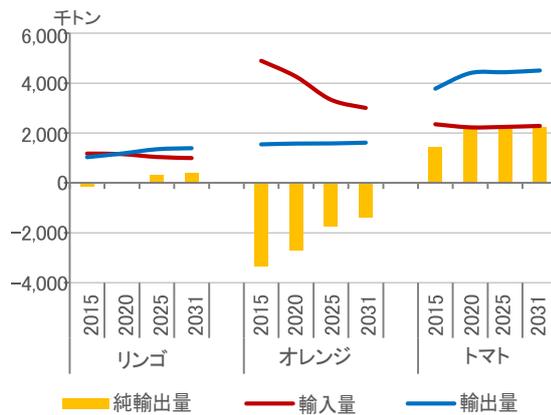


一方、EUの加工トマトの消費量は横ばい(18kg)と見込まれる。加工食品の需要が高まっているにもかかわらず、加工トマトの使用量は変わっていない。これは、他の野菜と混合される加工食品中のトマトの濃度の低下などによるものである。

**EUの生鮮果実・野菜の輸出は安定する**

2031年までに、EUの生鮮リンゴとトマトの輸出量はそれぞれ110万トンと39万トン(年率-1.2%と-1.8%)で安定すると予想される。かつてEU最大の輸出市場であったロシアは、いまだEUからの果実・野菜の輸入を禁止しており、次第に自給率を高めている。植物防疫上の制約と、特にリンゴについては近隣諸国との競争の激化のため、新しい市場への輸出の可能性は引き続き制限される。

図5.18 EUの主要加工果実・野菜の貿易量



2031年までに、EUの生鮮リンゴの輸入量は、品質の高いリンゴの域内出荷量の増加によって減少する(2020年に比べて-3%)が、生鮮トマトの輸入は増加(年率+2.7%)を続ける可能性がある。生鮮トマトについては、現在モロッコ産が最も多いが、見通し期間中にはトルコ産とチュニジア産の輸入シェアが大きく増加すると予想される。

トマト加工品に対する世界的な強い需要にもかかわらず、生鮮トマト換算のEUの輸出量は横ばいと予想される。これは、濃度が低く付加価値が高い製品に対する需要が高まっているためである。EUは引き続き、濃縮トマト製品の純輸入国(地域)に留まるものと見込まれる。

## 149. オーストラリアの柑橘類事情(オレンジ、マンダリン)

米国農務省GAINレポート(2021年12月15日)

これは米国農務省海外農業局キャンベラ事務所(オーストラリア)が作成した「柑橘類年次報告書」の中のエグゼクティブ・サマリー並びにオレンジ及びタンジェリン/マンダリンの章の一部を抜粋翻訳したものであり、米国政府の公式見解・データとは異なる場合があります。なお、この報告書中の「年度」は、表記された第2年次の4月から翌年3月を指します。

### 要約

オーストラリアでは、2020年と2021年を通じて主要な産地で降水量が平均を上回ったことから、柑橘類の生育条件は良好である。この降雨により、現在ではほとんどの灌漑用貯水地が満杯かそれに近い状態にあり、柑橘類の灌漑計画と2021/22年度の生産予測を下支えしている。2021年12月15日に国境閉鎖が解除されたことにより、過去2回の収穫期に柑橘類生産者にとって大きな懸念事項であった労働力確保の問題が、2022年5月からの次の収穫に向けて改善することが期待される。

2021/22年度のオレンジの生産量は53万5千トンと予測されており、これは着果量が多く、生育期間中にタイミングよく降雨があった2020/21年度の推定生産量に比べて2%多い。2020/21年度にはこれらの条件のため果実のサイズが大きくなり過ぎ、輸出市場に適したオレンジの供給量が少なくなったため、輸出量は16万トンと大幅に減少したが、2021/22年度には19万トンに反発すると予測される。果汁用のオレンジは、果汁用品種の肥大化に加えて生食用品種の果汁仕向量の増加により22万5千トンに急増した2020/21年度に比べ、10%減少すると予測される。

オーストラリアのマンダリン生産者は、オレンジと同様に良好な生産条件を享受している。オーストラリアのマンダリン産地は多様性が高く、栽培面積はオレンジよりも大きな割合で拡大している。マンダリンの栽培面積は2014年以降42%増加しており、その多くが今後数年間で成園化し、生産量と輸出量の増加に拍車をかけるものと見込まれる。2021/22年度のマンダリンの生産量は6%増の19万トンと予測され、輸出量は史上最高の9万トンに達すると見込まれる。国内消費量は、10万1千トンで横ばいと予想される。

### <生鮮オレンジ>

#### 背景

オーストラリアの主要オレンジ産地は、灌漑水確保の可能性が高い南部の温帯気候地域に位置する(下図参照)。これらの地域は、次のように呼ばれる。

リバーナ地域 - ニューサウスウェールズ州南部のグリフィス市及びリートン町の周辺

マレーバレー地域 - ビクトリア州北西部のマレー川沿いの主にミルドゥーラ市とスワンヒル市の間

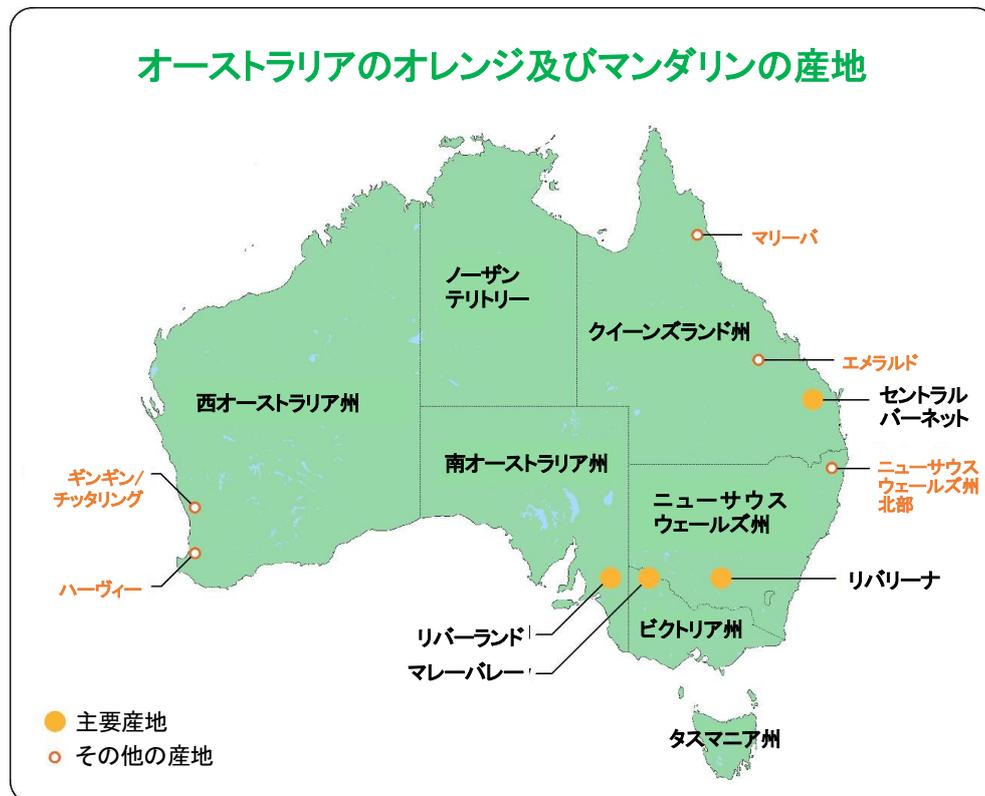
リバーランド地域 - 南オーストラリア州南東部\*のマレー川沿い(原文では誤って北西部と記載)

これらの地域の特徴は、土壌が水はけのよい砂壤土で、温帯気候であり、年間降水量が約300mmと少なく、そのほとんどが収穫期と次期作の生育初期に当たる5月から10月の間に降ることである。冬は穏やかだが、果樹が必要とする十分な低温期間がある。これらの地域では、果樹の水分要求量の大部分を灌漑に依存している。こうした条件は、発芽を促進して潜在的な収量を高め、春から秋までの降水量の少なさと暖かい気温は降霜、湿気、降雹のリスクを最小限に抑え、よく管理された点滴灌漑と計画的な施肥により果実の生育が最適化されている。

これら3大産地のオレンジ栽培面積は、15,537ヘクタールで、全国の89%を占めている。全国の合計では、ネーブルオレンジが11,074ヘクタール、バレンシアオレンジが6,395ヘクタールである(出典: オーストラリア柑橘類協会 - オーストラリア柑橘類センサス2020)。リバーナ地域は突出して最大のオレンジ産地であり、総栽培面積の約55%がバレンシアオレンジで、果汁用オレンジの国内栽培面積の66%を占めている。ニューサウスウェールズ州北部、クイーンズランド州及び西オーストラリア州にも小さな産地がある。

3大産地の収穫期は、ネーブルオレンジが通常5月から10月であり、バレンシアオレンジが通常11月から

2月である。最高品質のバレンシアオレンジの一部は、(果汁用ではなく)生鮮市場で販売され、国内産生鮮オレンジを消費者に提供できる期間を延長している。



出典: オーストラリア柑橘類協会/オーストラリア統計局センサス/農務省海外農業局キャンベラ事務所  
 訳注: 原文ではこの図はマンダリンの産地図であり、オレンジの産地図ではセントラルバーネットは「その他の産地」であり、マリバ及びエメラルドは記載がありません。

オーストラリア柑橘類協会は、2014年から毎年、果樹のセンサス調査を行っている。2014年から2020年までの調査結果は、オーストラリアの主要産地において、ネーブルオレンジと赤肉系品種の栽培面積が5年間で大幅に増加したことを示している。しかし、果樹が成木化し全体的な生産への影響が表れるまでにはまだしばらく時間がかかる。

果汁用でないオレンジ品種の約93%はネーブルオレンジであり、この報告書では果汁用でないオレンジをすべてネーブルオレンジとしている。また、果汁用品種の大半(86%)はバレンシアオレンジの各品種であり、この報告書ではすべての果汁用品種をバレンシアオレンジとしている。

ネーブルオレンジとバレンシアオレンジを合わせた総栽培面積は、2014年の15,307ヘクタールから2020年には17,469ヘクタールに14%増加した。この間、バレンシアオレンジの面積は3%減少し、ネーブルオレンジの面積は27%増加した。ネーブルオレンジの栽培面積の増加のうち、晩生品種及び赤肉系品種はそれぞれ847ヘクタール(20%)及び796ヘクタール(374%)と最大の増加を示した。

興味深いことに、2014年から2020年にかけてオレンジの栽培面積は14%拡大したが、樹齢の分布を見ると、成木(13~39年生)の面積が大きく増加し、成木化が進む樹齢の果樹(5~12年生)の面積は大幅に減少、未結果樹(0~4年生)の面積は増加した。これは、今後数年間は成木の面積が一層増加するが、増加率は近年に比べて減少すると見られることを示している。2019年と2020年の両年で未結果樹面積が2014年と比較して約83%多いことは、業界の将来に対する信頼度が高いことを示している。

## 生産

当事務所は、2021/22年度(2022年4月~2023年3月)の生鮮オレンジ生産量を、下方修正された2020

/21年度の推定生産量52万5千トンに対して2%増の53万5千トンと予測する。この増加予測は、近年の栽培面積の増加に大きく関係しており、さらに2年連続(2020年及び2021年)で灌漑用水の集水域で平均を上回る降水量があり、2021/22年度については灌漑水が十分に確保できることに基づいている。

オレンジの果樹総本数が増加する中、樹齢分布で見ると2020年には2019年に対して成木が4%増加し、2021年にも同様の傾向が予想されることから、生産量に影響を与えるものと見られる。しかし、2020/21年度には肥大し過ぎた果実が多かったことから、生産量の増加は成木の増加率の半分にとどまるものと予測される。2021/22年度の果実はサイズが全般的に小さくなり、前年よりも輸出に適したものになると予想される。

オレンジの栽培面積と成木の増加に加えて、1)利用できる灌漑水が豊富にあること、2)生育期間中期に平均並みの降水量が予想されること、3)収穫労働力の確保状況が改善すると見込まれることの3つの追加要因が、2021/22年度の実産量の増加を下支えするものと見込まれる。

(労働力については)オーストラリアは、2021年12月15日から国境を開くことを確約した。これには、新型コロナウイルスに対するワクチン接種を2回受けたワーキングホリデービザ保有者の、以前は必須であった14日間のホテルでの隔離期間なしでのオーストラリアへの入国が許可されることが含まれる。コロナ禍の中で、ワーキングホリデービザでの入国者の減少は、収穫労働力の不足に最も大きな影響を与えてきた。国境開放の発表は、今後数ヶ月間のワーキングホリデービザでの入国者数にプラスの影響を与え、2022年5月に収穫が始まる本報告書の予測対象年度を含め、現在の収穫労働力不足の緩和に貢献すると予想される。

## 輸出

当事務所は、2021/22年度の実産オレンジの輸出量を、2020/21年度の推定輸出量16万トンより3万トン多い19万トンと予測する。これは、2019/20年度に18万1千トンを輸出した近年の水準への回復である。

輸出は生産量と品質の影響を大きく受ける。品質が全般的に低い年には、果汁用に格落ちするオレンジの割合が多くなり、輸出と国内市場に仕向けられるオレンジの供給が減少する。また、その場合、輸出市場に適したオレンジの量が少なく、国内生鮮消費向けの供給量が増加することが多い。生食用オレンジの2大産地であるニューサウスウェールズ州とビクトリア州では、12月に非オーストラリア市民に国境が開かれることで、

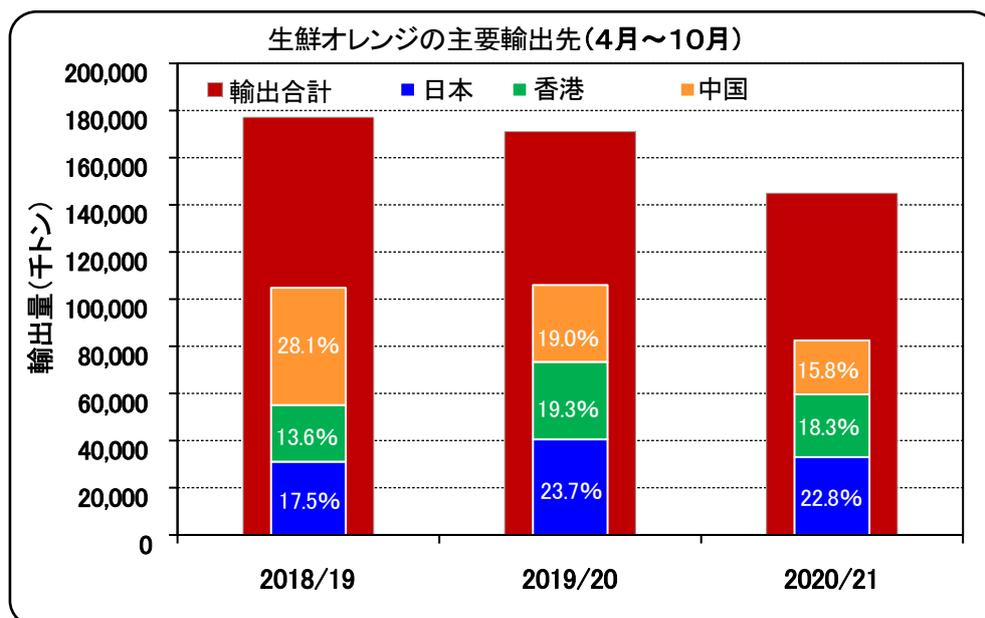
2022年5月に始まる2021/22年度(2022年4月～2023年3月)産の収穫に向けて、収穫労働力の確保状況を改善する機会がもたらされた。予測対象年度(2021/22年度)の収穫労働力不足を完全に緩和することは見込めないが、適期での収穫が大幅に進み、果実の品質低下が最小限に抑えられ、輸出市場に適した生鮮オレンジの供給が改善されるものと見込まれる。

オーストラリアのオレンジの輸出は季節性が高く、オーストラリア北部の小規模産地からの少量の輸出が5月に始まり、その後3つの主要産地での収穫が始まる6月には大量の輸出が開始される。7月から9月までの期間が最盛期で、12月には輸出を終了する。この季節性の高い出荷により、オレンジ生産が少ない近隣のアジア諸国及び季節が逆になる北半球諸国にネーブルオレンジを輸出する機会を得ている。

オーストラリア産オレンジの主要輸出先は日本、中国、香港で、通常これらで輸出全体の約60%を占めている(下図参照)。オーストラリアは、35カ国以上に生鮮オレンジを輸出しており、大規模な輸出先はほとんどがアジア地域である。

日本は最大の輸出先で、毎年の輸出量は約3万5千トンで比較的安定しているが、2019/20年度には約4万2千トンに増加した。2020/21年度はこれよりも低い水準で推移しているが、過去の水準を上回っている。

中国のオレンジ輸入量は過去10年間で4倍に増加したが、2019/20年度にはピークであった前年の42万トンから38%減少した。中国向けの4つの主要輸出国は南アフリカ、エジプト、オーストラリア、米国で、これらで一貫して輸入量の90～99%を占めている。2019/20年度にはエジプトの輸出量全体が22%増加したにもかかわらず、エジプトから中国への輸出量は前年の半分以下に減少した。2020/21年度の4月から10月の期間には、中国の輸入量全体は前年同時期からさらに9%減少した。



出典：オーストラリア統計局

当事務所は、2020/21年度のオーストラリアのオレンジ輸出量を、農務省の公式推計値19万5千トンよりも少ない16万トンと見積もる。2021年4月から10月までの輸出量は14万4,990トンであったが、この期間の輸出量は平均して各年度の輸出量全体の90%以上を占めることから、通期での輸出量は修正した推計値に到達すると予想する。

### オーストラリアの生鮮オレンジ生産需給統計

| オレンジ(生鮮)<br>販売年度 | 2019/2020    |        | 2020/2021    |        | 2021/2022    |        |
|------------------|--------------|--------|--------------|--------|--------------|--------|
|                  | 2020年4月～翌年3月 |        | 2021年4月～翌年3月 |        | 2022年4月～翌年3月 |        |
| オーストラリア          | 農務省公式        | 今回推計値  | 農務省公式        | 今回推計値  | 農務省公式        | 今回推計値  |
| 栽培面積             | 17,000       | 16,800 | 17,100       | 17,500 | 0            | 18,400 |
| 収穫面積             | 14,900       | 14,700 | 15,000       | 15,400 | 0            | 16,300 |
| 結果樹本数            | 0            | 0      | 0            | 0      | 0            | 0      |
| 未結果樹本数           | 0            | 0      | 0            | 0      | 0            | 0      |
| 合計果樹本数           | 0            | 0      | 0            | 0      | 0            | 0      |
| 生産量              | 485          | 485    | 535          | 525    | 0            | 535    |
| 輸入量              | 16           | 16     | 15           | 15     | 0            | 15     |
| 総供給量             | 501          | 501    | 550          | 540    | 0            | 550    |
| 輸出量              | 190          | 181    | 195          | 160    | 0            | 190    |
| 生鮮国内消費量          | 106          | 125    | 140          | 130    | 0            | 135    |
| 加工仕向量            | 205          | 195    | 215          | 250    | 0            | 225    |
| 総仕向量             | 501          | 501    | 550          | 540    | 0            | 550    |

単位：ヘクタール、千本、千トン

### <生鮮タンジェリン/マンダリン>

#### 背景

オーストラリアのマンダリン及びタンジェリンの産地は、オレンジの3大主要産地よりもはるかに多様である。オーストラリアではタンジェリンも生産されているがその面積は非常に小さいため、タンジェリン/マンダリンの生産量のほぼ全量がマンダリン品種であり、アフォーラ(Afourer)、インペリアル(Imperial)、マーコット(Murcott)が全体の栽培面積の79%を占めている(出典：オーストラリア柑橘類協会 柑橘類センサス2020)。

クイーンズランド州のマンダリン栽培面積は4,102ヘクタールと突出して多く、国内栽培面積の53%を占め

ている。次に栽培面積が多い地域は1,459ヘクタール(19%)の南オーストラリア州リバーランド地域と1,364ヘクタール(18%)のビクトリア州マレーバレー地域である。クイーンズランド州最大のマンダリン産地は、州南東部のガインダ町とムンドゥッペラ町の周辺のセントラルバーネット地域であるが、エメラルド地域(同州中部)とマリーバ地域(同州北部)でも生産されている。ニューサウスウェールズ州北部、ノーザンテリトリー、西オーストラリア州にも小さなマンダリン産地がある。

果樹センサスデータの収集が開始された2014年から2020年までの間に、マンダリン栽培面積は5,451ヘクタールから7,767ヘクタールに42%増加した。これは、成長率と拡大実面積において同じ期間のオレンジの増加を上回っている。また、この拡大はオーストラリアのすべての産地で広く起こっている。

アフォーラ品種は、2014年から2020年の期間に、その栽培面積が998ヘクタールから2,448ヘクタールへと最大の拡大を示し、現在ではまぎれもなく支配的な品種となっている。マーコット品種の面積も同じ期間に26%拡大した一方、古い品種であるインベリアルはわずかに(6%)減少した。「その他」のカテゴリーにはタンジェロ等29種類が含まれ、その総栽培面積は52%(553ヘクタール)増加した。「その他」カテゴリーの品種の中で栽培面積が最も増加したのは、デイジー(Daisy)、フェニックス(Phoenix)、タンゴ(Tango)で、すべて比較的新しく、種子が少ないかまたは種なしの品種である。

2014年から2020年にかけての栽培面積の拡大は、未結果樹(0~4年生)の栽培面積が1,400ヘクタール以上(146%)増えて2,408ヘクタールに達したことも明白に表れている。成木化が進む樹齢の果樹(5~12年生)の栽培面積は、約45パーセント増に当たる872ヘクタール増加した。同じ期間に成木(13~39年生)の面積には変化がなかった。2020年のマンダリンの樹齢分布のほぼ3分の1が未結果樹であり、これらの果樹の結果が始まることから、業界は今後数年間で生産量の急速な増加が期待することができる。

## 生産

当事務所は、2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの生産量を、2020/21年度の推定生産量18万トンに対して6%増の19万トンと予測する。この増加は主に若い果樹の樹齢分布に関係しており、成木化が進む樹齢の栽培面積が増加していることが、全体的な生産量を押し上げている。

オレンジの生産と同様に、マンダリンは十分な灌漑水、2022年1月から3月までの平均的な降水量、及び収穫労働力確保の改善を期待することができる。2022年5月の収穫開始までに悪天候が生産量に大きな悪影響を及ぼす可能性はあるものの、総じて言えば予測対象年度(2022年4月から)に先立っての状況は良好である。この段階での生産量予測は、主に果樹本数の増加と樹齢分布に依存している。

2020/21年度産の生産量の当事務所の予測は18万トンで、農務省の公式推計値17万5千トンをわずかに上回っている。これは、主要な産地で全般的に生産条件が良好なためである。

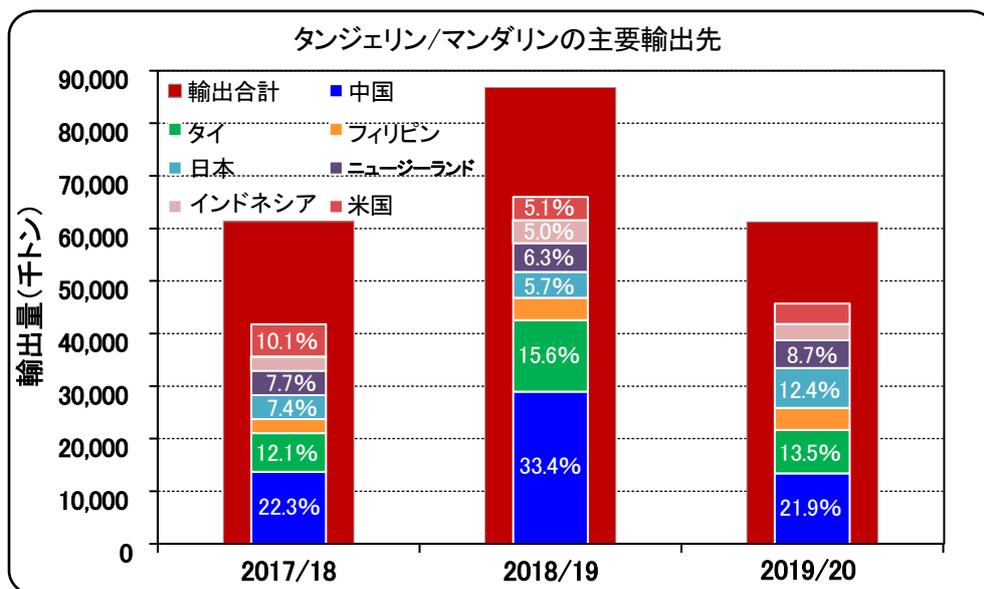
## 輸出

当事務所は、2020/21年度のマンダリンの推定輸出量8万トンに対し、2021/22年度の輸出量を9万トンと予測している。2021/22年度の実績は1万トンの増加が予想されるが、この増加は全て輸出に向かうと見込まれる。これが実現すれば、輸出量は過去最高の2018/19年度を3千トン上回り、新記録となる。近年の栽培面積の増加を踏まえ、果樹の成木化に伴って生産量の増加が続き、輸出量は今後数年間で新たなピークに達すると予想される。

過去5年間において、マンダリンの輸出はほぼ全て5月から10月にかけて行われ、最盛期は8月であった。販売年度の始まりである4月から10月までの輸出量は通常、年度通期の99%を占める。このことから、2020/21年度の推定輸出量の信頼性は高い。

オーストラリアのマンダリンの輸出先は非常に多角化しており、上位7カ国が全輸出量の約4分の3を占めている(下図参照)。中国は、2019/20年度には22%を占めて依然として主要な輸出先であり、2020/21年度のこれまで(2021年4月~10月)の実績は、中国向けの全体的な輸出量の増加を示している。2019/20年度には日本向けが12%を占め、14%のタイについて3番目の輸出先となった。フィリピン、ニュージーランド、

インドネシア、米国は、過去3年間、一貫して輸出量全体の5～10%を占めている。



出典: オーストラリア統計局

2019/20年度から2020/21年度にかけて主要輸出先向けのマンダリン輸出量に大きな変化があり、輸出量は61,243トンから8万トンに30%増加すると推定される。前述のとおり、最大の輸出先である中国への輸出は約3千トン(22%)増加した。タイ向けは4,500トン以上増と最大の増加量であり、フィリピン向けはこれに次いで3,800トン増加した。インドネシアへの輸出も大幅に増加した一方、日本向けは唯一大幅に減少したが、依然として2016/17年度から2018/19年度までの3年間を大きく上回っている。

2020/21年度のマンダリン輸出量の当事務所の推計値は、農務省公式推計値の8万トンと一致する。2021年4月から10月の輸出量は78,094トンで、この期間は年度通期の輸出量の平均99%を占めることから、通年の輸出量は約8万トンに達すると予想される。

### オーストラリアのタンジェリン/マンダリン生産需給統計

| オレンジ(生鮮)<br>販売年度<br>オーストラリア | 2019/2020    |       | 2020/2021    |       | 2021/2022    |       |
|-----------------------------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|-------|
|                             | 2020年4月～翌年3月 |       | 2021年4月～翌年3月 |       | 2022年4月～翌年3月 |       |
|                             | 農務省公式        | 今回推計値 | 農務省公式        | 今回推計値 | 農務省公式        | 今回推計値 |
| 栽培面積                        | 7,700        | 7,500 | 7,900        | 7,800 | 0            | 8,200 |
| 収穫面積                        | 5,400        | 5,100 | 5,700        | 5,400 | 0            | 5,800 |
| 結果樹本数                       | 0            | 0     | 0            | 0     | 0            | 0     |
| 未結果樹本数                      | 0            | 0     | 0            | 0     | 0            | 0     |
| 合計果樹本数                      | 0            | 0     | 0            | 0     | 0            | 0     |
| 生産量                         | 160          | 160   | 175          | 180   | 0            | 190   |
| 輸入量                         | 4            | 3     | 4            | 4     | 0            | 4     |
| 総供給量                        | 164          | 163   | 179          | 184   | 0            | 194   |
| 輸出量                         | 62           | 61    | 80           | 80    | 0            | 90    |
| 生鮮国内消費量                     | 99           | 99    | 96           | 101   | 0            | 101   |
| 加工仕向量                       | 3            | 3     | 3            | 3     | 0            | 3     |
| 総仕向量                        | 164          | 163   | 179          | 184   | 0            | 194   |

単位: ヘクタール、千本、千トン

この記事のタイトルの一部及び本文と図表の書式の一部を修正しました。(2022年12月30日)

## 150. ブラジルの柑橘類事情(生鮮オレンジ、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート(2021年12月16日)

これは米国農務省海外農業局サンパウロ事務所(ブラジル)が作成した「柑橘類年次報告書」の一部を抜粋翻訳したものであり、米国政府の公式見解・データとは異なる場合があります。なお、ブラジルの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがあり、例えば、2022年7月に始まる年度はブラジルでは2022/23年度であり、米国では2021/22年度ですが、この報告書では特記した場合を除き米国式で記述されています。

### 要点

2021/22販売年度(以下「年度」)のブラジルのオレンジ総出荷量は、今年度と比べて12%増の1,652万トンに相当する4億5千万箱(40.8kg/箱)と予測される。この予測は、サンパウロ州とミナスジェライス州の商業的柑橘類ベルト地帯で2021年12月中旬の時点で天候条件が概ね平年並みであり、(一度目の開花による)着果と二度目の開花が順調であることを前提としている。上記柑橘類ベルト地帯の2020/21年度の推定出荷量は、深刻な干ばつや度重なる降霜等の悪天候の影響を受けて、2億9,420万箱(1,200万トン)から2億6,400万箱(1,077万トン)に下方修正された。2021/22年度のブラジルの冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)のブリックス値65換算の輸出量は、2020/21年度の改訂値に近い100万トンと予測される。

### <生鮮オレンジ>

次の表は、サンパウロ州及びブラジル全体の2020/21年度(7月～6月)及び2021/22年度の生鮮オレンジの生産流通統計の改定データと2022/23年度の第1回の予測値を示している。これらのブラジルの年度は、それぞれ米国の2019/20、2020/21、2021/22の各年度に相当する。

図表1 ブラジルの生鮮オレンジの生産流通統計

| ブラジル: 生鮮オレンジの生産流通統計(7月～6月) |           | 単位 千ヘクタール、百万本、百万箱(40.8キロ/箱) |         |         |
|----------------------------|-----------|-----------------------------|---------|---------|
| 項目                         | 米国の販売年度   | 2019/20                     | 2020/21 | 2021/22 |
| 項目                         | ブラジルの販売年度 | 2020/21                     | 2021/22 | 2022/23 |
| 栽培面積                       |           | 595.7                       | 579.4   | 574.0   |
| サンパウロ州                     |           | 395.7                       | 379.4   | 374.0   |
| その他                        |           | 200.0                       | 200.0   | 200.0   |
| 収穫面積                       |           | 557.0                       | 538.7   | 532.6   |
| サンパウロ州                     |           | 364.4                       | 346.1   | 340.0   |
| その他                        |           | 192.6                       | 192.6   | 192.6   |
| 結果樹本数                      |           | 224.9                       | 218.6   | 215.0   |
| サンパウロ州                     |           | 172.9                       | 166.6   | 163.0   |
| その他                        |           | 52.0                        | 52.0    | 52.0    |
| 未結果樹本数                     |           | 27.5                        | 27.0    | 27.0    |
| サンパウロ州                     |           | 23.5                        | 23.0    | 23.0    |
| その他                        |           | 4.0                         | 4.0     | 4.0     |
| 果樹本数合計                     |           | 252.4                       | 245.6   | 242.0   |
| 総生産量                       |           | 364.5                       | 360.6   | 405.0   |
| サンパウロ州                     |           | 268.6                       | 264.0   | 305.0   |
| その他                        |           | 95.9                        | 96.6    | 100.0   |
| 輸出量                        |           | 0.2                         | 0.1     | 0.2     |
| 輸入量(ブラジル全体)                |           | 0.5                         | 0.6     | 0.6     |
| 国内消費量                      |           | 121.8                       | 112.1   | 116.4   |
| 加工仕向け量                     |           | 243.0                       | 249.0   | 289.0   |
| サンパウロ州(FCOJ及び輸出向けNFC製造用)   |           | 223.0                       | 225.0   | 265.0   |
| その他                        |           | 20.0                        | 24.0    | 24.0    |

注意事項: ブラジルの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、ブラジルの2022/23年度は、米国の2021/22年度に相当する。データの継続性を確保するため、この報告書ではブラジルの2022/23年度は、米国式に2021/22年度と記述する。

### 概要

当事務所は、2021/22年度(7月～6月)のブラジルの生鮮オレンジ生産量を、今年度(2020/21年度)と比べて12%増の1,652万トンに相当する4億500万箱(40.8kg/箱)と予測する。この予測は、2021年12月中

旬の時点で天候条件が概ね平年並みであり、サンパウロ州とミナスジェライス州の商業的柑橘園の大部分で（一度目の開花による）着果と二度目の開花が順調であることを前提としている。

サンパウロ州とミナスジェライス州西部の商業的栽培地域の生産量は、3億500万箱（12,440万トン）と見込まれ、これは前年度の改訂推定値（2億6,400万箱、1,077万トン）に対して16%の増加となる。2021年10月の長雨により、柑橘類の主要産地の大部分で10月から11月にかけての2回目の開花が着実に始まった。果実の着果と肥大は、その後の好ましい天候に依存している。最初の開花は、一部の産地と灌漑された園地に限定されていたことに留意する必要がある。さらに、一部の産地では、柑橘類の果樹は2年続けて6～7月の少雨と降霜のストレスを受けた。また、グリーンング病の拡大による悪影響を受けている。

他の州の生産量は、2020/21年度（9,660万箱、397万トン）とほぼ同じ1億箱（408万トン）と予測される。2021/22年度のオレンジの生産量を予測するのは総じてまだ時期尚早であり、より正確な数値は2022年の第1四半期中に示される予定である。

当事務所は、2020/21年度のブラジルのオレンジ生産量の推定値を、柑橘類保護基金（Fundecitrus）及びブラジル地理統計院（IBGE）の更新情報に基づき、前回の推計値より8%少ない3億6,060万箱（1,471万トン）に修正する。サンパウロ州とミナスジェライス州西部の商業的柑橘類産地の収穫は2021年5月に始まっており、オレンジ果汁業者が搾汁量の最大化を追求するであろうことを考慮すると、2022年の2月または3月まで続くと思われる。

同基金は12月10日、サンパウロ州とミナスジェライス州西部の商業的産地の2021/22年度の柑橘類生産量の最新の推計値を2億6,410万箱と発表したが、これは約30年で2番目に低い数値であった。深刻な干ばつや6月から7月の度重なる降霜等の悪天候が果実の成長に悪影響を及ぼし、未熟果の落下が増加した。ソマール・クリマテンポ（Somar/Climatempo）社の気象データによると、2021年5月から11月までの商業的柑橘類産地の累積降水量は平均344ミリメートルで、過去40年間の平均と比較して31%減少した。深刻な干ばつは河川や貯水池の水位を低下させ、現在柑橘類の商業的栽培面積の30%以上を占める灌漑園地の水の確保にも影響を与えた。他の州の生産量は9,660万箱（394万トン）と推計され、前回の推計値から変わらない。

サンパウロ州農業経済研究所（IEA）は、2021年6月の作物調査で2021年産（ブラジルの2021/22年度）の予測を発表した。サンパウロ州の生産量は、商業的産地と非商業的栽培地域を合わせて3億350万箱（1,238万トン）と推定され、前の作物年度（3億1,780万箱、1,296万トン）と比較して5%減少した。なお、IEAのデータは、サンパウロ州全域のすべての品種のオレンジを対象としているのに対し、当事務所の推計値はFundecitrusの推計方法に則り、サンパウロ州とミナスジェライス州西部の商業的産地の果汁用主要4品種を対象としていることに留意されたい。

**図表11 ブラジルの生鮮オレンジの生産需給統計**

| オレンジ(生鮮)<br>販売年度<br>ブラジル | 2019/2020    |         | 2020/2021    |         | 2021/2022    |         |
|--------------------------|--------------|---------|--------------|---------|--------------|---------|
|                          | 2020年7月～翌年6月 |         | 2021年7月～翌年6月 |         | 2022年7月～翌年6月 |         |
|                          | 農務省公式        | 今回推計値   | 農務省公式        | 農務省公式   | 今回推計値        | 農務省公式   |
| 栽培面積                     | 595,700      | 595,700 | 579,400      | 579,400 | 0            | 574,000 |
| 収穫面積                     | 557,000      | 557,000 | 538,700      | 538,700 | 0            | 532,600 |
| 結果樹本数                    | 224,900      | 224,900 | 218,600      | 218,600 | 0            | 215,000 |
| 未結果樹本数                   | 27,500       | 27,500  | 27,000       | 27,000  | 0            | 27,000  |
| 果樹本数合計                   | 252,400      | 252,400 | 245,600      | 245,600 | 0            | 242,000 |
| 生産量                      | 14,870       | 14,870  | 15,942       | 14,712  | 0            | 16,524  |
| 輸入量                      | 20           | 20      | 24           | 24      | 0            | 24      |
| 総供給量                     | 14,890       | 14,890  | 15,966       | 14,736  | 0            | 16,548  |
| 輸出量                      | 8            | 8       | 8            | 4       | 0            | 8       |
| 生鮮国内消費量                  | 4,967        | 4,967   | 4,779        | 4,573   | 0            | 4,749   |
| 加工仕向け量                   | 9,915        | 9,915   | 11,179       | 10,159  | 0            | 11,791  |
| 総仕向け量                    | 14,890       | 14,890  | 15,966       | 14,736  | 0            | 16,548  |

ヘクタール、千本、千トン

## <オレンジ果汁>

次の表は、サンパウロ州及びブラジル全体の2020/21年度(7月～6月)及び2021/22年度のオレンジ果汁の生産流通統計の改定データと2022/23年度の第1回の予測値を示している。これらのブラジルの年度は、それぞれ米国の2019/20、2020/21、2021/22の各年度に相当する。

表には、冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ、ブリックス値65相当)に換算された輸出用の非濃縮還元果汁(NFC)の製造量が含まれている。変換係数は、NFC(ブリックス値11.6)の5.4～5.6トンがFCOJ(ブリックス値65)の1トンに等しいものとしている。

**図表12 ブラジルのオレンジ果汁の生産流通統計**

| ブラジル: 冷凍濃縮オレンジ果汁の生産流通統計(7月～6月)(生果実は40.8kg/箱、果汁はブリックス値65換算) |           |         |         |         |
|--|-----------|---------|---------|---------|
| 項目   | 米国の販売年度   | 2019/20 | 2020/21 | 2021/22 |
| 項目   | ブラジルの販売年度 | 2020/21 | 2021/22 | 2022/23 |
| 加工仕向量(生果実、百万箱)   |           | 243     | 249     | 289     |
| サンパウロ州(FCOJ及び輸出向けNFC製造用)                                   |           | 223     | 225     | 265     |
| その他  |           | 20      | 24      | 24      |
| 期初在庫(千トン)  |           | 312     | 151     | 48      |
| 製造量(千トン)   |           | 938     | 967     | 1,123   |
| サンパウロ州FCOJ   |           | 550     | 559     | 715     |
| サンパウロ州NFC(FCOJ換算)  |           | 308     | 312     | 312     |
| その他  |           | 80      | 96      | 96      |
| 総供給量(千トン)  |           | 1,250   | 1,118   | 1,171   |
| 輸出量(千トン)   |           | 1,036   | 1,000   | 1,000   |
| サンパウロ州 FCOJ  |           | 741     | 700     | 700     |
| サンパウロ州 NFC(FCOJ換算)   |           | 260     | 270     | 270     |
| その他のFCOJ   |           | 35      | 30      | 30      |
| 国内消費量(千トン)   |           | 63      | 70      | 75      |
| 期末在庫(千トン)  |           | 151     | 48      | 96      |
| 総仕向量   |           | 1,250   | 1,118   | 1,171   |

注意事項: ブラジルの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、ブラジルの2022/23年度は、米国の2021/22年度に相当する。データの継続性を確保するため、この報告書ではブラジルの2022/23年度は、米国式に2021/22年度と記述する。

## 概要

2021/22年度はオレンジの加工仕向量が多いと見込まれることから、当事務所は、ブラジルのFCOJ(ブリックス値65換算。以下同じ)の製造量を、前年比16%増の112万3千トンと推計する。サンパウロ州の果汁産業は、果汁製造用のオレンジ2億6,500万箱(FCOJ製造用1億8,500万箱、NFC製造用8千万箱)を処理し、102万7千トンの果汁(FCOJ71万5千トンとNFC(FCOJ換算)31万2千トン)を製造するものと予測される。他のオレンジ生産州は、果汁9万6千トンに当たる果汁用オレンジ2千400万箱を出荷するものと見込まれる。

2020/21年度のブラジルのFCOJ製造量の推計値は、主にFCOJ製造用に仕向けられる果実の量が少ないため、以前の推計より8万1千トン少ない96万7千トンに下方修正された。この低下は、加工仕向け量の予測が2億7,400万箱から2億4,900万箱に減少したことと関係している。果汁の製造量には、FCOJに換算した輸出用のNFCの製造量が含まれる。ブラジルではNFCの需給に関する公式な推計値はない。

## 消費

当事務所は、オレンジ果汁、特にNFCの消費量がブラジルで継続的に増加していることを考慮し、2021/22年度のFCOJ換算の国内消費量を前年度の7万トンより5千トン多い7万5千トンと見込む。

## 貿易

当事務所は、来シーズンはオレンジの加工仕向量が多いと予想されることから、2021/22年度のブラジルのFCOJ換算の輸出量を2020/21年度の改定値と同じ100万トンと予測する。また、このうちサンパウロ州が97万トンを占めるものと予測する。

2020/21年度の総輸出量は、加工仕向量と在庫の減少により、前回の推計より5万トン少ない100万トンに

修正する。ブラジル政府貿易局(SECEX)によると、2021年7月～11月のオレンジ果汁輸出量は41万986トン(ブリックス値66、FCOJ換算)で、2020年同時期(42万1,882トン、ブリックス値66、FCOJ換算)に比較的近い。しかし、2021年7月～11月の米国向けの輸出量は21万1,560トン(ブリックス値66)で、前年同時期(62,745トン、ブリックス値65、FCOJ換算)に比べて25%増加しており、2021/22年度のフロリダ州のオレンジ生産量の減少により押し上げられた可能性が高い。(数値は原文のまま)

欧州連合(EU)はブラジル産オレンジ果汁の総輸出量の約70%を占め、引き続き最大の輸出先である。

以下の表は、ブラジル貿易局のデータに基づく貿易データモニター(TDM)のオレンジ果汁(関税分類番号2009.11.00、2009.12.00及び2009.19.00)の輸出先別データ(ブラジルの2018/19、2019/20及び2020/21の各年度通期(7月～6月)並びにブラジルの2019/20、2020/21及び2021/22各年度の7月～11月)を示している。

「その他」カテゴリには、FCOJとNFCの両方の輸出が含まれる。当事務所は、「その他」カテゴリの国別の月別平均価格がFCOJとNFCの輸出を区別する基準になると考えている。

**図表13及び14 冷凍・非発酵オレンジ果汁の輸出(単位: トン、千米ドル(FOB))**

| 輸出先国    | 2018年7月～2019年6月 |         | 2019年7月～2020年6月 |         | 2020年7月～2021年6月 |         |
|---------|-----------------|---------|-----------------|---------|-----------------|---------|
|         | 輸出額             | 輸出量     | 輸出額             | 輸出量     | 輸出額             | 輸出量     |
| ベルギー    | 198,441         | 104,843 | 271,180         | 165,417 | 163,043         | 120,876 |
| 中国      | 64,161          | 32,788  | 62,443          | 45,218  | 68,783          | 57,237  |
| オランダ    | 104,463         | 54,383  | 87,820          | 62,938  | 66,174          | 48,333  |
| 米国      | 40,768          | 20,973  | 27,946          | 19,069  | 61,411          | 45,792  |
| 日本      | 74,810          | 38,070  | 100,694         | 58,009  | 41,598          | 28,775  |
| オーストラリア | 22,885          | 11,299  | 21,948          | 12,712  | 22,999          | 16,151  |
| イスラエル   | 19,874          | 10,557  | 8,863           | 7,332   | 11,170          | 9,419   |
| スペイン    | 6,157           | 3,252   | 6,099           | 4,561   | 8,082           | 5,687   |
| サウジアラビア | 4,984           | 2,419   | 4,984           | 2,941   | 7,700           | 4,964   |
| アルゼンチン  | 4,845           | 2,353   | 780             | 449     | 7,691           | 4,815   |
| その他     | 74,012          | 36,176  | 90,392          | 54,890  | 61,470          | 39,983  |
| 合計      | 615,401         | 317,112 | 683,149         | 433,537 | 520,121         | 382,033 |

出典: 貿易局データに基づく貿易データモニター(関税分類 2009.11.00) 四捨五入により合計が一致しないことがある。

| 輸出先国    | 2019年7月～2019年11月 |         | 2020年7月～2020年11月 |         | 2021年7月～2021年11月 |         |
|---------|------------------|---------|------------------|---------|------------------|---------|
|         | 輸出額              | 輸出量     | 輸出額              | 輸出量     | 輸出額              | 輸出量     |
| ベルギー    | 141,588          | 78,192  | 72,109           | 55,445  | 72,737           | 49,894  |
| 中国      | 33,413           | 23,068  | 21,059           | 18,886  | 32,782           | 30,293  |
| オランダ    | 48,270           | 33,803  | 38,876           | 28,115  | 28,333           | 19,707  |
| 米国      | 10,845           | 6,254   | 11,627           | 9,566   | 27,224           | 17,058  |
| 日本      | 63,733           | 35,046  | 27,973           | 19,789  | 15,544           | 9,703   |
| イスラエル   | 3,649            | 2,679   | 5,156            | 4,296   | 6,167            | 4,670   |
| オーストラリア | 10,926           | 5,657   | 10,681           | 7,639   | 7,052            | 4,466   |
| チリ      | 3,565            | 2,102   | 2,174            | 1,407   | 5,631            | 3,340   |
| スペイン    | 2,435            | 1,798   | 3,882            | 2,715   | 2,271            | 1,529   |
| アルゼンチン  | 556              | 312     | 336              | 210     | 2,106            | 1,181   |
| その他     | 29,873           | 6,713   | 24,725           | 16,370  | 21,297           | 12,898  |
| 合計      | 348,852          | 205,625 | 218,599          | 164,439 | 221,144          | 154,737 |

出典: 貿易局データに基づく貿易データモニター(関税分類 2009.11.00) 四捨五入により合計が一致しないことがある。

図表15及び16 非冷凍でブリックス値20未満のオレンジ果汁の輸出(単位: トン、千米ドル(FOB))

| 輸出先国   | 2018年7月～2019年6月 |           | 2019年7月～2020年6月 |           | 2020年7月～2021年6月 |           |
|--------|-----------------|-----------|-----------------|-----------|-----------------|-----------|
|        | 輸出額             | 輸出量       | 輸出額             | 輸出量       | 輸出額             | 輸出量       |
| ベルギー   | 178,621         | 525,064   | 178,466         | 495,518   | 176,190         | 581,006   |
| 米国     | 190,656         | 591,747   | 140,358         | 437,326   | 159,118         | 494,789   |
| オランダ   | 116,831         | 365,919   | 124,646         | 381,418   | 124,946         | 375,435   |
| スペイン   | 0               | 0         | 2,545           | 9,288     | 7,181           | 24,838    |
| 中国     | 0               | 0         | 317             | 377       | 4,571           | 5,423     |
| チリ     | 1,027           | 1,034     | 994             | 955       | 1,284           | 1,324     |
| イスラエル  | 0               | 0         | 0               | 0         | 343             | 818       |
| アイルランド | 0               | 0         | 8               | 25        | 188             | 417       |
| パラグアイ  | 19              | 17        | 71              | 80        | 231             | 301       |
| アルゼンチン | 0               | 0         | 36              | 69        | 66              | 162       |
| その他    | 609             | 650       | 17,493          | 46,095    | 540             | 519       |
| 合計     | 487,763         | 1,484,431 | 464,936         | 1,371,151 | 474,657         | 1,485,030 |

出典: 貿易局データに基づく貿易データモニター(関税分類 2009.12.00) 四捨五入により合計が一致しないことがある。

| 輸出先国   | 2019年7月～2019年11月 |         | 2020年7月～2020年11月 |         | 2021年7月～2021年11月 |         |
|--------|------------------|---------|------------------|---------|------------------|---------|
|        | 輸出額              | 輸出量     | 輸出額              | 輸出量     | 輸出額              | 輸出量     |
| 米国     | 68,106           | 200,848 | 49,788           | 156,144 | 72,873           | 211,560 |
| ベルギー   | 93,194           | 242,464 | 77,063           | 265,695 | 59,319           | 177,154 |
| オランダ   | 57,191           | 175,366 | 53,194           | 158,622 | 53,794           | 161,326 |
| スペイン   | 0                | 0       | 3,114            | 11,283  | 1,898            | 5,582   |
| 中国     | 3                | 1       | 1,276            | 1,522   | 3,956            | 4,696   |
| チリ     | 335              | 327     | 431              | 425     | 701              | 807     |
| パラグアイ  | 15               | 13      | 72               | 106     | 117              | 136     |
| アンゴラ   | 16               | 17      | 29               | 27      | 89               | 83      |
| イスラエル  | 0                | 0       | 89               | 213     | 38               | 80      |
| アイルランド | 8                | 25      | 10               | 22      | 31               | 70      |
| その他    | 98               | 77      | 155              | 147     | 316              | 197     |
| 合計     | 218,967          | 619,138 | 185,221          | 594,206 | 193,132          | 561,692 |

出典: 貿易局データに基づく貿易データモニター(関税分類 2009.12.00) 四捨五入により合計が一致しないことがある。

図表17及び18 その他のオレンジ果汁の輸出(単位: トン、千米ドル(FOB))

| 輸出先国   | 2018年7月～2019年6月 |         | 2019年7月～2020年6月 |         | 2020年7月～2021年6月 |         |
|--------|-----------------|---------|-----------------|---------|-----------------|---------|
|        | 輸出額             | 輸出量     | 輸出額             | 輸出量     | 輸出額             | 輸出量     |
| オランダ   | 277,587         | 162,111 | 310,418         | 214,394 | 230,937         | 166,847 |
| ベルギー   | 278,282         | 138,171 | 210,151         | 116,868 | 193,560         | 121,318 |
| 米国     | 109,539         | 67,826  | 108,629         | 76,183  | 77,006          | 62,595  |
| 英国     | 7,261           | 3,877   | 26,058          | 17,939  | 27,346          | 19,622  |
| 日本     | 18,456          | 9,843   | 391             | 215     | 13,388          | 10,035  |
| スペイン   | 7               | 14      | 142             | 118     | 2,010           | 1,221   |
| パラグアイ  | 340             | 374     | 151             | 243     | 157             | 236     |
| クウェート  | 580             | 248     | 529             | 248     | 413             | 224     |
| パナマ    | 4               | 3       | 92              | 50      | 163             | 127     |
| アルゼンチン | 103             | 73      | 187             | 187     | 101             | 117     |
| その他    | 6,656           | 3,745   | 2,757           | 1,748   | 850             | 613     |
| 合計     | 698,815         | 386,285 | 659,503         | 428,193 | 545,931         | 382,953 |

出典: 貿易局データに基づく貿易データモニター(関税分類 2009.19.00) 四捨五入により合計が一致しないことがある。

| 輸出先国  | 2019年7月～2019年11月 |         | 2020年7月～2020年11月 |         | 2021年7月～2021年11月 |         |
|-------|------------------|---------|------------------|---------|------------------|---------|
|       | 輸出額              | 輸出量     | 輸出額              | 輸出量     | 輸出額              | 輸出量     |
| オランダ  | 133,950          | 90,327  | 86,114           | 64,335  | 122,880          | 77,874  |
| ベルギー  | 159,053          | 84,310  | 75,126           | 47,171  | 85,099           | 47,420  |
| 米国    | 70,688           | 49,628  | 30,593           | 25,296  | 30,797           | 23,613  |
| 英国    | 11,934           | 7,956   | 5,134            | 3,875   | 9,609            | 6,006   |
| スペイン  | 5                | 9       | 293              | 179     | 791              | 455     |
| トルコ   | 509              | 357     | 2                | 1       | 304              | 164     |
| イスラエル | 0                | 0       | 0                | 0       | 180              | 109     |
| パラグアイ | 62               | 93      | 67               | 107     | 76               | 108     |
| イタリア  | 0                | 0       | 0                | 0       | 142              | 82      |
| 日本    | 391              | 215     | 13,044           | 9,844   | 78               | 48      |
| その他   | 1,697            | 960     | 737              | 527     | 63               | 67      |
| 合計    | 378,289          | 233,856 | 211,111          | 151,335 | 250,019          | 155,946 |

出典：貿易局データに基づく貿易データモニター（関税分類2009.19.00） 四捨五入により合計が一致しないことがある。

訳注：FCOJ及びNFCは「その他のオレンジ果汁」に含まれます。

## 在庫

2021/22年度の期末在庫量(ブリックス値65換算)は、柑橘類業界が経験した最も低い部類の在庫水準であった前年の持ち越し在庫の改定値4万8千トンを4万8千トン上回る9万6千トンと予測する。在庫量は、ブラジル国内のオレンジ果汁施設(加工工場、港湾ターミナル等)の貯蔵タンクの在庫のみを含み、ブラジル企業が海外に所有する、すなわち輸送中及び米国、欧州、日本の港湾ターミナルに保管中の在庫を含まない。

ブラジル柑橘類輸出業者協会(CitrusBR)によると、2021年6月30日時点のブラジル産オレンジ果汁の世界の在庫量は31万6,929トン(ブリックス値66)で、2020年6月30日時点の在庫量47万1,138トン(同)から15万4,209トン減少した。CitrusBRは、2022年6月30日時点の持ち越し在庫量を17万～19万トンと予測している。この「世界の在庫量」にはブラジル国内の加工工場や港湾ターミナルの貯蔵タンク内のオレンジ果汁に加え、海外(世界中の船舶や港湾施設)の在庫が含まれることに留意されたい。

## 図表 生産需給統計

この表には、次の変換係数を使用してFCOJ(ブリックス値65)に変換された輸出用のNFCが含まれる。

FCOJ(ブリックス値65)の1トン=NFC(ブリックス値11.6)の5.4～5.6トン

| オレンジ果汁<br>販売年度 | 2019/2020    |           | 2020/2021    |            | 2021/2022    |            |
|----------------|--------------|-----------|--------------|------------|--------------|------------|
|                | 2020年7月～翌年6月 |           | 2021年7月～翌年6月 |            | 2022年7月～翌年6月 |            |
|                | 農務省公式        | 今回推計値     | 農務省公式        | 今回推計値      | 農務省公式        | 今回推計値      |
| ブラジル           |              |           |              |            |              |            |
| 加工仕向量(生果実)     | 9,914,400    | 9,914,400 | 11,179,200   | 10,159,200 | 0            | 11,791,200 |
| 期初在庫           | 312,000      | 312,000   | 155,000      | 151,000    | 0            | 48,000     |
| 製造量            | 938,000      | 938,000   | 1,048,000    | 967,000    | 0            | 1,123,000  |
| 輸入量            | 0            | 0         | 0            | 0          | 0            | 0          |
| 総供給量           | 1,250,000    | 1,250,000 | 1,203,000    | 1,118,000  | 0            | 1,171,000  |
| 輸出量            | 1,032,000    | 1,036,000 | 1,050,000    | 1,000,000  | 0            | 1,000,000  |
| 国内消費量          | 63,000       | 63,000    | 70,000       | 70,000     | 0            | 75,000     |
| 期末在庫           | 155,000      | 151,000   | 83,000       | 48,000     | 0            | 96,000     |
| 総仕向量           | 1,250,000    | 1,250,000 | 1,203,000    | 1,118,000  | 0            | 1,171,000  |

単位：トン

## 151. 米国 カリフォルニア州産マンダリンは前年比半減の見込み

FreshFruitPortalウェブサイト(2021年12月17日)

カリフォルニア州柑橘組合(CCM)によると、同州の2021/22年度のマンダリンの総生産量は昨シーズンよりもはるかに少なく、最大で前年比45%減少する見込みである。CCMの販売委員会はまた、2021/22年度のネーブルオレンジの総生産量は前年の最終出荷量に比べて20%減少すると推計している。

同州食品農業部の2021/22年度ネーブルオレンジ客観測定報告書(2021年9月10日に公表)によると、ネーブルオレンジの第1回出荷予測は7千万箱で、前年の総出荷量から14%減少した。さらに、昨シーズンは生産された果実の推定4%が収穫もしたがって販売もされず、利用されなかったと推計している。

2021/22年度のネーブルオレンジの出荷シーズンを数週間後に控え、同委員会は、現在の収穫見積りに基づき、前シーズンに比べて総生産量は24%少なく、総出荷量は20%下回ると予想している。生産量の減少は、前シーズンの生産量の増大と収穫期間の延長に起因している。生産量の増大やその他の市場の状況のために、果実が通常よりも長く樹上に残り、今年の作柄に悪影響を及ぼした。

同委員会はまた、2021/22年度の同州のマンダリンの生産量は、大豊作であった前シーズンに比べ45%減少すると見積もっている。今季のネーブルとマンダリンは、それぞれ5月及び6月まで出荷されると予測されている。消費者は、糖度が高く良好な食味と適当なサイズ構成を期待できる。

CCMのケイシー・クリーマー代表は「2021/22年の出荷シーズンは前年とは大きく異なるものになる。昨シーズンは非常に生産量が多く、多くの生産者が果実を収穫しきれなかった。出荷業者は、できるだけ多くの果実を販売するために出荷を8月まで大幅に延長したが、最終的には約4%が(収穫しきれず)地面に落ちた。今年は生産量が少なく、糖度が高く食味が良いので、市場の荷動きは早いと見ている」と言う。

## 152. 台湾 丸ごと冷凍のアテモヤを日本に初出荷

FreshPlazaウェブサイト(2021年12月17日)

最新のホール果実冷凍技術を用いたアテモヤ(パイナップルシュガーアップル/パイナップル釈迦頭/鳳梨釋迦)が、12月15日に台南市から出荷され桃園空港(台北市郊外)に到着した。16日の正午に日本に向けて出発し、アテモヤを果実丸ごとマイナス40℃で冷凍するという初めての輸出ミッションを完了した。

アテモヤの熟成と急速冷凍の一貫した技術を開発した台東改良センターは、果実を丸ごと冷凍したアテモヤは、果皮の明るい緑色を保っており、新鮮で外観が良いとしている。また、輸出のための最も厄介な検疫の問題を解決することができる。ホール冷凍のアテモヤはすぐに食べられる状態で冷凍され、植物検疫の対象にならない。生鮮アテモヤの輸入がまだ解禁されていない市場向けには、これは検疫上の制約を突破するための最良の方法である。

農業委員会(農業省に相当)国際部の林志鴻副部長は、今回「自然屋」(業者名)が出荷した注文は1万箱で合計30トンであると述べた。台湾産冷凍アテモヤの最初の荷は、日本の消費者の高い期待に応えるため、オンラインで注文した消費者に直接配送される。

アテモヤの出荷時期は、主に12月から翌年の3月までである。アテモヤの特徴は、果実の大きさと甘酸っぱく歯ごたえのある果肉である。かつては主に中国本土に輸出されており、他の国の消費者は、台湾産アテモヤを味わう機会があまりない。国際部は、今年は中国本土への輸入禁止を受けて、代わりに香港、シンガポール、日本、マレーシア、米国、カナダ、中東などの市場を対象とし、5,000トンの輸出を目標に、海外販売の強化のため、輸出促進活動の組織化、広告の掲載、消費者ガイドの作成を行っているとしている。

出典: [agriharvest.tw](http://agriharvest.tw)

## 153. EUの柑橘類事情

米国農務省GAINレポート(2021年12月20日)

これは米国農務省海外農業局マドリッド事務所(スペイン)がEU域内関係事務所の協力を得て作成した「柑橘類年次報告」の訳であり、米国政府の公式データ・見解とは異なる場合があります。長文のため、要約と品目別の図表のみ掲載します。なお、この報告書の「年度」は、第1年次の10月から第2年次の9月までを指します。また、特記した場合を除き、EU27カ国を対象としており、英国を含みません。

### EU産柑橘類の2021/22年度の生産量と輸出量は減少する可能性

#### 要約

EUの柑橘類生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアが主要生産国であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスがこれに続く。2021/22販売年度(10月～9月。以下「年度」)の場合、気象条件が好ましくないことと、主にスペイン、イタリア、ギリシャで2020/21年度の大幅な増収の後の減収が予想されることから、報告者は柑橘類の生産量を前年度比6.8%減の1,070万トンと予測する。柑橘類のサイズと品質は良好であると予想される。公式データによると、EUの最大の柑橘類生産国であるスペインの2021/22年度の柑橘類の総生産量は、前年度比ほぼ5%減の670万トンと予測されている。このスペインの予想生産量は、過去5年間の平均に比べても2.1%少ない。この減少は主に、スペインではオレンジの生産量が横ばいと予想される一方、マンダリンとレモンの生産量が減少すると予想されるためである。EUの柑橘類生産者にとって、2021/22年度の主な懸念事項は、農業資材、電力、物流、石油製品の価格の大幅な上昇による生産コストの増加である。柑橘類の最終的な価格が生産コストを償わない場合、EUの柑橘類生産者に経済的な困難を引き起す可能性がある。

EU統計局によると、EUの有機柑橘類の栽培面積は過去10年間上昇傾向が続いており、2019年には56,738ヘクタールで、EUの柑橘類栽培面積の11%を占めている。これは、過去5年間の平均と比較して11%の増加を示している。スペインの有機柑橘類の栽培面積は2020年に19,844ヘクタールであり、過去10年間に比べて約20%増加し、EUの有機柑橘類全体の約30%を占めている。

スペインの果実セクターは、持続可能な生産、スマート農業、デジタル技術の活用、環境にやさしい包装、果実の品質への取り組みを掲げ、焦点を当てている。収穫と加工の効率化は生産性の向上をもたらした。持続可能な生産の改善については、資源の使用量を削減してより効率的に生産するため、主に循環経済と再生可能エネルギーの利用に焦点を当てつつ、廃棄物、CO<sub>2</sub>排出量、ウォーターフットプリント\*及び資材投入の削減に取り組んでいる。技術と革新、デジタル化、スマート農業、人工知能(AI)は、スペインの果実セクター全体にとって重要な要素であり、EUの「農場から食卓まで」戦略で求められている(より持続可能な食料生産への移行を可能にするものである)。

(訳注\*: 原材料の栽培・生産、製造・加工、輸送・流通、消費、廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体で直接的・間接的に消費・汚染された水の量を定量的に算定する手法(日本の環境省資料による))

EUの柑橘類消費の増加傾向は、パンデミックへの人々の反応とホスピタリティ部門の再開を受けて、継続する可能性がある。2020/21年度のEU産柑橘類の出荷シーズンにおいて、消費者が免疫システムを強化する食品を求めたため、EU産柑橘類の消費量は増加した。2019/20年度には、消費量の増加とEU産柑橘類の供給量の減少により、柑橘類の価格が上昇した。(引用文献を確認の上、年次を修正しました。)

EUは(全体として)柑橘類の純輸入国(地域)である。2020/21年度には、EU産柑橘類の供給量の増加により、主にオレンジとグレープフルーツの輸入が減少し、EUの柑橘類の輸入量は前年度比3.8%減の210万トンとなり、輸入額は主要な輸入先である南アフリカ、トルコ、モロッコからの輸入が減少し、20億ドルとなった。一方、同年度のEUの柑橘類輸出量は、その前のシーズンと比較して0.77%減の94万3,229トンで、輸出額は10億ドルとなった。EUの主要輸入先は南アフリカ、エジプト、トルコ、モロッコ及び中国(グレープフルーツ)であり、EUの主要輸出先は英国、スイス、ノルウェー及びカナダであった。EU産柑橘類全体の英国向けの

輸出は、6%減の4億3,100万ドルであった。なお、2021/22年度は、EU域内産柑橘類の供給量の減少により、輸出が減少すると予想される一方、輸入が増加する可能性がある。

2019/20年度には、EUの航空機補助金に対する世界貿易機関(WTO)への提訴に関連する米国の追加関税が、スペイン産マンダリン及びレモンを主体とするEU産柑橘類の輸出に影響を与えた。欧州委員会(EC)は2020年11月、米国の航空機補助金への報復として、一連の米国産品に追加関税を課した。EUの課税リストには、グレープフルーツ、柑橘類調製品、冷凍オレンジ果汁及びグレープフルーツ果汁が含まれた。しかし、米国とEUは2021年6月に報復関税を5年間停止することに合意した。これとは別に、米国産オレンジ果汁のEUへの輸入は、EU製の鉄鋼及びアルミニウムに対する米国のセーフガード措置への報復として、EUがオレンジ果汁製品に25%の関税を課したため、2018年以降急激に減少した。EUの一部の自由貿易協定(FTA)、特にEUとメルコスール(南米共同市場。参加国はアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ)との協定も米国のEUへの輸出に影響を及ぼす可能性がある(ただし、欧州議会と欧州委員会はまたメルコスールとの協定を批准していない)。2020/21年度には、スペイン産が大部分を占めるEU産柑橘類の英国向けの輸出は総じて好調であった。

この1年間、EUの農業政策立案者は、コロナ禍、欧州グリーンディール政策、共通農業政策(CAP)改革及び英国のEU離脱に忙殺された。特にコロナ禍への対応のため、サプライチェーンの回復力と持続可能性への懸念に対するEUの政策が策定された。これらの懸念は、グリーンディール政策の農業食料ビジョン - これは「農場から食卓まで」(F2F)戦略と生物多様性戦略の下にある - にも影響を与えた。具体的には、生産段階では、化学農薬の全体的な使用量とリスクを2030年までに50%削減するための行動を提案している。農薬使用の削減は、EUの柑橘類生産者が利用できる有効成分の入手可能性に影響を及ぼす可能性があり、ひいては欧州市場への米国産柑橘類の輸出に対して潜在的な影響を生じる可能性がある。

## 品目別図表

### <オレンジ>

表1 EUのオレンジの生産需給統計

| オレンジ(生鮮)<br>販売年度 | 2019/2020        |               | 2020/2021        |               | 2021/2022        |               |
|------------------|------------------|---------------|------------------|---------------|------------------|---------------|
|                  | 2019年10月～翌年9月    |               | 2020年10月～翌年9月    |               | 2021年10月～翌年9月    |               |
| 欧州連合(EU)         | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 |
| 栽培面積             | 278,746          | 278,746       | 278,960          | 278,367       |                  | 276,245       |
| 収穫面積             | 261,958          | 261,829       | 261,114          | 259,898       |                  | 257,452       |
| 結果樹本数            | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 未結果樹本数           | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 果樹本数合計           | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 生産量              | 6,205            | 6,268         | 6,531            | 6,488         |                  | 6,101         |
| 輸入量              | 1,086            | 960           | 1,000            | 858           |                  | 1,000         |
| 総供給量             | 7,291            | 7,228         | 7,531            | 7,346         |                  | 7,101         |
| 輸出量              | 290              | 417           | 300              | 410           |                  | 400           |
| 生鮮国内消費量          | 6,078            | 5,963         | 6,080            | 5,930         |                  | 5,793         |
| 加工仕向量            | 923              | 848           | 1,151            | 1,006         |                  | 908           |
| 仕向量合計            | 7,291            | 7,228         | 7,531            | 7,346         |                  | 7,101         |

ヘクタール、千本、千トン

出典：2019/20年度及び2020/21年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)

その他は海外農業局EU域内各国事務所

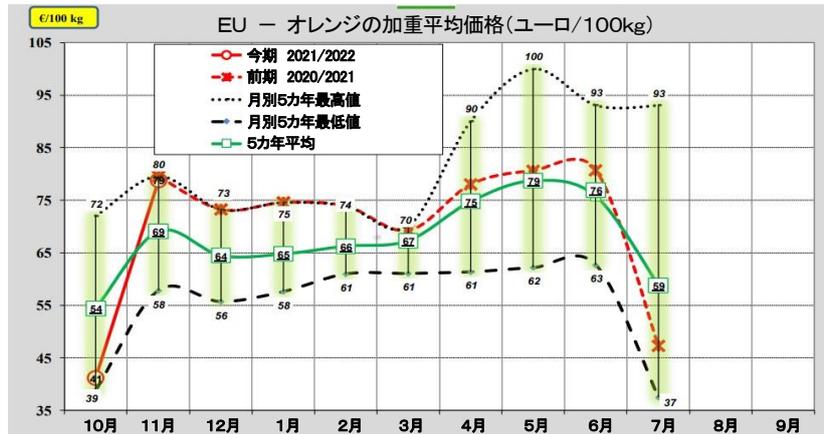
訳注：本文(省略)に合わせて表頭の年次の誤りを修正しました。

表2 EUの主要オレンジ生産国(トン)

| 国名    | 2019/20年度 | 2020/21年度 | 2021/22年度 |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| スペイン  | 3,342,540 | 3,496,145 | 3,511,079 |
| イタリア  | 1,650,207 | 1,772,769 | 1,500,000 |
| ギリシャ  | 915,537   | 886,639   | 750,000   |
| ポルトガル | 346,510   | 355,280   | 320,170   |

出典：海外農業局EU域内各国事務所

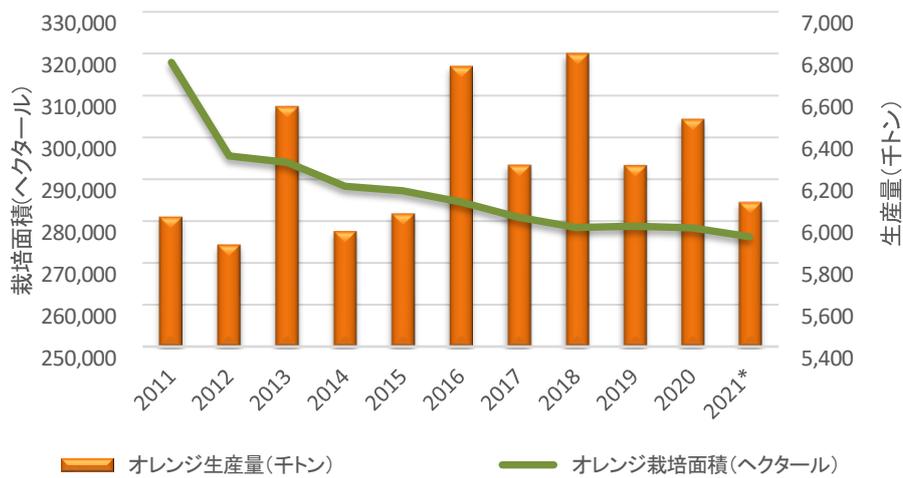
図1 EUのオレンジ価格(ユーロ/100kg) 2020/21年度



|       | 現在の価格の5年平均との比較        |                                | 現在の価格の1か月前との比較                  |           |
|-------|-----------------------|--------------------------------|---------------------------------|-----------|
|       | 2021年11月<br>ユーロ/100kg | 2021年11月の価格の<br>5年平均(100%)との比較 | 10月→11月の価格上昇率<br>2016~2020年5年平均 | 2021/22年度 |
| EU    | 79                    | 114 %                          | +27 %                           | +91 %     |
| ギリシャ  | 54                    | 100 %                          | -22 %                           | -7 %      |
| スペイン  | 61                    | 101 %                          | -3 %                            | +5 %      |
| イタリア  | 121                   | 133 %                          | データなし                           | データなし     |
| ポルトガル | 80                    | 118 %                          | +1 %                            | +18 %     |

出典: 欧州委員会農業農村総局統計資料(柑橘類)

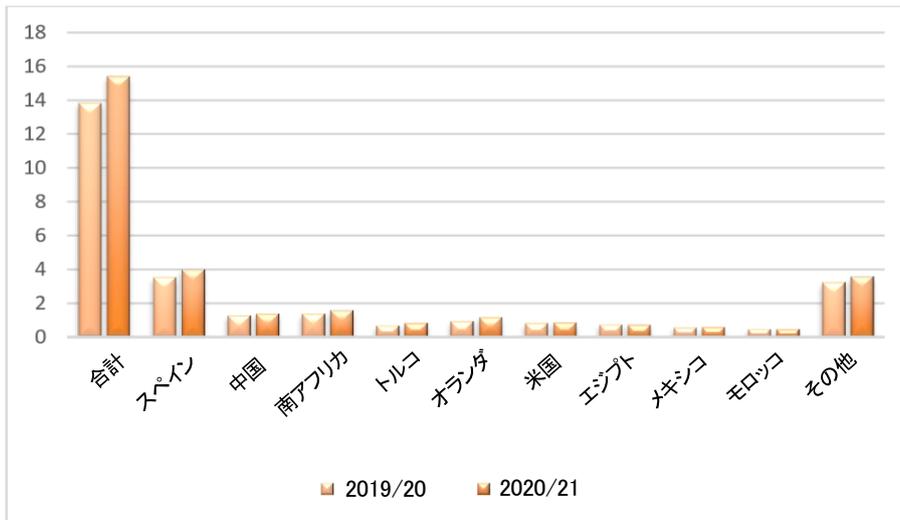
図2 EUのオレンジ生産量及び栽培面積(2011~2021年度)



\*は予測値

出典: 海外農業局EU域内各国事務所

図3 世界の柑橘類輸出 2019/20~2020/21 (10億米ドル)



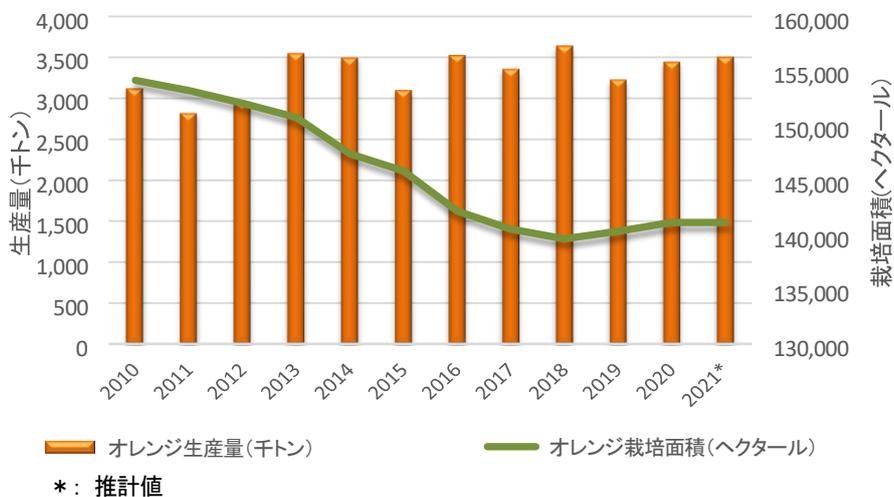
出典: Trade Data Monitor, LLC

図4 スペインのオレンジ価格(ユーロ/100kg) 2020/21年度



出典: 欧州委員会農業農村総局統計資料(柑橘類)

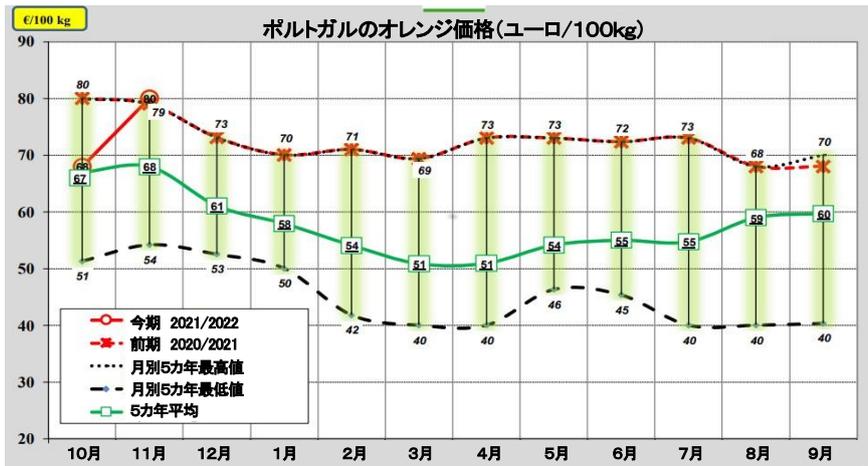
図5 スペインのオレンジ生産量及び栽培面積(2011~2021年度)



\*: 推計値

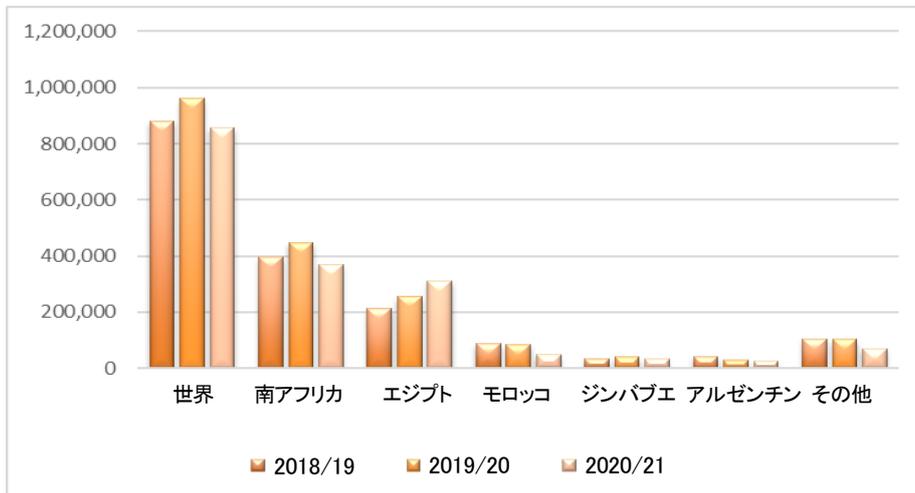
出典: 欧州統計局データ

図6 ポルトガルのオレンジ価格(ユーロ/100kg) 2020/21年度



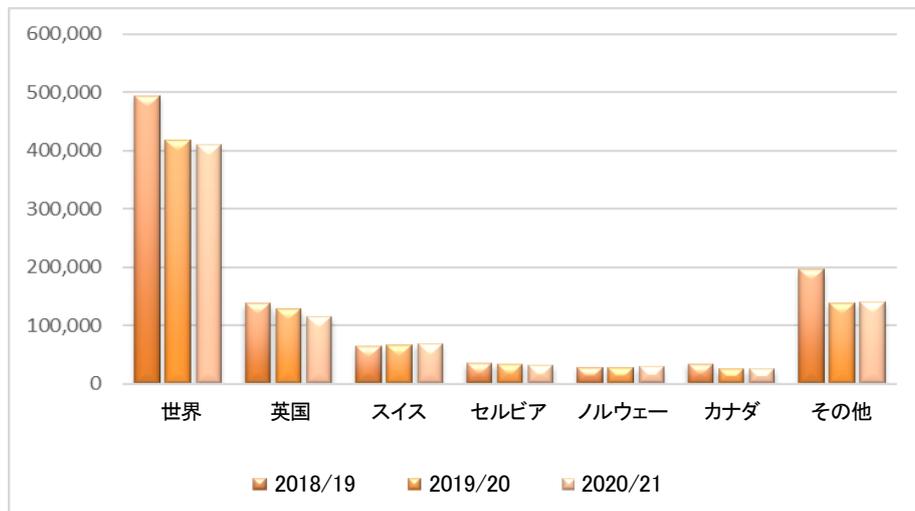
出典: 欧州委員会農業農村総局統計資料(柑橘類)

図7 EUの輸入先別オレンジ輸入量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

図8 EUの輸出先別オレンジ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

<オレンジ果汁>

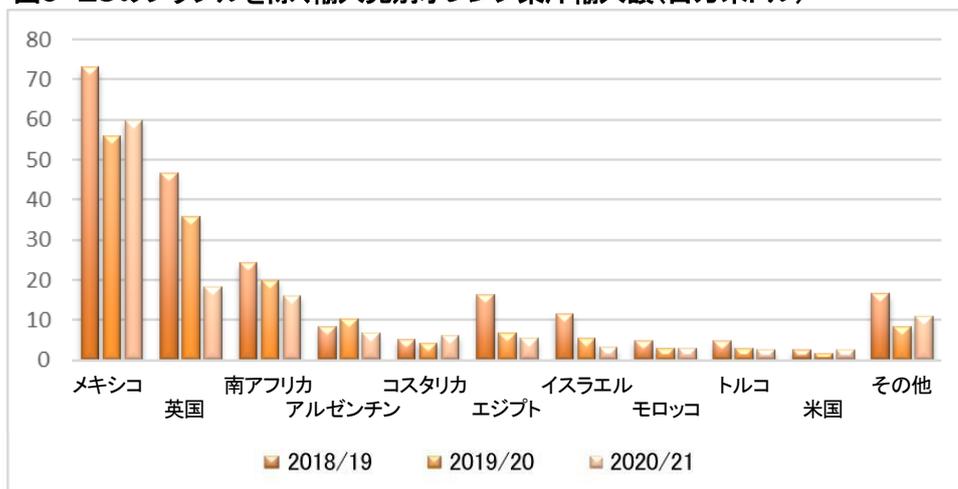
表3 EUのオレンジ果汁の生産需給統計(ブリックス値65換算)

| オレンジ果汁<br>販売年度 | 2019/2020        |               | 2020/2021        |               | 2021/2022        |               |
|----------------|------------------|---------------|------------------|---------------|------------------|---------------|
|                | 2019年10月～翌年9月    |               | 2020年10月～翌年9月    |               | 2021年10月～翌年9月    |               |
|                | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 |
| 欧州連合(EU)       |                  |               |                  |               |                  |               |
| 果実の加工仕向量       | 923,000          | 848,000       | 1,151,000        | 1,006,000     |                  | 908,000       |
| 期初在庫           | 15,000           | 15,000        | 15,000           | 15,000        |                  | 15,000        |
| 製造量            | 71,553           | 65,739        | 89,228           | 77,987        |                  | 70,390        |
| 輸入量            | 686,195          | 685,061       | 670,000          | 635,098       |                  | 650,000       |
| 総供給量           | 772,748          | 765,800       | 774,228          | 728,085       |                  | 735,390       |
| 輸出货量           | 66,788           | 162,050       | 67,000           | 132,174       |                  | 135,000       |
| 国内消費量          | 690,960          | 588,750       | 692,228          | 580,911       |                  | 585,390       |
| 期末在庫           | 15,000           | 15,000        | 15,000           | 15,000        |                  | 15,000        |
| 総仕向量           | 772,748          | 765,800       | 774,228          | 728,085       |                  | 735,390       |

(トン)

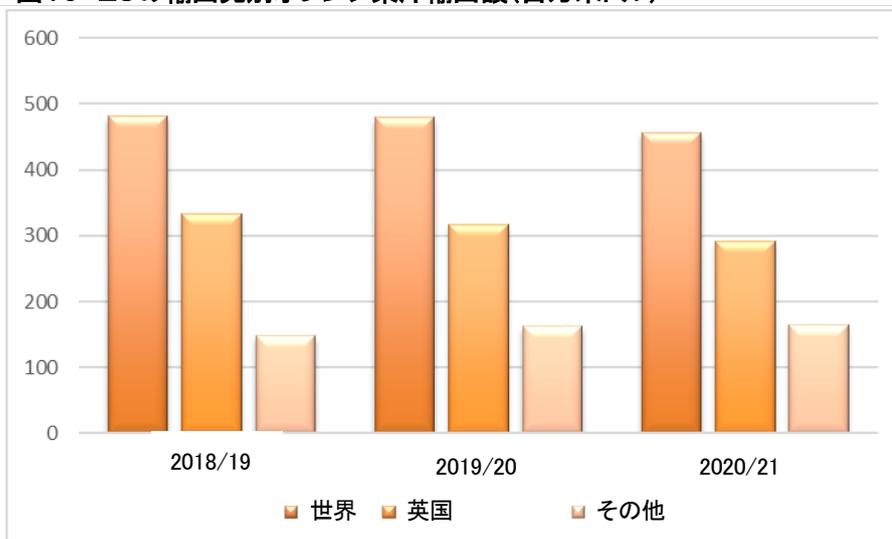
出典：2019/20年度及び2020/21年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)  
 その他は海外農業局EU域内各国事務所

図9 EUのブラジルを除く輸入先別オレンジ果汁輸入額(百万米ドル)



出典：Trade Data Monitor, LLC

図10 EUの輸出先別オレンジ果汁輸出額(百万米ドル)



出典：Trade Data Monitor, LLC

<タンジェリン/マンダリン>

表4 EUのタンジェリン/マンダリン生産需給統計

| タンジェリン/マンダリン(生鮮) | 2019/2020        |               | 2020/2021        |               | 2021/2022        |               |
|------------------|------------------|---------------|------------------|---------------|------------------|---------------|
|                  | 2019年10月～翌年9月    |               | 2020年10月～翌年9月    |               | 2021年10月～翌年9月    |               |
|                  | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 |
| 欧州連合(EU)         |                  |               |                  |               |                  |               |
| 栽培面積             | 153,224          | 153,404       | 152,781          | 152,406       |                  | 152,400       |
| 収穫面積             | 141,552          | 141,632       | 141,207          | 141,972       |                  | 141,874       |
| 結果樹本数            | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 未結果樹本数           | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 果樹本数合計           | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 生産量              | 2,827            | 2,889         | 3,424            | 3,206         |                  | 2,965         |
| 輸入量              | 558              | 407           | 450              | 422           |                  | 450           |
| 総供給量             | 3,385            | 3,296         | 3,874            | 3,628         |                  | 3,415         |
| 輸出量              | 172              | 330           | 250              | 350           |                  | 340           |
| 生鮮国内消費量          | 2,983            | 2,694         | 3,354            | 3,001         |                  | 2,813         |
| 加工仕向量            | 230              | 272           | 270              | 277           |                  | 262           |
| 仕向量合計            | 3,385            | 3,296         | 3,874            | 3,628         |                  | 3,415         |

ヘクタール、千本、千トン

出典：2019/20年度及び2020/21年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)  
 その他は海外農業局EU域内各国事務所

表5 EUのマンダリン主要生産国(トン)

| 国名   | 2019/20年度 | 2020/21年度 | 2021/22年度 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| スペイン | 1,893,951 | 2,317,019 | 2,083,000 |
| イタリア | 763,601   | 660,280   | 660,000   |
| ギリシャ | 174,147   | 171,849   | 165,000   |

出典：海外農業局EU域内各国事務所

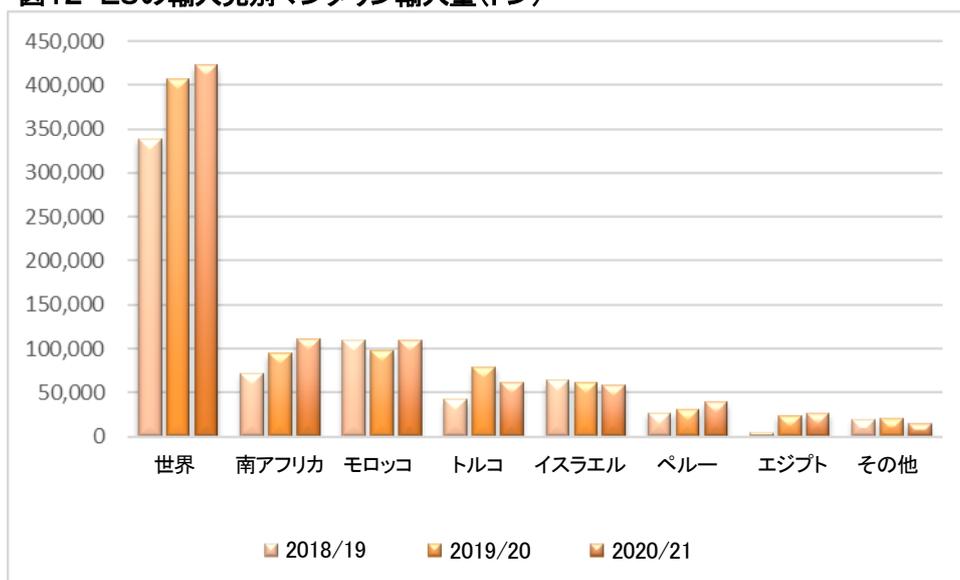
図11 EUのマンダリン生産量及び栽培面積(2011～2021年度)



\*: 予測値

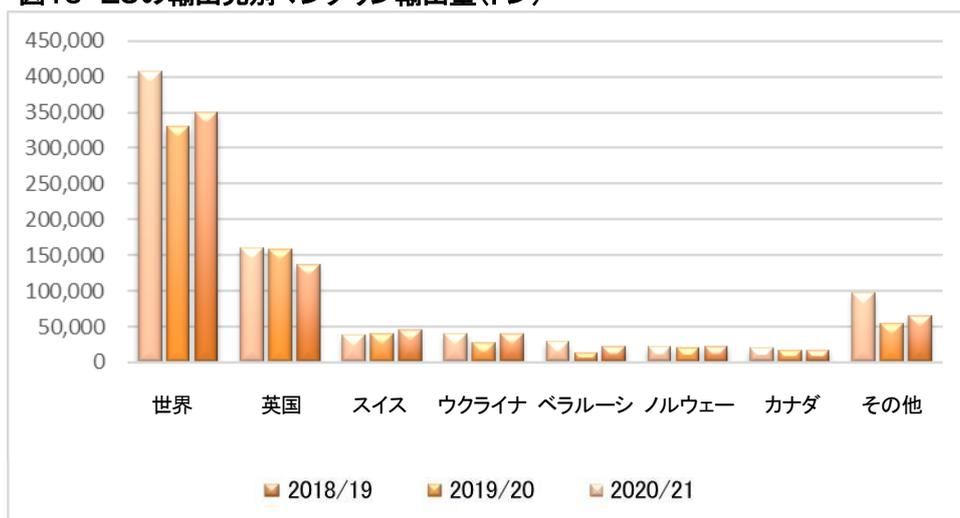
出典：海外農業局EU域内各国事務所

図12 EUの輸入先別マンダリン輸入量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

図13 EUの輸出先別マンダリン輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

<レモン/ライム>

表6 EUのレモン/ライム生産需給統計

| レモン/ライム(生鮮)<br>販売年度 | 2019/2020        |               | 2020/2021        |               | 2021/2022        |               |
|---------------------|------------------|---------------|------------------|---------------|------------------|---------------|
|                     | 2019年10月～翌年9月    |               | 2020年10月～翌年9月    |               | 2021年10月～翌年9月    |               |
| 欧州連合(EU)            | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 |
| 栽培面積                | 79,229           | 80,229        | 80,420           | 82,320        |                  | 82,220        |
| 収穫面積                | 68,433           | 68,433        | 70,020           | 71,249        |                  | 71,315        |
| 結果樹本数               | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 未結果樹本数              | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 果樹本数合計              | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 生産量                 | 1,480            | 1,488         | 1,654            | 1,720         |                  | 1,567         |
| 輸入量                 | 579              | 521           | 550              | 551           |                  | 560           |
| 総供給量                | 2,059            | 2,009         | 2,204            | 2,271         |                  | 2,127         |
| 輸出量                 | 81               | 174           | 85               | 155           |                  | 150           |
| 生鮮国内消費量             | 1,658            | 1,521         | 1,757            | 1,724         |                  | 1,694         |
| 加工仕向量               | 320              | 314           | 362              | 392           |                  | 283           |
| 仕向量合計               | 2,059            | 2,009         | 2,204            | 2,271         |                  | 2,127         |

ヘクタール、千本、千トン

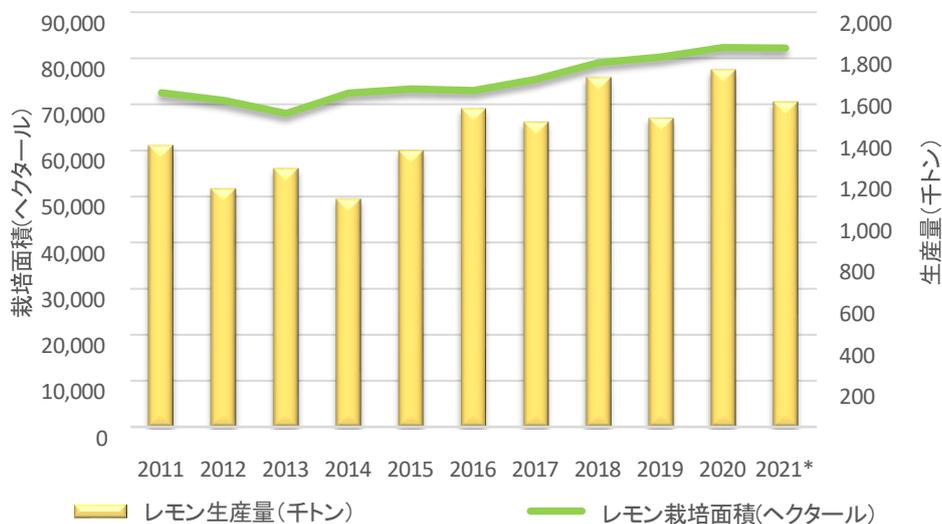
出典：2019/20年度及び2020/21年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)  
 その他は海外農業局EU域内各国事務所

表7 EUのレモン主要生産国(トン)

| 国名   | 2019/20年度 | 2020/21年度 | 2021/22年度 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| スペイン | 938,420   | 1,141,574 | 1,011,458 |
| イタリア | 445,949   | 473,276   | 450,000   |
| ギリシャ | 82,255    | 87,889    | 88,000    |

出典：海外農業局EU域内各国事務所

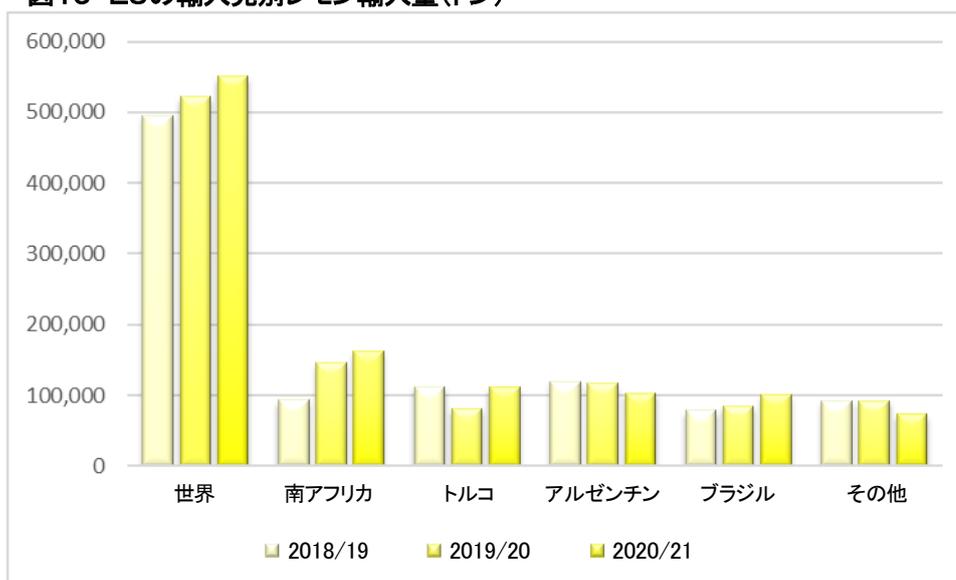
図14 EUのレモン生産量及び栽培面積(2011～2021年度)



\*：予測値

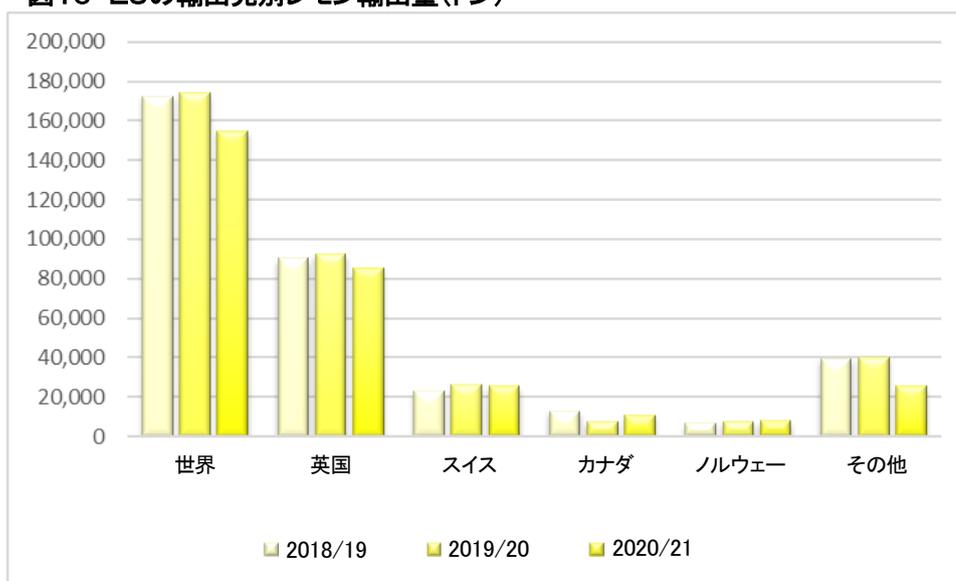
出典：海外農業局EU域内各国事務所

図15 EUの輸入先別レモン輸入量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

図16 EUの輸出先別レモン輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

## <グレープフルーツ>

表8 EUのグレープフルーツ生産需給統計

| グレープフルーツ(生鮮) | 2019/2020        |               | 2020/2021        |               | 2021/2022        |               |
|--------------|------------------|---------------|------------------|---------------|------------------|---------------|
|              | 2019年10月～翌年9月    |               | 2020年10月～翌年9月    |               | 2021年10月～翌年9月    |               |
| 販売年度         |                  |               |                  |               |                  |               |
| 欧州連合(EU)     | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 | 農務省公式<br>EU27+英国 | 今回推計値<br>EU27 |
| 栽培面積         | 3,352            | 3,452         | 3,405            | 3,648         |                  | 3,648         |
| 収穫面積         | 2,868            | 2,868         | 2,827            | 2,846         |                  | 2,844         |
| 結果樹本数        | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 未結果樹本数       | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 果樹本数合計       | 0                | 0             | 0                | 0             |                  | 0             |
| 生産量          | 95               | 95            | 103              | 105           |                  | 108           |
| 輸入量          | 340              | 320           | 335              | 295           |                  | 295           |
| 総供給量         | 435              | 415           | 438              | 400           |                  | 403           |
| 輸出量          | 17               | 27            | 17               | 26            |                  | 27            |
| 生鮮国内消費量      | 404              | 374           | 406              | 358           |                  | 360           |
| 加工仕向量        | 14               | 14            | 15               | 16            |                  | 16            |
| 仕向量合計        | 435              | 415           | 438              | 400           |                  | 403           |

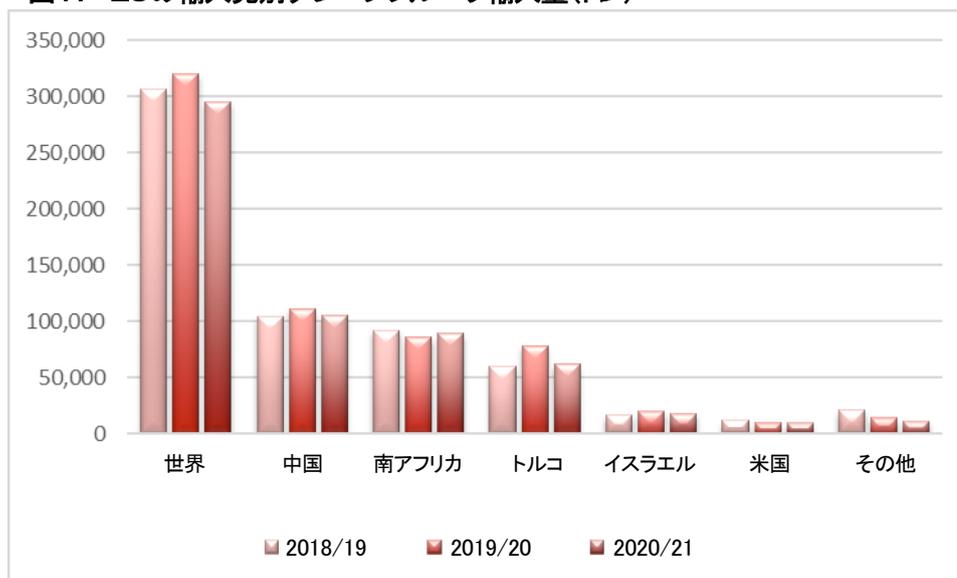
ヘクタール、千本、千トン

出典：2019/20年度及び2020/21年度の貿易量はTrade Data Monitor, LLC (TDM)

その他は海外農業局EU域内各国事務所

訳注：表頭の年次の誤りを修正しました。

図17 EUの輸入先別グレープフルーツ輸入量(トン)

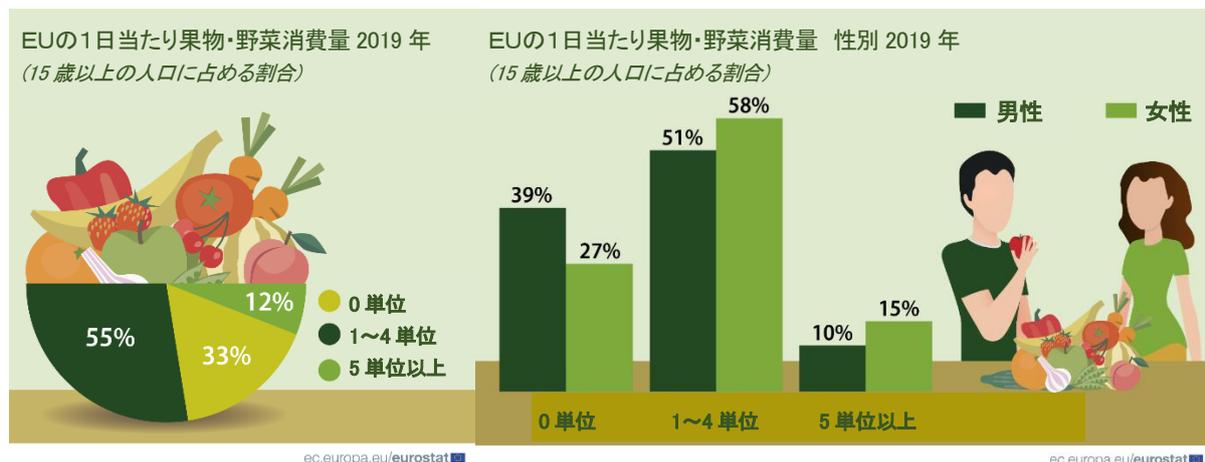


出典：Trade Data Monitor, LLC

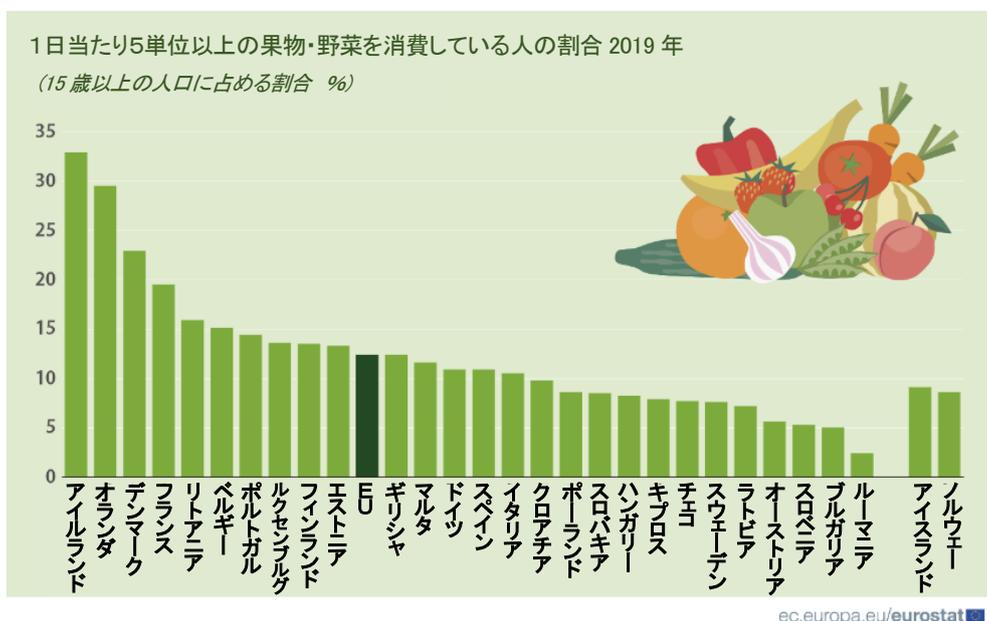
## 154. ヨーロッパ EC統計局が果実・野菜の消費状況を公表

EUROSTATウェブサイト(2022年1月4日)

2019年の調査で、EUの3人に1人(33%)が日常的に果物と野菜を全く消費していないと回答し、推奨される1日5単位(ポーション)以上を消費していたのは、人口のわずか12%であった。平均して、EUの人口の半分以上(55%)は、果物と野菜を1日に1~4単位食べていると回答した。



EU加盟国の中で、1日の摂取量が5単位以上と回答した人の割合が最も大きかったのは、アイルランド(33%)、オランダ(30%)、デンマーク(23%)、フランス(20%)であった。また、その割合が最も小さかったのはルーマニアで、果物と野菜を5単位以上食べるのは人口のわずか2%であった。ブルガリアとスロベニア(両国とも5%)及びオーストリア(6%)がこれに続いた。(下図中、ノルウェーとアイスランドは近隣の非加盟国)



果物と野菜の1日当たりの摂取量は女性の方が男性よりも多い。1~4単位を食べると回答したのは、男性では51%であったのに対し女性では58%であった。同じことが1日の摂取量が5単位以上の割合にも当てはまる(女性15%対男性10%)。この調査はまた、果物と野菜を全く摂取しない人の割合は、女性(27%)よりも男性(39%)の方が多くを示した。

訳注: 1日5単位の果実と野菜を摂取することで、WHOが推奨する400グラムを摂取できると考えられています。

## (関連記事)

# 欧州青果物協会は消費不足の解消に向け2022年に期待

FreshPlazaウェブサイト(2022年1月5日)

EC統計局(Eurostat)は、15歳以上のヨーロッパ人の12%だけが1日に果物と野菜を5単位以上摂取していることを示す報告書を公表した。この調査結果は、2021年12月16日に発表され、EUの果物と野菜の平均消費量は一人1日当たり約350グラムであるとしている欧州青果物協会(Freshfel Europe)の消費モニターの結論と整合している。

少なくとも一人1日当たり400グラム、すなわち各食事ごとにその量の半分以上の果物と野菜を摂取するというWHOの勧告を達成するために、植物ベースの食事法の環境、気候、健康に関する利点を基盤として、青果物セクターは2022年に多くのことを実施しなければならない。

EC統計局は、推定によればEUの15歳以上の人口の55%が1日に1~4単位の果物と野菜を食べており、33%は全く食べていないと発表した。この報告書によると、人口のわずか12%が1日に5単位という目標を達成している。報告書はまた、女性の15%が5単位の目標を達成しているのに対し男性は10%で、女性は男性よりも多くの果物と野菜を食べていることを示している。欧州青果物協会の消費モニターが算出したEUの現状の摂取量は、平均で350グラム、すなわち概ね4単位である。ヨーロッパの消費者の毎日の食事に果物か野菜を一品加えることによって、少なくとも推奨される1日当たり400グラムに到達することを目標とすべきであり、これによってEUの青果物市場の取扱量が1,500万トン押し上げられる。

欧州青果物協会のフィリップ・ビナール総代表は、「こうした摂取量の低さにもかかわらず、生鮮果実・野菜の利点を考慮すれば、青果物セクターには楽観視できる多くの理由がある。このセクターは、より植物ベースの食事法を目指す『農場から食卓まで戦略』及び一層の予防を呼び掛ける『EUがん撲滅計画』に基づく政策転換に影響を与えるため、力を結集する必要がある。(後者については)果物と野菜を基本とする健康的な食事法は、癌ばかりでなく、非伝染性疾患(の予防)に対しても重要な役割を担っている」と語る。

同氏はまた、「パンデミックは、環境要因と気候変動に対する人々の関心を高めたことに加えて、ヨーロッパ人のライフスタイルを大きく変えた。したがって、青果物セクターには2022年のための多くの肯定的な原動力がある」と言う。

欧州青果物協会の消費モニターは、EU加盟国の間の消費水準の大きな違いを示している。EC統計局は、1日に果物と野菜を少なくとも5単位摂取している消費者の割合によって、この加盟国間の差異を裏付けた。12月16日に開催された欧州青果物協会の消費動向ワークショップは、こうした違いにもかかわらず、ヨーロッパ中の消費者が味、新鮮さ、ビタミンとミネラル、付加価値、利便性、季節性を気にかけていることを強調した。青果物セクターは青果物の利点に基づいて、様々な食品がある中で、(これまで青果物をあまり摂らなかった)新しい消費者が果物と野菜の購入を増やすよう説得する位置に自らを置かなければならない。

ビナール氏は、12月のワークショップの結論を引用する:「国際果実野菜年2021」のモットーの一つであった「今すぐ行動」の利点については明確な合意がある。果実・野菜セクターは、2022年の正当な野心を大いに持って、地球と気候と消費者自身の健康に利するよう、果物と野菜の消費を刺激するために政策的・社会的な勢いを活用するべきである。

同氏は、「欧州青果物協会は、『農場から食卓まで戦略』に従うだけでなく、食卓から農場を見つめる視点も重視し、2022年も本セクターの新たなチャンスに向けて積極的に取り組む。本セクターは、高品質、味と食感の良さ、新鮮さと利便性を常に気にかける消費者の、嗜好や購買・食習慣に応じた製品の供給に対する多様な期待に耳を傾けてそれに応えることに、一丸となって取り組むべきだ」と結論付けた。

## 155. 世界のブルーベリー市場

FreshPlazaウェブサイト(2022年1月7日)

世界が新しい年を迎え、ブルーベリーがメニューに戻ってきた。クリスマス用食材としては人気がないが、消費者が2022年に健康的な食習慣を目指すという、この健康によい果実に最適な潮流の中で、ブルーベリーは多くの国で売り上げを伸ばしている。年々人気が高まっているため、ペルー、中国、チリなど多くの国では栽培面積と生産量が増加しているが、長引く輸送の遅れが輸出品の品質に影響を与えている場合も見受けられる。



### オランダ：チリ産のシーズン開始に遅れ

ペルー産ブルーベリーのシーズンは最終段階に入った。オランダのある輸入業者は、「ペルーではまだ収穫を行っているが、それも来週までに終わるだろう」と予想する。この業者は好調だったペルー産の季節を振り返り、「今年は品質が良かった。栽培面積の増加により、シーズンの初めの市況は上値が重かったが、シーズンの後半には価格は盛り返した」と語る。また「現在、南アフリカ産の最後のブルーベリーが到着している。品質的には、今シーズンは問題が多かった。ほとんどすべての貨物がひどく遅れて到着し、輸送に4～5週間かかることも珍しくなかった。その結果、品質に大きな違いが生じ、本当に良いか、まったく良くないかのどちらかであることが多かった」と語った。

この業者はさらに、「今のところチリ産の出荷が遅れている。通常、最初のコンテナは第50週(12月中旬)に到着するが、遅延が常態化している。チリからの入荷は第3週から第7週(1月17日～2月18日)の間にピークに達し、その後またすぐに減少すると予想している。収穫労働者の不足と輸送の問題による供給量の減少について多くの話を聞くが、実際には多くの積み出しが進んでいる。現時点では、ブルーベリーの販売は安定している。遅れが多いため、市場では皆が義務を果たせるかどうかの不確実性があるが、弊社では問題ない。地中海産のシーズンも期待できる。特にモロッコは生産量を大幅に増加させた。スペインでは、冬の天候が予想ほど悪くなく、出荷はスケジュールどおりである」と語った。

### ドイツ：市場は静か

栽培種のブルーベリー市場は産地が切り替わりつつある。現在は、ペルー産が主体で、一部南アフリカ産も出ている。ある輸入業者は、「チリ産の最初の航空貨物はすでに到着しているが、大量に提供できるのは海上輸送した貨物が着く第52週(年末)になる。1月の最初の数週間の中に、産地の移行が完了する」と言う。

この業者はさらに、「需要と供給は現在、ほぼバランスが取れている。特にブルーベリーは定番のクリスマス商品ではないため、小売業者は現時点ではほとんど販売促進を行っていない。全体として、市場は静かである」と言う。

### **ウクライナ：低価格にもかかわらず輸出が増加**

ウクライナの2021年のブルーベリー輸出量は2020年と比較して65%増加したが、生鮮ブルーベリーの輸出量は過去最高を記録した2019年よりも18%少ない。ウクライナの輸出業者にとっては嬉しくないブルーベリー価格の下落傾向は注目に値する。2021年のブルーベリーの平均輸出価格は、2020年に比べて9%低かった。

### **北米：ブルーベリー市場は厳しいが、新年は良い見通し**

北米のブルーベリー供給は、現在いくつかの課題に直面している。

ある出荷業者は、「チリ産の入荷量は、人手不足と加工費の上昇により、また米国市場に比べて欧州市場の価格が安定していることから、近年に比べて少なくなっている。我々は今後数週間、ブルーベリー業界全体の課題について様子を眺める」と言う。

労働力問題のためにチリからの供給量が少ない一方で、ペルー産のブルーベリーは徐々に量が増えているが、この業者は、市場の需給バランスを取るには十分ではないと言う。これら2カ国に加え、アルゼンチン、ウルグアイ、メキシコも現在ブルーベリーを出荷している。

これらのことから、予想されるとおり、ブルーベリーの市況はこの時期としては強含みである。

この業者は「単価が妥当な範囲にある限り、消費は引き続き良好だろう」と言い、12月の価格は前年と同程度であったが、2022年1月の価格は前年を上回る可能性があると言っている。

労働と物流の問題は、今後数週間のブルーベリーの荷動きの課題となるが、今後、チリ産とメキシコ産の供給量が増加すれば、2月にははるかに良い入荷量が期待される。上記の業者は、「フロリダ州の国内産が3月初めに出荷を開始すれば、春に向かって市場が安定するはずだ」と言う。

### **チリ：輸送時間の長期化による輸出の減少**

チリの生鮮及び冷凍のブルーベリーの輸出量は前年比24.1%減少した。海上輸送時間の増加により、多くの生産者は果実の選別をより厳格に行い、長い輸送の間に良好な状態を保てるものだけを輸出した。これによって、チリの冷凍ブルーベリー市場が拡大した。昨年の11月21日までに、チリの冷凍ブルーベリー輸出は2020年の同時期と比較して9%増加した。今年は、中国への輸出を促進する新しい国際条約が署名されたため、この数字はさらに増加すると予想される。

### **ペルー：2015/2016年以降ブルーベリーの輸出が大幅に増加**

ペルーのブルーベリー輸出は過去数年間で着実に増加している。2015/16年度の生鮮ブルーベリーの輸出量は12,951トンであったが、2020/21年度には16万2,456トンに増加した。2021/22年度には、21万1,200トンの生鮮ブルーベリーを輸出する計画である。

### **中国：栽培面積は増加するも冬の国産ブルーベリーは高価格**

国内産の冬のブルーベリーが現在市場に出回っているが、収量が低いため、価格はまだかなり高い。一部の地域では、バラ売りの国内産生鮮ブルーベリーの小売価格は、120～150元/kgもしている。(1元≒18円)

中国国内のブルーベリーの栽培面積は急速に増加している。しかるべきデータによると、中国のブルーベリーの栽培面積は2020年に60,150ヘクタールに達すると見られる。

国内産ブルーベリーの出荷の最盛期は6月から10月である。出荷量が多い期間には、生鮮ブルーベリーの価格は、概ね40～60元/kgである。冬のブルーベリーは、雲南省のシーサンパンナ(西双版纳)自治区、建水県、澄江市、その他の地域で栽培されているが、全体の生産量は特に多くない。

## 156. 米国 リンゴ園の問題をカットする剪定ロボット

FreshFruitProtalウェブサイト(2022年1月10日)

農業全体が自動化技術に傾く中で、果樹栽培の作業には依然としてかなりの手作業が必要である。例えば、リンゴの木の剪定は、収穫前までの生産コストの約20%を占めている。リンゴの木を手作業で剪定するためには、1エーカー(約40アール)当たり熟練労働者で30~35時間の作業が必要である。労働力が減少し、人件費が上昇していることから、ジレンマはますます増大している。

ペンシルベニア州立大学の大学院生、アズラン・ザヒド氏は「この問題について見込みのある解決策を見出すことにはニーズがある」と言う。同氏と同大学のチームは、完全に自動化、コンピュータ化され、現代のリンゴ園に適した剪定システムを開発するための最初のロボット機構として、エンドエフェクタ\*1カッターを設計した。同氏は、これまでのところ、直交軸型と回転関節型のロボットシステムを統合するという概念は、剪定作業における困難な条件を克服しながら有望な結果を示していると言う。



### リンゴの木の難しさ

ロボット剪定の概念に付きまとう複雑さは、リンゴの木が作り出す構造化されていない作業環境によるところが大きい。ロボットの切断ユニットは、狭いスペースで動作し、もつれあつた他の枝を避けながら剪定の目的とする枝に到達する必要がある。ザヒド氏は、「枝はランダムな方角と方向に成長しており、このことは基本的に枝の仮想的な再現と樹冠内での装置の操縦を難しくする」と言う。

第二の課題は、操縦システムの空間的な要件に関係している。同氏は、「木の構造が複雑なため、樹冠の中にはロボットが実際に移動して動作を行うのに利用できるスペースがほとんどない」と言う。

### ロボットの開発

ザヒド氏とそのチームは、操縦上の、また空間的、機械的、園芸的要件を満たす、自由度6\*2の剪定マニピュレータ\*3の開発に着手した。

それは2つの部分から成っている: (1) 手首となるエンドエフェクタ、すなわち3方向の回転(左右、上下、ねじり)ができるカッター。(2) 腕 エンドエフェクタを装着し、目標とする剪定場所に移動させるための3方向(前後、上下、左右)に直線的に動く線形マニピュレータ。

エンドエフェクタの設計の基礎となる情報を得るために、研究者らは手動の剪定機に取り付けたセンサーで枝を切断する力を測定した。これを元に、ギア付きの直流電動モーターを動力とする2枚一組の刃の付いた剪定バサミと回転用の3つのモーターを搭載したエンドエフェクタが開発された。

エンドエフェクタとマニピュレータの操縦を支援するため、計算結果を視覚化できる対話型の数学的プログラムを使用して、操作パネルを備えた組み込み式の小型操縦システムを開発した。また、エンドエフェクタの作業空間使用状況、運動学的熟度\*4及び到達可能点のシミュレーションのために数学的モデルが開発された。

リンゴの木は、主幹と一次側枝をセグメント化することによって得た3次元点群データ\*5を使用して(仮想的に)再構成された。複数のコンピュータアルゴリズムが、ロボットが(幹や枝に)衝突しない軌道を算出し、目標とする剪定位置に到達するためのスムーズで最適化された通り道を見つける。

## ほ場試験

研究者らは、ペンシルベニア州アダムス郡にある州立果樹研究普及センターでのほ場試験によって試作機の性能評価を行った。トレリス仕立ての壁状に連なった結果樹から、ふじ/Bud.9わい化台木の果樹10本が無作為に選ばれ、さらに各果樹から8~10本の枝が選ばれた。

目標の枝に到達するまでの平均時間は約12~13秒であった。剪定ロボットは直径約25ミリメートルまでの枝を切断することに成功した。ザヒド氏は「(この太さは)現在主流の樹形における通常の枝の直径の範囲をはるかに上回っている。ロボットは果樹の中の(目標とした)すべての枝に到達して切断することができた。我々が開発した(エンドエフェクタが)侵入する道筋を計算するアルゴリズムは、衝突せずに目標とする剪定ポイントに到達するための道筋を生成することに成功した」と言う。

## 必要とされるマシンの姿

ザヒド氏は、改善の余地があると指摘する。樹冠が複雑なため、カッターが枝の向きに対して直角に接近できないことがあるので、システムに複数の接近角度を追加すると言う。

同氏は、「コンピュータプログラムには、ロボットの接近の仕方(接近姿勢)の複数の選択肢を追加してあり、これは衝突せずに目的とする枝に到達する道筋を見つける能力を基本的には向上させるものだ」と言う。しかし、ロボットは一つの接近方法が失敗した場合に次の、または代替の接近方法の道筋を検索するので、接近の選択肢を多数追加すると所要時間が長くなる可能性がある。

これは、並列計算などの高度な計算技術を使用して最適化できると同氏は付言する。これにより、ロボットはすべての接近方法の道筋を同時に探し出し、最適なものを選択することができる。

ザヒド氏はまた、「リンゴの木の3次元再構成の際にLiDAR(光検出・測距)センサーを使用したがる、解像度の制約により小さな枝や細い枝が見落とされた。また、枝の直径を正確に測定することができなかったが、枝の直径は剪定する枝を選択するための最も重要なパラメータの一つであるため、RGB-Depth(RGB-D)カメラを使用するなどして枝の直径を正確に測定し、剪定する枝を自動的に決定する効率的な画像システムに変更する必要がある」と語る。

効率的なロボット剪定操作のため、移動経路の長さや所要時間を最適化するには、剪定連続処理アルゴリズムの開発も不可欠である。同氏は、「最初に剪定する枝と、次に剪定する枝を知るため、剪定連続処理アルゴリズムを組み込む必要がある。完全なロボット剪定システムを開発するため、基本的にこの2つのシステムを組み込む」と言う。

(この記事は、トーマス・スケルニヴィッツ氏が執筆し、FreshFruitPortal.comが一部修正して掲載したものである。)

## 訳注

- \*1 エンドエフェクタ: ロボットアームの先端部で、何らかの機能を持つ部分(この記事では可動式電動剪定バサミの部分)
- \*2 自由度6: 縦の動き、横の動きなど6つの変数を独立して制御できること
- \*3 マニピュレータ: ロボットの腕や手に相当する部分
- \*4 運動学的熟度: どれだけうまく動作するかということ
- \*5 主幹と一次側枝をセグメント化することによって得た3次元点群データ: 幹や枝を点の集合として表したデータ

## 157. 世界のマンゴー市場

FreshPlazaウェブサイト(2022年1月14日)

ヨーロッパの多くの国では、年が明けてからマンゴーの消費量が減少している。オランダではそれに加えてペルー産マンゴーが市場にあふれ、価格が下がっている。この時期には多くの国でまだペルーが主要輸入先であり、ほとんどどこでもケントが主要品種となっている。



### オランダ：12月の妥当な市況の後、1月第1週に打撃

マンゴー市場は現在、様子見の状況となっている。オランダのある輸入業者は、「12月のマンゴー市場は順調だった。ブラジルからの供給が多過ぎず、ペルー産のスタートも緩慢で、第52週(年末)までの価格はそれほど良くもないが妥当な範囲だった」と言い、さらに「しかし、1月の第1週(ヨーロッパでは1月3日からの週)にペルーの一部の輸出業者が品質の悪いマンゴーをあまりにも大量に市場にあふれさせたため、大きな打撃を被った。市場はそれを吸収することができず、価格はかなり低い水準に下落した。第2週の今、状況は安定してきているようだが、輸送費や包装資材等のコストの増加を踏まえれば、価格はもっと上がらなければならない。しかし、ペルーの早生産地であるピウラ(Piura)地域からの供給量がすでに再び減少してきているため、青果物セクターではよくあるように一つの動きが別の動きを誘発する可能性が高い。良いシーズンになるのかどうかまだ誰にもわからないが、今年最初の2週間のペルー産マンゴーの市場は良いものではなかった」と語った。

### ドイツ：ケント品種の人気が高いがオスティーン品種も台頭

現在海上輸送及び航空貨物で入荷しているマンゴーは非常に品質が良く、市場への供給も順調である。ある輸入業者によると、シーズン初めの11月には販売は緩慢だったが、状況は現在までに平常化し、売買はこの時期の通常の水準にある。

貯蔵スペースはますます不足してきており、コストが高くなっている。運賃は昨年比べてさらに上昇した。

サイズ12のケント(Kent)品種のマンゴーは、まだドイツのバイヤーに突出して高い人気があるが、他の品種は散発的にしか取引に参加できていない。前出の輸入業者は、「ペルーは引き続き4月まで主要輸入先であり、補完的にブラジル産が提供される。近年、スペイン産のオスティーン(Osteen)品種とケント品種のマンゴーの供給が顕著に増加している」と言う。

## イタリア：マンゴーの買いは年明けに減速

ミラノのある卸売業者は、「従来から年明けには熱帯果実の消費が減速し、販売が停滞する。それに加えて、現時点では、新型コロナウイルスの感染拡大と様々な規制が大きく影響している。多くの企業では従業員が通常の半分しかおらず、商品の売買が困難で、市場でさえも人影が少なく、このことが消費に影響を与えている」と言う。

この卸売業者によると、マンゴーに関しては、空輸品、特にペルー産は輸送コストが高いため非常に高価である。空輸品の場合、消費は少なめで横ばいだが正常の範囲内だ。対照的に、ブラジルとペルーから海路で輸入されたマンゴー(ケント品種、トミーアトキンス(Tommy Atkins)品種など)は、消費の大幅な減少により価格が下落している。「空輸されたマンゴーは、買値で5.00~5.20ユーロ/kg、売値で約6.50ユーロ/kgに達している。海上輸送のものは、買値で約3.50~4.50ユーロ/kgである。売値は(買値と比べて)それほど高くない。消費が大きく減少したので、弊社ではできるだけ早くマンゴーを売りさばくよう努めている」と言う。

データによると、2021年11月までの1年間にイタリアの400万世帯がマンゴーを購入した。これは過去3年間で最高であり、人口の15.7%に相当し、過去2年間に比べて3ポイント多い。

## 南アフリカ：降雨の懸念にもかかわらず、マンゴーシーズンに大きな期待

南アフリカのマンゴーのほとんどはリンポボ州で栽培されている。主要産地であるフッドスブルート(Hoedspruit)地域では通常の降水量があるが、ツァニーン(Tzaneen)地域ではまだ十分な降雨が無い。

マンゴー生産者は、引き続き2月の遅い時期の洪水の可能性を警戒しており、出荷量に悪影響を及ぼしている。しかし、これまでのところ、果実は品質もサイズもよいようだ。マンゴーの出荷量は昨年と比べ約10%減少している。

早生のトミーアトキンス品種の価格は、4kg箱で概ね45ランド(1ランド≒7.4円)とあまり良くなかった。業界筋によると、シェリー品種(Shelly)とハイジ(Heidi)品種の最初の荷も市場に入荷しており、高い品質を正しく反映したより良い価格がついている。シェリー品種は現在4kg箱が110~120ランドで取引されており、ハイジ品種は4kg箱で最高150ランドとなっている。

## 北米：物流コストが増大、インド産マンゴーにチャンス

マンゴーの供給が安定している一方、物流が荷動きと価格に影響を与えている。

ある出荷業者によれば、まだブラジル産とエクアドル産のマンゴーが市場に入荷している。しかし、この時期の主要輸入先はペルーである。

この出荷業者は、「今年のペルー産は大変難しい。コンテナが不足し、船のスペースが無く、もちろんコストが上昇している。コロナ禍の再拡大も状況を悪くしている。物流会社や港湾の人手不足のため、輸入手続きの終わったコンテナを船から倉庫に移動する時間が長引いている」と言う。

ペルーはこの1ヶ月ほどマンゴーを出荷しており、ほぼ全量がケント品種で、出荷量は平均的なようだ。果実のサイズは平均的または通常より1サイズ小さく、サイズ10と12は不足していない。

今後出てくるのはメキシコ産で、2月になると限られた量の早生産地からの出荷が始まる。この出荷業者は、「メキシコには出荷の早い産地があり、その後しばらくの間、主に早生で果皮が黄色いアタウフォ(Ataulfo)品種が主体になると見られる。3月後半頃になれば、米国東海岸での出回り量が多くなる」と言う。同時に、ペルー産も3月末まで出荷され、「ペルー産が終了すると、コスタリカ産、グアテマラ産、ニカラグア産が東海岸に入荷する」と言う。

一方、この出荷業者はマンゴーの需要は「なんとか大丈夫な程度」だと言う。しかし、売買契約と荷動きは順調で、在庫を低く抑えている。「今、仮に通常の需要があれば、市況は現在よりも良くなると思う」と言う。

さらに、価格は昨年と似ていると指摘し、「どうなるのかこれから興味深くなってくる。供給側も需要側も量は多くない。そのような状況でコストが高くなっている中、我々は価格を上げることができるだろうか?それが業

界関係者皆が知りたいことだ。出荷から梱包、コンテナ運賃、港湾渋滞等による追加費用まで、弊社のコストはすべて高くなっており、それらが全部積み上がる。さらに、倉庫から目的地に果実を移動するためのコストがかかる。最近の通常がなんであるにせよ、運賃は通常に比べて約2倍になっている」と言う。

インドの農業・農民福祉省(DAC&FW)と米国農務省(USDA)は土曜日(1月7日)、2対2の農産物市場アクセス問題、すなわちインド産マンゴーとザクロの検査/監督のインド側への移転、インド産ザクロ種子(仮種皮、種衣=食用に供する部分)の市場アクセス及び米国産サクランボと米国産アルファルファ乾草の市場アクセスに関して合意した。マンゴーの出荷は今月開始することが認められた。

コロナ禍が輸出を妨げたため、2シーズンにわたりインド産マンゴーは米国市場でほとんど見かけない。ある輸出業者が昨年の記事で指摘したように、米国向けマンゴーは米国農務省の検査官がインドに出向いて処理を監督し、事前に承認を行う事前承認プログラムの下でのみ出荷することができた。そうすることで、(米国到着後に)検査で不合格になるリスクがなくなるが、パンデミックが発生して以来この手順は実施されていない。

代わりに合意されたのは「監督の移転」プログラムである。これにより、インドで、インドの検査官立会いの下にマンゴーに放射線照射を行うことで果実を輸出することができる。記事中の輸出業者は、「したがって、事前承認はなく、米国に到着した後で検査が行われる」と述べている。

#### **オーストラリア：今シーズンはマンゴーの出荷量が増加、一部で出荷が遅れる可能性**

オーストラリアのマンゴーシーズンは最終月に向かっていく。報道等によると、今週は21万4千箱が出荷されたが、その数は出荷シーズンの残りの10週間で徐々に減少する。全体として、シーズンを通して800万箱が出荷されると推定され、これは約700万箱であった昨年よりも多い。

出荷面では、ボーエン/バーデキン(Bowen/Burdekin)地域では、ほとんどの生産者が出荷を終えたが、今週はこの地域から少量のハニーゴールド(Honey Gold)品種が出荷され、出荷シーズンは1月中に終了すると見られる。マリーバ/ディンブラ(Mareeba/Dimbulah)地域では、ハニーゴールド品種のマンゴーは当初の予測よりもわずかに早く出荷され、キーツ(Keitt)品種などの晩生品種の収穫は来週中に開始される予定である。一方、クイーンズランド州南東部では、過去7日間にいくらかの降雨があったが、それは果実の品質に影響を与えていない。一部の生産者は、今週ケンジントプライド(Kensington Pride)品種と R2E2品種の最後の収穫を行うこととしているが、まもなく出荷シーズンを迎える生産者もいる。西オーストラリア州のカーナーボン(Carnarvon)地域では、当初の予測よりは少ないが、収穫が進むにつれて数量が増加している。最近、気温が高いため果実の成熟が早く進んだ。生産者らは、この地域の大部分に影響を与えている細菌性の病斑の出現により出荷量が減少していると報告している。西オーストラリア州のギンギン(Gingin)地域では、暑く乾燥した天候が続いており、開花の遅れによる小玉化などにより減収した。今年は開花が遅いため、出荷の開始が特に遅くなる可能性がある。

## 158. 米国 南カリフォルニアで過去最高の港湾渋滞

FreshFruitPortalウェブサイト(2022年1月18日)

サプライチェーンの問題は改善の兆しが見えず、南カリフォルニアの港湾渋滞は史上最高に達した。

米国農務省農業流通局の報告書によると、金曜日(1月14日)の時点で、ロサンゼルス港とロングビーチ港での荷降ろしのために停泊場所の空きを待っている船がこれまでで最高の105隻に達した。米国全体の主要港の外では、合計146隻の船が待っていた。

昨年8月下旬には、その時点でパンデミックが始まって以来最も多い44隻の船が、南カリフォルニアのこれら2つの港に入るのを待っていた。

報告書は「大型化している昨今のコンテナ船への対応を改善するために追加の港と航路の水深を深くするという長期的なインフラ計画は、当面の問題を緩和するためにはほとんど役に立たない」とし、さらに、継続的なトラック料金の高騰とドライバーの不足に加えて、冬の天候、消費者の買いだめ、オミクロン変異株によるウイルス感染率の急増を挙げ、これらすべてが全米で店舗の棚が空になっている要因だとしている。

カリフォルニア州のロサンゼルス港とロングビーチ港は、米国の輸入の約3分の1を取り扱っている。これらの港は中国からの輸入の主要な玄関口であり、パンデミックの期間全体を通じて激しい渋滞が起きている。

南カリフォルニア海洋取引所の執行役員であるキップ・ルティット氏は昨年7月、ビジネスインサイダー(ニュースサイト)に対し、「問題の一つは、船が10年前か15年前に比べて2倍か3倍大きくなっていることだ。荷降ろしに時間がかかり、貨物を積んだり収容したりするトラック、列車、倉庫がより多く必要だ」と語っていた。

## 159. 太平洋横断の海上輸送は最大2倍の所要時間

FreshPlazaウェブサイト(2022年1月19日)

*Flexport社の調査によると、アジアと米国またはヨーロッパとの間の輸送所要日数が100日を超過*

海上輸送は、パンデミックの発生以来混乱し、最終目的地での商品の到着に深刻な遅延を生じている。MasContainer(ニュースサイト)によると、港湾施設や(異なる輸送手段を組み合わせた)複合輸送サービスの状況は2021年の年末に向けて落ち着く傾向にあったが、実際には、すでに新たなピークに達しており、主に米国とヨーロッパで状況は悪化を続けている。

Flexport社(米国の物流会社)が行った調査によると、以前はコンテナの太平洋横断輸送に45~50日を要していたが、2022年1月2日に行われた最新の調査によると現在は平均110日を要している。また、アジアとヨーロッパの間のコンテナ輸送に要する平均日数は、以前は55~60日であったものが現在は108日となっている。

ジェフリーズ銀行(米国の投資銀行)の報告書によると、船の速度の低下と他の港への経路変更、立ち往生して循環しないコンテナ、荷下ろし時間の増加の結果として、港湾の混雑と非効率性は引き続き常態化する傾向にある。

一方、コロナ禍は市民の新しい商品への支出を引き続き促進し、運賃は今後数週間で過去最高に達する可能性がある。

出典: [mascontainer.com](https://www.mascontainer.com) / [simfruit.cl](https://www.simfruit.cl)

## 160. 西オーストラリア州政府が日本でアボカドの販売促進

ASIAFRUIT電子版(2022年1月19日)

西オーストラリア州産のアボカドは、日本への輸出を増やすための州政府の新たな取組みで主役を務めた。

同州政府は、ホートイノベーション(園芸分野の非営利団体)、オーストラリアアボカド協会及びオーストレード(貿易投資委員会)を通じて州内のアボカド業界と連携し、(1月17日に)東京で開催された同州のプレミアム飲食料品貿易イベントで、今後関わる可能性のある輸入業者、小売業者、消費者にアボカドをお披露目した。

アボカドは、イベントの試食メニューの中で、その他の同州産のプレミアム食品やワインなどともに、アボカドとサーモンのタルタル、アボカドとロブスターのミニバーガー、アボカドを使ったミニクロックマダム、アボカドとチョコレートのムースなどに使われ、「ヒーロー的な食材」であった。

アランナ・マクティエナン同州政府農業・食料大臣は、アボカドは同州の最大かつ最も急成長している果実産業であり、果樹園の半分と少しが成園で、残りの若い果樹は今後数年間で生産に貢献するようになると述べた。

同大臣はまた、「(州政府の)マッゴーン政権は、日本のアボカド市場を獲得し、この好調な農業部門を支援するために業界と連携している。日本では高品質で健康によい飲食料品に対する需要が高まっており、西オーストラリア州は、プレミアム商品に対して目の肥えたこの市場の要求を満たす良い立場にある」と述べた。

筆者: リアム・オキャラハン

## 161. 香港 航空貨物の規制強化によるコスト増で生鮮果実の輸入量が半減

FreshPlazaウェブサイト(2022年1月19日)

パンデミックを受けて、香港政府は航空貨物の規制を強化し、外国産の食材や生鮮果実の到着に影響が出ている。香港の複数の生鮮果実輸入業者によると、現在、海外の産地から香港に果実を直送することができないため、コストが増加し、輸入量は近年の水準に比べて半減した。

多くの生鮮果実は空路で輸入されるが、政府が規制を強化したため輸送コストが増加している。例えば、オーストラリア産の生鮮果実は、従来は(タスマニア州などの)産地から香港に直接飛ばすことができたが、今では最初にシドニーに運んでから香港に輸送する必要がある。

卸売業者らによると、タスマニア産のサクランボの場合、品質の良いものの価格は以前は1箱当たり500～700香港ドルであったが、現在は700～1,000香港ドルに上昇したと言う。このため、出荷量は近年の水準に比べて半分に減少した。(1香港ドル≒14.7円)

ある生鮮果実輸入業者は、「ここ数年は農場で収穫されるサクランボの4箱に1箱が香港に送られていたが、今年はコストが高すぎるため、輸入後のサクランボの売れ行きが良くない。我々は販売促進費用の切り詰めとの板挟みで悲惨な状況にある」と言う。

一部のレストランは、夜間の店内での飲食禁止が食材の価格高騰と相まって、大きな打撃となっていると言う。多くのレストランが旧正月以降に倒産するだろうと懸念されている。

出典: Now News

## 162. 米国産柑橘類 出荷量の減少で引きが強く高値

The Packer 電子版(2022年1月20日)

この記事の中の「トン」は、ヤード・ポンド法のトン(ショートトン)であり、メートル法の約0.91トンに当たります。また、1箱当たりの内容量は州と品目によって異なるため、異なる州や異なる品目では箱数と重量は比例しません。

米国農務省(USDA)の作物生産レポート1月改定版は、カリフォルニア州産オレンジの作柄に期待をもたらしたが、供給量は引き続き少なく、価格は1年前に比べて上昇している。

農務省のウェブサイトによると、1月中旬の米国産オレンジの平均出荷価格は、22.97ドル/箱で、1年前の同じ時期の20.61ドル/箱から11%上昇した。また、米国産グレープフルーツの平均出荷価格は22.20ドル/箱で、1年前の同じ時期の18.79ドル/箱から18%上昇した。

業界のリーダー達は、消費者は免疫系を助ける食品に関心を持っており、柑橘類に対する需要はコロナ禍の期間を通して引き続き強いと述べていた。しかし、最新の生産見通しは上方修正されたものの、出荷される柑橘類の量は1年前ほど多くない。



米国農務省(USDA)の農業統計局(NASS)が2022年1月12日に公表したオレンジの出荷見通し

### 農務省レポートの改訂版

農務省の作物生産レポート1月版によると、2021/22年度の米国産オレンジ全体の予測出荷量は、前回の予測からは2%増加したが、2020/21年度の最終出荷量に比べて11%少ない。

レポートによると、フロリダ州産オレンジの予測出荷量は4,450万箱(200万トン)で、前回予測から3%減少し、昨シーズンの最終出荷量より16%少ない。用途別の数値によると、フロリダ州産オレンジの約90%はオレンジ果汁に加工される。

同じく、テキサス州産オレンジの予測出荷量は、40万箱(1万7千トン)で、前回予測から27%減少し、昨シーズンの最終出荷量より62%少ない。

また、カリフォルニア州産オレンジ全体の予測出荷量は4,760万箱(190万トン)で、前回予測から9%増加したが、昨シーズンの最終出荷量より5%少ない。このうち、ネーブルオレンジの予測出荷量は3,900万箱(156万トン)で、前回予測より11%多いが、昨シーズンの最終出荷量より4%少ない。同州のバレンシアオレンジの予測出荷量は860万箱(34万4千トン)で、前回予測から1%増加したが、昨シーズンの最終出荷量より9%少ない。

米国全体のタンジェリンとマンダリンの予測出荷量は87万8千トンで、前回予測から1%減少し、昨シーズンの最終出荷量より25%少ない。カリフォルニア州のタンジェリンとマンダリンの予測出荷量は、2,100万箱(84万トン)で、前回の予測と変わらず、昨シーズンより25%少ない。

### 困難な時

柑橘類の販売担当者らは、今シーズンの課題を指摘する。

サンキスト growers(Sunkist Growers)社のクリスティーナ・ウォード世界市場担当部長は、青果物は、サプライチェーンの大幅な混乱、人手不足、人件費と原材料コストの増加に直面していると述べた。

干ばつや労働の問題は目新しいものではないが、新たな規制上の課題が迫っている。

カリフォルニア州ディヌーバ市に拠点を置くサントリート(Suntreat)集出荷会社のアダム・ゴルツ生産者担当部長は、「業界はいくつもの農業経営上の課題に直面している」と言う。人件費を押し上げている労働力不足と物財費の上昇が経営上の問題となっている。さらに、他の規制遵守圧力と並んで、持続可能な地下水の管理が強く求められている。

持続可能な地下水管理法は2014年に可決され、地下水の過剰な汲み上げを20年以内に緩和するという最終目標を掲げている。カリフォルニア州水管理委員会のウェブサイトによると、この法律は、地下水層を揚水と涵養のバランスのとれた状態にするために導入された。

カリフォルニア州フレズノ市に拠点を置くフラワーパッキング(Fowler Packing)社のショーン・ネルソン営業担当副社長は、ここ数週間は降雨と降雪が多いが、これまでの干ばつのために今シーズンの作柄は限定されたとして、「今シーズン柑橘類のほとんどの品種で出荷量がこんなに減少したのは、2020年と2021年の冬の降水量の不足が原因だ。また、それに加えて昨シーズンの生産量が多かったことから、今年の実産量ははるかに少なくなった。マンダリンは隔年結果する典型的な果実だが、今年は極端だ」と語った。

農務省の1月の作物生産見通しによると、米国全体のグレープフルーツの予測出荷量は37万8千トンで、前回の予測から17%減少し、昨シーズンの最終出荷量より11%少ない。このうち、フロリダ州のグレープフルーツの予測出荷量は410万箱(17万4千トン)で、前回の予測から変わらず、昨シーズンとも変わらない。

カリフォルニア州のグレープフルーツの予測出荷量は、350万箱(14万トン)で、前回予測から10%減少し、昨シーズンに比べて10%少ない。テキサス州のグレープフルーツ予測出荷量は前回予測から48%減少し、昨シーズンに比べて33%少ない。

農務省は米国全体のレモンの出荷量を97万6千トンと見込み、これは前回予測より9%多く、昨シーズンの最終出荷量より10%多い。このうち、カリフォルニア州産の予測出荷量は2,300万箱(92万トン)で、前回予測から10%増加し、2020/21年度より8%多い。アリゾナ州の予測出荷量は、140万箱(5万6千トン)で、前回予測から8%増加し、昨年より75%多い。

### 貿易の状況

物流上の課題にもかかわらず、2020年12月から2021年11月までの1年間における米国のオレンジとタンジェリンの輸出量は増加した。この期間の輸出額は6億9,750万ドルで、前年同期比で8%増加した。

この期間の米国のレモン輸出額は、前年と変わらない1億4,400万ドルであった。同じ期間の米国のグレープフルーツの輸出は苦戦し、前年同期と比較して24%減の5,330万ドルとなった。

2020年12月から2021年11月までの期間に、韓国は米国のオレンジとタンジェリンの最大の顧客であり、前年同期比11%増の1億8,900万ドルを輸入した。カナダ(1億7,100万ドル)が米国産オレンジの第2の買い手であり、日本(9,600万ドル)がこれに次いだ。

農務省の統計によると、2020年12月から2021年11月までの期間の米国の柑橘類の輸入は急増した。柑橘類の総輸入額は15億8,100万ドルで、前年同期と比較して16%増加した。

メキシコは米国市場向け柑橘類の世界一の輸出国であり、生鮮柑橘類の米国向け総輸出額は前年比27%増の6億7,100万ドルであった。

チリが第2位の輸出国であり、柑橘類の米国への輸出額は4億4,100万ドルで、前年同期と比較して8%増加した。ペルー(1億2千万ドル)、南アフリカ(1億200万ドル)、アルゼンチン(7,100万ドル)、モロッコ(6,600万ドル)、ウルグアイ(3,500万ドル)、コロンビア(3,100万ドル)、オーストラリア(1,700万ドル)、イスラエル(1,100万ドル)も米国に相当量を輸出した。

筆者: トム・カースト

(関連記事)

## 米国 フロリダ州のオレンジの作柄は第二次世界大戦以降の最低

FreshFruitProtalウェブサイト(2022年1月21日)

柑橘類の病気と悪天候が、米国と世界のオレンジ供給の制約要因となっている。一方、何年も減少を続けてきたオレンジ果汁の需要は、パンデミックの間に急増したとCNNは報じている。

このためパンデミックの間にオレンジ果汁の価格が高騰し、おそらく今後も上昇を続けると見られる。冷凍オレンジ果汁の先物価格はパンデミックの間に50%以上急騰し、先週は木曜日だけで5%上昇し、2年ぶりの高値となった。

農産物分析専門会社のショーン・ハケット社長は、「典型的な需給のミスマッチがある」と言う。そのため、消費者は「スーパーマーケットの店頭でのほかに高い価格」を覚悟する必要がある。

予想されるオレンジジュース価格の急騰は、消費者がすでに複数の分野でインフレに直面している中で起こる。労働統計局が先週公表したところによると、季節調整前の米国の消費者物価指数は、過去1年間で7%上昇し、1982年6月以来最も急激な上昇となった。

過去1年間で、自宅で消費された食品の価格は6.5%高くなり、レストランの値段は6%上昇した。果物ジュースとノンアルコール飲料の価格は今年すでに5.7%急騰しており、オレンジ果汁の先物価格も上昇している。

農務省は先週、フロリダ州の今年のオレンジ出荷量を、異常に少ない4,450万箱と予測すると公表した。農務省のフロリダ州担当の統計官は、4,223万箱が出荷された1944/45年度以来の最低となるだろうとCNNビジネスに語った。

食品・農業業界に商品分析を提供するコンサルティング企業のジュディス・ガネス社長は、「フロリダ州の柑橘類の出荷量は、1940年代以来最も少なくなると見られる。数年前にハリケーンイルマがフロリダ州に上陸した時の出荷量よりもさらに少なくなるだろう」と述べ、「米国のオレンジジュースの大部分の原料となるフロリダ州産オレンジの出荷量は、何年もの間先細ってきている」と指摘した。

## 163. ニュージーランド リンゴとナシの見通しは前向きで楽観的

FreshFruitPortalウェブサイト(2022年1月26日)

ヴァンガード社によると、ニュージーランドの2022年産のリンゴとナシは、人手不足と物流上の大問題によって大きく影響を受けた前のシーズンよりも全体的に良くなるようだ。

同社は、今年はコスト増にもかかわらず、生産者が「前向きで楽観的」でいられるいくつかの理由があるとしている。

ヴァンガード社のニュージーランドでの調達と販売を管理するルイス・ゴンザレス氏は、「2021年の出荷シーズンは、コロナ禍による輸送の混乱と市場の閉鎖によって、世界中のほとんどの農産物業界にとって最も困難な年の一つとして記憶されることは間違いない。ニュージーランドでは2022年の収穫の開始が近づいているが、見通しや予測は前向きで期待が持てる。生育期間全体を通じて、果実の品質や状態を損なうような悪い出来事がなく、非常に良かった。ニュージーランドの2022年産のリンゴとナシは、高品質がテーマになると期待している」と言う。

同氏は、春は平年よりも暑かったが、暑さによる悪影響を抑えるだけのかんりの量の雨があったと言う。

最近の天候は暑く乾燥していたが、1月中旬からは天候が穏やかになって降雨もあり、果樹は暑さをしのいで、安定し、回復することができたはずだ。果実のサイズは、すべての品種で2021年産よりも1サイズ大きくなると予想される。

公式の数字はまだ発表されていないが、リンゴ業界の2022年の出荷量は、2,300万箱を問題なく達成すると見られる。

ゴンザレス氏は、「労働力確保の状況は、2021年に比べて確かに改善している。収穫労働のための季節労働者がまだ不足しているが、近隣の島々から来た臨時の労働者によって、なんとかこの不足を埋めることができた」と言う。

同氏はまた、「人件費は約10%増加した。輸送コストも増加しており、2022年産の販売価格は1カートン当たり昨年よりも1.50～3.00ドル高くなると見込まれる」としている。

また、ヴァンガード社としては輸送に関しても、昨年直面したのと同じような重大な課題が生じるとは見えていないため、見通しは「良好」であると同氏は述べた。

ナシの収穫は第4週に、リンゴの収穫は第6週から第7週に開始される予定である。ほとんどの出荷業者は第8週にガラ品種の出荷を開始するが、出荷の最盛期に達するのは、園地の状況により第9週から第10週頃と見込まれる。

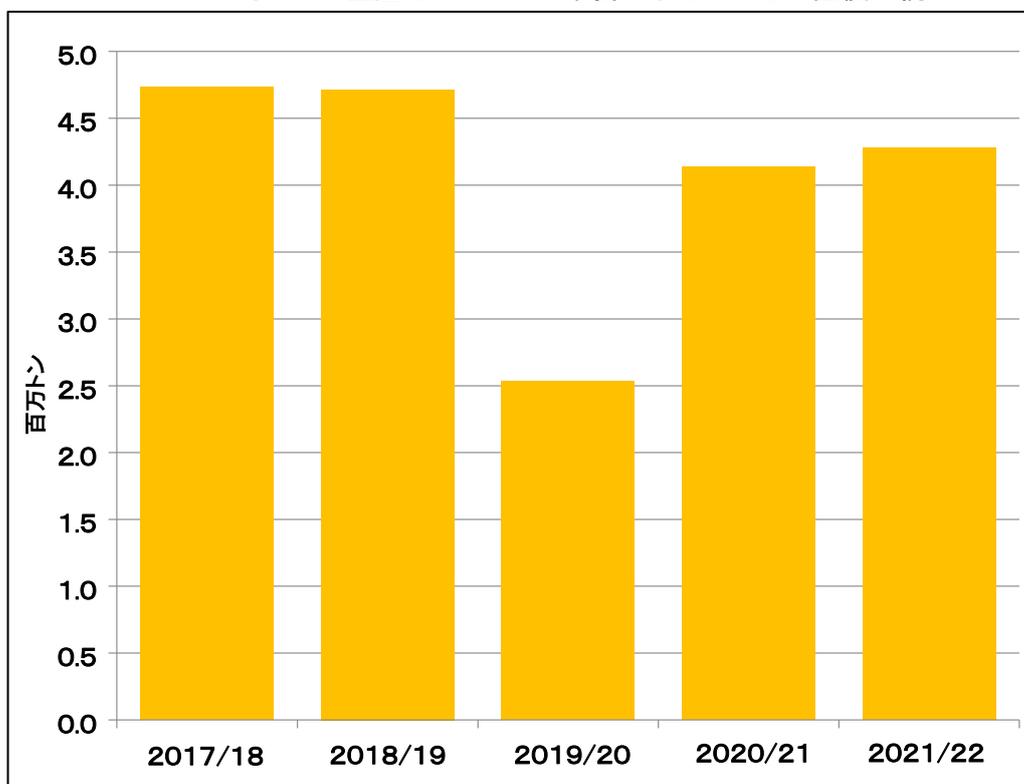
同氏は、「コストの増加を別にすれば、2022年の全体的な見通しは非常に前向きだ」と言う。

## 164. 世界の柑橘類事情と市場動向

米国農務省海外農業局(2022年1月27日)

訳注: この報告書において欧州連合(EU)は関税同盟の27カ国を指し、過去5年分のデータについても英国を含みません。

メキシコのオレンジ生産は2019/20年度の干ばつからの回復が続く



メキシコのオレンジの生産量は、ベラクルス州の天候が平常に回復したため、前年比3%増の430万トンと予測される。2019/20年度の干ばつは、他の柑橘類よりもオレンジの生産に大きな影響を与えた。これは、オレンジでは古木が多く、果実を生産するためにより多くのエネルギーを必要とするためである。メキシコでは、果汁の生産に適したバレンシア、主に生鮮果実として消費されるレーンレイト、生鮮果実として消費され、果汁の生産にも使用されるネーブルの3つの主要オレンジ品種を生産している。オレンジの収穫期は主に11月から5月である。

オレンジはメキシコで栽培される最も一般的な柑橘類で、ベラクルス州が収穫面積の半分近くを占めている。同州の高い標高、栄養が豊富な土壌及び高い湿度は柑橘類の生産に最適である。その他の主要なオレンジ産地は、ヌエボレオン、プエブラ、ソノラ、タマウリパスの各州等である。また、多くの小規模生産者は灌漑技術を欠き、栽培管理が悪く、生産上の問題を悪化させている。生産者の多くは小規模(3ヘクタール以下)で、最適な生産を行うための土壌の健康維持に必要な摘葉や施肥等の果樹の管理作業に投資する資金に乏しく、政府の援助もほとんどない。ベラクルス州では、主に大規模な果汁製造業者が所有する、栽培面積にしてわずか3%の園地でのみ、洗練された灌漑技術が用いられ定期的な施肥が行なわれている。タマウリパス、ヌエボレオン、ユカタンの各州では、灌漑設備を備えた園地が多い。

農業部門は連邦政府によって不可欠な産業とみなされているため、全国の柑橘類の生産はコロナ禍の影響をほとんど受けなかった。農場経営者は、収穫作業中の労働者間の距離の制限や梱包施設でのシフトの追加によるソーシャルディスタンスの確保など、現場で多くの予防措置と安全対策を講じた。一貫したサプライチェーンにより、消費者には安定した価格で十分な供給を行うことができた。

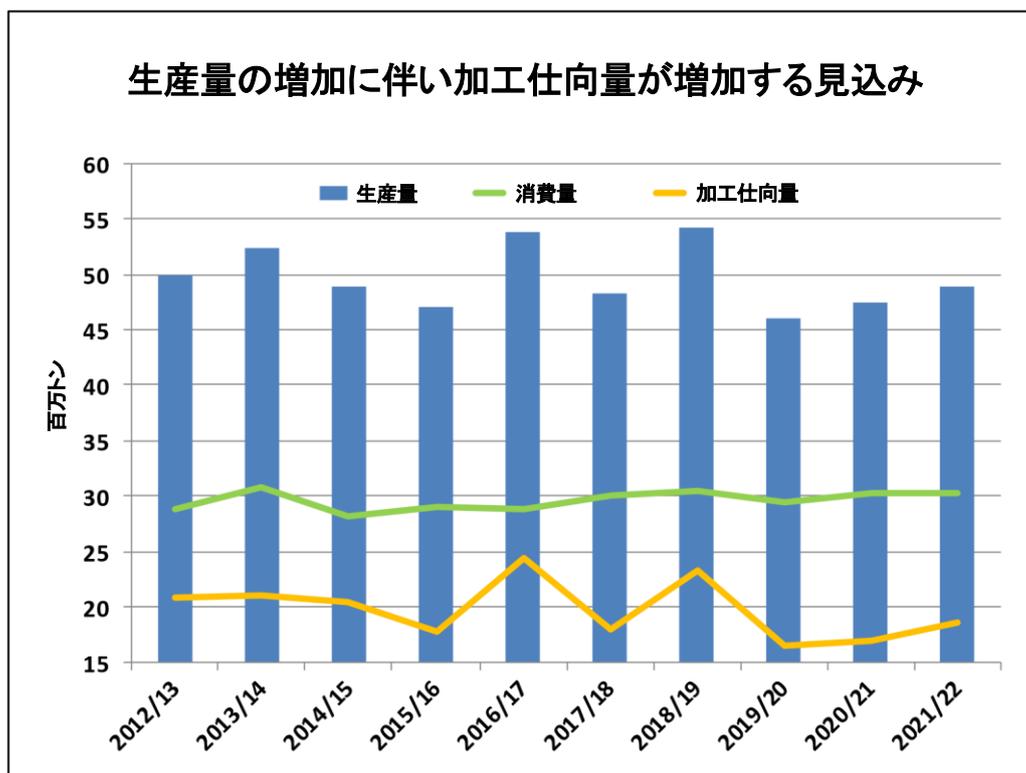
メキシコは引き続き、カンキツグリーンング病(HBL)の問題に直面している。ミカンキジラミが媒介する細菌によって引き起こされるこの病気に感染すると、柑橘類の果実が変形し緑色のままになる。味も影響を受ける可能性があり、果実は生鮮消費用としては市場に出荷できない。HBLに感染した果樹は、最終的には病気に負けて数年以内に枯死する。メキシコでの最初の検出は2009年で、それ以来、国の農業食品安全品質局(SENASICA)が、この病気の監視プログラムを実施している。HBLは、ベラクルス、タマウリパス、サンルイスポシ、ヌエボレオンの各州など柑橘類の産地で検出されている。バハカリフォルニア州では2019年、米国カリフォルニア州との国境地帯でHBLの陽性が検出された。米国では、フロリダ州の商業的柑橘園のあるすべての郡でHBLが検出されており、カリフォルニア州とテキサス州でも見つかった。

オレンジはメキシコで最も多く消費されるスイート系の柑橘類であり、主に食料品店の店頭や路上のジューススタンドで見かける生ジュースに使用される。生産者にとっては通常は果汁製造業者に販売した方が利益が上がるため、国内市場での生鮮オレンジの出回り量は、加工仕向量に大きく依存する。

輸出は米国での生鮮消費の需要が好調なため7万5千トンと予測される。米国に出荷されるオレンジのほとんどは、ソノラ州で栽培されたネーブルオレンジである。メキシコへの輸入は米国からのみで、3万4千トンと予測され、主に国境地帯で生鮮果実として消費される。

### <オレンジ>

世界の2021/22年度のオレンジ生産量は、ブラジル、メキシコ、トルコで天候に恵まれ増収したため、前年比140万トン増の4,880万トンと推定される。これらの国の増収は、エジプト、欧州連合(EU)、米国での減収を上回る。増収分のほとんどが加工に仕向けられるものと見込まれる。



ブラジルの生産量は、開花期の好天により着果が良好であったため、180万トン増の1,650万トンと予測される。生鮮消費量はわずかに増加するが、加工仕向量は16%増加し、出荷量の増加の大半を占めるものと予測される。

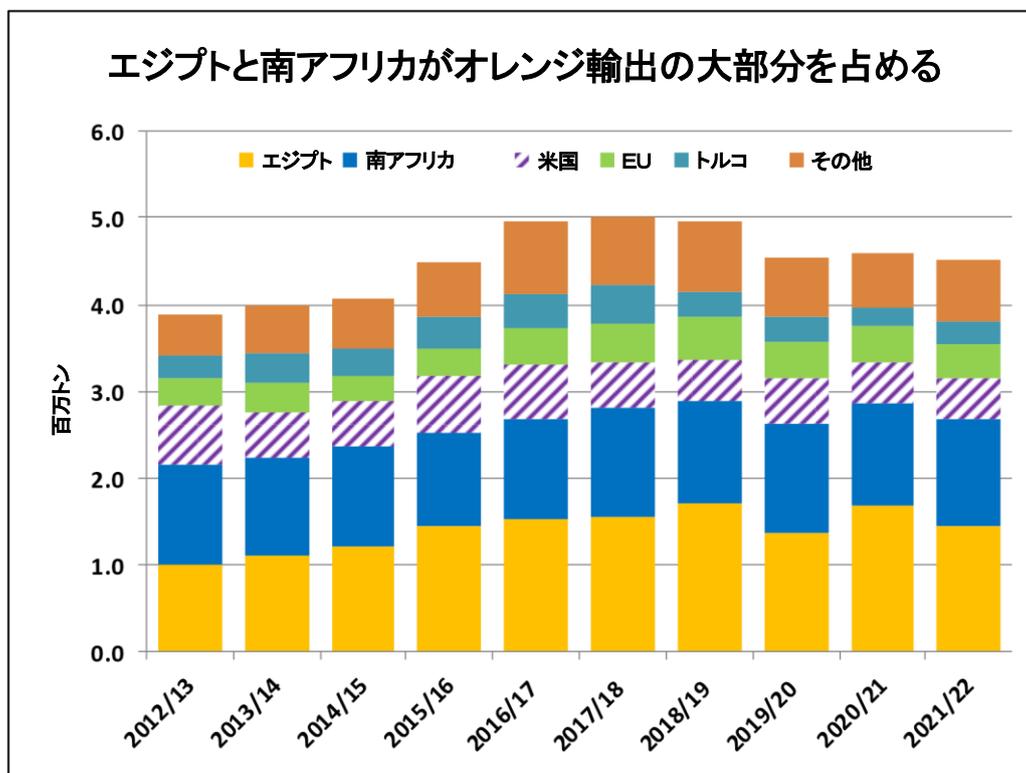
中国の生産量はわずかに増加し、史上最高の760万トンに達するものと予測される。この予測は、江西省のネーブルの新植園地からの出荷量の増加と湖北省及び湖南省の収量の増加が、数年前からカンキツグリーンング病の影響を受けている江西省南部の減少を相殺することに基づいている。生産量の増加に伴い、消

費量と輸出量は増加し、輸入量は減少するものと予想される。

**米国**の生産量は、カリフォルニア州での着果の不良とフロリダ州で続いているカンキツグリーンング病による栽培面積と収量の減少により、11%減で過去最低に近い360万トンと予測される。生産量の減少に伴い、消費量、輸出量、加工仕向量はいずれも減少し、輸入量は消費者需要の弱さから横ばいと予想される。

**EU**の生産量は、悪天候と収穫面積の若干の減少により、6%減の610万トンと予測される。供給量の減少に伴い、生鮮消費量、加工仕向量及び輸出量は減少し、輸入量は増加するものと予想される。エジプトと南アフリカが引き続き主な輸入先になるものと見込まれる。

**エジプト**の生産量は、開花期の悪天候による着果数の減少のため、ほぼ16%減の300万トンと予測される。生産量の減少に伴い、消費量は減少するものと予想される。輸出量は、供給量の減少に伴い減少すると予測されるが、世界的な需要が高いため、輸出の比率が増える(国内消費向けの比率が減少する)ものと予想される。主な輸出市場は、EU、ロシア、サウジアラビア、中国等と見込まれる。



**南アフリカ**の生産量は、良好な天候と栽培面積の増加により、3%増の170万トン(8年ぶりの高水準)に増加するものと予測される。消費量と輸出量は、生産量の増加と高い需要により増加する。EUは引き続き、輸出量の40%以上を占め、最大の市場であると予想される。

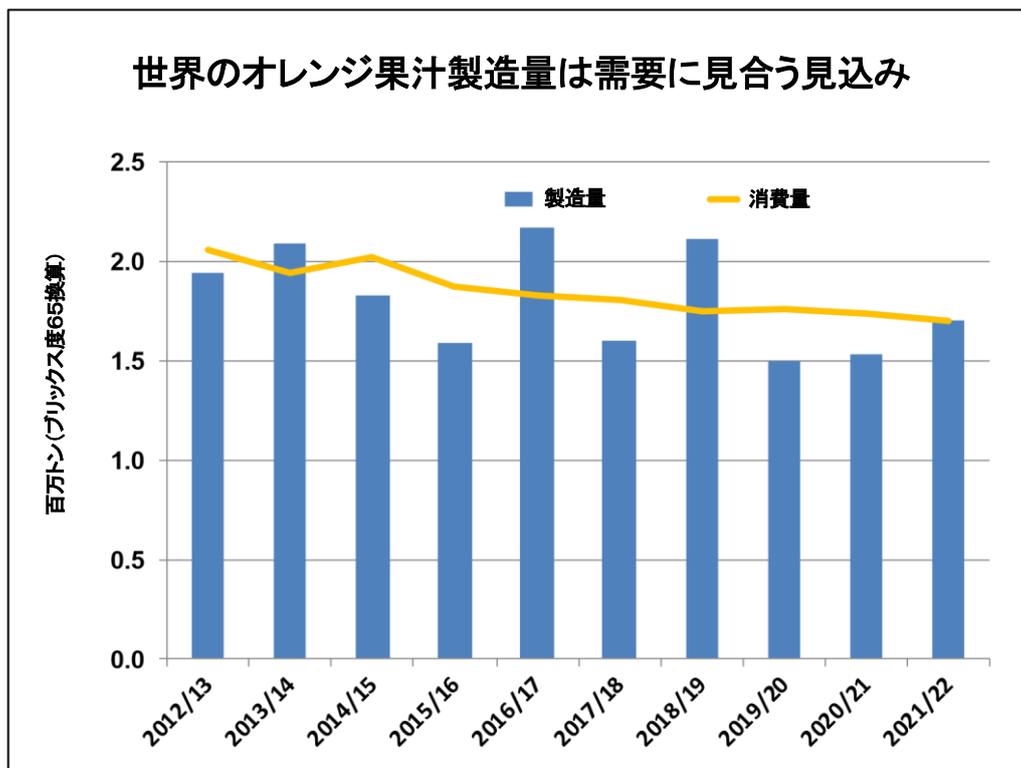
**トルコ**の生産量は、良好な天候と、栽培面積と収量の増加により、40%増の180万トンと予測される。供給量の増加に伴い、消費量と輸出量は増加する。

**モロッコ**の生産量は、良好な天候と新植園地の成園化による収穫面積の増加により、11%増の120万トンと推定される。供給量の増加の結果として、消費量と輸出量も増加するものと予想される。

**アルゼンチン**の生産量は、天候に恵まれ5万トン増の80万トンと予測される。供給量の増加に伴い、消費量は増加するが、輸出量は変わらないものと予想される。

## ＜オレンジ果汁＞

世界の2021/22年度のオレンジ果汁製造量は、11%増の170万トン(ブリックス度65)と予測される。ブラジルとメキシコの製造量の増加が、米国とEUの減少を上回るものと予想される。消費量は製造量に見合うものと予想されるが、長期的な下降傾向は続く。ブラジルからの輸出量が変わらないと予想され、世界の輸出量の増加はわずかであると予測される。



**ブラジル**の製造量は、オレンジの加工仕向量の増加により、16%増の110万トンと予測される。消費量と在庫量も増加するものと予想される。ブラジルは突出して世界最大の生産国であり、世界のオレンジ果汁輸出のほぼ4分の3を占めると予測される。

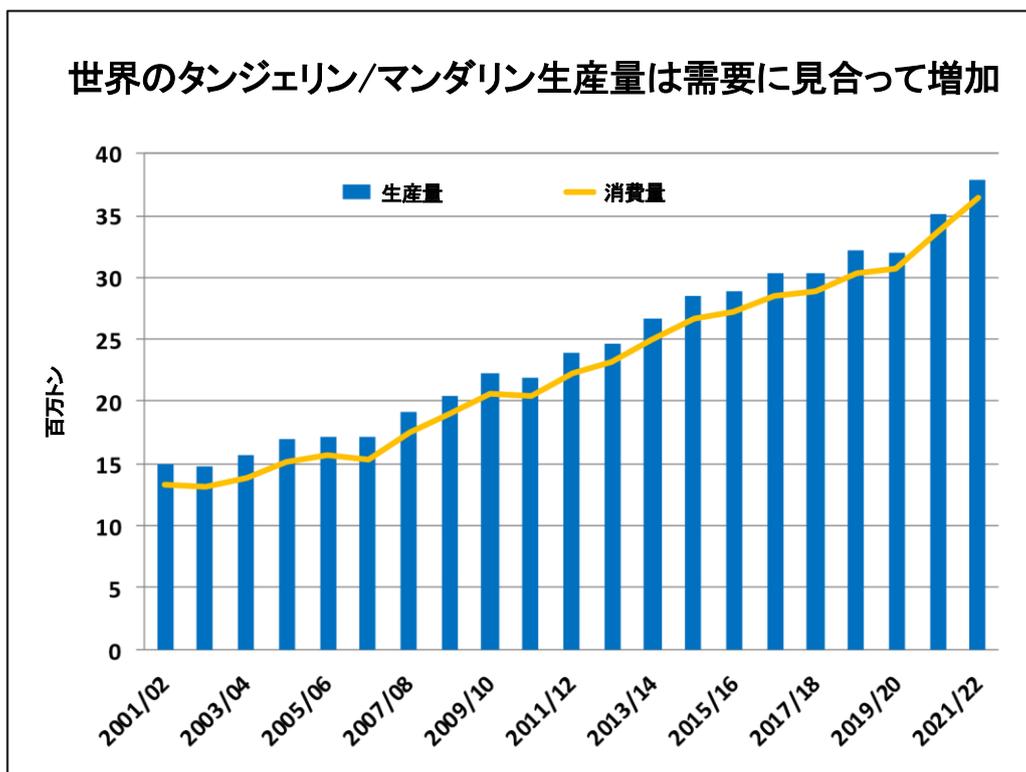
**米国**の製造量は、オレンジの加工仕向量の減少により、7%減で史上最低の21万5千トンと推定される。輸出量は製造量の減少に伴って減少すると予想される。一方、輸入量は大幅に増加するが、消費量の減少を食い止めるには不十分である。

**メキシコ**の製造量は、オレンジの加工仕向量の増加に伴い、25%以上増加して17万トンに達するものと予測される。供給量の増加に伴い、消費量、輸出量、在庫量はそれぞれ増加するものと予想される。

**EU**の製造量は、オレンジの加工仕向量の減少に伴い、10%減の7万トンと予測される。輸入量が増加する結果、消費量はやや増えると予想される。ブラジルが引き続き、EU向けオレンジ果汁の主要輸出国であると予想される。

## <タンジェリン/マンダリン>

世界の2021/22年度のタンジェリン/マンダリン生産量は、中国の増加が米国とEUの減少を上回り、280万トン増で史上最高の3,790万トンと推定される。消費量と輸出量ともに史上最高を記録する。生産量と消費量は、中国、EU、モロッコ、トルコの伸びにより、20年以上にわたって増加傾向にある。



**中国**の生産量は、良好な天候に加えて栽培面積と収量の増加により、300万トン増で史上最高の2,800万トンに達するものと予測される。供給量の増加に伴い消費量と輸出量も史上最高を記録する。フィリピン、タイ、ベトナムが引き続き主要輸出市場となるものと見込まれる。

**EU**の生産量は、スペインでの悪天候により、8%減の300万トンと予想される。供給量の減少に伴い、消費は減少、輸出はわずかに減少、輸入は増加が見込まれる。EUの主要輸入先は、引き続きモロッコと南アフリカであると見込まれる。

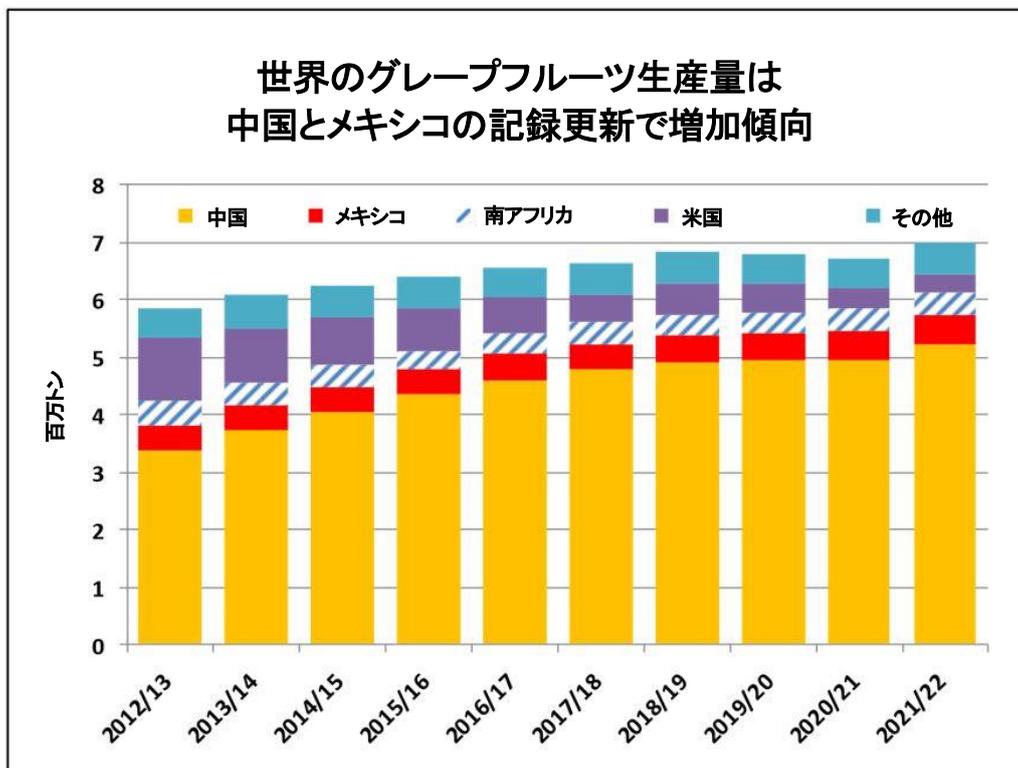
**トルコ**の生産量は、良好な天候に加えて栽培面積と収量の増加により、15万トン増で史上最高の180万トンと予測される。供給量の増加に伴い消費量は増加し、輸出量は記録を更新する。ロシアが引き続き最大の輸出先となるものと予想される。

**モロッコ**の生産量は、好天に恵まれ13%増の140万トンに増加するものと予測される。生産量の増加に伴い消費量は史上最高を記録し、輸出量も増加するものと見込まれる。主要輸出市場は引き続きEUとロシアであると予想される。

**米国**の生産量は、カリフォルニア州の悪天候のため約25%減の80万トン弱となる見込みである。輸入量の増加が生産量の減少を埋め合わせできないため、消費量は減少する。

## <グレープフルーツ>

世界の2021/22年度のグレープフルーツ生産量は、中国とメキシコにおける好天と栽培面積の増加により、4%増で史上最高の700万トンと予測される。供給量の増加に伴い、消費量も史上最高となり、輸出量は反発して増加するものと見込まれる。



**中国**の生産量は、好天と栽培面積の増加により、25万トン増で史上最高の520万トンと見込まれる。供給量の増加に伴って消費量は史上最高を記録し、輸出量は増加するものと見込まれる。最大の輸出市場はEUであると予想される。

**メキシコ**の生産量は、良好な天候と栽培面積の若干の増加により、5%増で史上最高の53万4千トンに達するものと予測される。生産量の増加に伴い消費量は増加して記録を更新する一方、輸出量はやや減少すると予想される。米国とEUが引き続き、最大の輸出市場であると予想される。

**南アフリカ**の生産量は、良好な天候と新植園地の成園化により、微増の37万4千トンと予測される。供給量の増加に伴い消費量は増加し、輸出量は新記録を樹立すると予想される。最大の輸出市場は中国とEUであると予想される。

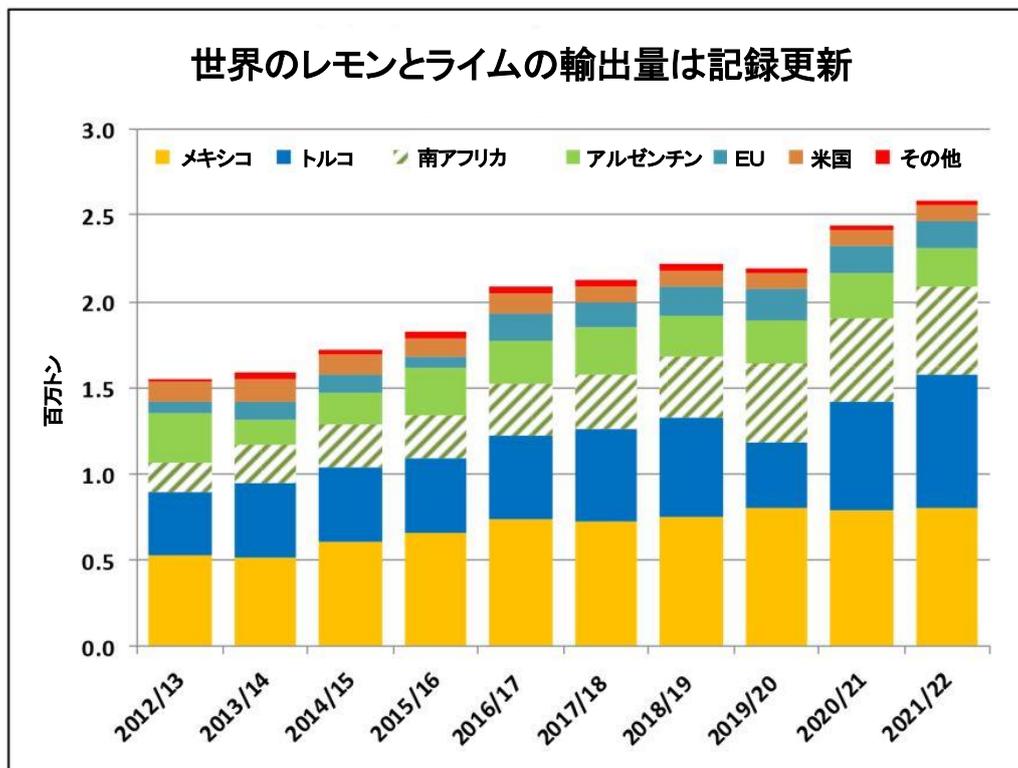
**米国**の生産量は、カリフォルニア州とテキサス州の減収により、11%減の34万3千トンと予想される。供給量の減少に伴い、加工仕向量と輸出量は減少するものと予想される。生産量の減少に伴い輸入量は増加すると予想されるが、消費量は減少するものと見込まれる。

**トルコ**の生産量は、良好な天候と栽培面積の増加により、5%増の25万トンと予測される。生産量の増加に伴い消費量は増加すると予想されるが、輸出は品質の問題により減少すると予想される。EUとロシアが最大の輸出市場になるものと予想される。

**EU**の生産量は、スペインでの生産量の増加が見込まれるため、3%増の10万8千トンと予測される。供給量の増加に伴い、消費量と輸出量は増加するが、輸入量は変わらないものと予想される。

## <レモン/ライム>

世界の2021/22年度のレモンとライムの生産量は、メキシコ、トルコ及び米国での増収により、4%増で史上最高の950万トンと予測される。供給量の増加に伴い、世界の消費量と輸出量も史上最高となるものと見込まれる。一方、加工仕向量は、アルゼンチンとEUでの減収により、減少するものと予想される。



**メキシコ**の生産量は、オアハカ州とベラクルス州の良好な天候と栽培面積の増加により、7%増で史上最高の320万トンと見込まれる。供給量の増加により、消費量と輸出量も史上最高となる。米国は引き続き、メキシコの輸出量のほぼすべてを引き受ける最大の市場であると予想される。

**アルゼンチン**の生産量は、隔年結果の裏年のため、15万トン減の170万トンと予測される。供給量の減少に伴い、消費量、加工仕向量及び輸出量はすべて減少する。

**EU**の生産量は、スペインとイタリアの悪天候のため、9%減の160万トンと予測される。生産量の減少に伴い、消費量と加工仕向量が減少し、輸入量が増加するものと予想される。

**トルコ**の生産量は、良好な天候に加えて栽培面積と収量の増加により、30万トン増で史上最高の140万トンに達するものと予測される。供給量の急増に伴い、消費量は33%、輸出量は25%増加し、新記録となる見込みである。ロシアとイラクが引き続き最大の輸出市場であると予想される。

**米国**の生産量は、カリフォルニア州の増収により、10%以上の増となる88万5千トンと予測される。収穫量の増加に伴い、消費量と輸出量が増加し、輸入量は減少するものと予想される。

**南アフリカ**の生産量は、良好な天候と栽培面積の増加により、4%増で史上最高の65万トンに増加するものと予測される。6年連続で生産量が記録を更新したことから、輸出量も6年連続の記録更新となる見込みである。EU向けが引き続き輸出の約40%を占める見込みである。

オレンジ(生鮮) 主要国の生産需給統計 (千トン)

|                | 2016/17       | 2017/18       | 2018/19       | 2019/20       | 2020/21       | 2021/22<br>1月予測 |            | 2016/17      | 2017/18      | 2018/19      | 2019/20      | 2020/21      | 2021/22<br>1月予測 |
|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| <b>生産量</b>     |               |               |               |               |               |                 | <b>輸出量</b> |              |              |              |              |              |                 |
| ブラジル           | 20,890        | 15,953        | 19,298        | 14,870        | 14,712        | 16,524          | エジプト       | 1,520        | 1,540        | 1,700        | 1,375        | 1,670        | 1,450           |
| 中国             | 7,000         | 7,300         | 7,200         | 7,400         | 7,500         | 7,600           | 南アフリカ      | 1,171        | 1,279        | 1,186        | 1,260        | 1,200        | 1,240           |
| EU             | 6,739         | 6,270         | 6,800         | 6,268         | 6,488         | 6,101           | 米国         | 613          | 511          | 479          | 507          | 471          | 450             |
| メキシコ           | 4,630         | 4,737         | 4,716         | 2,530         | 4,136         | 4,280           | EU         | 419          | 443          | 494          | 417          | 410          | 400             |
| 米国             | 4,616         | 3,515         | 4,923         | 4,766         | 4,015         | 3,560           | トルコ        | 397          | 454          | 298          | 292          | 220          | 265             |
| エジプト           | 3,000         | 3,120         | 3,600         | 3,200         | 3,570         | 3,000           | オーストラリア    | 191          | 186          | 198          | 181          | 160          | 190             |
| トルコ            | 1,850         | 1,905         | 1,900         | 1,700         | 1,300         | 1,820           | モロッコ       | 165          | 145          | 155          | 117          | 96           | 120             |
| 南アフリカ          | 1,363         | 1,586         | 1,590         | 1,620         | 1,650         | 1,700           | 中国         | 59           | 65           | 55           | 52           | 100          | 110             |
| モロッコ           | 1,037         | 1,021         | 1,183         | 806           | 1,039         | 1,150           | アルゼンチン     | 80           | 60           | 85           | 83           | 85           | 85              |
| ベトナム           | 768           | 855           | 1,017         | 1,017         | 1,017         | 1,017           | 香港         | 176          | 189          | 167          | 117          | 60           | 80              |
| アルゼンチン         | 700           | 750           | 800           | 700           | 750           | 800             | メキシコ       | 76           | 72           | 60           | 65           | 72           | 75              |
| オーストラリア        | 526           | 528           | 515           | 485           | 525           | 535             | サウジアラビア    | 15           | 13           | 15           | 12           | 11           | 11              |
| コスタリカ          | 322           | 315           | 295           | 285           | 290           | 300             | ブラジル       | 33           | 20           | 4            | 8            | 4            | 8               |
| グアテマラ          | 177           | 178           | 178           | 180           | 180           | 180             | ロシア        | 5            | 5            | 5            | 6            | 6            | 5               |
| イラク            | 73            | 75            | 73            | 134           | 134           | 130             | イギリス       | 30           | 29           | 32           | 38           | 5            | 5               |
| その他            | 168           | 166           | 153           | 147           | 142           | 141             | その他        | 16           | 13           | 15           | 10           | 12           | 11              |
| <b>合計</b>      | <b>53,859</b> | <b>48,274</b> | <b>54,241</b> | <b>46,108</b> | <b>47,448</b> | <b>48,838</b>   | <b>合計</b>  | <b>4,966</b> | <b>5,024</b> | <b>4,948</b> | <b>4,540</b> | <b>4,582</b> | <b>4,505</b>    |
| <b>生鮮国内消費量</b> |               |               |               |               |               |                 | <b>輸入量</b> |              |              |              |              |              |                 |
| 中国             | 6,718         | 7,058         | 7,059         | 7,236         | 7,295         | 7,370           | EU         | 861          | 909          | 881          | 960          | 858          | 1,000           |
| EU             | 5,690         | 5,582         | 5,878         | 5,963         | 5,930         | 5,793           | ロシア        | 430          | 463          | 462          | 432          | 477          | 480             |
| ブラジル           | 4,761         | 4,982         | 4,961         | 4,967         | 4,573         | 4,749           | サウジアラビア    | 389          | 393          | 417          | 381          | 430          | 435             |
| メキシコ           | 2,473         | 2,785         | 2,486         | 1,596         | 2,749         | 2,539           | イギリス       | 291          | 268          | 275          | 264          | 246          | 245             |
| トルコ            | 1,402         | 1,386         | 1,539         | 1,347         | 1,018         | 1,488           | 中国         | 357          | 393          | 434          | 288          | 245          | 230             |
| エジプト           | 1,380         | 1,480         | 1,540         | 1,490         | 1,550         | 1,250           | バングラデシュ    | 155          | 239          | 172          | 218          | 230          | 227             |
| 米国             | 1,184         | 1,216         | 1,259         | 1,409         | 1,274         | 1,100           | アラブ首長国連邦   | 204          | 181          | 190          | 234          | 220          | 220             |
| ベトナム           | 811           | 917           | 1,068         | 1,062         | 1,092         | 1,097           | 米国         | 182          | 222          | 193          | 200          | 218          | 220             |
| モロッコ           | 822           | 826           | 968           | 654           | 893           | 975             | 香港         | 315          | 347          | 332          | 270          | 170          | 193             |
| アルゼンチン         | 350           | 320           | 410           | 429           | 480           | 516             | カナダ        | 183          | 190          | 186          | 198          | 170          | 168             |
| ロシア            | 425           | 458           | 457           | 426           | 471           | 475             | イラク        | 185          | 262          | 193          | 169          | 175          | 143             |
| サウジアラビア        | 374           | 380           | 402           | 369           | 419           | 424             | 韓国         | 143          | 141          | 126          | 116          | 110          | 105             |
| イラク            | 258           | 337           | 266           | 303           | 309           | 273             | マレーシア      | 98           | 92           | 106          | 87           | 95           | 103             |
| 英国             | 261           | 239           | 243           | 226           | 241           | 240             | ウクライナ      | 73           | 88           | 95           | 89           | 88           | 90              |
| バングラデシュ        | 158           | 242           | 175           | 221           | 230           | 227             | 日本         | 92           | 83           | 85           | 91           | 86           | 84              |
| その他            | 1,780         | 1,765         | 1,773         | 1,788         | 1,749         | 1,743           | ベトナム       | 43           | 62           | 51           | 45           | 75           | 80              |
| <b>合計</b>      | <b>28,847</b> | <b>29,973</b> | <b>30,484</b> | <b>29,486</b> | <b>30,273</b> | <b>30,259</b>   | スイス        | 68           | 70           | 70           | 73           | 74           | 75              |
| <b>加工仕向量</b>   |               |               |               |               |               |                 | コスタリカ      | 70           | 69           | 66           | 71           | 68           | 71              |
| ブラジル           | 16,116        | 10,975        | 14,362        | 9,915         | 10,159        | 11,791          | グアテマラ      | 36           | 19           | 34           | 38           | 55           | 44              |
| 米国             | 3,001         | 2,010         | 3,378         | 3,050         | 2,488         | 2,230           | トルコ        | 49           | 33           | 42           | 49           | 43           | 43              |
| メキシコ           | 2,100         | 1,900         | 2,200         | 900           | 1,350         | 1,700           | シンガポール     | 42           | 43           | 44           | 42           | 41           | 42              |
| EU             | 1,491         | 1,154         | 1,309         | 848           | 1,006         | 908             | メキシコ       | 19           | 20           | 30           | 31           | 35           | 34              |
| 南アフリカ          | 123           | 239           | 333           | 282           | 363           | 368             | ノルウェー      | 35           | 32           | 33           | 30           | 32           | 33              |
| 中国             | 580           | 570           | 520           | 400           | 350           | 350             | ブラジル       | 20           | 24           | 29           | 20           | 24           | 24              |
| エジプト           | 100           | 100           | 360           | 335           | 350           | 300             | オーストラリア    | 21           | 14           | 16           | 16           | 15           | 15              |
| オーストラリア        | 214           | 215           | 210           | 195           | 250           | 225             | その他の       | 10           | 15           | 13           | 8            | 8            | 8               |
| コスタリカ          | 238           | 232           | 216           | 213           | 215           | 220             | <b>合計</b>  | <b>4,371</b> | <b>4,672</b> | <b>4,575</b> | <b>4,420</b> | <b>4,288</b> | <b>4,412</b>    |
| アルゼンチン         | 273           | 375           | 307           | 190           | 186           | 200             |            |              |              |              |              |              |                 |
| その他            | 181           | 179           | 189           | 174           | 164           | 194             |            |              |              |              |              |              |                 |
| <b>合計</b>      | <b>24,417</b> | <b>17,949</b> | <b>23,384</b> | <b>16,502</b> | <b>16,881</b> | <b>18,486</b>   |            |              |              |              |              |              |                 |

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の11月から第2年次の10月の期間に該当する。

南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる次の期間である。

アルゼンチン 1月から12月、南アフリカ 2月から翌年1月、オーストラリア 4月から翌年3月、ブラジル 7月から翌年6月

輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

オレンジ果汁 主要国の生産需給統計  
(Brix65換算、千トン)

|              | 2016/17      | 2017/18      | 2018/19      | 2019/20      | 2020/21      | 2021/22<br>1月予測 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| <b>製造量</b>   |              |              |              |              |              |                 |
| ブラジル         | 1,447        | 1,004        | 1,324        | 938          | 967          | 1,123           |
| 米国           | 303          | 187          | 329          | 297          | 230          | 215             |
| メキシコ         | 210          | 190          | 220          | 90           | 135          | 170             |
| EU           | 116          | 89           | 101          | 66           | 78           | 70              |
| 南アフリカ        | 19           | 49           | 63           | 49           | 55           | 56              |
| 中国           | 45           | 44           | 40           | 31           | 27           | 27              |
| オーストラリア      | 17           | 17           | 16           | 15           | 19           | 17              |
| その他          | 18           | 17           | 18           | 16           | 15           | 18              |
| <b>合計</b>    | <b>2,174</b> | <b>1,596</b> | <b>2,112</b> | <b>1,502</b> | <b>1,526</b> | <b>1,696</b>    |
| <b>国内消費量</b> |              |              |              |              |              |                 |
| EU           | 665          | 653          | 627          | 589          | 581          | 585             |
| 米国           | 581          | 572          | 530          | 556          | 529          | 497             |
| 英国           | 167          | 161          | 163          | 196          | 168          | 168             |
| 中国           | 97           | 110          | 108          | 89           | 108          | 108             |
| カナダ          | 86           | 85           | 85           | 87           | 80           | 80              |
| ブラジル         | 38           | 40           | 52           | 63           | 70           | 75              |
| 日本           | 72           | 73           | 70           | 60           | 68           | 49              |
| その他          | 117          | 107          | 110          | 120          | 133          | 137             |
| <b>合計</b>    | <b>1,823</b> | <b>1,801</b> | <b>1,745</b> | <b>1,760</b> | <b>1,737</b> | <b>1,699</b>    |
| <b>期末在庫</b>  |              |              |              |              |              |                 |
| 米国           | 268          | 261          | 376          | 293          | 246          | 246             |
| ブラジル         | 185          | 160          | 312          | 151          | 48           | 96              |
| 日本           | 12           | 23           | 26           | 40           | 38           | 34              |
| 南アフリカ        | 0            | 6            | 36           | 39           | 40           | 28              |
| EU           | 15           | 15           | 15           | 15           | 15           | 15              |
| その他          | 4            | 7            | 25           | 8            | 9            | 11              |
| <b>合計</b>    | <b>485</b>   | <b>472</b>   | <b>791</b>   | <b>546</b>   | <b>395</b>   | <b>430</b>      |
| <b>輸出量</b>   |              |              |              |              |              |                 |
| ブラジル         | 1,230        | 989          | 1,120        | 1,036        | 1,000        | 1,000           |
| メキシコ         | 204          | 182          | 195          | 105          | 130          | 161             |
| EU           | 170          | 161          | 157          | 162          | 132          | 135             |
| 南アフリカ        | 28           | 39           | 30           | 30           | 30           | 40              |
| 米国           | 57           | 35           | 30           | 34           | 31           | 28              |
| その他          | 59           | 69           | 62           | 43           | 35           | 32              |
| <b>合計</b>    | <b>1,747</b> | <b>1,475</b> | <b>1,593</b> | <b>1,410</b> | <b>1,358</b> | <b>1,395</b>    |
| <b>輸入量</b>   |              |              |              |              |              |                 |
| EU           | 719          | 725          | 683          | 685          | 635          | 650             |
| 米国           | 301          | 413          | 346          | 210          | 283          | 310             |
| 英国           | 192          | 191          | 191          | 214          | 175          | 175             |
| 中国           | 55           | 68           | 70           | 60           | 83           | 84              |
| カナダ          | 90           | 86           | 85           | 87           | 80           | 80              |
| 日本           | 71           | 84           | 75           | 76           | 68           | 45              |
| ロシア          | 35           | 31           | 33           | 32           | 36           | 35              |
| その他          | 64           | 70           | 63           | 59           | 58           | 55              |
| <b>合計</b>    | <b>1,528</b> | <b>1,667</b> | <b>1,546</b> | <b>1,424</b> | <b>1,418</b> | <b>1,434</b>    |

ブリックス度65の1トン(メートル法)はブリックス度45の344.8ガロン及び天然果汁の1,392.6ガロンに相当する。

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間に該当する。

南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる次の期間である。

南アフリカ 2月~1月、オーストラリア 4月~3月、ブラジル 7月~6月

輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 主要国の生産需給統計  
(千トン)

|                | 2016/17       | 2017/18       | 2018/19       | 2019/20       | 2020/21       | 2021/22<br>1月予測 |
|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| <b>生産量</b>     |               |               |               |               |               |                 |
| 中国             | 20,600        | 21,200        | 22,000        | 23,000        | 25,000        | 28,000          |
| EU             | 3,421         | 2,913         | 3,209         | 2,889         | 3,206         | 2,965           |
| トルコ            | 1,300         | 1,550         | 1,650         | 1,400         | 1,600         | 1,750           |
| モロッコ           | 1,278         | 1,185         | 1,375         | 926           | 1,205         | 1,360           |
| 日本             | 1,070         | 968           | 994           | 962           | 976           | 924             |
| 米国             | 933           | 729           | 1,004         | 856           | 1,058         | 797             |
| 南アフリカ          | 261           | 356           | 375           | 461           | 567           | 630             |
| 韓国             | 600           | 577           | 608           | 631           | 655           | 610             |
| アルゼンチン         | 320           | 350           | 430           | 330           | 380           | 370             |
| オーストラリア        | 160           | 157           | 175           | 160           | 180           | 190             |
| その他            | 403           | 340           | 394           | 357           | 346           | 337             |
| <b>合計</b>      | <b>30,346</b> | <b>30,325</b> | <b>32,214</b> | <b>31,972</b> | <b>35,173</b> | <b>37,933</b>   |
| <b>生鮮国内消費量</b> |               |               |               |               |               |                 |
| 中国             | 19,416        | 20,058        | 20,735        | 21,768        | 23,577        | 26,490          |
| EU             | 2,953         | 2,650         | 2,870         | 2,694         | 3,001         | 2,813           |
| 米国             | 862           | 876           | 956           | 1,004         | 1,034         | 952             |
| ロシア            | 841           | 836           | 903           | 819           | 930           | 935             |
| 日本             | 991           | 904           | 949           | 902           | 930           | 877             |
| モロッコ           | 761           | 646           | 752           | 515           | 742           | 860             |
| トルコ            | 614           | 836           | 969           | 614           | 739           | 784             |
| その他            | 2,096         | 2,070         | 2,290         | 2,319         | 2,738         | 2,707           |
| <b>合計</b>      | <b>28,534</b> | <b>28,876</b> | <b>30,424</b> | <b>30,635</b> | <b>33,691</b> | <b>36,418</b>   |
| <b>加工仕向量</b>   |               |               |               |               |               |                 |
| 中国             | 650           | 640           | 620           | 620           | 630           | 680             |
| EU             | 372           | 226           | 271           | 272           | 277           | 262             |
| 米国             | 309           | 171           | 317           | 198           | 343           | 200             |
| 日本             | 98            | 79            | 64            | 80            | 68            | 70              |
| 韓国             | 56            | 72            | 63            | 77            | 78            | 60              |
| アルゼンチン         | 110           | 116           | 113           | 76            | 60            | 55              |
| 南アフリカ          | 24            | 75            | 59            | 47            | 51            | 53              |
| その他            | 59            | 36            | 46            | 44            | 37            | 34              |
| <b>合計</b>      | <b>1,678</b>  | <b>1,415</b>  | <b>1,553</b>  | <b>1,414</b>  | <b>1,544</b>  | <b>1,414</b>    |
| <b>輸出量</b>     |               |               |               |               |               |                 |
| トルコ            | 710           | 739           | 712           | 827           | 898           | 1,000           |
| 中国             | 584           | 556           | 706           | 657           | 857           | 900             |
| 南アフリカ          | 210           | 261           | 296           | 389           | 490           | 550             |
| モロッコ           | 517           | 539           | 623           | 411           | 463           | 500             |
| EU             | 406           | 373           | 407           | 330           | 350           | 340             |
| オーストラリア        | 70            | 61            | 87            | 61            | 80            | 90              |
| イスラエル          | 120           | 88            | 102           | 98            | 76            | 90              |
| その他            | 83            | 76            | 87            | 86            | 114           | 108             |
| <b>合計</b>      | <b>2,700</b>  | <b>2,693</b>  | <b>3,020</b>  | <b>2,859</b>  | <b>3,328</b>  | <b>3,578</b>    |
| <b>輸入量</b>     |               |               |               |               |               |                 |
| ロシア            | 841           | 836           | 903           | 819           | 930           | 935             |
| EU             | 310           | 336           | 339           | 407           | 422           | 450             |
| ベトナム           | 118           | 143           | 160           | 254           | 405           | 420             |
| 米国             | 274           | 353           | 314           | 391           | 374           | 400             |
| イギリス           | 313           | 293           | 292           | 298           | 301           | 300             |
| ウクライナ          | 138           | 154           | 171           | 184           | 198           | 200             |
| フィリピン          | 68            | 87            | 101           | 112           | 167           | 170             |
| カナダ            | 154           | 154           | 157           | 159           | 163           | 165             |
| タイ             | 116           | 73            | 85            | 71            | 135           | 135             |
| インドネシア         | 69            | 60            | 73            | 69            | 98            | 100             |
| その他            | 165           | 170           | 188           | 172           | 197           | 202             |
| <b>合計</b>      | <b>2,566</b>  | <b>2,659</b>  | <b>2,783</b>  | <b>2,936</b>  | <b>3,390</b>  | <b>3,477</b>    |

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間に該当する。

南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われる。

輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

グレープフルーツ(生鮮) 主要国の生産需給統計  
(千トン)

|                | 2016/17      | 2017/18      | 2018/19      | 2019/20      | 2020/21      | 2021/22<br>1月予測 |
|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| <b>生産量</b>     |              |              |              |              |              |                 |
| 中国             | 4,600        | 4,800        | 4,900        | 4,930        | 4,950        | 5,200           |
| メキシコ           |              | 442,418      | 473          | 491          | 510          | 534             |
| 南アフリカ          | 354          | 403          | 372          | 345          | 367          | 374             |
| 米国             | 633          | 462          | 548          | 517          | 386          | 343             |
| トルコ            | 253          | 260          | 250          | 249          | 238          | 250             |
| イスラエル          | 149          | 144          | 139          | 143          | 121          | 130             |
| EU             | 106          | 107          | 108          | 95           | 105          | 108             |
| その他            | 25           | 26           | 26           | 27           | 27           | 27              |
| <b>合計</b>      | <b>6,562</b> | <b>6,620</b> | <b>6,816</b> | <b>6,797</b> | <b>6,704</b> | <b>6,966</b>    |
| <b>生鮮国内消費量</b> |              |              |              |              |              |                 |
| 中国             | 4,460        | 4,670        | 4,713        | 4,797        | 4,867        | 5,070           |
| メキシコ           | 335          | 311          | 361          | 376          | 395          | 408             |
| EU             | 364          | 413          | 366          | 374          | 358          | 360             |
| 米国             | 282          | 231          | 213          | 250          | 221          | 203             |
| トルコ            | 131          | 71           | 112          | 65           | 77           | 98              |
| ロシア            | 106          | 134          | 158          | 119          | 77           | 79              |
| 日本             | 108          | 96           | 89           | 86           | 79           | 75              |
| ウクライナ          | 15           | 27           | 29           | 39           | 40           | 40              |
| カナダ            | 37           | 35           | 35           | 37           | 37           | 37              |
| 英国             | 31           | 30           | 26           | 28           | 27           | 27              |
| その他            | 26           | 27           | 29           | 28           | 31           | 33              |
| <b>合計</b>      | <b>5,895</b> | <b>6,045</b> | <b>6,131</b> | <b>6,199</b> | <b>6,209</b> | <b>6,430</b>    |
| <b>加工仕向量</b>   |              |              |              |              |              |                 |
| 米国             | 268          | 191          | 292          | 226          | 138          | 130             |
| メキシコ           | 88           | 90           | 94           | 95           | 94           | 105             |
| 南アフリカ          | 118          | 111          | 107          | 94           | 69           | 65              |
| 中国             | 0            | 0            | 0            | 0            | 50           | 60              |
| イスラエル          | 80           | 68           | 77           | 78           | 60           | 60              |
| その他            | 20           | 19           | 21           | 17           | 19           | 19              |
| <b>合計</b>      | <b>574</b>   | <b>479</b>   | <b>591</b>   | <b>510</b>   | <b>430</b>   | <b>439</b>      |
| <b>輸出量</b>     |              |              |              |              |              |                 |
| 南アフリカ          | 231          | 288          | 258          | 244          | 290          | 300             |
| 中国             | 180          | 208          | 248          | 209          | 158          | 200             |
| トルコ            | 125          | 189          | 138          | 184          | 161          | 152             |
| イスラエル          | 61           | 68           | 54           | 59           | 54           | 63              |
| 米国             | 108          | 58           | 57           | 56           | 48           | 35              |
| EU             | 26           | 27           | 29           | 27           | 26           | 27              |
| 香港             | 15           | 32           | 21           | 24           | 26           | 26              |
| その他            | 22           | 20           | 24           | 26           | 25           | 24              |
| <b>合計</b>      | <b>768</b>   | <b>890</b>   | <b>829</b>   | <b>829</b>   | <b>788</b>   | <b>827</b>      |
| <b>輸入量</b>     |              |              |              |              |              |                 |
| EU             | 303          | 350          | 306          | 320          | 295          | 295             |
| 中国             | 40           | 78           | 61           | 76           | 125          | 130             |
| ロシア            | 106          | 134          | 158          | 121          | 78           | 80              |
| 日本             | 84           | 71           | 64           | 61           | 54           | 50              |
| ウクライナ          | 15           | 27           | 29           | 39           | 40           | 40              |
| カナダ            | 37           | 35           | 35           | 37           | 37           | 37              |
| 香港             | 20           | 37           | 27           | 31           | 34           | 35              |
| 英国             | 33           | 32           | 30           | 31           | 28           | 28              |
| 米国             | 25           | 18           | 14           | 15           | 21           | 25              |
| スイス            | 7            | 7            | 77           | 7            | 7            | 7               |
| その他            | 5            | 5            | 4            | 3            | 4            | 3               |
| <b>合計</b>      | <b>675</b>   | <b>794</b>   | <b>735</b>   | <b>741</b>   | <b>723</b>   | <b>730</b>      |

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月、南半球では同4月から3月の期間に該当する。

南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われる。

輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

レモン/ライム(生鮮) 主要国の生産需給統計  
(千トン)

|                | 2016/17      | 2017/18      | 2018/19      | 2019/20      | 2020/21      | 2021/22<br>1月予測 |
|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| <b>生産量</b>     |              |              |              |              |              |                 |
| メキシコ           | 2,513        | 2,311        | 2,686        | 2,851        | 2,998        | 3,217           |
| アルゼンチン         | 1,450        | 1,770        | 1,780        | 1,491        | 1,800        | 1,650           |
| EU             | 1,535        | 1,472        | 1,683        | 1,488        | 1,720        | 1,567           |
| トルコ            | 850          | 1,000        | 1,100        | 950          | 1,100        | 1,400           |
| 米国             | 800          | 806          | 909          | 983          | 802          | 885             |
| 南アフリカ          | 430          | 446          | 492          | 620          | 625          | 650             |
| イスラエル          | 67           | 65           | 68           | 75           | 53           | 70              |
| その他            | 99           | 91           | 92           | 96           | 97           | 93              |
| <b>合計</b>      | <b>7,744</b> | <b>7,961</b> | <b>8,810</b> | <b>8,554</b> | <b>9,195</b> | <b>9,532</b>    |
| <b>生鮮国内消費量</b> |              |              |              |              |              |                 |
| メキシコ           | 1,397        | 1,190        | 1,542        | 1,549        | 1,858        | 2,023           |
| EU             | 1,551        | 1,649        | 1,631        | 1,521        | 1,724        | 1,694           |
| 米国             | 1,222        | 1,222        | 1,361        | 1,407        | 1,420        | 1,435           |
| トルコ            | 319          | 417          | 476          | 520          | 433          | 578             |
| ロシア            | 210          | 216          | 229          | 221          | 255          | 256             |
| イギリス           | 152          | 156          | 157          | 162          | 149          | 148             |
| サウジアラビア        | 128          | 131          | 126          | 144          | 132          | 135             |
| アルゼンチン         | 90           | 151          | 170          | 160          | 150          | 130             |
| カナダ            | 95           | 98           | 102          | 109          | 109          | 110             |
| アラブ首長国連邦       | 93           | 84           | 106          | 98           | 100          | 95              |
| その他            | 253          | 254          | 262          | 269          | 265          | 288             |
| <b>合計</b>      | <b>5,510</b> | <b>5,568</b> | <b>6,162</b> | <b>6,160</b> | <b>6,595</b> | <b>6,892</b>    |
| <b>加工仕向量</b>   |              |              |              |              |              |                 |
| アルゼンチン         | 1,122        | 1,348        | 1,377        | 1,078        | 1,388        | 1,291           |
| メキシコ           | 388          | 396          | 397          | 507          | 350          | 400             |
| EU             | 284          | 232          | 376          | 314          | 392          | 283             |
| 米国             | 164          | 189          | 240          | 301          | 158          | 200             |
| 南アフリカ          | 115          | 113          | 122          | 138          | 110          | 114             |
| トルコ            | 40           | 50           | 50           | 51           | 50           | 50              |
| 日本             | 31           | 31           | 32           | 28           | 28           | 28              |
| その他            | 4            | 4            | 6            | 9            | 3            | 5               |
| <b>合計</b>      | <b>2,148</b> | <b>2,363</b> | <b>2,600</b> | <b>2,426</b> | <b>2,479</b> | <b>2,371</b>    |
| <b>輸出量</b>     |              |              |              |              |              |                 |
| メキシコ           | 731          | 729          | 751          | 798          | 795          | 798             |
| トルコ            | 495          | 536          | 576          | 382          | 620          | 775             |
| 南アフリカ          | 299          | 315          | 350          | 458          | 490          | 510             |
| アルゼンチン         | 241          | 272          | 234          | 256          | 264          | 230             |
| EU             | 165          | 144          | 172          | 174          | 155          | 150             |
| 米国             | 112          | 97           | 96           | 93           | 85           | 90              |
| 香港             | 20           | 13           | 9            | 7            | 10           | 10              |
| その他            | 22           | 17           | 24           | 28           | 18           | 18              |
| <b>合計</b>      | <b>2,085</b> | <b>2,123</b> | <b>2,212</b> | <b>2,196</b> | <b>2,437</b> | <b>2,581</b>    |
| <b>輸入量</b>     |              |              |              |              |              |                 |
| 米国             | 698          | 702          | 788          | 818          | 861          | 840             |
| EU             | 465          | 553          | 496          | 521          | 551          | 560             |
| ロシア            | 213          | 219          | 232          | 225          | 259          | 260             |
| イギリス           | 155          | 160          | 161          | 169          | 151          | 150             |
| サウジアラビア        | 128          | 131          | 126          | 144          | 132          | 135             |
| カナダ            | 95           | 98           | 102          | 109          | 109          | 110             |
| アラブ首長国連邦       | 87           | 79           | 101          | 93           | 95           | 95              |
| ウクライナ          | 47           | 50           | 55           | 59           | 65           | 65              |
| 日本             | 53           | 53           | 59           | 48           | 44           | 50              |
| 香港             | 47           | 39           | 36           | 31           | 37           | 37              |
| その他            | 11           | 9            | 8            | 11           | 12           | 10              |
| <b>合計</b>      | <b>1,999</b> | <b>2,093</b> | <b>2,164</b> | <b>2,228</b> | <b>2,316</b> | <b>2,312</b>    |

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間に該当する。

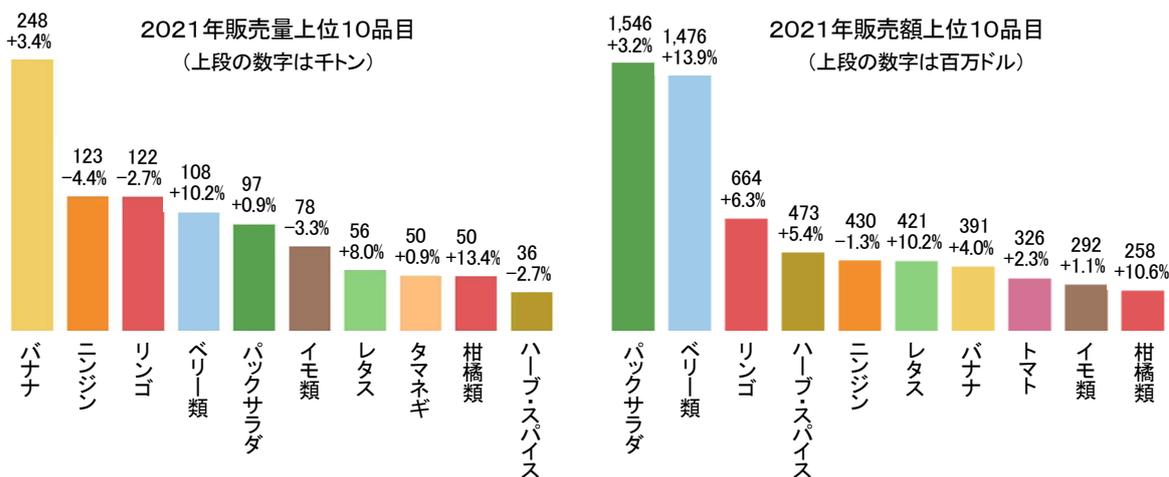
南半球では、収穫は第2年次の1月から12月に行われる。

輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

## 165. 米国 有機青果物の販売額が90億ドル(1兆円)を突破

The Packer電子版(2022年1月28日)

有機農産物ネットワークとカテゴリーパートナーズ社が本日発表した2021年有機農産物実績報告書によると、2021年の有機青果物の販売額は5.5%増加し、初めて90億ドル(約1兆円)を突破し、販売額と販売量の両方の対前年比成長率で慣行栽培の青果物を上回った。

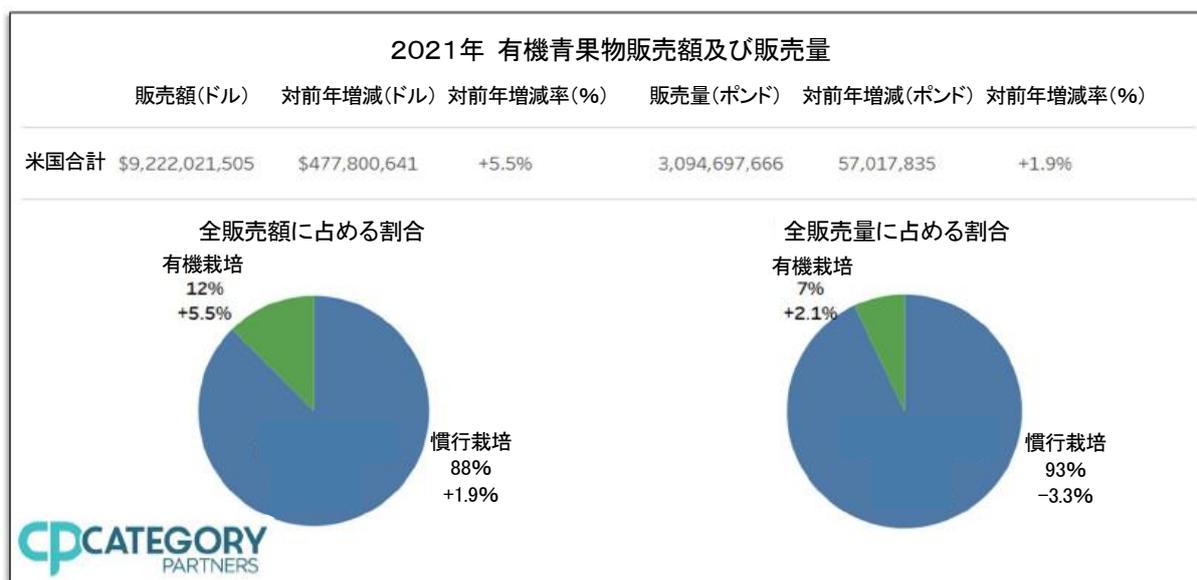


画像提供:カテゴリーパートナーズ社 重量は中央果実協会が百万ポンドを千トンに換算しました。

2021年にはフードサービスが復活したが、小売店舗における有機青果物の販売額と販売量は、同年の4つの四半期すべてで前年比プラスの成長を示した。2021年の有機青果物の販売総額は92億ドルで、2020年と比較して4億7,700万ドル増加した。

有機栽培の生鮮ベリー類(イチゴ、ブルーベリー、ラズベリー、ブラックベリー等)は、2021年に販売額が対前年比で14%、販売数量が同10%増加し、高い成長率を示した。

パックされたサラダ、ベリー類、リンゴの3品目は、2021年の有機青果物の販売額の伸び(対前年)の3分の2を占めている。有機ベリー類が前年比で大幅に増加したが、販売額で第1位となったのは今年もパックされたサラダで、15億ドルを突破した。



画像提供: カテゴリーパートナーズ社

2021年のパックされたサラダの価格は、慣行栽培品に比べて1ポンド当たり3.11ドル高く、有機農産物としてのプレミアムが依然として大きかった。有機ベリー類もまた、ブラックベリー（同3.01ドル）、ブルーベリー（同2.18ドル）、ラズベリー（同2.52ドル）と、大幅な価格差を示した。一方、有機バナナは、同0.15ドルと引き続き価格差が小さかった。（1ドル/ポンド≒25円/100g = 250円/kg）

カテゴリーパートナーズ社のスティーブ・ルッツ開発担当上級副社長は、「有機農産物と慣行栽培品の重量当たり平均小売価格にはまだ差があるが、昨年の双方の価格の上がり方は驚くほど似かよっていた。慣行栽培品の平均小売価格は1ポンド当たり0.08ドル増の1.57ドルであったのに対し、有機青果物は0.094ドル増の2.97ドルであった。有機青果物の増加率は小さかったが、双方の増加額は非常に近かった」と述べた。

2021年の有機青果物の販売総量は前年比2%増加し、慣行栽培品の3.3%の減少と比べて大幅に良い数字であった。有機バナナは、2021年に5億4,700万ポンド（24万8千万トン）が販売され、引き続き最も流通量が多い品目で、またこれは前年比3.4%の緩やかな増加であった。

有機農産物ネットワークのマット・シーリー代表は、「消費者のスーパーマーケットにおける食品購入を見ると、2020年にはコロナ禍に触発された購買行動の変化が見られたが、この1年間は明らかに従来型の購入傾向をより強く反映している。同時に、有機農産物に移行する長期的な傾向の一環として、有機青果物は多くの品目で堅調な成長を続けており、ひいては有機農産物の市場シェアが拡大している」と言う。

ベリー類、スイカ、柑橘類の3品目が、2021年の有機農産物の総量の増加を牽引した。一方、ジャガイモ、ニンジン等、有機農産物の一部の主要品目は、前年比で販売量が減少した。有機ニンジンの販売量は4.4%減少し、有機農産物の販売額上位10品目の中で唯一、販売額が前年比で減少した(-1.3%)。

ルッツ氏は、「2021年の有機青果物の販売額は、増加率が予想を少し下回ったものの、我々が有機農産物に期待している従来からの長期的な増加傾向に沿っている。フードサービス部門が再開したので、消費者は食事の一部をそちらに戻し始めた。2021年の最終結果は、多くの品目(特に野菜)で、2020年と比べて成長が弱々しかったということだ」と述べた。

2021年の有機青果物の販売額は、米国の4つの地域区分のすべてで1桁台の緩やかな成長を示した。その中で、南部が最も伸びが大きく、有機青果物の販売量は4.3%、販売額は7.6%増加した。西部では、販売量は横ばいであったが、販売額は前年比3.6%の伸びを示した。（図は省略）

有機青果物の販売額は、2021年の第4四半期には27億ドルを突破して前年同期比4.9%増となり、8期連続の増加を達成した。有機ベリー類は3億3,300万ドルを超える売上を誇り、販売額で対前年同期比22%増、販売量で同19%増となり、販売額と販売量の両方で成長をリードした。

2021年有機農産物実績報告書は、2021年1月から12月までの米国の食品販売総額をカバーするニールセン社の小売データを用いている。この報告書の全体版は、2月中旬に有機農産物ネットワークのウェブサイトに掲載される。

## 166. エジプトの柑橘類 今年は力強いシーズンを予想

FreshFruitPortalウェブサイト(2022年1月28日)

11月中旬に始まったエジプト産柑橘類の新たな出荷シーズンは、「非常に力強いものになるが、記録を破る可能性は低い」と予想されている。生産者は地域によって様々な天候の影響を受けており、一部では15～20%増収した一方、40%減収した生産者もいる。関係者は、「一部の地域で開花期の熱波が着花に影響を与えたが、全体としては妥当な規模の収穫を予想しており、エジプトがEU向けオレンジ輸出のトップの座に留まることを期待している」と言う。

エジプト産の柑橘類で今年典型的な早熟・大玉化は、総出荷量の減少を意味しており、関係者は「特にネーブルの大玉化が目立つ」と言う。現在、市場にはネーブル、バレンシア及びソフト柑橘類が出回っている。バレンシアで最も多いのは、サイズ(入数)56/64で、サイズ80/88は少ない。ブリックスは概ね10.5～11で、出荷の開始は昨シーズンよりも早いようだ。

現在梱包中のソフト柑橘類は、ハニーマーコット品種やタンゴで、ブリックスは9.6～11.6である。ソフト柑橘類の梱包は昨年より早く始まり、バレンシアも早く終わる可能性が高い。

柑橘類生産のあらゆる面でのインフラの改善と新植への投資は、「その効果を示し始めており、出荷量への天候の影響を打ち消すのに役立つだろう」と言われる。

今シーズンのエジプトの柑橘類の出荷量は、昨年に比べて30%減と推定されているが、これは作柄全体の一般的な評価であり、状況は生産者により、また産地によって非常に異なる可能性がある。

昨シーズンの生産条件は柑橘類に最適で、エジプトがEU向けオレンジの最大の輸出国となった。ネーブルオレンジとバレンシアオレンジが、エジプトの柑橘類輸出の80%を占める主要品種である。エジプトはまた、増加傾向の出荷量の仕向け先として、ニュージーランド、ブラジル、日本等の新しい市場を開かせた。他方、グレープフルーツとレモンを合わせると、依然として南アフリカがEU向けの最大の柑橘類輸出国である。

## 167. イタリア 出荷量倍増で明るいYelloの未来

EUROFRUIT電子版(2022年1月31日)

丸くて、果皮が淡い黄色のリンゴ品種シナノゴールドのブランド名であるYelloの出荷量は、今シーズンほぼ倍増し、約2,100トンになると予想されている。

シャキッとして、ジューシーで甘く、「パイナップルとレモンピールを連想させる」香りだと評されるYelloは、ヨーロッパ市場向けのライセンスの下、イタリアのコンソーシアムであるVogとVipの会員によってのみ南チロル地域で独占的に栽培されている。今年の出荷量は2020/21年度よりも約45%多く、これには初めての有機栽培Yelloの5トンが含まれる。

4月まで出回るこのブランド化されたリンゴについて、VogとVipは今年の出荷期間中に様々な販売促進活動を行っている。両団体は今週、イタリア全土の卸売市場でセッティマネ・ジッレ(イエローウィークス)と呼ばれる大がかりなプロモーションを展開した。

Vogのクラウス・ヘルツル販売部長は、「イエローウィークスは、独特で特徴的な産品を常に探し求めている卸売市場運営者の要求に合致するものだ」とコメントしている。ヘルツル氏にとって、今シーズンのYelloのパフォーマンスは、特に明るい未来を示唆するものであった。同部長は、「Yelloは、消費者にもよくわかるプレミアム品質と特徴的な食味のおかげで、今年も11月中旬に市場に出るとすぐに注目を集めていた」と言う。

同じころ、このブランドを紹介する新しいプロモーションビデオは、ネットワークサイトのLinkedInで共有され、新しいウェブサイトにも掲載された。Vipのベンジャミン・ライマー販売部長は、「新しいYelloのウェブサイトは、日本で生まれ、その素晴らしい香りを放つための理想的な条件を南チロルで見出したこのリンゴの特徴のすべてを消費者に説明することができる。我々は、このリンゴがなぜこんなに独特で特別なのかという説明を、これを栽培することを選んだ2人の生産者の正真正銘の実話に託した」と述べた。

筆者: マイク・ノーレス

## 168. オーストラリア産アボカド 日本市場での成長に一步踏み出す

FreshPlazaウェブサイト(2022年2月3日)

「チャンスはあると思うが、市場シェアを築くという点ではまだ初期の段階だ」

オーストラリア最大のアボカド業界団体は、先月東京で開催された展示会を受けて、生産者にとって日本市場でのチャンスが増していると確信している。

西オーストラリア州と南オーストラリア州リバーランド地域の生産者らは2018年から日本市場へのアクセスを獲得している。オーストラリア・アボカド協会のジョン・ティアス代表は、今シーズンは生産量の増加も輸出増につながったと述べた。

同氏は、「日本はアジア最大のアボカド市場なので、(展示会は)本格的に市場を構築する上で良い機会であった。日本市場にはオーストラリア産アボカドが参入するチャンスがあると考えているが、市場シェアを築くという点ではまだ初期の段階だ。我々は効果的な販売促進活動を実施し、またこの貿易イベントは西オーストラリア州政府がアボカド協会及びホートイノベーション(非営利業界団体)と連携して本当によくサポートしてくれた。我々は、日本市場を時間をかけて構築していく計画だ」と言う。

同氏はまた、オーストラリアは、日本市場における同国産のアボカドにとってのチャンスが何であるかについて、ここしばらく調査を行っていると言及し、「日本での販売を伸ばすためには、高品質の製品を提供するに際して、良いサービス、良好なバックアップ体制、優れた営業販売計画が伴うことが必要だ。日本の一人当たりのアボカド消費量は依然としてかなり少ないが、それでも人口が多いためアジアで最大のアボカド市場である。我々の調査によると、日本の消費者はオーストラリアに大変好感を持っているので、オーストラリア的な価値観を踏まえて取り組んでいきたい」と述べた。

オーストラリア・アボカド協会は、他の州ができるだけ早く日本市場へのアクセスを獲得することを望んでおり、政府の交渉が迅速に進むことを期待している。

ティアス氏は、「アクセスの獲得手続きを支援するための調査を行ったので、我々は中央政府が交渉を進めるように圧力をかけている。総合的な観点から我々は輸出市場の成長を重視しており、市場アクセスは我々にとって最大の課題である。中国等の主要市場へのアクセスが獲得できておらず、日本についても他の州ではまだアクセスが獲得できていない。周年供給ができるよう、オーストラリアの他の州の生産者が日本へのアクセスを獲得できることを願っている」と語った。

### 西オーストラリア州生産者の物流問題

オーストラリア中部の洪水は、現在ハスアボカドの出荷の最盛期にある西オーストラリア州からの国内市場向けの果実輸送に問題を引き起こした。

ティアス氏は、「西オーストラリア州から東海岸への鉄道は分断された。かなりの量が鉄道で輸送されるので、物流上の問題があり対応に追われている。同州の出荷の終了が少し遅れる可能性がある」と説明する。

また、「シェパード品種の出荷シーズンも始まったところなので、今は同品種も少し市場に出ている」と言う。シェパード品種の出荷量は昨年と同程度と見込まれる。同氏は、一部の古い園地の出荷量が落ちているが、一方で成園化して来る若い園地があるため、供給量は十分にあると言う。

2021年(暦年)には、業界が予想していたとおり、ハス種の出荷量が急増した。

ティアス氏は、「昨年(暦年)は前年からの大幅な増加となり、11万トン以上を出荷した。そのため、国内市場の価格には大きなプレッシャーが掛かり、何十年ぶりの低い価格も見られた。厳しい一年であったが、輸出に関しては価格競争力が強くなり、多くの輸出市場でシェアを拡大することができた。また、国内では、新しい消費者、特に価格に敏感な消費者によるアボカドの購入が見られ、消費基盤が拡大した。より持続可能な価格設定に戻った際に、それらの消費者を維持できるようにしたい」と述べた。

業界はここ数年シーズン、営業販売面で多くの仕事をしてきており、それらは成功しているが、ティアス氏は国内および輸出市場を成長させるためにまだやるべきことが多いと認め、次のように語った。

「営業販売活動を行っても、市場を1年で50%拡大することはできない。このため、オーストラリアの生産者、特に若い果樹が成木化してくる生産者にとっては、今後おそらく厳しい年もあると思われる。2018年をピークに過去5年間で大規模な新植が見られた。現時点では、オーストラリアのアボカドの果樹の半分は6年生未満であり、今後生産量が増加することを意味している。今年の供給量は昨年と比べれば幾分か扱いやすいように見え、これは良いことなので、オーストラリア国内でより良い市況となることを願っている。長期的には大幅な成長が見込まれ、2026年までに17万トンに達すると見込んでおり、これは前の会計年度の2倍以上である。したがって、輸出と並んで国内市場の成長も重要である。」

筆者： マット・ラッセル

## 169. ニュージーランド 国境再開はキウイの収穫に間に合わない

EIROFRUIT電子版(2022年2月4日)

生産者団体の責任者は、コロナ禍に伴う制限の結果としての慢性的な労働力不足は、すぐに緩和されるとは考えられないと言う。

ニュージーランドの業界団体であるキウイフルーツ生産者協会(NZKGI)は、外国人季節労働者が3月中旬以降に同国に戻ることを許可するという政府の発表を歓迎するが、国境の再開は今年の収穫には間に合しないと発表した。

園芸業界は、ニュージーランドの慢性的な労働力不足を、キウイフルーツ、リンゴ等果実の栽培や収穫を損なうものだとしている。

声明の中で、NZKGIのコリン・ボンド代表は、国境がいつ開かれるのか、どの国籍の人がワーキングホリデービザを申請できるのかといった詳細が未だに不明だと述べ、「我々は、この政策変更が収穫・梱包作業を行う労働者をもたらすものだと期待しているが、収穫に関しては労働力不足に大きな違いが生じる可能性は低い。特殊な状況であり、どの程度のバックパッカーがニュージーランドに入国するのかわからない。多数のワーキングホリデービザ保有者が、我々の収穫を手伝うためにすぐに入国して来るという期待は非常に不確実なものだ」と語った。

筆者： マイク・ノーレス

## 170. ニューージーランド リンゴとナシは増収だが課題も多い

FreshPlazaウェブサイト(2022年2月9日)

ニューージーランドの2022年産のリンゴとナシの総出荷量は、長期的な予測に極めて近い60万1千トンに達すると予測されている。

果実を収穫、出荷できると仮定すると、ネルソン地方(南島北部)でクリスマスの翌日に雹害があったために減収した2020年産に比べ、輸出量はわずかに増加する可能性がある。しかし、全国の生産者の胸の内にくすぶる疑問は、オミクロン株の暗雲が立ち込めてくる中で2022年産の果実がどれだけ収穫できるかということだ。通常の年には、あり得る出荷量を基礎として、気象災害や、脅威となる労働関係やサプライチェーンの問題が無いことを前提に出荷量の見直しを行う。残念ながら、2022年は通常の年ではない。

80カ国以上の顧客向けの潜在的な出荷量は18kg箱で2,320万箱と見込まれる。生育期間中はこれまで好条件に恵まれ、日照時間が長く気温が高いことから、果実のサイズは大きく、色と食感も良い。業界は独自の品種改良研究事業(Prevar)で開発したリンゴとナシの新品種の普及を進めており、品質は特に重要である。品種構成は、ブレーバーン(Braeburn)、ロイヤルガラ(Royal Gala)等の古い品種の出荷量が減少し、ニューージーランドが権利を有するダズル(Dazzle)、エンヴィ(Envy)、ピカブー(Piqa-Boo)、ロキット(Rokit)が増加するなど多様化してきている。

しかし、ニューージーランド・リンゴ・ナシ協会(NZAPI)のテリー・メイクル代表は、ニューージーランドでオミクロン株への感染が拡大しているため、出荷量と品質は悪影響を受けるに違いないとして、次のように語った。

「労働者が収穫、梱包、出荷作業をできるような明確で一貫したルールを設定する等、政府が現実的な対応を行うことが重要となるだろう。」

オミクロン株の感染がトンガとサモアにも広がったことで、トンガで進行中の災害復旧の取組みと相まって問題が複雑になっている。我々は、ニューージーランド及び太平洋諸国の政府、ニューージーランド航空、雇用主、そしてもちろんトンガ人の労働者達と協力し、帰国する必要がある人々を帰国させ、ニューージーランドに戻る用意ができていない人々を連れ戻すよう努力している。

太平洋諸国の経済の回復とニューージーランドのリンゴ・ナシ部門の成功は関連している。我々園芸業界は、太平洋諸国からの労働者に関し、非政府系としては最大の雇用主だ。労働者らからの送金は、太平洋諸国、特に噴火と津波による被害から復興するトンガを助ける上で大きな役割を果たすだろう。」

今年が最も困難な部類の年になるだろうという事実を前に辞めてしまった生産者も多いが、メイクル代表は、生産者らが複雑な経営環境を何とか乗り切り、十分な収穫を上げるものと信じている。

「いつものように、我々の会員の生産者は品質を第一に重視し、顧客が素晴らしい食体験にめぐり合うことを約束している。労働力の問題とオミクロン株の影響に関しては、多くの生産者は最善の結果を望みながら最悪の事態に備えている。」

メイクル氏は、「NZAPIはニューージーランド政府が発表した5段階の国境再開措置を全面的に支持しているが、2022年産のリンゴの収穫に関してはこの対応は『少なすぎて、遅すぎる』。オーストラリア、EU、アジア、北米への首相を団長とする貿易ミッションを提案しており、これは主要国への市場アクセスの改善を推進するほか、2023年産の収穫開始に間に合うようにワーキングホリデービザによる労働者を惹きつける機会を提供するものだ」と付言した。

## 171. フィリピン 課題に取り組むバナナ生産輸出団体

ASIAFRUIT電子版(2022年2月9日)

コロナ禍が3年目に入ろうとしている中、フィリピンのバナナ産業が直面する課題は少なくなっていない。

有数のバナナ輸出国である同国は、依然として主要市場の大部分で大きな市場シェアを維持しているが、輸出額は減少している。サプライチェーンの混乱は、TR4(バナナ病)の蔓延や生産コストの上昇などの生産に関わる問題を悪化させている。

フィリピン・バナナ生産者輸出業者協会(PBGEA)のステイーブン・アンティグ代表は、パンデミックによって業界が取引を行う条件が一変し、近い将来には元に戻らないだろうとしつつ、「輸出品質のバナナの出荷量は、2021年の第1～第3四半期には前年同期より少し減少したが、第4四半期には改善した。1月～11月の輸出量は前年比33.4%減少した。我々はこのパンデミックの下でニューノーマルに適應することを学んだが、TR4、市場の脆弱性、他国との競争、生産コストの急増など、依然として従来と同じ課題に直面している」と説明する。

### アクセスの改善

フィリピンの最大の輸出市場は、引き続き日本、中国、韓国といったアジアの隣国である。アンティグ氏は、最近では輸出量が減少しているが、フィリピンが挽回する機会はまだあると言う。

同氏は、東南アジアの輸出国との競争が激化する中でも、中国は比類のない巨大な人口によって成長の余地がある市場であり、注視すべきだと言う。

フィリピンはまた、新たな自由貿易協定(FTA)を通じて韓国との貿易も改善すると見ている。両国は2021年10月に交渉を終えていて、2022年に協定に署名することとなっている。現在、フィリピンのバナナ輸出業者は韓国に出荷するために30%の関税を支払っている。FTAが批准されると、これは5年間で無税まで減らされることとなっている。

アンティグ氏は、同協会の次の優先事項の一つは、日本の関税を引き下げまたは撤廃させるためのロビー活動であると言う。

### コストとの闘い

生産コストの増加は、バナナ業界で話題になっている。ラテンアメリカの生産者らは最近、多国籍流通業者や小売業者から価格引き上げを勝ち取るために結束した。コロナ禍、TR4、持続可能性に対する要求の高まりへの対処は、バナナの栽培コストを押し上げている。

アンティグ氏は、PBGEAはラテンアメリカ諸国の同業者と同じ懸念を共有しており、彼らの進捗に続いて、同様の取組みに着手するとして、次のように語った。

「フィリピンのバナナ産業は間違いなくラテンアメリカ諸国と同じ懸念を共有している。実際、我々は、サプライチェーン全体の『分担すべき責任』について、卸売業者や小売業者と交渉するつもりであり、できれば各国政府が介入することを望んでいる。我々は主要市場で広報キャンペーンを開始する予定であり、その趣旨はおそらくラテンアメリカの生産者と同じであろう。すなわち、品質の高いバナナをいつまでも店頭の前並べておくためには価格の調整が必要だ、ということだ。」

筆者: リアム・オキャラハン

## 172. 世界のライム市場

FreshPlazaウェブサイト(2022年2月11日)

多くの国でケータリング業界が再開してきており、柑橘類の需要が増加していることから、世界のライム市場は現在復活に向かっている。オランダ等の市場では、今年は時が経つにつれて観光産業がパンデミックが立ち直り、この復活の傾向が続くと期待している。

輸送の問題は続いているが、ヨーロッパとアメリカの市場では、ライムの多くはブラジルとメキシコから供給されている。一方、南アフリカとオーストラリアは国内への供給に焦点を当てている。特に南アフリカでは、ライムが頻繁に使用されるメキシコ料理が国内で人気を集めているため、ライムの需要が増加している。しかし、ライムについてすべてがうまく行っているわけではなく、メキシコと南アフリカでは産地で大雨があり、大量に落果したため供給量が減少した。



### オランダ: ライムの市場はさらに持ち直す

オランダの輸入業者らは、ライムの市場がさらに持ち直すことを期待しており、「ブラジルの産地では、ほぼ途切れることなく雨が降っており、収穫量が大幅に減少した。このため、市場ではライムが品切れになるだろうと予想している。価格はまだ5~6ユーロ程度の水準だが、今後数週間で数ユーロ上がると見られる。1月は悪い月ではなかったが、2月は売り上げが落ちていると思う。需要面では、ケータリング業界の再開がさらに進んでいるのはよいことだが、まだライムの消費が上向くほどではない。人々が休日に出かけるようになり観光業が回復すれば、動きが出てくるものと期待している」と語る。

### ドイツ: ブラジル産とメキシコ産が市場を支配

ノルトライン・ヴェストファーレン州(西部)のある卸売業者は、現在ロッテルダムの輸入業者を通じて1箱当たり7~8ユーロでライムを調達している。この業者は、通常はサイズ(入数)54のライムを週に100~150箱

(4kg/箱)販売しているが、現在は約70～80箱と少なくなっている。この業者によると、現在扱っているライムは果汁が多く果皮の斑点がほとんどない最高品質である。また、最近は配送も全く問題ない。

ドイツ北部のある大手輸入業者は、ブラジル産ライムを輸入している。この業者は、ブラジル国内の需要が減少したために、輸入が大幅に増加したと言う。ブラジルは現在、主にペルシャライムやタヒチライムの種なし品種をヨーロッパをはじめとする海外に多く輸出している。また、果皮の薄いスチル(Sutil)品種も人気がある。ブラジル産は、ほぼ一年中提供することができるが、これは産地の商業化の拡大にも関係している。

一方、メキシコでは、国内需要もはるかに多いが、米国とカナダへの輸出量も多い。メキシコ産の出荷量は増加している。ドイツ等ヨーロッパの市場では、メキシコ産ライムの入荷は5月以降12月まで続くと思われる。

ここ数週間は、ライムの価格はほぼ横ばいである。この市況は、低調な需要のためでもある。

### イタリア：ブラジル産とメキシコ産が入荷

12月の休日前には柑橘類の果実が様々な産地から入荷して賑わっていたが、現在のイタリアのライム市場は落ち着いている。需要はこの数週間、減少してきている。

イタリア北部のある卸売業者は、「消費は上下に急変動したりしていない。現時点の平均仕入価格は、ブラジル産のライム1箱(4.5kg)が5ユーロで、これは約1.20ユーロ/kgに当たる。販売価格は、一般的に2～3ユーロを上乗せする必要がある。メキシコ産ライムは市場への入荷量が限られており、平均仕入価格は一般的にブラジル産に比べて4kg箱当たり1.50ユーロ高い」と語った。

### スペイン：2022年産スペイン市場の出だしは好調

2021年はスペイン市場でのライムの販売について大変良い年となり、2022年は物流上の大きな課題は予想されるものの、期待以上に良いスタートを切っている。ある輸入業者は、「1月は好調で、価格は4.5kg箱当たり6～7ユーロであった。年初のこの市況は予想以上のものだった。通常1月には需要が少ないものだが、輸入先からの船の到着に多くの遅れが生じ、例年よりも供給が引き締まった」と言う。1月と2月はライムの消費が多い月ではないので、この品目について2021年と比較してケータリング向けの供給が大きく回復することはまだ難しい。今のところ、消費は低調だが、春になり、もしパンデミックの指標が改善すれば、消費は持ち直すことが期待される」と語った。

「2021年は夏の売り上げが非常に好調であった」とこの輸入業者は振り返り、「ブラジル産の入手が容易であったことも販売促進に役立った。実際、ブラジルの昨年の輸出量は前年より30%多く、一方メキシコは天候不順で減産したため、ヨーロッパでの販売量が減少した。そのほか、観光業やレストランの一部が再開したことは、ライムの販売を助けた」と述べた。

この輸入業者によると、ライムの流通に関してはいくつかの課題がある。物流面では、船舶の遅延のほか、果実自体よりも書類が遅く到着するなどの事態が、依然として輸入の流れを複雑にしている。一方、保健当局は業務量の増加に対応できず、新しい規制によって果実の到着が妨げられる場合も見られる。物流コストの増加は、ライムだけでなくすべての果実に関して、今後数ヶ月間の課題になるだろう。それは一般的にマクロ経済レベルでの課題である。現時点では、スペインは主にブラジルからライムを輸入している。

### 南アフリカ：ライムの人気上昇

1月と2月は、南アフリカ産ライムの出荷の最盛期である。現在ライムの出荷量が多く、生産者がこの時期に予想するよりも価格は低い。ローベルト(Lowveld)地域のあるライム生産者は、昨年はこの地域の供給量が少なく、7月から11月までの間、3kg入りのライム1袋の価格は140ランド(7.9ユーロ)～180ランド(10.2ユーロ)と高かったと言う。現在の価格は1袋当たり30ランド(1.7ユーロ)程度である。

南アフリカにおけるメキシコ料理店の人気の高まりとコロナ禍関連の規制の解除が、ライムの需要を刺激している。

南アフリカでは、大雨のためにライム園で大量の落果が発生し、また今年の夏はどんよりと曇った日が多か

ったため、生育が遅れた。

南アフリカ産のライムはほとんど輸出されておらず、一方、国内産が少ない時期にはブラジルから輸入されている。

### 北米：ライムの高値が続く見込み

北米市場のライム価格は引き続き高く、近い将来もそれが続くと言われている。

ある出荷業者は、「3週間前、テキサス州での引き渡し価格の相場が24ドルから60ドルに上昇した。短期的には、おそらく3月中旬まで高値が続くと思う。一定の価格になると人々はライムを使わなくなるが、それがいくらであるかを予測するのは難しい」と言う。

現在の価格上昇をもたらしているものは何か？この出荷業者は、「ライム市場はジェットコースターやヨーヨーのようなものだ」と言う。例えば、メキシコから米国最大のライムの輸入窓口であるテキサス州南部への1月の入荷は一貫性のないものであった。農務省によると、1月20日までの1週間の輸入貨物は379件であったが、次の1週間には622件であった。この出荷業者は、「ライムの輸入量にはこのような振れがある。これは必ずしも生産者や出荷業者のせいではない」と言う。

メキシコから輸入されるライムの60%はベラクルス州のマルティネス・デ・ラ・トーレ地域からのものだが、メキシコ全土の微妙な気候の違いにより、10～15年前にはライムの生産が最小限か皆無であった他の多くの地域でライム栽培が可能になり、これらの地域がメキシコの出荷量の残りの40%を占めている。

前出の出荷業者は、「それは誰も制御できない市場の振れだ。今回の場合、関係者は出荷量の不足を予想していたが、それらの小さな産地からライムが出てきた。ライムの収穫についても同様に予想のつかないことが起こる。ライムは概ね年間4回収穫するので、開花から収穫までは90～100日である。しかし、これらの微気候を考慮して適切な時期に収穫する必要がある。ライムには収穫すべき最適な時期がある」と言う。

一方、ライムの需要は増加を続けている。この業者は、「消費量は年々増加しているが、それに応えるために多くの産地が形成された。その結果、10～15年前には小さな市場に対する過剰供給とされた量が、今日では反対の意味(増加した需要量に対する供給不足)になっている」と言う。

しかし、この業者はさらに、現在は主に天候のせいによって需要が低下していると指摘し、「米国、特に最も人口が集積している北東部で悪天候が続く、寒くて雪が降る場合、人々は外出したがる。寒い天候はライムの需要を減退させる」と付言した。

### オーストラリア：輸出が輸入を上回る

現時点ではオーストラリアの主要市場のほとんどでライムの供給は順調であり、売り上げが伸びている。シドニー卸売市場の報告によると、ライムは豊富に供給されており、バラで大量に購入した場合(バルク)の卸売価格は、3～7豪ドル/kgまたは1個当たり30～60豪セントと非常に手頃である。大手スーパーマーケットでは80豪セント～1.30豪ドルとわずかに高くなっている。これは、夏の間、消費者がトロピカルドリンクや料理やサラダにライムを使いたいと思いつき、ライムの需要が増加するためである。

昨年、業界最大の団体は、同国が毎年約3万トンのライムを出荷し、2万8千トンはクイーンズランド州最北部から一年中出荷されていると指摘した。同地域のほとんどの生産者にとって、ライムはレモンと並んで主要な収入源であることが多い。この品目の国全体の輸出は毎年徐々に増加しており、統計によると、2019/20年度には輸出量(4,206トン)が輸入量(3,902トン)を上回った。

## 173. 世界のブルーベリー産業は需要に応じて引き続き拡大

GOOD FRUIT&VEGETABLESウェブサイト(2022年2月11日)

### 生産

ラボバンク\*の調査は、ブルーベリーが引き続き世界中で人気が高く、業界が拡大を続けることを示唆している。(\*: Rabobank は、オランダに拠点を置く農業系金融機関)

ラボバンクの最新の報告書は、世界のブルーベリー業界の輝かしい概況を示し、世界中で産地が多様化しているため、生鮮ブルーベリーの輸出は今後数年間着実に拡大する可能性が高いと予測している。

報告書はまた、業界の企業は、生産性と効率をより高め、一貫して高品質の果実を提供するよう求められるとしている。産地では改良品種の果たす役割がますます重要になる。

報告書によると、世界のハイブッシュブルーベリーの栽培面積は2020年に20万5千ヘクタールを超え、今後数年間は出荷量が着実に増加するものと予想される。産地の大部分が今でも南北アメリカ大陸に集中しているものの、アジア太平洋地域で急速に拡大している。

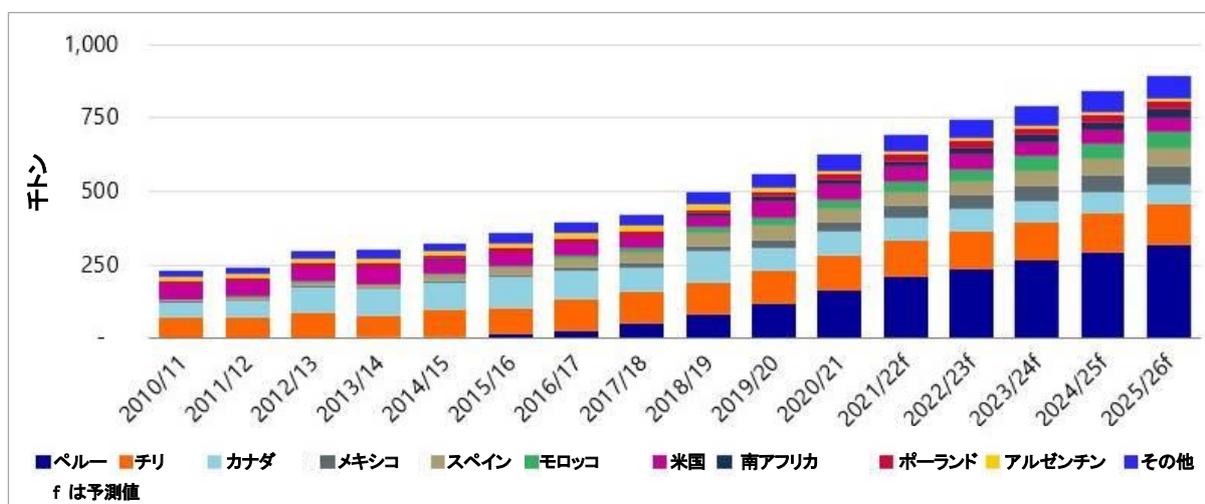
すなわち、ブルーベリー産業の発祥の地である北米は、引き続き重要なブルーベリー産地であるが、南米の産地が急速に拡大し、また、ヨーロッパ、アフリカ、アジアでも新しい産地が開発され、生産シェアは変化している。

ラボバンクの青果物上級アナリストであるデビッド・マガア氏は、2025/26年度の世界の輸出量は90万トン近くに達すると予想しており、70%以上が上位5つの輸出国、すなわちペルー、チリ、カナダ、メキシコ及びスペインまたはモロッコから輸出されるだろうと述べた。

2019/20年度以来、ペルーは世界最大の生鮮ブルーベリー輸出国であり、チリは現在、世界第2位の輸出国となっている。

ラボバンクで南米を拠点として活動する青果物上級アナリストのゴンザロ・サリナス氏は、チリとペルーの両国は、中国、ヨーロッパ、米国への無関税輸出という優れた市場アクセスを有していると指摘し、「これらの国々は、世界的な需要拡大の恩恵を受けられる立場にある」と述べた。

2010/11年度から2025/26年度(予測)までの国別生鮮ブルーベリー輸出量



出典: Rabobank

オーストラリアは報告書で言及されていないが、生産と輸出の面では依然としてよちよち歩きである。

2019/20年度オーストラリア園芸統計ハンドブックによると、2020年6月までの1年間のオーストラリアのブルーベリー出荷量は20,783トン、出荷額は3億8,960万豪ドルであった。生鮮果実としての卸売販売総額は4億9,740万豪ドルで、4億2,700万豪ドルが小売り向けであり、7,040万豪ドルがフードサービス向けであった。

約2%に相当するわずか393トン、840万豪ドル相当が輸出され、その大半(60%)が香港向けで、その他の輸出先はマレーシア、インドネシア、タイ、シンガポール等であった。

オーストラリアは従来から生鮮ブルーベリーの純輸入国であり、通常は年間1,000~1,700トンを主にニュージーランドから輸入している。

## 消費

ラボバンクは世界の消費に関し、米国とカナダを合わせた消費量が依然として最も多いが、ヨーロッパが現在の需要の伸びを牽引しているとしている。

また、中国は国内生産と輸入による供給量の増加により、アジアでのブルーベリーの消費をリードしている。

オーストラリアでは、56%の世帯が生鮮ブルーベリーを購入し、1回の購入量は平均136グラムである。

## 品種改良

改良された品種は、どこの産地でも重要な役割を果たすようになっている。

ラボバンクの報告書は、市場の競争が激しくなり、消費者の要求が高くなるにつれて、成長の機会をつかむためには品質の一貫性が不可欠であるとしている。

マガア氏は、「育種プログラムは、より多くの消費者や小売業者に受け入れられるよう、味、硬さ、棚持ちに焦点を当て、低温要求の異なる品種を開発している。生産者にとっては、投資効率の向上、収量の増加、機械収穫の可能性といった恩恵が考えられる」と述べた。

筆者：アシュリー・ウォルムズリー

訳注：GOOD FRUIT&VEGETABLESはオーストラリアの青果物業界情報サイトであるため、この記事にはラボバンクの報告書の内容のほか、同国の事情が追加記述されています。

## 174. ベトナム産果実の海外展開

### ベトナム産果実等 日本市場で拡大の余地

Vietnumplusウェブサイト(2022年2月13日)

ハノイ(ベトナム国営通信社) - 駐日ベトナム貿易事務所によると、日本市場では輸入された農産物、水産物、食料品に対する需要が高いため、ベトナム産品がより大きな市場シェアを獲得する余地が十分にある。

同事務所のデータによると、コロナ禍にもかかわらず、2021年の両国間の往復の貿易額は前年比7.8%増の427億米ドルに達した。

ベトナムの対日輸出額は前年比4.4%増の201億米ドルであり、輸入額は11.3%増の226億米ドルであった。ベトナムから日本への農水産物の輸出額は18億米ドル相当で、前年比0.5%減少した。

主要な輸出品目である水産物が7.4%の減少となったことを除けば、残りの品目はコーヒー(25.5%)、野菜及び果実(20%)、カシューナッツ(39%)、コショウ(56%)などをはじめとして良好な伸びを見せた。

特に、ドラゴンフルーツ、マンゴー、ココナッツ、ライチなどのベトナム産果実は、日本の消費者の間で人気を集め、市場シェアが拡大した。ベトナムの産品は、日本人だけでなく、日本に住むアジア諸国の消費者の支持を得ている。同貿易所によると、これらの産品は、イオン、ドンキホーテ、イトーヨーカドーなど日本の大手小売チェーンの店頭で人気が高まっている。

駐日ベトナム貿易事務所は、農水産物の日本への輸出を促進するためにあらゆる努力を払ってきている。同事務所は、ベトナム産業貿易省及び両国の地方行政機関との連携を加速し、ベトナムの産品を紹介して輸出業者と輸入業者をつなぐ仮想セミナーを開催した。

また、日本のような高度な市場への参入を目指すベトナムの輸出業者を支援するため、一連のマニュアルを発行している。各マニュアルは、海産物や飲料からスパイス、衣類、木材製品まで、特定の産品を取り上げている。

### ベトナム 果実販売は国内で低迷するも海外で注目

Vietnumnet Globalウェブサイト(2022年2月16日)

ベトナム国内ではドラゴンフルーツの価格が急落しているが、オーストラリアのスーパーマーケットでは20万ドン/kg、オランダでは60万ドン/kgで販売されている。(1万ドン≒50円)

ドラゴンフルーツだけでなく、多くの果実が海外で高値で売れており、海外市場の大きな可能性を示している。潜在的な価値は数十億米ドル以上と見られる。

近年ライチが豊作であったが、箱詰めされて日本に輸出されたライチはスーパーマーケットで35万～50万ドン/kgで販売され、これは国内価格に比べて極めて高い水準であった。

しかし、繰り返しのオファーや販売促進キャンペーンが行われ、ベトナム産ライチが「世界の熱狂」を引き起こしたのは、2021年になってからであった。日本では、ライチが外交官やビジネス界の話題となり、飛ぶように売れた。

2021年6月中旬にオーストラリアのパースで開催されたオークションでは、ベトナム産生鮮ライチが1箱3千豪ドル(5,200万ドン)で販売された。一方、フランス、ドイツ、オランダでは50万ドン/kgで販売された。

オーストラリアでは、ベトナム貿易事務所がグリーンマンゴーを30万ドン/kgで提供している。シドニーの一部のレストランチェーンでは、メニューにグリーンマンゴーを加えた。これはグリーンマンゴーを宣伝し、受注・

販売する助けになっている。

ベトナム産ロンガンはドイツとオランダのスーパーマーケットで43万～49万ドン/kgで販売されており、これは国内価格の15～20倍である。ロンガンはまた、高所得者をターゲットに、22万ドン/kgの価格でシンガポール市場に参入した。

ある輸出会社の代表者は、2021年にヨーロッパ、米国及び一部のアジア市場にロンガンを輸出したが、市場を調査するにとどまると述べた。販売価格は高かったが、輸出量は控えめだった。

2021年にはまた、オーストラリアの数社が同国に進出しているベトナムの機関と協力して、30万ドン/kgでドラコントメルムの実を販売した。これは、ベトナムがこの果実を輸出した初めてのケースであり、65億ドンを売り上げた。

2022年の年初には、オーストラリア西部と南部のスーパーマーケットで、ドラゴンフルーツが20万ドン/kgで売られていた。

果実輸出入会社の代表であるヌー・グエン氏は、オランダではドラゴンフルーツは「スーパーフード」の一種と考えられていると述べた。この果実はアジア人向けの市場でのみ販売されているため、オランダで入手するのは簡単ではない。価格は60万ドン/kgである。

同氏は、ヨーロッパは需要が高く、消費者が多いので大きな可能性を秘めた市場であると考えている。ベトナムの熱帯果実は多様で特徴的である。これは、ベトナムがそれを活用するための合理的な政策を有していれば、市場で大きなチャンスがあることを意味する。

在ベルギーのベトナム貿易事務所(EUも所管)によると、EVFTA(EUベトナム自由貿易協定)がもたらす利点が明らかになったため、欧州の消費者はベトナムに高い関心を寄せている。2021年は、生鮮ライチとロンガンがオランダ、ベルギー、フランス、ドイツ、英国に輸出され、「ホット」なアイテムになったと言う点で、ベトナムにとって重要な年であった。

FTA(自由貿易協定)は、ベトナムの農産物が米国、EU、日本、韓国といった好みのうさい市場に参入する大きなチャンスをもたらした。しかし、ベトナムがこの協定を最大限に活用するためには、高品質な果実を生産できるよう産地に規範を導入して生産プロセスを見直すとともに、ブランドの形成と貿易の促進に注意を払う必要がある。

## 賢明な戦略

レ・ミン・ホアン農業・農村開発大臣は、ドンタップ省産のマンゴーの最初の輸出コンテナは米国向けであったと述べた。同大臣はベトナム産果実が高い価格で販売できることに誇りを持っており、外国市場で販売される農産物は高品質であるものの、依然として量が少ないと述べた。輸出された農産物は、主にアジア人向けの店舗で販売されている。

同大臣は、「委託販売によって高い価格で売られているものもあるが、販売が続かない。これは、一部の企業が外国企業とつながっており、それぞれの市場についての戦略が無いことを意味している。ベトナムが農産物を外国市場に持ち込み、自身の流通ネットワークで販売できる場合にのみ、ベトナムはそのブランドを構築することができる。若干の委託品の果実の輸出は、ベトナムが輸出市場を征服したことを意味するものではない」と述べた。

農業・農村開発省(MARD)は、各国に所在するベトナム大使館やベトナムの出先機関の意見を聞きながら、輸出市場ごと、果実の種類ごとの戦略を特定するプロジェクトの成果をとりまとめている。

筆者：タム・アン

## 175. ニュージーランド ルビーレッド品種からキウイの収穫始まる

FreshPlazaウェブサイト(2022年2月17日)

ニュージーランドの2022年産キウイフルーツは、今朝、テプケ地域(もともと温暖な北島北部)で最初の果実が摘まれ、これから数ヶ月間、ニュージーランド中で収穫が行なわれる。

2022年産は、これまでにない数量のキウイフルーツが出荷され、記録を更新する見込みである。少なくとも1億9千万箱の出荷が予想され、これは1億7,700万箱以上を出荷した昨年の記録を上回る。一箱当たり平均して約30個のキウイフルーツが詰められる。

ゼスプリの新しいルビーレッド(RubyRed)品種が最初に収穫され、その後ゴールドとグリーン品種が続く。収穫は通常4月中旬にピークを迎え、6月まで続く。

甘く、ベリーのような味のレッドキウイフルーツは、今年ニュージーランドと一部の海外市場のスーパーマーケットの棚に並ぶ。2022年は、ルビーレッドが商業品種として販売される最初の年となる。

ゼスプリの産地及びサステナビリティ部門の責任者であるキャロル・ウォード氏は、「今シーズンの収穫が始まろうとしているが、生産者と業界関係者は今年も(パンデミックに関して)政府が定めたすべての手順に従い、少なくとも1億9千万箱と見込まれる大量の果実の収穫、梱包、出荷を安全に実施するよう懸命に取り組む。今シーズンはサンゴールド(SunGold)キウイフルーツの量が引き続き増えるとともに、ニュージーランド、シンガポール、日本、中国の消費者から期待されているルビーレッドを商業規模で出荷する最初の年となるので楽しみにしている」と語った。

2022年産キウイフルーツの収穫の成功は、コロナ禍の状況が急速に変化する中で、業界のサプライチェーンが効果的に機能するかどうかにかかっている。業界は、収穫と梱包に2万4千人を必要とする。しかし、新型コロナウイルスの感染率の急増が、ニュージーランド人を雇用する可能性を制限すると予想されるうえ、国境の再開は、収穫に必要な6,500人のバックパッカーを確保するには遅すぎると予想される。

ニュージーランドでは約2,800の経営体が、北部のケリケリ地域と南部のモトゥエカ地域間の1万3千ヘクタール以上の果樹園でキウイフルーツを生産している。

ニュージーランド・キウイフルーツ生産者組合(NZKGI)のコリン・ボンド代表(CEO)は、業界は過去2年間、コロナ禍の制限の下で収穫を行う方法について経験を積んできたとして、「労働者の健康と安全は当組合の最優先事項であり、新型コロナウイルスの感染を軽減できるような業務の実施方法を組み立てるため、政府機関と継続的に協力している。業界は、すべての果実を収穫するためにできる限りのことをするよう協力して取り組んでおり、それは労働者を第一に考えて行われなければならない」と述べた。

2022年は、収穫・梱包を行う季節労働者を呼び込むための、同組合の労働者勧誘キャンペーンの4年目となる。

ボンド氏は、「皆が腕まくりをして、このニュージーランドの象徴的な果実を収穫するチームに参加することを強くお勧めする。収穫作業は屋外活動が好きな人にとって最適な機会であり、梱包施設は屋内で大人数のチームで楽しむのが好きな人に適している」と言う。

ほぼすべての梱包施設はNZKGIに対し、少なくとも時給22.75NZドルの生活賃金を支払うと通知している。収穫作業については、最低賃金が時給20NZドルだった昨年、平均して時給27NZドルが支払われ、生活賃金を超えると予想される。求人に関する情報は、NZKGIのウェブサイト及びフェイスブックに掲載されている。(1NZドル(ニュージーランドドル)≒77円)

キウイフルーツ業界は2021年には2億2千万NZドルを算出し、ニュージーランド全土の地域社会において重要な役割を果たしている。

## 176. オランダ 将来の果実と野菜の包装はプラスチックか紙か？

FreshPlazaウェブサイト(2022年2月17日)

(この翻訳は一つの考え方を紹介するものであり、特定の意見や商品を推奨するものではありません。)

耐久性、輸送中の保護、見た目の良さは、多くの果実や野菜が包装されている理由のほんの一部である。コルクマン包装社のゲルト・コルクマン氏は、「スライスした野菜や柔らかい果実などの一部の品目は、単に包装なしでは販売することができず、一部の品目は正しく包装することで鮮度を保持できる」と言う。このオランダの会社は、最大100%リサイクルされたR-PETとPP(ポリプロピレン)の2種類のプラスチックを使用して包装容器を製造している。

### 環境に優しいプラスチックが最善の選択肢か？

R-PETは、リサイクルされたプラスチック(PET)である。PETはポリエチレンテレフタレート(略で、ポリエステル)の一種である。R-PETは、誰でも知っているソフトドリンクのPETボトルなど使用済みのPETプラスチックから作られるほか、他の包装容器からも作られる。コルクマン氏は、「弊社がR-PETから生産する包装容器は、主に100%リサイクルされたプラスチックで作られている。このため、弊社では新しい原料を使用しない。大きな利点は、この包装容器も完全にリサイクル可能であり、無限のサイクルが可能なことだ。弊社の素材は何度でも再利用できる」と言う。

コルクマン氏は、果実や野菜の包装として、R-PETが世の中で最も環境に優しいと考えている。この再生素材は同じ工程で再使用することができ、商品を十分に保護し、使用する消費者にとって安全である。R-PETは密閉することができるので、ウイルス粒子が内容物に到達できない。また、R-PETは透明度が高く、加工が容易である。

同氏は、「PP素材には、食品の流通の中で再利用できないという大きな欠点がある。このためもあって、「ダウンサイクル」(後述)することだけが可能である。では、なぜPP素材を使用するのか？ 一部の商品は、包装容器に入ったまま温める必要がある。R-PETの容器ではこれができないが、PPはこれに最適である。

ダウンサイクルとは、素材をリサイクルすることはできるが、その品質が次第に劣化することを意味する。それでも、大型のプラスチック容器を元にして素敵な家具や通行止めのポールのようなものを作ることはできる。しかし、100%R-PETが現時点での解決策であると考えているため、リサイクルされたPET(R-PET)を使用して新しい包装容器を製造することに集中している」と説明する。

### では、紙はどうなのか？

紙や段ボールには良いイメージがあるが、それは正当化されるのだろうか？ コルクマン氏は、「紙は木に由来し、木は緑で、緑は良いものだ。少なくとも、人々はそう考えている。それは部分的には正しい。紙は自然の中で分解が早いという利点がある。しかし、幹線道路脇のプラスチックごみや、あるいはさらに悪いものとしては海の『プラスチックスープ』(海水中に微小なプラスチックが混ざったもの)を、紙や段ボールに置き換えることが答えでないことは誰もが理解している」と言う。

同氏はさらに、「それに加えて、紙の製造は最大4倍の水を使用し、3倍の温室効果ガスを発生する。弊社は一部の顧客に段ボールのトレイを提供する事業を行ったことがある。我々の調べでは、同じ商品を包装するのに、段ボール製の包装資材はプラスチックに比べて1.5倍の重量になる。年間数百件の貨物を扱う顧客のCO<sub>2</sub>排出量がどれだけ増えるか考えてみてほしい」と述べた。

紙もリサイクルできるが、新しい段ボール包装資材には古紙が入っているものもある。同氏は、「これはダウンサイクリングと呼ばれている。使用済みの紙の食品包装容器を再度食品包装用の段ボールにリサイクルすることはできない。素材を再利用することは良いことだが、価値は失われる。紙の繊維はリサイクル中に次第にその構造が失われる。その結果、段ボール包装の寿命は限られている。また、食品業界では、湿った商品を包装する必要があり、紙や段ボールは当然これに適していない。それらの材料に耐湿性を与えるために

は、追加の処理を行う必要がある」と述べた。

### 他に持続可能な選択肢はあるか？

PLAプラスチックは、コーンスターチやサトウキビなどの再生可能な植物ベースの原材料から作られた生分解性で堆肥化可能な素材である。したがって、従来のプラスチックに代わる持続可能な代替品として提示されている。コルクマン社はこれについてどう考えるのか？

コルクマン氏は、「この素材は十分効率的に生産することができず、まだ付加価値が少な過ぎる。しかし、幸いにも、それを改善する取り組みはなされている。また、PLAは入手が非常に困難で、このためコストがはるかに高くなる。PLAはリサイクルできるが、分離することは事実上不可能である。家庭でゴミを分ける際に、PLAとR-PETを区別することは難しい。PLA素材は理屈の上では有機廃棄物として分別する必要があるが、多くの場合、プラスチック廃棄物として処理されている。そのため、今のところは、PLA(という選択肢)はないが、プラスチックの世界では開発が急速に進んでいるので、我々はこの素材を注意深く見守っている」と言う。

### スーパーマーケットは使い捨てのプラスチック容器を禁止

コルクマン氏は、使い捨てのプラスチック廃棄物の減少を歓迎している。不要な包装が無くなったり、持続可能な代替品に置き換えられたりしている。しかし、肉用のような特定の包装については検討の余地があるかもしれないと言う。例えば、ひき肉はこれまでプラスチックのトレイに入っていたが、スーパーマーケットは次第にビニール袋に置き換えている。同氏は、それははるかに少ない量のプラスチックを使用する点で良いアイデアではあるが、これらの袋は、他の廃棄物と分離することが不可能ではないにしても困難であるため、結局は廃棄物処理業者の焼却炉に行き着くことになると言う。

同氏は、「デジタルコードの付いた包装容器が答えかも知れない。これらは分別に適している。我々は、例えばCurveCode\*を使用したデジタルコードが導入されることを願っている。これらのコードの付いた当社の最新製品は、すでに様々な小売店の棚に並んでいる。テスト結果を待つ必要があるが、このコードを使用して、食品に使用される100%R-PETを食品に安全な包装資材として、分別、再処理、再利用することができる」と結論付ける。

\*訳注 正しくは「CurvCode」でFiliGrade社(オランダ)が開発した技術。プラスチック容器を形成する際に、プラスチックの種類を表す点字のようなデジタルコードを曲線状に付けたもの。光源とカメラを備えた検出装置で使用後の容器のコードを読み取って、異なる種類のプラスチックを機械的に分離することができる。(参考URL: <https://www.curvcode.com/> )

## 177. 世界のブドウ市場

FreshPlazaウェブサイト(2022年2月18日)

ブドウは多くの国の家庭で人気のある果物であり、イタリアとオーストラリアでは62%以上の世帯が購入している。しかし、その人気にもかかわらず、ブドウ市場はコロナ禍の影響を受けているだけでなく、他の多くの品目と同じように物流の問題に直面している。これらの問題は価格と需要の両方に影響を与えており、オランダ、ドイツ、フランスでは価格が上昇した一方、スペインでは下落した。オーストラリアではパンデミックのためにブドウの輸出額が26%減少した。



### オランダ：供給が少なく、高価格で品質問題も多い

輸送の大幅な遅れにより、ここ数週間ブドウの供給はタイトになっている。オランダのある輸入業者は、今後数週間で南アフリカ産とインド産の供給が増加するため、入手が容易になり、価格もある程度下がると予想している。市場価格はこれまでのところ堅調で、白ブドウの4.5キロ箱は現在13.50～15ユーロである。なお、南アフリカの降雨のために、品質的に問題のあるブドウが全般的に多く入荷している。

### ドイツ：南アフリカ産に依然として高い需要

スグラオーネ(Sugraone)やブラックジェム(Black Gem)等の新品種の投入もあり、南アフリカ産のブドウが市場を席捲している。ペルー産のクリムソン・シードレス(Crimson Seedless)とレッドグローブ(Red Globe)も市場に出ていたが、すっかり影を潜めた。ナミビアからの輸入品は、特に関心が高くない一方で、特段の問題もなく受け入れられ、控えめながらその役割を果たした。ハンブルク市場では状態の悪い荷の売れ行きが悪く、ケルン市場ではペルー産の価格が下落した。

ノルトライン=ヴェストファーレン州(ドイツ西部)のある輸入業者は、数週間前には南アフリカからのブドウの供給が細ったが、今は回復したと振り返る。少なくともこの地域では、現時点ではほかに買付けできるブドウがないために、南アフリカ産ブドウの需要は非常に高い。入荷量は十分にあるが、この業者は買付け価格を7～10%引き上げざるを得なかった。

### フランス：最大30%上昇の高値

ペルー産の季節が終わろうとしており、フランス市場は現在南アフリカ産の入荷の真ただ中にある。物流上の問題により、ブドウは10日から18日の遅れでフランスに到着しており、品質に問題が生じる可能性がある。包装やその他のコストにより、ブドウの価格は通常よりも最大30%高くなっており、消費はこれに影響されている。新しい品種については価格が非常に高いものの、需要は旺盛である。

### スペイン：需要が高いにもかかわらず低価格

フランスやその他の地中海諸国と同様、スペインでは生食用ブドウ、特に種なし白ブドウの需要が依然として高い。しかし、南アフリカからの輸出の遅れと、同国の主要な2つの産地での豪雨の影響により、ここ数週

間は種なし白ブドウの入荷が限られている。インド産のブドウはヨーロッパ市場で受け入れられており、供給を補完するのに貢献している。一方、ペルー産の季節は終わり、間もなくチリ産が入荷するが、米国市場で価格が良いため(ヨーロッパ市場への)入荷量は少ない。

種なし黒ブドウに関しては、今季最後のペルー産も今季最初の南アフリカ産も、腐敗していたりサイズが小さかったりと、到着時の品質が非常に不均質になっている。また、南アフリカからの入荷の遅れのために、12月末から1月初めまで種なし赤ブドウが不足していたが、すでに問題は解消し入荷量に問題はなくなった。

スペインのある輸入業者は、「海運会社の世界的な物流問題はこの2週間で悪化しており、十分なブドウを供給することがより難しくなっている。種なし白ブドウはすでに不足している。供給が限られているにもかかわらず、価格は低い。梱包と出荷のコストは上昇しており、原産国での価格は高止まりしているが、スーパーマーケットは現時点ではそれほど高く仕入れる気はない」と言う。

### **イタリア: ブドウ消費は平常に戻る兆し**

統計によると、イタリアでは2021年の1年間に、全世界の63.2%に相当する約1,650万世帯が生食用ブドウを購入した。他の種類の果物や野菜と同様に、過去2年間のパンデミックと家庭内消費の購入の全般的な増加に関連して、ブドウを購入する世帯の割合が高まっている。2年前(コロナ禍以前)にはブドウを購入した世帯の割合は60.1%であった。

しかし、この部門が平常に戻る兆しが見え始めている。購入頻度(ブドウの場合は絶対的に高い)は各世帯1年間に平均6.7回であり、これはコロナ禍前の最後の年である2019年よりもわずかに高い水準(+3.4%)を保っているが、2020年に比べて4.6%減少した。

一方、有機栽培農産物の傾向は横ばいである。有機栽培のブドウを購入したのは200万世帯強で、過去3年間変化がない。

### **南アフリカ: 国内産は良い見通し**

南アフリカ生食用ブドウ産業組合によると、バルク川流域とヘックス川流域の産地では来週出荷のピークに入るが、同国最大のこれら2つのブドウ産地の見通しは非常に良好である。

果実の出荷の流れは良好で、冷蔵施設の容量も問題ないようだが、出荷や港湾での遅延のために収穫から輸出までの間に遅れが見られる。

北部地域(リンポポ州)の豪雨とオリファンツ川流域の産地の熱波により、これらの2つの地域の出荷予測は下方修正が必要となったが、オレンジリバー流域の出荷予測は、この地域の降雨にもかかわらず増加した。推定値の下限は7,280万箱(4.5kg/箱)に引き上げられ、上限は7,770万箱(同)に据え置かれた。

ケープタウンでブドウを積み込む冷蔵船(コンテナ積みでない従来型の船舶)の数が増えたおかげで、ブドウの出荷の流れは良好だが、ブドウ業界筋は最近、「ケープタウン港の遅延は依然として課題であり、大きな懸念事項である」と指摘した。

### **北米: チリ産の供給はしっかりしており、日に日に増加**

チリ生鮮果実協会によると、チリの今シーズン先週までの全世界向けの輸出量は74,820トンで、昨シーズンの同じ時期に輸出された88,836トンに比べ15.8%減少した。現在までの総輸出量のうち、59,555トン(79.6%)、すなわち726万2,786箱が北米に出荷された。

新しい品種の輸出量は、2019/20年と比較して73.5%以上、2020/21年度と比較して49.1%以上増加すると見られ、これが輸出量増加の主な牽引力になると期待されている。第5週(1月下旬)の時点で、アタカマ州とコキンボ州での生食用ブドウの収穫は、ティムコ(Timco)、アリソン(Allison)、オータムロイヤル(Autumn Royal)などの品種を中心に通常どおり続いており、この地域ではあとおよそ20%の収穫が残っている。バルパライソ州とオイギンス州では、スグラオーネ、セイブルシードレスブランドのスグラシックスティーン(Sable Seedless/Sugrasixteen)、クイーンローズ(Queen Rose)などの品種の収穫がすでに最盛期であり、収

穫量、品質ともに良好である。

今後数週間で収穫量は大幅に増加すると見られる。業界団体では出荷のピークを、種なし白ブドウは第8週頃(2月中旬)、種なし赤ブドウと種なし黒ブドウは第12週頃(3月中旬)と予想している。

北米は依然としてチリ産ブドウの突出して最大の市場である。2020/21年度には、チリはブドウの51.4%を北米に輸出し、そのほか25.9%を東アジアに、13%をヨーロッパに輸出した。

その需要を満たすために、チリは新しいブドウ品種の研究開発を続けている。ある業者は、「2021/22年度の出荷シーズンには、新品種の出荷量は3,500万箱に達し、次いで従来品種が3,200万箱、レッドグローブが1,700万箱強と見込まれる」と言う。10年前には、チリのレッドグローブ輸出量は2,700万箱以上であった。

一方、米国農務省動植物検疫局(APHIS)は最近、チリ産生食用ブドウ輸入におけるシステムアプローチに関する待望の病害虫リスク評価を公表した。これはチリの市場アクセスを大幅に改善するものである。この案はパブリックコメント待ち(3月29日締め切り)であるが、承認されればチリの輸出業者は米国向け生食用ブドウを臭化メチルで燻蒸する必要がなくなる。

メキシコでは、新しいブドウ品種への移行も見られる。メキシコ北部のブドウの出荷シーズンは、概ね5月上旬に始まり、7月の第1週または第2週まで続くが、品種の切り替わりによって、チリ産からメキシコ産への移行期に微妙な状況が生じる可能性がある。ある生産出荷業者は、「今年は、チリ産がすべて順調に行ったとしても、メキシコの新しい晩生品種のせいで品切れが起きるかもしれない。チリ産の出荷はせいぜい5月15～20日までだが、メキシコ産は少なくとも5月20日までは出荷量が少ないだろう」と指摘する。5月から6月になれば、言うまでもなくカリフォルニア州の早生ブドウの出荷も始まる。

こうしたことはすべて、ブドウの需要が多い冬場の時期が終わった後で起こることだ。この業者は、「冬の間、ブドウの大部分はチリやペルーから米国東海岸の港に出荷される。そのため、1月は、ブドウの不足のためではなく、主に物流が原因で難しい状況となった。また、カリフォルニア州の港も困難な状況にあったため、西海岸に入荷するブドウはほとんどなかった」と言う。

ブドウの価格に関しては、冬の間高くなっている。上記の業者は、「1月中は、価格は30ドル台半ばであった。今もまだ30ドル台前半から半ばである。この高値がいつまで続くか様子を見ている」と言う。

### オーストラリア：輸出にパンデミックの悪影響

最新の統計によると、2021年6月までの会計年度のオーストラリア産生食用ブドウの総出荷量は、19万8,389トン(前年比8%減)、出荷額は6億3,200万豪ドル(同16%減)であった。コロナ禍の影響を受けたこの年には、輸出は大きな打撃を受け、輸出量は21%減の12万725トン、輸出額は26%減の4億6,070万豪ドルとなったが、ブドウの輸出額は果実の中で最も多かった。中国は最大の輸出先(シェア35%)であったが、輸出量は前年の62,930トンから43,013トンに大幅に減少した。統計によると、オーストラリアの世帯の62%が生食用ブドウを購入した。メニンディー(Menindee)とトンプソン(Thompson)の2つはオーストラリアで最も一般的な緑色品種で、生鮮出荷量の38%を占め、次いで主要な赤ブドウ品種であるクリムゾン(Crimson)、フレイム(Flame)、グローブ(Globe)が30%を占めた。

### 中国：輸入ブドウの価格が下落、物流が依然として主な課題

中国市場ではブドウは最も重要な輸入果実の1つである。輸入ブドウは主にペルー産、チリ産及びオーストラリア産で、今の時期には、市場への供給はペルー産が大部分を占める。春節(今年は2月2日)前と比べると、その後の輸入ブドウの全般的な価格と需要は大幅に低下した。同時に、他の多くの果実と同様に、物流は依然として大きな課題となっている。ペルー産のブドウは通常12月から翌年の2月末まで市場に出回り、その後は3月から6月までチリ産のブドウがこれに取って代わる。

物流は業者らにとって引き続き大きな課題である。コロナ禍のため、今年は税関に滞留しているコンテナが多く、通関のペースは遅い。コンテナの遅延は、過去には一般的に2～3日程度であったが、現在は14日程度となっている。

## 178. 米国 人工知能で果実の味を改良

FreshFruitPortalウェブサイト(2022年2月22日)

コンピュータはトマトやブルーベリーを「味わう」ことができるだろうか？ フロリダ大学の研究者は、味わうというのは正確ではないが、果実に含まれる揮発性物質が味を良くするかを示すことはできると言う。

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)の育種家で遺伝学者のマルシオ・レゼンデ氏は、どの化学物質 - 揮発性物質、糖類、酸、その他 - が果実の最高の香りを生み出すかを研究者に伝える「AI目利き」モデルを作りたいと考えている。

果実や野菜が育種するに値するかどうかを調べるために、科学者は毎回農場に出て作物をサンプリングし、自ら味と香り確かめる。同研究所園芸科のハリー・クレイ教授は、こうした手順は段取りが難しいことがあると言う。同教授は、コンピュータモデルがどのようにして揮発性物質を用いて果実の味を計測できるかを論じた新しい研究の共同執筆者である。

同教授は、「コストと段取りの制約により、育種家は通常、品種開発に当たって消費者パネルを採用しないが、想定される多様な消費者を網羅した大規模な消費者パネルを使用するのが理想的だ。我々は、年齢や民族が広い範囲にまたがる100人のパネルを使っている。これは、購入者の構成をよく代表している」と言う。

植物の育種家や遺伝学者は、風味などの消費者指向の形質を測定することが難しいため、長年にわたり農家の収穫量を上げることを助けてきた。しかし、同研究所園芸科でブルーベリーの育種を担当するパトリシオ・ムニョス准教授は、収量の高さだけでは生産者が今日の要求の厳しい市場で競争するのに十分ではない、生産者は、味の良い品種が無いと果実は良い価格で売れないか、またはまったく売れないことを知っている、と言う。

科学者らは、開発した方法により、生産者が競争力を持ち続け、消費者がより良い農産物に巡り会うのを助けたいと考えている。これらのモデルを使用することで、育種プログラムは、多くの品種の果実や野菜の風味評価を行うことができる。科学者も消費者パネルも一度に非常に多くの品種をテストすることはできないため、以前はこのやり方は制約されていた。

レゼンデ氏は、ブルーベリーとトマトに含まれる揮発性物質のデータを統計モデルに適用する新しい研究を主導した。研究成果は現在のところこれら2つの品目に限られているが、今後は同研究所の研究者が育種を行っている他の作物に拡大される。

新しい研究を行うに当たり、研究者らは、過去10年間のトマトとブルーベリーの育種プログラムのデータを使用した。研究では、ゲインズビル市にある同大学の官能研究所で、トマトとブルーベリーの多様な品種を消費者パネルに提供し、食味について好き嫌い、甘さ、酸味、風味の強さ、うま味などの属性に関する評価を収集した。研究者らは、各消費者が各食味をどれだけ好むかを示すスコアの範囲をテストした。

結果は、揮発性物質は「好み」のスコアの最大56%を説明し、消費者が特定の果実をどれだけ好むかを決定する上で揮発性物質が重要であるという証拠を補強した。レゼンデ氏は、揮発性物質はまた、果実の風味の重要性を定量化し、推定する上で重要であると述べた。

レゼンデ助教授は「重要な点は、育種家がより多くのサンプルをスクリーニングできるということだ。この方法では、食味の良い品種を識別するためにより多くの候補の中からある程度絞り込んだ上で、食味テストパネルの官能データによって最終的な選択を行うことができる。これらのモデルによって、風味を早期に育種の目標に組み込み、より風味豊かな果実品種の選抜と実用化が促進されることを期待している」と述べた。

(この記事は、フロリダ大学食品農業科学研究所のブラッド・バック氏が執筆し、FreshFruitPortal.com が一部修正し掲載したものである。)

翻訳に当たって一部省略しました。

## 179. 世界の主要生産国のリンゴ作柄見通し

### 1. 米国 太平洋岸北西部のリンゴは減収

FreshFruitPortalウェブサイト(2022年2月22日)

リンゴは全米の35州で商業的に栽培されている。7,500種類以上の品種が知られており、色、味、香りの多様性は無限に豊かである。

太平洋岸北西部では、この冬の荒れ模様为天候が、リンゴの生産に大きな悪影響を与えた。

米国リンゴ協会が最近発表した報告書によると、2022年2月1日現在のリンゴの在庫量は1億1,110万ブッシェル(約201万トン)で、昨年2月の1億1,270万ブッシェル(約204万トン)より1.4%少なく、同時期の5年平均を5.1%下回った。

厳しい冬とサプライチェーンの制約や深刻な人手不足が相まって、リンゴの出荷量は大幅に減少した。

ユナイテッド・アップル社(生産出荷業者)のブレット・ベイカー氏は、「天候、資材価格、人の手配など、生育期間中の避け難い状況や予期せぬ状況には毎年備えているが、昨年はこれらすべてが組み合わさった上に他の要因も重なった」と述べた。

2022年第6週(2月初め)の出荷数量は約5万7千トンで、前年同時期の6万と比較して4%減少した。

太平洋岸北西部からの出荷量は減少しているが、東部の出荷量はわずかに増えている。

ミシガン州(中西部)では、過去5年間で新しいリンゴ園が倍増し、品種ではハニークリスポ、エバークリスポ、ふじ、ガラが多くなっている。

同州ではさらに、夜間に数回の降霜が見られたほかは、生育期間の天候は良好であった。ミシガン州スパータ地域に所在するアップルウッド・フレッシュグロワーズ社のスコット・スウィンデマン氏は、「春先に天候が崩れた後は、収穫時期まで生育条件は良かった」と言う。

ミシガン州の来季の出荷量は3千万ブッシェル(約54万トン)と予測され、これは過去2年間の生鮮市場への出荷量の2~3倍に相当する。

対照的にワシントン州は、輸送コストが高く、特に第3週から第6週(1月中旬~2月初め)の間、前年と比較して出荷量が少なかった。

ワシントン州のリンゴ総出荷量は、米国の生鮮リンゴの供給量の70~80%を占めるため、サプライチェーンや出荷の混乱は全米の供給に大きな影響を与えかねない。

昨年は記録的な高温のため、ガラの出荷量は前年に比べて約12%減少し、ハニークリスポの出荷量は約3%縮小した。

1月末の価格は1箱当たり29.28米ドルで、昨シーズンに比べて2%上昇した。ワシントン州ウェナチー市に拠点を置くスターランチ生産者組合のダン・デイビス氏は、「価格は徐々に上がっており、これは組合員の生産者にとって必要なことで、正しい方向性を示している」と述べたと報じられている。

世界中の消費者の間で特に健康に対する懸念が高まっているため、リンゴの需要は伸びている。中でも有機リンゴは、価格の上乗せを獲得している。

チリ、アルゼンチン、ニュージーランドなどから米国への有機リンゴの輸入は、4月にも始まる可能性がある。

今シーズンの先行きは、輸送用トラックの確保から天候に至るまで、さまざまな要因によって決定づけられる。

## 2. EU 今季のリンゴ収穫量は増加の見通し

FreshPlazaウェブサイト(2022年2月23日)

EU27カ国の2021/22年度のリンゴ出荷量(2022年1月更新)は、1,177万7千トンと推定される。これは、直近5年間の平均より6.7%多く、「不作」であった前年度の出荷量を11%上回る(20カ国については世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)のデータ、残りの7カ国については欧州統計局のデータによる)。

過去2年間は平均以下の出荷量で価格が比較的高かったが、この販売年度には価格が通常の水準に戻る可能性がある。EU加盟国中最大のリンゴ生産国であるポーランドの場合、価格はすでに平均に近いが、それを下回る水準となっている。ポーランドの加工用リンゴについては、価格が回復しつつある。

輸出の物流は世界の多くの地域で大きな課題となっているが、EUはその影響を比較的受けていない。

パンデミックの最初の年には、堅調な需要が見られたが、2年目には通常の水準に戻った。

リンゴ部門は現在、以下の課題に直面している。

- 1) 投入コストの上昇(特にエネルギー、輸送費、その他の資材費)
- 2) 船舶による輸送の停滞と値上がり(高い海上貨物運賃)
- 3) 労働力不足(特に収穫作業員とトラック運転手)

出典: [ec.europa.eu](http://ec.europa.eu) (翻訳に当たりグラフは省略しました。)

## 3. 南半球のリンゴ出荷量は7%減収の予想

FreshPlazaウェブサイト(2022年2月28日)

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、2022年2月24日に開催された年次総会において、南半球の2022年のリンゴとナシの作柄予測を発表した。この報告書は、ASOEX(チリ)、CAFI(アルゼンチン)、ABPM(ブラジル)、Hortgro(南アフリカ)、APAL(オーストラリア)及びニュージーランド・リンゴ・ナシ協会の支援を受けて取りまとめたもので、南半球の主要6カ国の統合データを提供している。それによると、リンゴとナシの出荷量は2022年にそれぞれ前年比7%及び6%減少すると予測される。

WAPAのフィリップ・ビナール事務局長は、「世界のリンゴ・ナシ業界向けに発表されたこの予測は、地政学的緊張、生産コストの増加、物流コストの上昇とコンテナの確保の難しさの影響、労働力不足、経済状況の悪化による消費減少の懸念の高まりなど、多くの不確実性を背景にしている」と述べた。

2022年の南半球のリンゴ総出荷量は、主にブラジルの30%の減少とアルゼンチンの11%の減少により、昨年(521万7千トン)と比較して7%減の合計486万4千トンと予測される。オーストラリアとチリもそれぞれ3%及び2%の減産を見込んでいる。ニュージーランドと南アフリカは、それぞれ15%及び4%、リンゴの生産量が増加すると予想される。チリは2022年も引き続きに南半球で最大(145万5千トン)のリンゴ生産国であり、南アフリカ(116万3千トン)、ブラジル(90万トン)、ニュージーランド(59万トン)、アルゼンチン(44万5千トン)、オーストラリア(31万1千トン)が続くと予想されている。

品種別では、ガラが引き続き突出して最も人気の高い品種であるが、その生産量は前年比7%減の170万6千トンと予想される。輸出量については、ニュージーランド(+17%)と南アフリカ(+6%)が65%減少したブラジルを補い、合計174万4,762トンで、生産量の減少にもかかわらず横ばいと予測される。

ビナール事務局長は、「出荷シーズンが進むにつれて、物流とコストが国際貿易に与える影響が北半球の輸出国にも明確に表れており、米国は北米でのリンゴとナシの販売に集中している。欧州市場は引き続きベラルーシによる禁輸措置の影響を受けている。ウクライナの最近の動向は、世界の主要なリンゴ輸出国にとって、ロシアを含む東欧のすべての輸出先への販売に影響を及ぼすものだ。消費を刺激する努力を続けることが重要だ」と述べた。

(翻訳に当たり記事の一部を省略しました。)

## 180. 南半球からロシアとウクライナへの生鮮果実輸出

SHAFFEウェブサイト(2022年2月28日)

SHAFFE(南半球生鮮果実輸出協会)は、ロシアとウクライナの生鮮果実の輸入市場について再検討し、両市場への供給を維持することはますます困難になると予想している。

ウクライナは2020年に7億9,500万ドル相当の生鮮果実を輸入し、48%以上はトルコ(柑橘類)、エクアドル、コスタリカ(バナナ、パイナップル)等の主要輸出国からの輸入であった。2020年のSHAFFE加盟国\*のウクライナ向けの生鮮果実の輸出総額は5,400万米ドルで、果実輸入全体の7%を占めた。SHAFFE加盟国の中では、柑橘類を中心に1,600万ドルを輸出した南アフリカが30%を占めた。

2020年のSHAFFE加盟国からロシアへの生鮮果実の輸出量は64万3,084トンで、ロシアの生鮮農産物輸入市場の17%を占めた。SHAFFE加盟国がロシアに輸出した果実のうち、80%がリンゴ、ナシ、柑橘類であった。

SHAFFE加盟国からのロシア向け青果物輸出は増加傾向にあり、輸出量は2017年から2020年までの間に29%増加した。SHAFFE加盟国のうち南アフリカとアルゼンチンがロシアへの主な青果物輸出国であり、2020年にSHAFFE加盟国がロシアに輸出した総量の69%をこの2カ国が占めた。

SHAFFEによると、予想されるマイナスの影響としては、ロシア市場とウクライナ市場への輸出の減少と、それに伴うEU、米国、その他の市場への柑橘類、リンゴ、ナシの振り替え及びそれによる供給過剰等が挙げられる。供給過剰は、輸出業者の財政的損失につながる可能性がある。

さらに、この状況は、南半球の輸出業者や生産者が現在直面している生産コストと物流コストの上昇の影響を一層悪化させる可能性があると予想される。SWIFTからの除外等ロシアの銀行に対する一部の西側諸国による制裁措置は、輸出業者が直面するリスクを増大させると見られる。状況が早期に改善することが期待される。

注\* SHAFFE(Southern Hemisphere Association for Fresh Fruit Exporters)は、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、チリ、ニュージーランド、ペルー、南アフリカ、ウルグアイの主要な青果物貿易団体が構成されている。

筆者: セシリア・カサノバ

### SHAFFE加盟国のロシア向け品目別輸出数量(トン)

| 品目名           | SHAFFE加盟国からの生鮮果実輸入量(トン) |         |         |         |      |               |
|---------------|-------------------------|---------|---------|---------|------|---------------|
|               | 2017                    | 2018    | 2019    | 2020    | 割合   | 2020/2017 増加率 |
| ナシ            | 114.118                 | 131.490 | 141.671 | 146.816 | 23%  | 29%           |
| リンゴ           | 65.716                  | 81.409  | 65.965  | 120.636 | 19%  | 84%           |
| レモン           | 76.120                  | 70.184  | 82.223  | 98.892  | 15%  | 30%           |
| オレンジ          | 83.594                  | 86.390  | 78.931  | 88.613  | 14%  | 6%            |
| マンダリン/クレメンタイン | 49.635                  | 49.210  | 47.015  | 55.242  | 9%   | 11%           |
| ブドウ           | 38.818                  | 35.599  | 29.855  | 29.979  | 5%   | -23%          |
| キウイフルーツ       | 15.130                  | 13.250  | 12.397  | 8.771   | 1%   | -42%          |
| その他           | 55.954                  | 71.652  | 81.308  | 94.135  | 15%  | 68%           |
| 合計            | 499.085                 | 539.184 | 539.365 | 643.084 | 100% | 29%           |

出典: SHAFFE/Trade Map 2022

(訳注: 表は FreshPlaza.com の本件に係る記事(2022年2月28日付け)から引用しました。)

## 海外果樹農業情報 刊行物一覧

| No. | 調査報告書名                                      | 発行年月   |
|-----|---|--------|
| 93  | 台湾における果実の輸入関連制度に係る調査報告書（付 果実の生産・流通状況）       | 07. 5  |
| 94  | アラブ首長国連邦・インド・タイにおける果実の生産・流通・消費事情調査報告書       | 07. 7  |
| 95  | ニュージーランドにおける果実の生産・流通・消費事情等調査報告書             | 08. 3  |
| 96  | 台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書                    | 08. 6  |
| 97  | 韓国における主要果実の生産及び輸出入等に関する実態調査報告書              | 08. 7  |
| 98  | ドイツ・オランダにおける果実・果実加工品の生産・流通状況調査報告書           | 09. 2  |
| 99  | 台湾における日本産果実の生産・流通・消費実態調査報告書                 | 09. 6  |
| 100 | 世界の主要果実の生産・貿易概況 2009 年版                     | 09. 11 |
| 101 | 中国におけるボンカンの生産・流通実態調査報告書－福建省及び浙江省を中心として－     | 09. 11 |
| 102 | 米国におけるリンゴの加工品等実態調査報告書                       | 10. 2  |
| 103 | ロシアにおける日本産果実の販売可能性及び同国の果樹農業・政策基礎調査報告書       | 10. 7  |
| 104 | 米国連邦行政組織による果実消費拡大に向けた取組みに係る調査報告書            | 10. 8  |
| 105 | 台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書                    | 10. 8  |
| 106 | グローバル化下の米国の果汁産業及び新たな生産流通システム実態調査報告書         | 10. 8  |
| 107 | インドにおける日本産果実の販売可能性及びインド産ブドウの対日輸出可能性調査報告書    | 10. 10 |
| 108 | カナダの果樹農業・政策実態調査報告書                          | 11. 3  |
| 109 | 米国カリフォルニア州におけるアウトウの生産・流通事情調査報告書             | 11. 6  |
| 110 | 台湾における果実の生産・流通・消費等実態調査報告書                   | 11. 6  |
| 111 | 中東における日本産果実の販売可能性調査                         | 11. 8  |
| 112 | ブラジルにおけるオレンジ及びオレンジ果汁を中心とした生産・流通事情調査報告書      | 11. 9  |
| 113 | 中国の主要都市における日本産果実の販売可能性及び中国のアウトウ産地調査報告書      | 11. 10 |
| 114 | 世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版                     | 12. 3  |
| 115 | 台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書                    | 12. 6  |
| 116 | 中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書                     | 12. 10 |
| 117 | 韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書            | 12. 11 |
| 118 | 台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書             | 13. 3  |
| 119 | 中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書                      | 13. 3  |
| 120 | 世界の主要果実の生産概況 2013 年版                        | 13. 10 |
| 121 | 台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書        | 14. 3  |
| 122 | 世界の主要果実の貿易概況 2013 年版                        | 14. 3  |
| 123 | 世界の主要果実の生産概況 2014 年版                        | 14. 10 |
| 124 | 世界の主要果実の生産概況 2015 年版                        | 15. 3  |
| 125 | 台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査            | 15. 3  |
| 126 | ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書            | 15. 8  |
| 127 | 海外の果樹産業ニュース 2015 年度版                        | 16. 3  |
| 128 | 台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書 | 16. 3  |
| 129 | 海外の果樹産業ニュース 2016 年度上期版                      | 16. 10 |
| 130 | 世界の主要果実の生産概況 2016 年版                        | 17. 2  |
| 131 | 海外の果樹産業ニュース 2016 年度下期版                      | 17. 3  |
| 132 | 台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査          | 17. 3  |
| 133 | 海外の果樹産業ニュース 2017 年度上期版                      | 17. 9  |
| 134 | 世界の主要果実の生産概況 2017 年版                        | 18. 2  |
| 135 | 世界の果樹産業ニュース 2017 年度下期版                      | 18. 3  |
| 136 | 台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査      | 18. 3  |
| 137 | 海外の果樹産業ニュース 2018 年度上期版                      | 18. 10 |
| 138 | 世界の主要果実の生産概況 2018 年版                        | 19. 2  |
| 139 | 海外の果樹産業ニュース 2018 年度下期版                      | 19. 3  |
| 140 | 米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書         | 19. 3  |
| 141 | 海外の果樹産業ニュース 2019 年度上期版                      | 19. 10 |
| 142 | 欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書            | 20. 3  |
| 143 | 海外の果樹産業ニュース 2019 年度下期版                      | 20. 3  |
| 144 | 世界の主要果実の生産概況 2019 年版                        | 20. 3  |
| 145 | 海外の果樹産業ニュース 2020 年度上期版                      | 20. 9  |
| 146 | 世界の主要果実の生産概況 2020 年版                        | 21. 3  |
| 147 | 海外の果樹産業ニュース 2020 年度下期版                      | 21. 3  |
| 148 | 世界の醸造用ぶどう栽培の動向 気候変動対応と持続可能性の取組              | 21. 3  |
| 149 | 世界の主要果実の貿易概況 2021 年版                        | 21. 5  |
| 150 | 海外の果樹産業ニュース 2021 年度上期版                      | 21. 9  |
| 151 | 世界の主要果実の生産概況 2021 年版                        | 22. 3  |

